IMail Server Gold

ユーザーズ ガイド

ソフトウェア バージョン 7

Ipswitch 社

©1995-2001 Ipswitch, Inc. All rights reserved.

IMail Server 7.0 ユーザーズ ガイド (Windows NT/2000 版)

本書と本書で説明するソフトウェアは、パッケージの同梱されている「使用許諾契約書」の条件のもとで提供されます。「使用許諾書」で許可されている場合を除き、本書のいかなる部分も Ipswitch 社の書面による事前の明示的な同意なしに、電子的、機械的、その他のいかなる方式や手段を使用して、複製、複写、検索システムに保存、または譲渡することはできません。

本書は参照用としてのみご使用ください。本書の内容は、予告なしに変更されることがあり、Ipswitch 社は事前に通知する義務を負いません。Ipswitch 社は本書の記載内容の正確さに関しては万全を期しておりますが、誤植や記載漏れに関しては一切の責任を負いません。また、Ipswitch 社は本書の記載情報を使用することによって発生した損害についても、一切の責任を負いません。

IMail、IMail のロゴ、WhatsUp、WhatsUp のロゴ、WS_FTP、WS_FTP のロゴ、Ipswitch、Ipswitch のロゴはすべて Ipswitch 社の商標です。その他の製品または会社名は各社の商標または登録商標で、その所有権は各社のものです。

以下は、各会社や組織が著作権を所有しています。本書のスペル部分は、WinterTree Software 社が所有しています (Dictionary Copyright © 1999 Wintertree Software, Inc.)。コードの開発元は、RSA Data Security 社です。MD5 Message-Digest Algorithm (All rights reserved Copyright 1991-2 RSA Data Security, Inc.)。本製品に実装されている SSL は、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が著作権を所有する SSLeay ライブラリ crypto/cryptlib.c に基づきます (Copyright 1995-1998.)。実装部分については、RSA Data Security 社が著作権を所有しています (All rights reserved.)。本製品には、Tim Hudson (tjh@crytpsoft.com) が開発したソフトウェアも含まれています。

V7.0 日本語版印刷履歴

2001 年 9 月　　初版

目次

まえがき xi
Ipswitch 社の製品 xii
弊社の Web サイト xii
技術サポートを受けるには xii
パッチとアップグレードのご案内 xiii

第 1 章 : 概要 1
IMailTM　Server とは 1
はじめに 1
システム要件 2
バージョン 7 での新機能 2
ユーザ インターフェース 2
サービス 3
Web Messaging 管理 3
Web Messaging のユーザ向け機能拡張 4
IMail Web カレンダー 4
基本サービス 4
SMTP セキュリティ 5
POP3 5
IMAP4 6
Web Messaging 6
Web カレンダー 7
その他のサービス 7
標準機能 8
ユーザ登録および保守 8
メーリング リストの作成および保守 9
メールの転送 9
Vacation 機能のサポート 9
Finger “ Plan ” のサポート 10
メール配信ルール 10
自動メール アカウント 10
複数ホスト (ドメイン) のサポート 10
プライバシ機能が強化された POP のサポート 11
メールのポケベルへの転送 11
不明ローカル ユーザに関する特殊処理 11
アンチスパミング機能 11
IMail Client for Windows 12

第 2 章 : インストール 13
インストールを始める前に 13
一次ホスト名の確認 13
ユーザの登録と認証 14
初めて IMail Server をインストールする 15
インストール手順 15
Root ユーザ ID 18
初期セットアップおよびテストの実行 18

テスト アカウントを使ったメールの送受信 21
IMail Server の基本設定の表示 22
全般プロパティ 23
メール キュー 23
IMail Server サービスの高速表示 24
サービスの確認 24
デフォルト サービス ポート 25
IMail Server のディレクトリ構造 25
IMail Server のアップグレード 26
外部データベースを使用したアップグレード 31
Web Messaging のアップグレード 32
IMail Server を別の場所に再インストールする 32
IMail Server のアンインストール 32

第 3 章 : 設定 35
基本的な設定 35
詳細設定 35
一次メール ホストの設定の確認 36
一次メール ホストの DNS のセットアップ 37
メール ホストのエイリアスのセットアップ 38
メール ホストの追加 38
IP アドレスのある仮想ホスト 39
IP アドレスのない仮想ホスト 39
仮想ホストの設定 40
複数のメール ホストに対する DNS のセットアップ 42
ドメインの IP アドレスの変更 43
メール ゲートウェイとしての IMail Server のセットアップ 44
バックアップ メール スプーラとしての IMail Server のセットアップ 45
“Peer”IMail Server のセットアップ 47
Peer サーバの仕組み 47
Peer サーバのセットアップ手順 47
Peer サーバのセットアップ例 49
ETRN を使ったメールの取込み 50
外部データベースを使用するホストの追加 50
外部データベースを使用する一次ホストの設定 50
外部データベースを使用する仮想ホストの作成 51
外部データベースとのインターフェースの設定 52

第 4 章 : ユーザ メール アカウント 55
ユーザ メール アカウントの管理 56
ユーザ メール アカウントの追加 56
NT ユーザのインポート 59
ユーザ メール アカウントの削除 60
孤立メール アカウントの検出 60
新規ユーザ用のデフォルト値の設定 61
メールボックスの管理 62
メールボックス名とユーザ ID の組合わせ 64
Finger Plan のセットアップ 65
Vacation メッセージのセットアップ 66

基本的な Vacation メッセージのセットアップ 66
送信側電子メール アドレスのリストの表示 67
送信側電子メール アドレスのリストのクリア 67
すべての電子メールに対する Vacation メッセージの送信 67
LDAP ディレクトリ情報 (属性) の入力 68
他のユーザ アカウントへのメール転送 69
ユーザ設定の他のユーザへの適用 70
既存ユーザのグローバル設定 71
ドメイン内の全ユーザを無効にする 71
エイリアスの追加、修正、および削除 72
エイリアスの種類 72
エイリアスの追加 73
不明ユーザ宛てのメール処理 76

第 5 章 : メール処理のテクニック 77
メールの処理順序 77
配信ルールのセットアップ 78
例 79
ルールの処理 79
配信ルールの作成 80
ルールの処理順序 83
配信ルールのテスト 83
ルールの構文 83
外部ファイルへの検索文字列の保存 86
制限事項 88
情報マネージャの使用 89
1 種類の自動応答用に情報マネージャを設定する 89
情報マネージャ アカウントでサブエリアを使用する 90
サブエリアとメールボックス 91
情報マネージャ用のアカウントの分割 91
転送に関する注意事項 92
情報マネージャの無効化 92
情報マネージャに関する詳細情報 92

第 6 章 : Web Messaging 95
Web Messaging とは 95
Web Messaging を使ってできること 97
システム要件 98
アップグレード 98
Web Messaging のセキュリティ 100
Web Messaging のセットアップ 101
Web Messaging サーバの Web アドレス 101
複数のメール ホストを使用している場合 101
Secure Sockets Layer (SSL) の使用 102
SSL のトラブルシューティング 105
Web サーバの設定 105
[Advanced] タブ 108
Web Messaging 機能へのアクセスの設定 111
ドメインレベルでの SSL 管理 112

リモート管理機能の使用 112
ユーザ管理 113
エイリアス管理 113
リスト管理 114
監視 ログと Spool ディレクトリの表示 114
仮想ホストの管理 115
メーリング リストの管理 115
配信ルールの設定 115
「本日のニュース」や「ウェルカム メッセージ」の編集 115
オンライン広告の表示 115
Web Messaging のカスタマイズ 116

第 7 章 : IMail Web カレンダー 117
IMail Web カレンダーとは 117
IMail Web カレンダーを使ってできること 118
システム要件 120
IMail Web カレンダーのセキュリティ機能 120
IMail Web カレンダーのセットアップ 121
IMail Web カレンダーサーバの Web アドレス 121
複数のメール ホストを使用している場合 121
Secure Sockets Layer (SSL) の使用 122
ブラウザからの SSL 接続の開始 125
Web カレンダーサーバの設定 125
IMail Web カレンダー機能へのアクセスの設定 128
依頼メール 130
依頼メールの送信 130
依頼の表示 130
依頼に応じる場合 130
依頼を断る場合 130
オンライン広告の表示 130
IMail Web カレンダーのカスタマイズ 132

第 8 章 : SMTP サーバ 133
SMTP RFC のサポート 133
SMTP サーバの基礎知識 133
ログオン 134
SMTP サーバの設定 135
SMTP オプション 135
リモート メール ゲートウェイの使用 136
SMTP プロセス 137
SMTP セキュリティ 137

第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング 139
SMTP プロトコルのセキュリティに関する背景情報 139
セキュリティ戦略 140
メール中継オプション 140
受信メールの検証 141
アクセス制御オプション 142
SMTP のウェルカム メッセージの変更 142

SMTP セキュリティ オプションの設定 142
メール中継オプションの設定 143
ローカル メール グループへのアクセス権の設定 147
受信メールの検証 148
SMTP サーバへのアクセス権の設定 149
受信メールおよび送信メールのコピー 150

第 10 章 : POP3 サーバ 153
ログオン 153
POP3 サーバの設定 154
ログ オプション 155
その他のオプション 155
POP3 サーバへのアクセス権の設定 156
POP3 のウェルカム メッセージの変更 157

第 11 章 : IMAP4 サーバ 159
IMail Server での IMAP4 の実装 159
IMAP4 サーバのサポート 159
IMAP4 クライアントの完全なサポート 160
メールボックスの管理 160
公開されているメールボックス 161
ログオン 161
IMAP4 サーバの設定 162
ログ オプション 163
IMAP4 のウェルカム メッセージの変更 164

第 12 章 : LDAP サーバ 165
IMail Server での LDAP の実装 165
LDAP ディレクトリの完全なサポート 167
未登録ユーザに関する LDAP の情報提供 167
Microsoft のメール クライアントからの LDAP 情報へのアクセス 167
LDAP データベースに値を入れる 168
ログオン 168
LDAP サーバの設定 169
ログ オプション 170

第 13 章 : Whois サーバ 173
ログオン 173
Whois サーバの設定 174

第 14 章 : Finger サーバ 177
ログオン 177
Finger サーバの設定 178
ログ オプション 179

第 15 章 : パスワードサーバ 181
パスワード サーバの設定 181
ログ オプション 182
ログオン 183

第 16 章 : 監視サーバ 185
監視サーバの設定 185
[コントロール パネル] で [Monitor] の設定を変更する 187
通知のセットアップ 189
通知方法の定義 190
Beeper（トーン）通知の定義 191
外部プログラムの使用方法 192
Pager（データ通信）通知の定義 193
Mail（電子メール）通知の定義 195
[Notifications] タブへの通知方法の追加 196
通知の有効化 197
通知の無効化 198
Web Administration 機能の設定 198
Web Administration へのアクセスの設定 199
Web Administration 機能の使用方法 200
[個人情報] 201
[システム管理] 202
[ホスト管理] 203

第 17 章 : メーリング リスト 205
機能 205
メーリング リストの種類 206
パスワードと投稿者リストの使用方法 206
オープン リスト (誰でも投稿可能) 206
登録者リスト 207
モデレータリスト 207
メーリング リストへの投稿 208
パスワードの使用方法 208
情報の要求と登録 208
要求の形式 209
情報を要求するコマンド 209
登録と登録解除のコマンド 210
登録者が使用できるコマンド 210
メーリング リスト所有者 (モデレータ) が使用できるコマンド 210
リスト サーバの仕組み 211
メーリング リストの作成 211
[Advanced] オプションの設定 214
セキュリティの設定 216
ダイジェスト モードの設定 218
ダイジェストのスケジューリング 220
転送によってユーザを追加するエイリアスのセットアップ 221
転送によってユーザを削除するエイリアスのセットアップ 222
未知のユーザを削除するエイリアスのセットアップ 223

第 18 章 : Mail to Pager 225
Beeper、Pager エイリアスの追加方法 225
Beeper、Pager の新しいエイリアスの作り方 225
Pager エイリアスの定義 225
Beeper エイリアスの定義 226

Pager/Beeper への送信 227

第 19 章 : IMail Administrator のリモート接続機能 229
接続の条件 229
パスワード サーバの設定 229
リモート サーバに接続する 229
ローカル マシンに再度接続する 230

付録 A: ファイル ロック 231

付録 B: バックアップ 233
IMail Server の設定のバックアップ 233
IMail Administrator を使用したレジストリのバックアップ 233
コマンドラインユーティリティの使用 233
レジストリエディタの使用 234
IMail Server のシステム ファイルのバックアップ 234
ユーザ メールのバックアップ 234

付録 C: コマンドライン ユーティリティ 235
エイリアスの追加 (addalias.exe) 236
コマンドの基本構文 236
デフォルト ドメインへのエイリアスの追加 237
特定のドメインへのエイリアスの追加 237
エイリアスの削除 237
戻り値 237
テキスト ファイルの使用 237
ユーザの追加 (adduser.exe) 238
コマンドの基本構文 238
ユーザ ID の追加 240
ユーザ ID の削除 240
戻り値 240
テキスト ファイルの使用 240
サンプル ファイル 241
メールの送信 (imail1.exe) 242
コマンドの構文 242
古いメッセージの削除 (immsgexp.exe) 243
コマンドの基本構文 243
例 243
LDAP データベースへの値の挿入 (ldaper.exe) 243
コマンドの基本構文 243
例 244
全ユーザへのメール送信 (mailall.exe) 244
コマンドの基本構文 244
例 244
IMail Server の設定のバックアップ (regback.exe) 246
コマンドの基本構文 246
メールの配信 (smtp32.exe) 246
smtp32 (および imail1) の処理ルール 247

付録 D: Spool、キュー、ログ ファイル 249
キュー内のファイル 249
ファイル名の最初の文字 249
ファイル拡張子 250
添付ファイル 251
トラブル シューティング 251
ログ ファイル 251
ログ ファイル 251
主なログ ファイル 252
サイズの大きいログ ファイル 253
ログ収集の禁止 253

付録 E: デフォルトのレジストリ値 255
グローバル設定 255
Finger サーバ 255
IMAP サーバ 255
LDAP サーバ 256
パスワード サーバ 256
POP3 サーバ 256
SMTP サーバ 257
Whois サーバ 257

付録 F: 特殊なレジストリ値 259
メールボックスの区切り文字の変更 259
Windows NT のユーザ名にアンパサンド (&) を使用可能にする方法 259
1 メッセージあたりの最大受信者数の設定 260
受信者間の遅延設定 261
SMTP が使用するポートの設定 261
SMTP、POP3、IMAP4 のサービス ウェルカム メッセージの変更 262
SMTP プロセス数の変更 262
使用しなくなった IP アドレスの削除 263

付録 G: Web Messaging のカスタマイズ 265
Web ファイルと Web ディレクトリ構造 265
複数ホストの Web ディレクトリ 267
テキスト、背景色、ボタン、ロゴの変更 267
ウェルカム メッセージとロゴの編集 268
「本日のニュース」の編集 268
ボタンの変更 268
message.ini ファイルを使用してメッセージをカスタマイズする 269
Web テンプレートの編集 270
Web テンプレートと対応する Web ページ 270
Web ページのカスタマイズ 271
ページと対応するテンプレート 272
電子メール Web ページ 272
個人情報 Web テンプレート 273
管理者 Web テンプレート 274
ヘルプ ページ 277

IMail タグ 278
タグの構文 278
タグの種類 279
ParseExtensions 279
ParseExtensions のディレクトリ位置 280
ParseExtensions をレジストリに追加する 280
Web ディレクトリにあるグラフィック ファイルのリスト 281

付録 H: Web カレンダーのカスタマイズ 283
Web ファイルと Web ディレクトリ構造 283
複数ホストの Web ディレクトリ 284
テキスト、背景色、ボタン、ロゴの変更 285
「本日のニュース」の編集 285
ボタンの変更 286
Web テンプレートの編集 286
Web テンプレートと対応する Web ページ 286
Web ページのカスタマイズ 287
ページと対応するテンプレート 288
カレンダー Web ページ 288
ヘルプ ページ 291
IMail タグ 292
タグの構文 293
タグの種類 293
Web ディレクトリにあるグラフィック ファイルのリスト 295

付録 I: メール サーバと DNS 297
DNS とは 297
メール サーバによる DNS の使用方法 298
DNS におけるメール サーバのレコードのセットアップ 299
ローカル ネットワークの DNS サーバ 299
基本的な設定例 300
DNS レコードのサンプル 302
その他の設定 302

用語集 303

IMail Server は、Microsoft Windows NT/2000 で動作する、インターネット標準に準拠した電子メール サーバ システムです。IMail Server で提供される Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) を使用すると、インターネット上や組織内の TCP/IP ネットワーク内部でメールを送受信できます。

IMail Server は、Post Office Protocol Version 3 (POP3)、または Internet Message Access Protocol (IMAP4) を使用するメール クライアントをサポートしています。また Web Messaging を使用すると、ユーザは、どの Web ブラウザからもメールにアクセスすることができます。この場合、メール クライアント ソフトウェアは必要ありません。さらに、Web カレンダーを使用すると、スケジュールの管理、アポイントの設定、日付に関する通知電子メールの受信などを、すべて 1ヶ所で行うことができます。

IMail Server には、自己監視機能が備わっています。監視サーバを使用すると、SMTP、POP3、IMAP4、およびその他のサーバを監視し、サービスがダウンすると、通知を受け取り、自動的にサービスを再起動することができます。IMail Server には、メーリング リストの作成および管理を行うためのリスト サーバや、LDAP、Finger、および Whois の各機能を提供するサーバが含まれています。

監視サーバの Web Administration 機能を使用すると、システム管理者は、リモート システムから Web ブラウザを使って、IMail Server システムを監視し、保守機能を実行することができます。また、ユーザは、Web ブラウザから各自の設定を変更することができます。

Mail to Pager/Beeper 機能を使用すると、メールの着信をポケベルに通知したり、受信メッセージをポケベルへ転送したりすることができます。

Ipswitch

Ipswitch 社の他の製品には、次のものがあります。

- **WhatsUp™ Gold ネットワーク監視ツール**

  WhatsUp Gold は、企業の最新のマルチ プロトコルのエンタープライズ ネットワーク環境に対応するように設計された、グラフィック形式のネットワーク監視システムです。WhatsUp Gold は、クリティカルなデバイス、アプリケーション、サービスを監視し、問題が発生したときには、画像または音声 (またはその両方) によるアラームを発します。また、ポケベル (文字表示可能な機種を含む)、電子メール、または音声によって管理者に通知することもできます。WhatsUp Gold には Web サーバが内蔵されており、標準の Web ブラウザを使用して管理することができます。WhatsUp Gold は、Intel プラットフォーム上の Windows 2000、Windows 95/98、または Windows NT/2000 で動作します。

- **WS_FTP™ Pro FTP クライアント**

  WS_FTP Pro は、Windows ベースのファイル転送クライアント アプリケーションで、ローカル PC とリモート FTP サーバ間のファイル転送に使用できます。WS_FTP Pro は、リモート ホストへの接続とファイル転送のために、強力な Windows インターフェースを提供します。SSL 対応の FTP サーバに接続すると、SSL 暗号化により貴重な情報が保護されます。これにより、インターネット上での機密情報の転送を安全に行うことができます。

Web

Ipswitch 製品についてのさらに詳しい情報の参照、またはオンラインでの製品の購入には、弊社の Web サイト (*http://wwwcsoft.kgt.co.jp*) をご利用ください。

技術サポート ページでは、よく尋ねられる質問 (FAQ) や、最新の技術情報をご覧になることができます。

無償サポート期間はユーザ登録日または初回サポート日から 90 日間となっており、FAX・電子メールで受け付けております。なお、宛先 (FAX 番号、e-mail) は、パッケージ内の「テクニカルサポートについて」、「お客様登録カード」でご確認ください。

また、別途有償サポートメニューをご用意しております。詳細については、以下の URL をご参照ください。

現在出荷中のバージョンのソフトウェアパッチ又はアップグレード版が公開された場合、登録ユーザ様には、サポートセンターより別途メール (又は FAX) にてご連絡いたします。

各モジュールについてのお問い合わせは、カスタマ・サポートセンターをご利用ください。(カスタマ・サポートセンターについては、登録ハガキをご参照ください。)

1 :

本章では IMail Server について紹介し、そのコンポーネントや機能、および主な特長について説明します。
また、システム要件や新しく拡張された機能の概要についても説明します。

注記
本書の出版後に更新された情報については、IMail のトップ ディレクトリにあるリリース ノート (Ntimsvc.txt) を参照してください。

IMail™ Server

IMail Server は、現在発展しつつあるインターネットや社内イントラネットにおけるメッセージのやりとりに関する要件を満たすように設計された統合的な電子メール サーバ システムです。IMail Server はインストールや管理が簡単なため、メール サーバ導入時の初期コストと運用管理コストの両方を大幅に削減することができます。IMail Server は使い勝手のよさを特長としており、生産性の向上に貢献します。また、専用のシステムや複雑な UNIX ベースのインターネット メール サーバに代わる安定したメール サーバ システムの選択肢となります。

IMail Server には以下のような特長があります。

- 最大 250 のユーザ アカウント、最大 1,000 のユーザ アカウント、または無制限のユーザ アカウント (ライセンスにより異なる)
- Windows NT/2000 のユーザ データベースとの完全な統合
- 外部データベースに基づいたメール アカウントの設定が可能

IMail Server 上の電子メールは以下のようなソフトウェアから読み出すことができます。

- POP3 メール クライアント
- IMAP4 メール クライアント
- Web ブラウザ

IMail Server は、Windows NT/2000 オペレーティング システム用に設計されています。Windows 95、Windows 98、Win32 との互換性はありません。

IMail Server のシステム要件は、以下のとおりです。

- Intel (Pentium プロセッサ以上)
- 日本語版 Windows NT 4.0/2000
- Microsoft 社の Windows NT/2000 用 TCP/IP またはダイヤルアップ TCP/IP 接続を使用するようインストールされ構成されているネットワーク インターフェース カード
- 200MB のディスク スペース (ユーザ数 30 のワークグループの場合)
- 最低 32MB のメモリ (64MB 以上を推奨)

操作性や安全性を高めるため、FAT ではなく NTFS ファイル システムの使用をお勧めします。

7

IMail Server のバージョン 7 には、数多くの新しい機能が提供されています。新たな利点の 1 つは、IMail Server に新しいライセンス オプションが追加されたことです。現在ライセンスは以下の3つの構成で利用可能です。

- 最大 250 ユーザ
- 最大 1,000 ユーザ
- 無制限のユーザ

- 新しい Web Messaging のインターフェースと機能。
4 ページの「Web Messaging のユーザ向け機能拡張」を参照してください。
- ブラウザからアクセスできる新しい Web カレンダー 機能。

各ホストに新しく [Web Option] タブが追加され、SSL、IMail Web カレンダー 、および Spell Checker をドメイン レベルで管理できるようになりました。これにより、管理者は、グローバル レベルではなくドメイン レベルでこれらの機能を使用できるようになりました。

注記

Spell Checker 機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

- 電子メールの送受信をより安全にするため、新しい SSL 認証とユーザ ロックアウト ポリシを採用
- 着信メッセージのサイズ制限をユーザ アカウント内のすべてのメールボックスの合計サイズに基づいて行うように変更
- POP3 を使ってメール アカウント (またはサブメールボックス) にログオンするユーザに対する APOP 認証のサポート
- サービスの監視において、管理者は、サービスのチェック頻度の設定に加えて、タイムアウト値も設定可能

Web Messaging

- 拡張されたセキュリティ オプションにより、ユーザのセキュリティ レベルをより柔軟に管理することができます。管理者は、SSL の使用を強制することも、SSL を使用するオプションを選択させることも、全くオプションを提供しないようにすることもできます。セキュリティが強化されたことにより、ユーザが繰り返しログインに失敗する場合、IMail Server は一時的にそのユーザをアクセス不能にすることも可能になりました。
- Web Messaging テンプレートのサポート
  - 「*.html*」「*.gif*」「*.cgi*」ファイルを編集することで、Web Messaging 画面のカスタマイズが可能です。
  - ユーザ作成の Web テンプレート内にファイルの挿入を可能にする “ include ” タグをサポート
  - さまざまなドメインに応じて定義可能なボタンのテキスト (butontxt.ini) を拡張サポート
- Web Messaging の拡張により、ログインしているユーザ数や送受信されているデータ量など、サーバに関する統計やサーバのアクティビティを管理者がリアルタイムで表示することが可能
- リスト、ユーザ、ドメインと IMail 管理者が一致するよう、管理機能を改良
- フォント スタイルの変更やクイック クリック機能を簡単に使用できるようにするため、Cascading Style Sheet (CSS) を採用。HTML コードは、DOM レベル 1 スペックや CSS レベル 1 スペックに準拠しています。
- 管理機能のオンライン ヘルプ

Web Messaging

- IMail Web カレンダー へのリンクを使用すると、再度ログインしなくてもカレンダー を開くことが可能
- 選択したメールボックスまたはすべてのメールボックスで、[To]/[From]/[Subject]/[メッセージ本文（添付ファイルは除く）] のメールボックス検索機能をサポート

注記

検索できる文字列は半角英数字のみとなります。また、日本語名のメーボックスは検索対象外となります。

- メールの機能に関するオンライン ヘルプ

IMail Web

- イベント、タスク、メモなどを含むスケジュールを管理する機能
- イベントが追加、取り消し、または変更される場合、他の人に依頼内容をメールで送信
- 通知メール
- IMail Web Messaging を使用すると、再度ログインしなくてもメール アカウントにアクセスすることが可能

IMail Server は、Windows NT/2000 上で動作する一連のサービスによって構成されています。Windows システムがメールを送受信できるようにする基本サービスが、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) です。また、クライアント システムからメールにアクセスできるようにするサービスが、Post Office Protocol Version 3 (POP3) と Internet Message Access Protocol Version 4 (IMAP4) です。

SMTP

SMTP サーバは、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) を使用して他のインターネット ホストとのメールの送受信を行います。SMTP サーバは、すべての着信メールと発信メールを処理します。発信メールは、宛先に到着したことを SMTP サーバが確認できるまでスプールされます。着信メールは、ユーザが POP3 または IMAP4 メール クライアントを使用してアクセスするまでスプールされます。スプーリングにより、クライアントやサーバからの転送をバックグラウンドで行うことができます。

SMTP

IMail Server は、ユーザ ID とパスワードをネットワーク上で送信する安全性の高い方法として、SMTP、POP3、および IMAP4 認証方式をサポートしています。これにより、IMail Server によって認識されていない IP アドレスからメールを送信することができます。

また、アクセスが承認されているかいないかを問わず、単一の IP アドレスや一連の IP アドレスを指定することにより、SMTP サーバへのアクセスを制御することも可能です。これは、メール サーバを不正使用するメール送信者の IP アドレスがわかる場合に便利です。

さらに、Kill ファイルを使用して特定の電子メール アドレスやドメインを除外することにより、スパムを回避することもできます。このファイルを使用して、メールの受信を拒否するメール アドレスや特定のメール ホストを指定することができます。

メール中継オプションにより、セキュリティがさらに向上しました。これには、[Relay for local hosts only]、[Relay for local users only]、[Relay Mail for Addresses]、および [No Mail Relay] というオプションがあります。SMTP の詳細については、133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。

POP3

Post Office Protocol バージョン 3 (POP3) は、メールクライアントがメールサーバからメッセージを取り出す時に使用される最も一般的な通信プロトコルです (ポスト オフィスとしても知られます)。POP3 サーバは、ユーザがメッセージに接続してダウンロードするまでメールを保管します。

POP3 クライアントは、通常 “ オフライン ” 方式でメール サーバにアクセスします。メール クライアントは、定期的にサーバに接続し、クライアント コンピュータにメッセージをダウンロードした後、サーバから切断します。そのため、メール メッセージはサーバ コンピュータ上に一時的にしか保管されません。クライアント コンピュータにダウンロードされると、メッセージは自動的にサーバ コンピュータから削除されます。

“ オンライン ” アクセス方式では、クライアントとサーバ間にオープンな接続が持続します。メッセージはメール サーバのコンピュータ上に残されるため、ユーザはダウンロードしなくてもサーバ上でメールを読むことができます。

POP3 サーバにより、POP3 (Post Office Protocol バージョン 3) メールクライアントは IMail Server と通信することが可能になります。サポートされている POP3 クライアントには、Outlook Express、Netscape Messenger または Communicator、Eudora、および UNIX 用の POP3 対応メールリーダなどがあります。POP3 の詳細については、153 ページの「第 10 章 :POP3 サーバ」を参照してください。

IMAP4

Internet Message Access Protocol バージョン (IMAP4) は、メール サーバに保管されている電子メール メッセージへのアクセス方式です。これにより、クライアントの電子メール アプリケーションは、ローカルのメッセージにアクセスするように、メッセージにリモート アクセスすることができます。例えば、IMAP サーバに格納されているメッセージには、メッセージやファイルをコンピュータ間で転送しなくても、他のコンピュータからアクセスすることが可能です。

IMAP4 メール クライアントは、IMAP4 サーバを使用して IMail Server と通信することができます。サポートされている IMAP4 クライアントには Netscape Messenger、Outlook Express などがあります。

IMAP4 は、POP3 と同じように電子メール クライアントとサーバ間の通信用に SMTP を使用します。IMAP4 の詳細については、159 ページの「第 11 章 :IMAP4 サーバ」を参照してください。

Web Messaging

Web Messaging を使用すると、インターネット上の任意の Web ブラウザから IMail Server 上のメールにアクセスすることができます。ユーザは、アドレス帳を保存し、BCC (“ ブラインド カーボン コピー ”) を使用し、配信ルールを適用して着信メールを処理することができます。また、さまざまな方法でメッセージをソートしたり、“ 送信 ” および “ 削除 ” メールボックスを作成して、メール ボックスを管理することも可能です。
Web Messaging は、カスタマイズ可能なユーザ専用辞書を使用してスペルチェックを行う機能も搭載されています。

注記
スペルチェック機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

Web Messaging の管理者は、Web ブラウザを使用して、仮想ホスト、エイリアス、ユーザ、およびリスト サーバのメーリング リストを管理することができます。Web Messaging の管理者は、ユーザがメールにアクセスしたり設定を編集する Web ページの外観や機能を、HTML テンプレートを使用してホストごとにカスタマイズすることが可能です。

Web Messaging は、オンライン広告もサポートしています。これは、インターネット サービス プロバイダが、Web Messaging メール画面のトップにバナー広告を表示する場合や、メール サーバ上でオンラインの広告スペースを販売する場合に使用します。Web Messaging の詳細については、95 ページの「第 6 章 :Web Messaging」を参照してください。

Web

IMail Web カレンダー は、複数のスケジュールを管理できる Web ベースのカレンダー で、Web ブラウザを使用してアクセスすることができます。IMail Web カレンダー には、予定表の保管、スケジュールの設定、メモやタスクの記録、スケジュールの日時や説明などを含む通知メールの送受信が可能な、使いやすいインターフェースが採用されています。また、予定やイベントを他の人に依頼するためのメール リクエストを送信することもできます。

IMail Web カレンダー は Web ベースのカレンダー のため、インターネットに接続されている任意の Web ブラウザからのリモート アクセスが可能です。

IMail Web カレンダー では、IMail Web Messaging 同様オンライン広告をサポートしています。Web カレンダー の詳細については、117 ページの「第 7 章 :IMail Web カレンダー」を参照してください。

上記基本サーバに加えて、IMail Server は、Windows NT/2000 上でのサービスとして動作する以下のようなサーバ プログラムを提供します。

- **LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) バージョン 3 サーバ**

  LDAP サーバによって、LDAP クライアント アプリケーションを通して、IMailユーザ情報にリモート アクセスを行うことができます。IMail ユーザ データには、ユーザの名字、所属組織、メール アドレス、電話番号といった、標準的な LDAP 情報が含まれています。また、LDAP バージョン 3 もサポートされています。詳細については、165 ページの「第 12 章 :LDAP サーバ」を参照してください。

- **リスト サーバ**

  メーリング リストは、インターネット上で、特定の話題についての情報を共有する手段として幅広く利用されています。リスト サーバによって、自動メーリング リストをセットアップすることができます。リスト サーバを使ったメーリング リストでは、メールを受信し、その受信したメールをメーリング リストの全ユーザに再送信することができます。

  リスト サーバでは、投稿メールの送信者を限定する機能がサポートされています。また、メッセージをダイジェストとしてグループ化し、そのダイジェストを単一のメッセージとして定期的に送信することもできます。

- **監視サーバ**

  IMail Server では、監視サーバ経由による自己監視機能によって、各 IMail サービスに対してポーリングを行います。監視サーバは、サービスのダウン時または復帰時に、電子メールやポケベルによる通知を行うように設定することができます。また、ダウンしたサービスを自動的に再起動することもできます。

  更に監視サーバは、ローカル システムまたはリモート システムからその他の (DNS、NNTP、WWW、Telnet、および FTP) サービス、デフォルト ゲートウェイ、およびディスク容量の監視を行うこともできます。

  Web ブラウザを使って監視サーバにリモート アクセスして、監視対象のサービス状態を表示したり、管理機能を実行したりすることができます。詳細については、185 ページの「第 16 章 : 監視サーバ」を参照してください。

- **Finger と Whois サーバ**

  Finger と Whois サーバによって、インターネット上でユーザ情報を公開できます。詳細については、177 ページの「第 14 章 :Finger サーバ」を参照してください。

- **パスワード サーバ**

  パスワード サーバを使用すると、古いタイプのメール クライアント (例えば Eudora、NuPOP など) は、リモートでパスワードを変更できます。

メールの送受信に加えて、IMail Server は、高度な数多くの機能を提供します。

IMail Server では、サポートするユーザ数は (ライセンスに応じて) 最大 250 ユーザ アカウントまで、最大 1000 ユーザ アカウントまで、または無制限です。IMail Server がサポートするメールボックスの個数には制限がありません。POP3、IMAP4、または Web クライアントがサーバに接続して、そのメールボックスに格納されているメールを取り出すには、ユーザを登録する必要があります。

IMail Server では、管理者は以下の操作を行うことができます。

- ユーザ アカウント、リスト、標準エイリアス、グループ エイリアス、およびプログラム エイリアスの追加、削除、および保守
- 着信メールに対する配信ルール、Vacation（外出中メッセージ）処理、情報マネージャによる自動応答、およびメール転送の設定

- Finger、Whois、および LDAP 情報の更新
- 外部データベースに基づいた IMail Server ユーザの使用。基本機能では ODBC メソッドが使われますが、最大 10 個の異なるメソッドが含まれるように拡張することができます。
- コマンドライン ユーティリティを使って、テキスト ファイルから多数のユーザ、エイリアス、およびホストを追加または削除する。
- コマンドライン　ユーティリティを使って、古いメッセージを削除する。
- コマンドライン ユーティリティを使って､仮想ホストまたはサーバ全体の全ユーザにメッセージを送信する。

  詳細については、55 ページの「第 4 章：ユーザ メール アカウント」と 235 ページの「付録 C: コマンドライン ユーティリティ」を参照してください。

IMail Server を使用すると､(リスト サーバによって自動処理される) メーリング リストの作成および保守を行うことができます｡これらのメーリング リストは、プライベートまたは公開されているリストになります｡メーリング リストでは、メールを受信すると、その受信したメールをメーリング リストの全登録者に再送信します。メールの再送信では、1 度に 1 件ずつ送ることも、一定期間蓄えてから送る (“ ダイジェスト モード ”) こともできます。詳細については、205 ページの「第 17 章：メーリング リスト」を参照してください。

IMail Server では、特定のユーザ宛ての新着メールが、別のアドレスに転送されるように設定できます｡詳細については、69 ページの「他のユーザ アカウントへのメール転送」を参照してください。

Vacation

IMail Server では、休暇などの理由でユーザがメールに返信できない場合、そのユーザにメールを送信する各ユーザに自動的に1回だけ不在通知が送信されるように設定することができます。したがって、休暇中の受信者に対し多数のメッセージを送信しても、送信側が何度も同じ不在通知を受け取ることはありません。詳細については、66 ページの「Vacation メッセージのセットアップ」を参照してください。

Finger “ Plan ”

Finger プロトコルは、リモート ユーザが、システムに登録されているユーザに関する情報を参照するために使用する一般的なインターネット ツールです。この情報には、指定したユーザのフル ネーム、完全な電子メール アドレス、ユーザが提供している “ Plan ” ファイルが含まれています。このファイルには、Finger 要求に対してユーザが提供する追加情報が含まれています。詳細については、177 ページの「第 14 章 :Finger サーバ」を参照してください。

配信ルールを作成すると、メッセージの特定の部分の内容 ([To]、[From]、[Sender]、[Subject]、ヘッダ全体、またはメッセージ本文) に含まれる特定の文字を検索し、この検索内容に基づいてメッセージを分類できます。配信ルールは、メール ホスト、リスト サーバ、または個々のユーザに対して適用することができます。なお、この機能は半角英数に対してのみ有効で、日本語文字に対しての配信ルールはサポートされておりませんので、ご注意ください。詳細については、78 ページの「配信ルールのセットアップ」を参照してください。

情報マネージャの機能を使って、自動応答の設定を行うことができます。情報マネージャを使用可能にしているユーザがメールを受信すると、あらかじめ準備されたメッセージが、発信元に自動的に送信されます。

情報マネージャを使用すると、特定のメール アカウントのサブカテゴリを設定し、サブカテゴリごとに固有の応答を設定することもできます。例えば、所属組織の「*info*」ユーザ アカウントを作成します。この「*info*」アカウントにメールが送信されると、システムはこの「*info*」アカウントの下にある、例えば「*sales*」や「*classes*」などのサブカテゴリを示す応答を返すことができます。

送信者は、「*info-sales*」にメッセージを送信して、販売関連のメッセージを受け取ったり、「*info-classes*」にメッセージを送信して、クラスに関するメッセージを受け取ることができます。詳細については、89 ページの「情報マネージャの使用」を参照してください。

( )

同じ Windows NT/2000 システム上で複数の電子メール ホスト宛てのメールを受信したい場合は、複数の仮想ホストを設定することができます。例えば、使用しているメール サーバが、「*mail.petra.com*」というローカル電子メール ホストにメール サービスを提供しているときに、「*mail.acme.com*」という別の電子メール ホストにもメール サービスを提供

したい場合は、「*mail.acme.com*」用に仮想ホストを作成することができます。詳細については、35 ページの「第 3 章 : 設定」を参照してください。

POP

Post Office Protocol Version 3 (POP3) は、メール クライアントがメール サーバからメッセージを取り出すときに使用される、最も一般的なプロトコルです。POP3 では、ID とパスワードの符号化を行うため、通常のテキスト エディタを使って、これらを読むことはできません。しかし、この符号化は複雑なものではないので、この機能をセキュリティと混同しないようにする必要があります。詳細については、153 ページの「第 10 章 :POP3 サーバ」を参照してください。

IMail Server では、着信メールをあらかじめ設定されたポケベルやポケベルのアドレス、またはその他のアプリケーションといった外部アプリケーションにルーティングすることができます。詳細については、72 ページの「エイリアスの種類」を参照してください。

IMail Server は、間違ったアドレスや、ローカル ホスト上に存在しないユーザ宛てのメールに特別な処理を行うことができます。この機能は「*nobody*」という特別なエイリアスによって実現されます。このエイリアスを使用すると、間違ったアドレス宛てのメールは指定のプログラムや別のユーザのメールボックスに送信されます。詳細については、76 ページの「不明ユーザ宛てのメール処理」を参照してください。

IMail Server に組み込まれているメッセージ コントロール機能は、認可されていないメールが IMail Server 上で中継、あるいはゲートウェイとして通過するのを防止します。また、ローカル ユーザが発信したメールやローカル ユーザ宛てのメールだけをサーバが受け入れるように設定することもできます。(IMail Server を使用すると、ローカルとみなすシステムやアドレス ブロックの定義をすることができます。) 更に、特定の IP アドレスから不要な電子メールが送信されてくる場合、それらのアドレスから送信されてきたメッセージをブロックすることができます。詳細については、139 ページの「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」を参照してください。

IMail Client for Windows

IMail Client for Windows の特別版が、IMail システム上に自動的にインストールされます。IMail Client for Windows は、IMail Server の管理を IMail Server がインストールされた NT ワークステーション上で行いたいユーザのために用意されており、“ root ”のメールボックスを読んだり、ほとんど使用されていないアカウントの処理やテストを行うときに役立ちますが、日本語文字はサポートされておりません。メールの送受信テストを行いたい場合は、Web Messaging または Outlook Express 等のメールクライアントをご利用ください。

注記

この IMail クライアント アプリケーションは、IMail Server システム上でエンドユーザのメールボックスを表示するためには使用しないでください。同じメールボックスに対してリモート アクセスが行われている場合、(使用しているリモート クライアントによっては) 問題が生じる可能性があります。

2 :

本章では、IMail Server のインストール方法について説明します。最初に、インストールを始める前に決めておかなければいけないこと、および一次ホスト (IMail をインストールするシステムのこと) について知っておく必要のある事項について説明します。

次に、IMail Server を立ち上げ、動作させるための手順について説明します。続いて、root ユーザ ID、インストールが正しく行われたかどうかの簡単なテスト、IMail Server の設定についての概要、およびディレクトリ構造について説明します。最後に、IMail Server のアップグレード、およびアンインストールについて説明します。

注記

インストールを行う前に、この製品に付属する『クイック スタート』をお読みになることを強くお勧めします。この資料をお読みになれば、インストールや設定にかかる時間を大幅に減らし、セットアップ中に不必要な問題が生じるのを回避することができます。

上にも述べたように、一次ホストとは、IMail Server をインストールするシステムを意味します。

インストールを始める前に、

(1) 一次ホストの正式名の確認

(2) 一次ホストがユーザの登録と認証に使用するデータベースの決定

という作業を行う必要があります。

まず最初に、IMail Server(一次ホスト) をインストールしようとしているシステムの DNS 情報を調べる必要があります。

(Windows NT で)DNS 情報を調べるには、[コントロール パネル] 内で、**[ネットワーク]** アイコンをダブルクリックします。

次に **[プロトコル]** タブを選択し、**[TCP/IP プロトコル]** を選択して、**[プロパティ]** をクリックします。すると、[TCP/IP のプロパティ] ウィンドウが表示されます。**[DNS]** をクリックして、DNS 情報を表示させます。

(Windows 2000 で)DNS 情報を確認するには、[コントロール パネル] で **[システム]** アイコンをダブルクリックして **[ネットワーク ID]** タブを選択し、**[プロパティ]** をクリックします。**[識別の変更]** ダイアログ ボックスが表示され、その中にドメイン情報が表示されます。

IMail Server をインストールするシステムがリモート ホストと通信できるようにする場合は、**[ホスト名]** と **[ドメイン]** を必ず DNS(ドメイン ネーム システム) に登録してください。DNS には、ホスト名に関する正しいエントリが含まれている必要があります。詳細については、DNS に関する資料と 297 ページの「付録 I: メール サーバと DNS」を参照してください。

一次ホストは、ユーザの登録や認証のために、次の 3 種類のいずれかのデータベースを使用できます。(登録とは、ユーザのメール アカウントを作成するプロセスであり、認証とは、ユーザの ID とパスワードの確認を行うプロセスのことです。)

- **IMail データベース**

  メール アカウントのユーザ ID とパスワードは、Windows NT/2000 のデータベースや、その他の外部データベースとは別の専用データベース（レジストリ内）に保管されます。

  Windows NT や 2000 のユーザは、Windows NT または 2000 データベースへのリンクを張らずに、IMail のユーザ データベースにインポートすることもできます。Windows NT や 2000 のユーザをインポートする方法の詳細については、59 ページの「NT ユーザのインポート」を参照してください。

- **Windows NT データベース**

  このデータベースは、ホスト マシンにある Windows NT または Windows 2000 のユーザ データベースにリストされている各ユーザのユーザ メール アカウントを自動的に作成します。

  ただし、一次メール ホストは、ネットワークの Windows NT または 2000 のユーザ データベースにアクセスする必要があります。

  Windows NT または 2000 のユーザ データベースに現在含まれているユーザのリストを表示するには、Windows のマニュアルで説明されている適切な管理ツールを使用します。

  IMail Administrator を使用してユーザの追加や削除を行うことはできません。適切な Windows 管理ツールを使用する必要があります (これは、Windows NT と Windows 2000 では異なります)。

注記

メール サーバがメッセージを受信したときか、ユーザが最初にメール クライアントを使用して IMail Server にアクセスしたときに、メール ボックスや他のユーザ ファイルが作成されます。

- **外部データベース**

  IMail は、ユーザの登録や認証のために外部データベースを使用します。IMail Server を使って追加および削除するユーザは、この外部データベースに追加および削除されます。逆に、この外部データベースにユーザを追加および削除すると、その結果が IMail にも反映されます。

IMail Server

インストール プログラムを使って、IMail Server の全ソフトウェアをインストールします。インストール中に質問が生じる場合は、F1 を押してインストールのヘルプを表示します。ただし、インストールを行う前に、13 ページの「インストールを始める前に」をお読みください。

注記

IMail Server を使って外部データベースをホストに関連付ける前に、Windows の [コントロール パネル] で、[システム DSN](Data Source Name) が有効なデータベースを指し示していることを確認してください。[システム DSN] については、Windows NT のマニュアルおよびデータベースに関するドキュメントを参照してください。

初めて IMail Server をインストールするには、次の手順に従います。

1. Windows NT に、システム管理者、またはシステム管理者特権付きアカウントとしてログオンします。
2. 次のいずれかを実行します。
   - IMail Server の CD-ROM をドライブに挿入し、**[Welcome]** ダイアログボックスで **[Install IMail Server]** を選択します。
   - インストール プログラムの実行が自動的に開始されない場合には、Windows エクスプローラ等でCD-ROM内の「¥install¥setup.exe」を実行してください。
3. **[Official Host Name]** ダイアログ ボックス

   13 ページの「一次ホスト名の確認」で説明されている一次システムの正式ホスト名を入力します。これが “ 一次ホスト ” となります。

4. **[Database Options]** ダイアログ ボックス

   使用したいデータベース オプションを選択します。詳細については、14 ページの「ユーザの登録と認証」を参照してください。

5. **[System DSN]** ダイアログ ボックス

   (4) で **[External Database]** を選択した場合は、ユーザ情報が格納されている ODBC System DSN を指定する必要があります。IMail ODBC リンクは、デフォルトのリンク名として IMAILSECDB を使用します。

6. **[Choose Destination Location]** ダイアログ ボックス

   IMail Server のインストール先ディレクトリを入力します。インストール終了後は、このディレクトリを移動したり、名前を変更したりしないでください。

   注記

   このディレクトリおよびパス名には、スペース文字を使用しないでください。

7. **[Select Program Folder]** ダイアログ ボックス

   IMail Server が **([スタート]** メニュー内で) 表示されるプログラム グループを確認 (または入力) します。

8. **[SSL Keys]** ダイアログ ボックス

   デフォルトのSSLキーをインストールするかどうかを尋ねられた場合は、次のいずれかを実行します。

   - 既にサードパーティ製の証明書を持っている場合は、**[いいえ]** をクリックします。IMail のインストールが終了した後で、**[スタート]** メニューから、**[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail SSL Configuration Utility]** の順に選択して IMail SSL ユーティリティを実行し、ヘルプで表示される指示に従ってください。
   - サードパーティ製の証明書を持っていないが、IMail Webサーバの “ 自己署名型 ” の証明書を使用したい場合は、**[はい]** をクリックしてください。
   - SSL をインストールするかどうかについて、もう少し調べたい場合は、**[いいえ]** をクリックしてください。(デフォルトキーは、後からでもインストールできます。)

9. **[Template Options]** ダイアログ ボックス

   デフォルトでインストールする一連のテンプレートを選択します。手作業で CD からコピーすることにより、追加のテンプレート (仮想ホストなど) を後から追加することができます。日本語テンプレートファイルをインストールするには、ここで [Japanese IMail templates] を選択してください。このファイルは CD の中の「¥¥Web_Files¥Japan¥webtemplate」に格納されています。

10. **[Dictionary Options]** ダイアログ ボックス

    デフォルトでインストールする辞書を選択します。辞書は後からインストールすることもできます。

注記

辞書機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

---

11. **[SMTP Relay Option]** ダイアログ ボックス

    通常は、[Relay mail for anyone] を選択してください。他のメールサーバに対してメールを送信しない場合は、[No mail relay] を選択してください。メール中継の設定を別途したい場合は、インストール終了後に行ってください。詳細については、139 ページの「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」をご覧ください。

12. **[Service Start Options]** ダイアログ ボックス

    IMail のサービスのリストが表示されます。システムで既に実行中のサービスは、選択された状態になっています。デフォルトで開始したいサービスがこの他にもある場合は、選択してください。(デフォルト サービスは、インストール終了後でも指定できます。)

13. **[Add User]** ダイアログ ボックス

    [IMail Database] オプションを選択した場合にのみ表示されます。インストールのテストができるように " 仮の " ユーザを数名追加しておくことをお勧めします。(ユーザは、インストール終了後でも追加できます。)

注記

一次ホストが外部データベースを使用する場合は、51 ページの「外部データベースを使用する仮想ホストの作成」を参照してください。

Root ID

IMail Server の各ホストは、SMTP の RFC に準拠するために「*root*」というユーザ ID と「*postmaster*」というエイリアスを持つ必要があります。こうすると他のホストからサーバにメッセージを送信したり、(エラー メッセージなどの)特定のシステム メッセージを自動的に生成したりすることができます。

一次ホストが IMail データベース、または外部データベースを使用している場合は、インストール作業中に「*root*」という名前のユーザと「*postmaster*」という名前のエイリアスが作成されます。

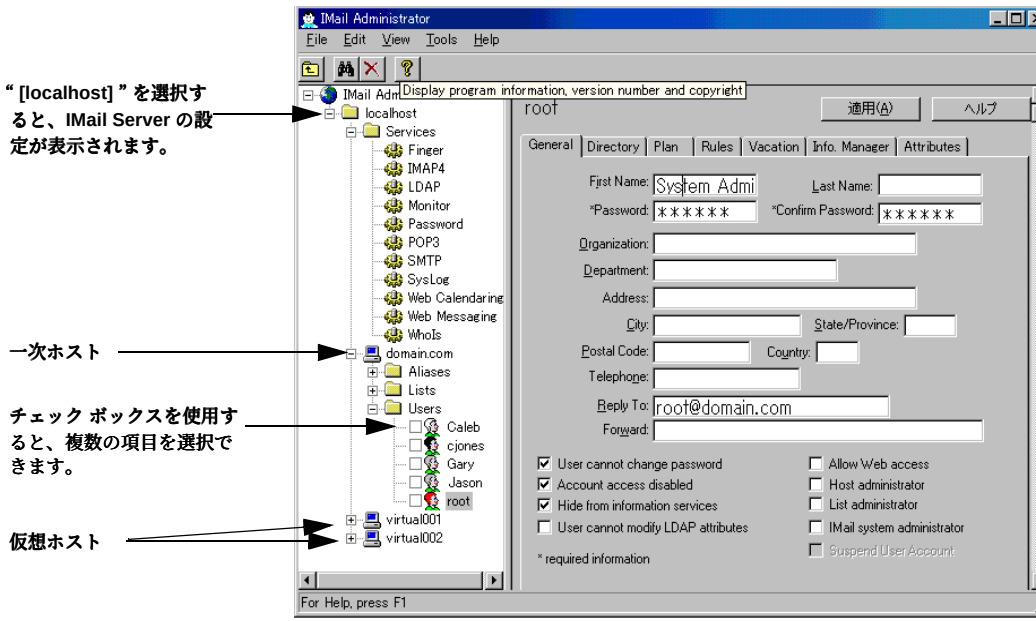
「*root*」ユーザ ID は自動的に登録されますが、このアカウントはデフォルトでは使用不能になっています。

NT ユーザ データベースを使用する場合は、インストール作業によって *administrator* という名前のユーザ名と、*postmaster* という名前のエイリアスが作成され、エイリアスがユーザ名 *administrator* に関連付けられます。

IMail Server が正しくインストールされたことを確認するには、次の手順に従います。

1. **[スタート]** メニューをクリックし、**[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail Administrator]** の順に選択します。
2. IMail Administrator の分割ウィンドウが表示されます。左側のパネルからはシステム デフォルトへのアクセス、ホストの設定ができます。更に、ユーザ、エイリアス、およびリスト サーバへのアクセスができるようになっています。

左側のパネルで項目を選択すると、右側にそのプロパティが表示されます。

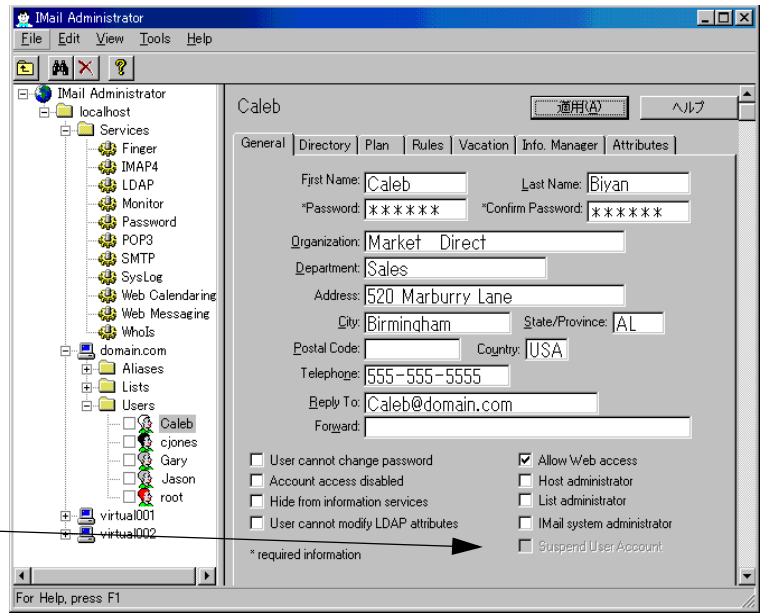


メールの送受信が可能かどうか確認するには、一次ホスト上に少なくとも 1 人のユーザが存在する必要があります。

1. 一次ホストが IMail ユーザ データベースを使用している場合、インストール中にユーザを作成している場合があります。IMail Administrator にユーザが作成されているかどうか確認してください。IMail Administrator の左側のパネルで、“ [localhost] ” フォルダを展開して一次ホストを選択し、[Users] フォルダを開きます。“ root ” ユーザしか表示されない場合は、以下の手順に従ってテスト ユーザを追加する必要があります。
2. 一次ホストを選択し、**[General]** タブをクリックします。
3. 右側のパネルで、**[Add User]** をクリックし、表示される指示に従います。ユーザ ID には、3 ～ 30 個の文字を入力します。スペースは使用しないでください。
4. **[次へ]** をクリックし、表示に従います。最後に **[完了]** をクリックすると、ユーザが追加されます。このユーザ ID は、一次ホストの登録ユーザのリストに追加されます。左側のパネルで新しいユーザを選択すると、そのユーザのプロパティが右側のパネルに表示されます。

注記

このウィザードは **[Tools]** → **[Use Wizards]** にチェックが入っている場合にのみ表示されます。



このオプションは、アカウントがオフでないと表示されません。

一次ホストが Windows NT または Windows 2000 のユーザ データベースを使用している場合、Administrator および Guest という 2 つのデフォルト アカウントがあります。テスト用のユーザを追加する必要がある場合は、適切な Windows 管理ツールを使用してアカウントを追加します。

一次ホストが外部データベースを使用していて、その外部データベースにユーザが登録されていない場合は、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、一次ホストと **[Users]** フォルダを展開します。
2. ユーザ " root " を選択します。
3. **[General]** タブで、**[Account access disabled]** オプションをオフにします。

追加したどのユーザも、IMail Server を介して、Windows NT/2000 の TCP/IP パラメータで指定したホスト名でメールを受信できます。例えば、「*caleb*」というユーザを追加し、ホスト名が「*jupiter7.space.com*」であれば、このユーザは「*caleb@jupiter7.space.com*」宛てのメールを受信することができます。

注記

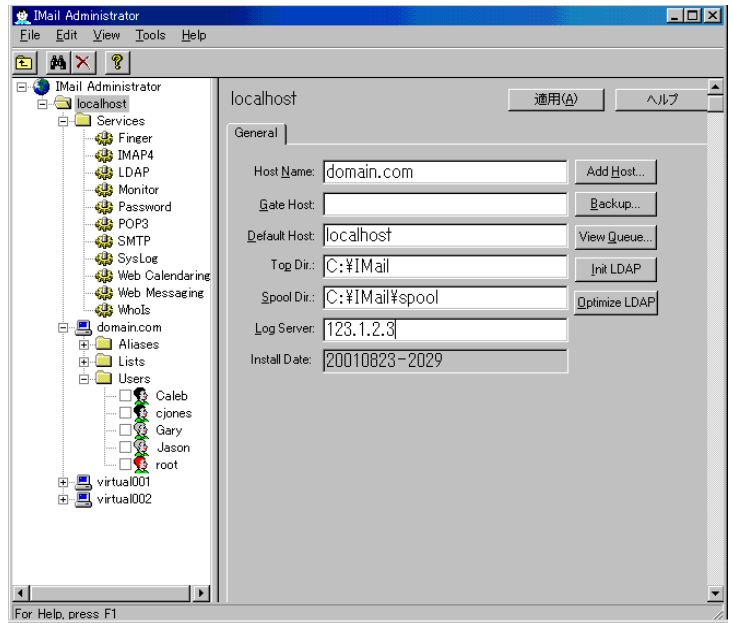
一次ホスト上のユーザがドメイン名のみを使ったアドレス宛てのメッセージを受け取れるようにしたい場合は、仮想ホスト用のエイリアスを作成します。例えば、前に示したユーザが「*caleb@space.com*」宛てのメールを受け取れるようにしたい場合は、「*space.com*」というホスト エイリアスを「*jupiter7.space.com*」に対して作成します。詳細については、35 ページの「第 3 章 : 設定」を参照してください。

テスト アカウントを使ってメールの送受信を行うには、次の手順に従います。

1. メール　サーバが稼動していることを確認します。左側のパネルで **[Services]** フォルダを選択して、**SMTP**、**POP3**、および **IMAP4** サーバが稼動していることを確認します。**SMTP** は自動的に起動するため、ステータスは“ Running ”になっています。**POP3** と **IMAP4** が“ Running ”でない場合は、これらを起動します。
2. Web Messaging または Outlook Express などのメールクライアントを利用して、作成したユーザ アカウントの 1 つを使ってログオンし、別のユーザにメールを送信してみてください。次に、送信先のユーザの **[Main]** メールボックスに、そのメールが表示されることを確認してください。
3. インターネットに接続されている場合は、「*imailtest@ipswitch.com*」にメールを送信して、リモート システムへのメール サービスをテストすることができます。このメールに対しては、Ipswitch 社が応答します。別のホストのユーザとメールを送受信して、アカウントをテストすることもできます。
4. メール サーバが正しく動作していることを確認したら、後の各章の説明に従って、ユーザやホストを追加できます。
   一次ホストが外部データベースを使用している場合は、50 ページの「外部データベースを使用する一次ホストの設定」を参照してください。

IMail Server

左側のパネルにある“ **[localhost]** ”を選択すると、IMail Server の設定が表示されます。



修正できるのは、**[Gate Host]** または **[Default Host]** プロパティだけです。

[Gate Host] ボックスには、メールを送信先のホストへ直接配信できない場合に、メールの配信先となる別のホスト名が表示されます。これは、[SMTP] タブにある **[Send all remote mail through gateway]** と組み合わせて使用すると、メールの配信を強制的にゲートウェイ ホストを通して行うように設定できます。

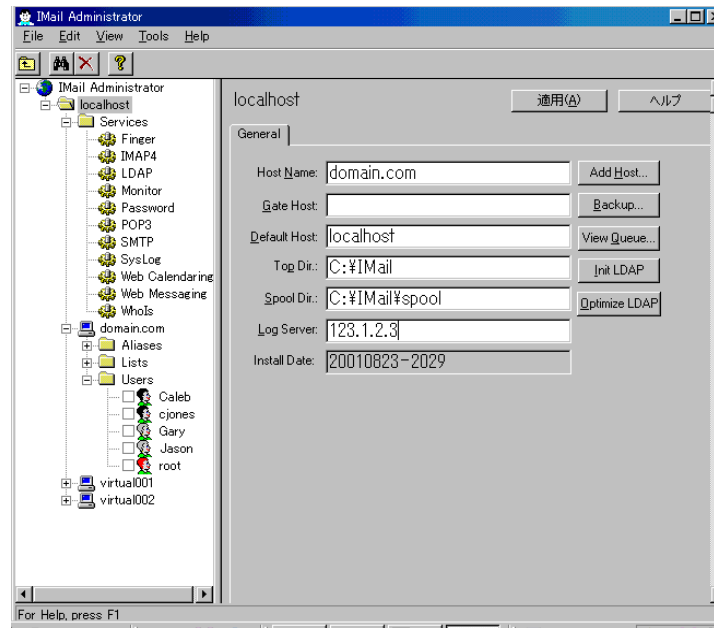
IMail Server からは、すべてのホストに直接到達することができるはずなので、このフィールドは、通常空白のままにしておきます。133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。

受信者の元のアドレスにホスト名のないユーザ ID が含まれていて、送信側のホストにそのユーザ ID が存在しない場合は、送信先のメールのホスト名が **[Default Host]** ボックスに表示されます。
通常、このフィールドは空白であるか、“ localhost ”に設定されています。それ以外の場合、メールは userID@DefaultHost に送信されますが、これは指定した受信者でない場合があります。このフィールドは、複数のシステムを 1 つのシステムとして扱うことが必要な場合に便利です。

注記

このオプションを正しく設定しないと、指定した人にメールが送信されない場合があります。

[General] タブは、ホスト情報をディレクトリ情報が表示します。



[Tools] → **[Use Wizards]** のチェックをはずした後に **[Add Host]** ボタンをクリックすると、“ [Virtual Host Configuration] ”ダイアログ ボックスが表示されます。仮想ホストの追加、修正、削除の方法については、次章を参照してください。

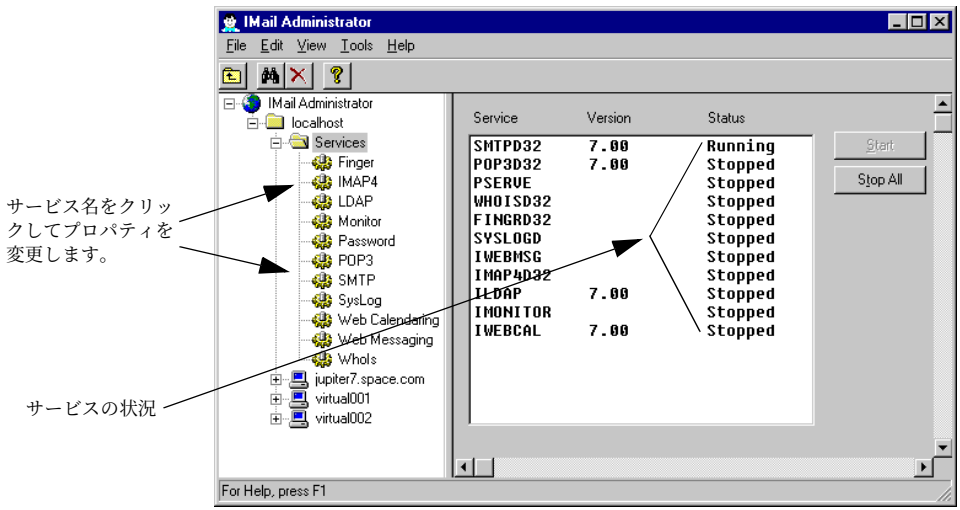
[General] タブにある **[View Queue]** ボタンをクリックすると、メールの送信キュー内にあるファイルが表示されます。配信を待つメッセージには、ファイルが割り当てられ、**[Filename]** リスト ボックスにリストされます。これらのファイルの 1 つを選択すると、そのメッセージに関する情報が表示されます。更に、送信キューからメッセージを削除したり、1 つまたはすべてのメッセージを強制的に配信することができます。なお、表示されている情報は修正できませんので注意してください。メール キューの詳細については、249 ページの「付録 D:Spool、キュー、ログ ファイル」を参照してください。

IMail Server

IMail サービスをすばやく表示するには、**[Services]** フォルダをクリックします。

各サービスの現在の状況が表示されます。本書の後の章で、それぞれのサービスで使用できる設定オプションについて説明します。

IMail サービスを設定するには、**[Services]** フォルダの下のサービスをクリックし、右側のパネルのタブを使用して設定を調整します。



各サービス (SMTP サーバ、POP3 サーバ、IMAP4 サーバ、LDAP サーバ、Finger サーバ、Whois サーバ、パスワード サーバ、および監視サーバ) の設定を変更するには、左側のパネルで **[Services]** フォルダを選択し、その中の該当するサービスをクリックします。右側のパネルで設定を変更します。

パラメータを変更した場合は、**[適用]** ボタンをクリックした後、そのサービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを開始するか、またはすべての変更が完了してからシステムを再起動してください。各サービスの詳細については、後の章で説明されています。

IMail のサービスでは、以下の TCP ポートが使用されます。

SMTP: ポート 25 (このポート番号は、Windows NT のレジストリを編集することによって変更できます。261 ページの「SMTP が使用するポートの設定」を参照してください。)

POP3: ポート 110

IMAP4: ポート 143

LDAP: ポート 389

Pserve (パスワード サーバ): ポート 106

Web Messaging: デフォルトではポート 8383 (変更可能)

Spell Checker: デフォルトではポート 8385 (変更可能)

Web カレンダー : デフォルトではポート 8484 (変更可能)

SSL: デフォルトではポート 8384 (変更可能)

Web Remote Administration: デフォルトではポート 8181 (変更可能)

Web Messaging と Web カレンダーは、いくつかの UDP ポートも使用します。UDP ポートは、ユーザ キーの受信やユーザ ID およびパスワードの送信など、Web Messaging と Web カレンダー間の通信を円滑に行うために使用します。

IMail Web Messaging と IMail Web カレンダーは、以下の UDP ポートを使用します。

Web Messaging: ポート 8000

Web カレンダー : ポート 8001

IMail Server

IMail では通常、*C:¥IMail* が、システムの " トップ ディレクトリ " になります。このディレクトリはインストール作業中に指定しますが、インストール後は、この名前を変更したり、移動したりしないでください。

トップ ディレクトリには、IMail Server の全アプリケーションと一次ホストで使用するディレクトリが格納されています。

各ホスト ディレクトリ (一次ホストのディレクトリがあるトップ ディレクトリも含む) には、以下のようなものが含まれています。

- *lists* ディレクトリには、リスト サーバの全データとグループ エイリアスから参照されるテキスト ファイルが格納されます。
- *spool* ディレクトリでは、配信待ちのメッセージキュー、ログ ファイルが保存されます。
  詳細については、249 ページの「付録 D:Spool、キュー、ログ ファイル」を参照してください。

注記

すべてのホスト ディレクトリに、Spool ディレクトリが含まれるわけではありません。Spool ディレクトリが含まれるのは、IMail のトップディレクトリだけです。

- *Web* ディレクトリには、テンプレート、バナー広告、および監視ファイルが入ります。
- *users* ディレクトリには、ホスト上のユーザ情報が格納されます。各ユーザには、*Users* ディレクトリの下にあるディレクトリが割り当てられます。各ユーザのディレクトリには、メールボックス ID ファイル (*.uid*)、
  メールボックス ファイル (*.mbx*)、インデックス ファイル (*.idx*)、Finger Plan、Vacation、ルール、および転送ファイル (*.ima*) が格納されます。
- *Ldap* ディレクトリには、LDAP が使用可能なクライアントの情報が格納されます。
- *cfg* ディレクトリには、IMail クライアント アプリケーションの情報が格納されます。

IMail Server

この節では以前のバージョンの IMail Server からアップグレードする方法について説明します。新しい IMail は、前のバージョン、または評価版の IMail をインストールしていたのと同じディレクトリに自動的にインストールされます。このディレクトリの変更、移動、および名前の変更はしないでください。

V4.1J からのアップグレード

1. システム管理者、またはシステム管理者特権付きアカウントとして Windows NT/2000 にログ オンします。
2. Windows NT/2000 の [コントロール パネル] およびすべてのアプリケーションが終了していることを確認してください。
3. 以下の方法で IMail のバックアップを取ることを推奨します。

   3-1 IMail アドミニストレータよりレジストリのバックアップを取ります。Local System のプロパティを開き、**「レジストリのバックアップ」**を押下します。ファイル名を入力し、OK ボタンを押下してください。

   3-2 IMail のフォルダ下の全てのフォルダ、及びファイルのバックアップを取ってください。

4. プログラム メニューを削除します。

   ＜ Windows NT の場合＞

   Windows NT エクスプローラより、以下のフォルダごと削除してください。

   ¥winnt¥profiles¥All users¥ スタート メニュー ¥ プログラム ¥IMail

   ＜ Windows 2000 の場合＞

   エクスプローラより、以下のフォルダごと削除してください。

   ¥Documents and Settings¥All Users¥ スタート メニュー ¥ プログラム ¥IMail

5. システムを再起動してください。
6. IMail Server の CD-ROM をドライブに挿入します。

   CD-ROM の実行が自動的に開始されない場合には、Windows エクスプローラ等で CD-ROM 内の**「¥Install¥setup.exe」**を実行してください。

7. 画面に表示される指示に従ってインストールを行ってください。
8. インストール プログラムがコンピュータ上で SSL キーを検出できなかった場合は、デフォルトの SSL キーをインストールするかどうかを尋ねられます。次のいずれかに従います。

   - 既にサードパーティ製の証明書を持っている場合は、**[No]** をクリックしてください。IMail Server のインストール終了後に、IMail SSL ユーティリティを実行し、ヘルプで表示される指示に従ってください。
   - サードパーティ製の証明書を持っていないが、SSL の“ 自己署名型 ” の証明書を使って IMail の Web サーバを実行したい場合は、**[Yes]** をクリックしてください。
   - SSL をインストールするかどうかについて、もう少し調べたい場合は、**[No]** をクリックしてください。デフォルト キーは、後からでもインストールできます。

   詳細については、102 ページの「Secure Sockets Layer (SSL) の使用」を参照してください

9. **[Overwrite Exsisting Files?]** ダイアログ ボックス

   テンプレートファイルのインストール方法について尋ねられます。98 ページの「アップグレード」を参照して適切なオプションを選択してください。

10. **[Template Options]** ダイアログ ボックス

    上記ダイアログ ボックスのオプションで (1) または (2) を選択した場合に表示されます。
    ここでは、どのテンプレートファイルをインストールするか尋ねられます。

11. **[Dictionary Options]** ダイアログ ボックス

    インストールする辞書についての選択画面が開きます。辞書はあとからインストールすることもできます。

    注記

    辞書機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

12. **[SMTP Relay Options]** ダイアログ ボックス

    V4.1J で、メール中継オプションの設定を変更された場合は、**[Do not change my existing local relay settings]** というオプションが表示されますので、これを選択してください。このオプションが表示されない場合は、通常は **[Relay mail for anyone]** を選択してください。他のメールサーバに対してメールを送信しない場合は、**[No mail relay]** を選択してください。

    メール中継の設定を別途したい場合は、インストール終了後に行ってください。詳細については、139 ページの「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」をご覧ください。

13. **[Service Start Options]** ダイアログ ボックス

    デフォルトで自動起動させたいサービスを選択します。システムで既に実行中のサービスは、選択された状態になっています。サービスはインストール後に IMail Administrator から起動させることも可能です。ただし、システムのスタートアップに登録するためにはこのオプションでチェックを入れるか、インストール後にシステム上の [サービス] から個別に設定する必要があります。

14. **[Run Converter?]** ダイアログ ボックス

    旧バージョンのメールボックスを V7.0 用にコンバートします。コンバートを行うことを推奨します。

15. コントロールパネルに以前のバージョンの**「IMail サーバ」**アイコンが存在している場合は、自動的にそのファイルが削除されます。ただし、このファイルの削除に失敗した場合は **[Setup Could not deletre imail.cpl]** というダイアログメッセージが表示されます。この場合は **[いいえ]** ボタンを押下しインストールを終了させてください。その後、システムを再起動させ、以下のファイルを手動で削除してください。(V7.0 ではコントロールパネルに**「IMail サーバ」**アイコンは追加されません。)

    ¥winnt¥system32¥IMail.cpl

16. 前のバージョンで WebMessaging のログオン画面や広告機能等を編集されていた場合、バックアップより以下のファイルを ¥IMail¥Web へコピーし、WebMessaging のサービスを再起動してください。

    ・ads.txt

    ・Mailwelc.txt

・Mailtail.txt(Mailtail.html と名前を変更してからコピーしてください。)

・Mailnews.txt

V6J からのアップグレード

1. システム管理者、またはシステム管理者特権付きアカウントとして Windows NT/2000 にログ オンします。
2. Windows NT/2000 の [コントロール パネル] およびすべてのアプリケーションが終了していることを確認してください。
3. 以下の方法で IMail のバックアップを取ることを推奨します。

   3-1 IMail Administrator よりレジストリのバックアップを取ります。

   Localhost の General タブを開き、「Backup」を押下します。

   ファイル名を入力し、「Backup」ボタンを押下してください。

   3-2 IMail のフォルダ下の全てのフォルダ、及びファイルのバックアップを取ってください。
4. システムを再起動してください。
5. IMail Server の CD-ROM をドライブに挿入します。CD-ROM の実行が自動的に開始されない場合には、Windows エクスプローラ等で CD-ROM 内の「¥Install¥setup.exe」を実行してください。
6. 画面に表示される指示に従ってインストールを行ってください。
7. インストール プログラムがコンピュータ上で SSL キーを検出できなかった場合は、デフォルトの SSL キーをインストールするかどうかを尋ねられます。次のいずれかに従います。
   - 既にサードパーティ製の証明書を持っている場合は、**[No]** をクリックしてください。IMail Server のインストール終了後に、IMail SSL ユーティリティを実行し、ヘルプで表示される指示に従ってしてください。
   - サードパーティ製の証明書を持っていないが、SSL の " 自己署名型 " の証明書を使って IMail の Web サーバを実行したい場合は、**[Yes]** をクリックしてください。
   - SSL をインストールするかどうかについて、もう少し調べたい場合は、**[No]** をクリックしてください。デフォルト キーは、後からでもインストールできます。詳細については、102 ページの「Secure Sockets Layer (SSL) の使用」を参照してください
8. **[Overwrite Exsisting Files?]** ダイアログ ボックス

   テンプレートファイルのインストール方法について尋ねられます。98 ページの「アップグレード」を参照して適切なオプションを選択してください。

9. **[Template Options]** ダイアログ ボックス

   上記ダイアログ ボックスのオプションで (1) または (2) を選択した場合に表示されます。ここでは、どのテンプレートファイルをインストールするか尋ねられます。

10. **[Dictionary Options]** ダイアログ ボックス

    インストールする辞書についての選択画面が開きます。辞書はあとからインストールすることもできます。

注記

辞書機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

---

11. **[SMTP Relay Options]** ダイアログ ボックス

    V6.0J で、メール中継オプションの設定を変更された場合は、**[Do not change my existing local relay settings]** というオプションが表示されますので、これを選択してください。このオプションが表示されない場合は、通常は **[Relay mail for anyone]** を選択してください。他のメールサーバに対してメールを送信しない場合は、**[No mail relay]** を選択してください。メール中継の設定を別途したい場合は、インストール終了後に行ってください。詳細については、139 ページの「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」をご覧ください。

12. **[Service Start Options]** ダイアログ ボックス

    デフォルトで自動起動させたいサービスを選択します。サービスはインストール後に IMail Administrator から起動させることも可能です。ただし、システムのスタートアップに登録するためにはこのオプションでチェックを入れるか、インストール後にシステム上の **[サービス]** から個別に設定する必要があります。

13. **[Run Converter?]** ダイアログ ボックス

    旧バージョンのメールボックスを V7.0 用にコンバートします。コンバートを行うことを推奨します。

14. コントロールパネルに以前のバージョンの**「IMail サーバ」**アイコンが存在している場合は、自動的にそのファイルが削除されます。ただし、このファイルの削除に失敗した場合は **[Setup Could not deletre imail.cpl]** というダイアログメッセージが表示されます。この場合は **[いいえ]** ボタンを押下しインストールを終了させてください。その後、システムを再起動させ、以下のファイルを手動で削除してください。(V6.0 及び V7.0 ではコントロールパネルに**「IMail サーバ」**アイコンは追加されません。)

    ¥winnt¥system32¥IMail.cpl

15. 前のバージョンで WebMessaging のログオン画面や広告機能等を編集されていた場合、バックアップより以下のファイルを ¥IMail¥Web へコピーし、WebMessaging のサービスを再起動してください。

    - ads.txt
    - Mailwelc.txt
    - Mailtail.txt(Mailtail.html と名前を変更してからコピーしてください。)
    - Mailnews.txt

注記

V7 より仮想ホストごとに Web オプションを設定できるようになりました。それに伴って、V6 で SSL を使用する設定を行っていた場合にも、再度仮想ホストごとに SSL を使用する設定を行う必要があります。IMail Administrator の localhost → ホスト名 → Web Option タブ → Enable SSL にチェックを入れてください。

注記

V6.0 で作成された広告ファイル (ads.txt) は、ファイル内に余分なスペースが入っている場合があります。この場合、テキストエディタでファイルを開き、余分なスペースを削除し、ファイルの最後は改行して保存しなおしたものを V7.0 でご利用ください。

1つまたはそれ以上のホストが外部ユーザ データベースを使用している場合に、IMail Server v7.0 を上書きするには、データベース テーブルに新しい列を追加する必要があります。これは、新しい Web Messaging や Web カレンダーの機能を使用するためであり、ユーザ レベル データを保管する必要があるためです。

IMail Server は、インストール中に現在外部データベースを使用しているかどうかを判別します。外部データベースを使用している場合は、以下の 3 つのオプションを含むダイアログ ボックスが表示されます。

- 外部データベース テーブルに自動的に列を追加するように設定するには [Yes] をクリックします。
- テーブルを更新せずにインストールを続けるには [No] をクリックします。
- 必要な列を手作業で追加するには [Cancel] をクリックします。必要な列については、Release Note で確認してください。

注記

[No] をクリックしてインストールを進めた場合、IMail Server が正常に動作しない可能性があります。

IMail Server の以前のバージョンでカスタムの ODBC ドライバを使用している場合、新しい列を使用するようドライバを修正する必要があります。V7.0 用の ODBCUser.dll のソース コード (SQL Server や Access に合わせて調整済み) は、以下の URL からダウンロードすることができます。

ftp://ftp.ipswitch.com/Ipswitch/Product_Support/IMail/ODBCUser7.zip

Web Messaging

V6.0J でカスタマイズされたテンプレートがあり、今後も使用する場合は、IMail Server v7.0 で使用するために、『テンプレートのアップグレード方法』の該当する手順を参照して古いテンプレートをアップグレードしてください。この資料は、HTML 形式 (¥¥web_Files¥Japan¥web6to7) でも利用することができます。これら 2 つのファイルは、*Web\New* ディレクトリにあります。98 ページの「アップグレード」も参照してください。

IMail Server

IMail Server を別の場所に再インストールしても、imonitor.ini ファイルの WEBDOCS 値は更新されません。これは、IMonitor にある up.gif ファイルや down.gif ファイルが、[Service Status] ページに存在していないことが原因です。IMonitor は WEBDOCS 値を生成しますが、再インストールが行われるときや、Web ディレクトリが移動されるときについては認識しません。IMail Server のインストール先を変更する場合は、imonitor.ini ファイルの WEBDOCS フィールドを更新して、GIF が正しくロードされるように新しい場所を指定する必要があります。

IMail Server

IMail Server をアンインストールするには、Windows NT の [コントロールパネル] にある **[アプリケーションの追加と削除]** アイコンを使用します。すると、次のようなことが起こります。

- [コントロールパネル] の [サービス] から、IMail のサービスが削除されます。
- Windows のレジストリで、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Ipswitch¥IMail にあるすべての項目が削除されます。(ただし、Ipswitch キーは削除されません。)

- *setup.exe* によって作成されたディレクトリやファイルは、これらに何も追加されていない場合にのみ削除されます。例えば、ユーザを 1 人も追加していない (そして *root* 宛てのメールが 1 通も届いていない) 場合、*Users* ディレクトリは削除されます。

注記

上の手順に従って IMail Server をアンインストールしても、IMail のディレクトリ、およびそれに含まれるサブディレクトリやファイルは削除されません。これらを削除するには、手作業で削除する必要があります。

IMail Server をアンインストールしても、*iwebmsg.ini*、*iwebcal.ini*、*imonitor.ini*、*imail.ini* ファイルは消去されません。これは、将来インストールを行う場合に問題が生じる原因となる場合があります。例えば、管理者が IMail Server を標準の C:¥IMail 以外の場所にインストールしても、Web ディレクトリ、ポートなどの設定は維持されます。そのため、管理者が後に IMail Server を標準の場所にインストールした場合、一部の値がデフォルトで間違った場所を指定してしまいます。

IMail Server を新しい場所に再インストールする場合は、これら 3 つのファイル (*iwebmsg.ini*、*iwebcal.ini*、*imonitor.ini*、*imail.ini*) を削除または更新する必要があります。

3 :

本章では、メール サーバと、メール サービスに関連するドメイン ネーム システム (DNS) レコードの設定方法について説明します。また、メール サーバ上に複数のメール ホストを作成する方法についても説明し、複数のホストで必要な DNS レコードについて解説します。更に本章では、詳細設定に関する多数の項目も扱います。

メール サーバが、1 つのドメイン宛てのメール (例えば、*domain.com* 宛てのメール) のみを受信する場合は、36 ページの「一次メール ホストの設定の確認」および 37 ページの「一次メール ホストの DNS のセットアップ」を参照してください。DNS サーバに関する背景情報については、297 ページの「付録 I: メール サーバと DNS」を参照してください。

メールに関する要件によっては、次のような詳細設定に関する項目を参照しなければならない場合があります。

- IMail Server が別の名前を有効な名前として認識できるように、正式ホスト名 (IMail Server のインストール時に入力した名前) のエイリアスを設定することができます。例えば、エイリアスを設定して、「*user@mail.domain.com*」と「*user@domain.com*」の両方を有効なアドレスにすることができます。エイリアスの設定方法については、38 ページの「メール ホストのエイリアスのセットアップ」を参照してください。
- サーバが、複数のドメイン宛てのメールを受信し、各ドメイン (例えば、「*domain1.com*」と「*domain2.com*」) が、それぞれに独自のユーザの集まりを持つようにする場合は、38 ページの「メール ホストの追加」を参照してください。
- メール サーバが、Microsoft Exchange や CC:Mail などの他社製品独自のメール システムに対する SMTP メール ゲートウェイとして機能するように設定する場合は、44 ページの「メール ゲートウェイとしての IMail Server のセットアップ」を参照してください。
- IMail Serverを他のメール サーバのバックアップ メール サーバとして設定する場合は、45 ページの「バックアップ メール スプーラとしての IMail Server のセットアップ」を参照してください。

- ユーザ アカウントを複数のコンピュータに分散させたい場合は、“ Peer ” サーバを設定することができます。例えば、「*domain.com*」に送信されたメールは、「*host1.domain.com*」と「*host2.domain.com*」の両方で処理されます。
  詳細については、47 ページの「“ Peer ” IMail Server のセットアップ」を参照してください。
- メール サーバの他のサーバに対するメールの中継法を指定する場合は、139 ページの「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」を参照してください。

IMail Server をインストールした直後の状態では、メール ホストが 1 つだけ設定されています。これが、一次メール ホストです。メール ホストの設定で、以下の項目を確認してください。

- 一次メール ホストは、IMail Server をインストールしたホストと同じ名前を持つ必要があります。これが左側のパネルにある “ **[localhost]** ” を展開したときに表示される正式ホスト名になります。

  サーバの正式ホスト名を一次メール ホストの名前として使用しない場合は、一次メール ホストのエイリアスを作成できます。詳細については、38 ページの「メール ホストのエイリアスのセットアップ」を参照してください。
- ローカル ネットワークのドメイン名は、Windows NT/2000 の設定の中で指定する必要があります。

  Windows NT 上でローカル ネットワークのドメイン名を確認するには、[コントロール パネル] 内で、**[ネットワーク]** アイコンをダブルクリックし、**[プロトコル]** タブを選択します。次に、表示されるリストから **[TCP/IP プロトコル]** を選択し、**[プロパティ]** ボタンをクリックします。すると、“ [Microsoft TCP/IP のプロパティ] ” ダイアログ ボックスが表示されます。**[DNS]** タブをクリックして、ドメイン情報を確認してください。

  Windows 2000 上で DNS 情報を確認するには、[コントロール パネル] の **[システム]** アイコンをダブルクリックして **[ネットワーク ID]** タブを選択し、**[プロパティ]** をクリックします。**[識別の変更]** ダイアログ ボックスが表示され、その中にドメイン情報が表示されます。
- ローカル ネットワークの DNS サーバが、IMail Administrator の **[SMTP]** タブに表示されている必要があります。DNS サーバの設定を確認するには、**[SMTP]** タブをクリックします。**[Domain Name Server address]** ボックスに、DNS サーバの IP アドレスが表示されているはずです。このボックスは、スペースで区切られた複数のアドレスを持つことができます。

DNS

DNS レコードに関する背景情報については、297 ページの「付録 I: メールサーバと DNS」を参照してください。

DNS で、一次メール ホスト用の以下のエントリを作成する必要があります。

- **メール ドメイン (例えば、「*domain.com*」) 用の MX レコード**

  MX レコードによって、メール サーバを実行しているホスト名（この場合、IMail Server コンピュータ）が識別されます。

- **IMail Server を実行しているコンピュータのホスト名用の A レコード**

  A レコードは、ホスト名から IP アドレスへの変換に使用されます。

- **IMail Server を実行しているコンピュータの IP アドレス用の PTR レコード**

  PTR レコードは、IP アドレスからホスト名への変換に使用され、DNS の逆引き参照に使用されます。

例えば、ホストの IMail Server での正式ホスト名が「*mail.domain.com*」である場合、DNS エントリは次のようになります。

```
SOA
$ORIGIN
...
domain.com
     IN MX 10 mail.domain.com  (MX レコード )
     mail IN A 156.21.50.5     (A レコード )
                               (PTR レコード )
5.50.21.156.in-addr.arpa.,type = PTR
 host = mail.domain.com
```

DNS を参照することで、「*user@domain.com*」に送信されたメールが、「*mail.domain.com*」というホストに送信されることになります。

IMail Server は、IMail がインストールされたシステムの正式ホスト名宛てに送信されたメールを受け入れます。IMail Server が別の名前を有効な名前として認識できるように、正式ホスト名のエイリアスを設定することができます。例えば、正式ホスト名が「*mail.domain.com*」である場合は、「*user@mail.domain.com*」宛てのメールを受信できます。ここで、*user* は、ホスト上の有効なユーザを表します。更に、IMail Server が、「*user@domain.com*」宛てのメールも受信するようにしたい場合は、正式ホスト名のエイリアスとして「*domain.com*」を入力する必要があります。

正式ホスト名のエイリアスを設定するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、メール ホストを選択します。すると、メール ホストのプロパティが表示されます。
2. General タブの **[Host Aliases]** ボックスに、エイリアス名を入力します (例えば、「*domain.com*」)。複数のエイリアスは、スペースで区切ります。
3. **[適用]** をクリックして、変更を保存します。

IMail Server で、独自のユーザの集まりを持つ第 2 のメール ドメイン宛てのメールも受信するようにしたい場合は、仮想ホストを作成する必要があります。例えば、メール サーバがメール ドメイン「*domain1.com*」にメール サービスを提供しているときに、そのサーバを使って、別のメール ドメイン「*domain2.com*」にもメール サービスを提供したい場合は、「*domain2.com*」用の仮想ホストの設定が必要です。

仮想ホストには次の 2 種類があります。

- IP アドレスのある仮想ホスト
- IP アドレスのない仮想ホスト

注記

IP アドレスのある仮想ホストを使用する場合も、IP アドレスのない仮想ホストを使用する場合も、メール ドメイン (複数も可) に関して、適切な DNS エントリを作成しなければなりません。これらのエントリを作成する方法については、42 ページの「複数のメール ホストに対する DNS のセットアップ」、および DNS に関するドキュメントを参照してください。

IP

この方法は、通常の IMail Server ホストの全機能を利用することができるため、仮想ホストをセットアップする場合は、通常こちらを推奨します。IP アドレスのある仮想ホストでは、以下の設定が必要です。

- 各仮想ホストには、一意の IP アドレスが必要です。
- Windows NT/2000 で上の条件を満たすには、[コントロール パネル] の Windows NT TCP/IP の設定 (**[ネットワーク]** アイコン→ **[プロトコル]** → **[TCP/IP プロトコル]** → **[詳細]** ボタン) で、IP アドレスを追加するというステップが必要となります。

注記

Windows NT 3.51 以上を使用している場合、[ネットワーク] アプレット内では最大 5 つまで IP アドレスを追加することができます。更にアドレスを追加しなければならない場合は、Windows NT/2000 に関するドキュメントを参照してください。

IP

IP アドレスのない仮想ホストは、IP アドレスのある仮想ホストに比べてセットアップが簡単です。
詳細については、40 ページの「仮想ホストの設定」を参照してください。IMail Server コンピュータは、選択されたドメインに仮想 IP アドレスを割り当てます。次に、DNS の MX レコードを使用して、仮想ホストが (実際の IP アドレスを持つ) 一次ホストを指すようにします。ただし、IP アドレスのない仮想ホストでは、いくつかの制限事項があります。

- メール クライアントのサーバ設定において、ユーザ ID を、「userid@hostname」と指定する必要があります。これは、ユーザがどの仮想ホストに関連付けられているかを、IMail Server で判断するようにするためです。しかしこの場合、メール クライアントによっては、仮想ホストへの接続ができないものもあります。(メール クライアントにユーザ ID の長さ制限があるか、ユーザ ID を「@」で切ってしまうため)

  その場合、「@」以外の区切り文字として、「%, $, &, *」のいずれを使用してください。(例えば、「userid%hostname」) それ以外の文字を区切り文字として使用する方法については、259 ページの「付録 F: 特殊なレジストリ値」を参照してください。
- LDAP サーバ、Whois サーバ、Finger サーバでは、IP アドレスのない仮想ホストを扱うことはできません。

IP アドレスが不足している場合、またはあるドメイン宛ての全メールを別のドメインのユーザに転送する場合は、IP アドレスのない仮想ホストの使用を推奨します。後者の例は、次のような場合です。

- 自分の一次ドメインが「*abracadabra.com*」だとします。
- 「*merlin.com*」宛ての全メールを、「*info@abracadabra.com*」に転送したいとします。
- これを行うため、「*merlin.com*」用の IP アドレスのない仮想ホストを設定し、「*merlin.com*」にはユーザを作成しないようにします。
- 「*merlin.com*」用の「*nobody*」というエイリアスを設定し、そのエイリアスで「*abracadabra.com*」上のユーザ ID を指します。
- 以上により、「*merlin.com*」上のどのユーザ宛てのメールもすべて、「*abracadabra.com*」上の指定ユーザに送信されます。

仮想ホストを設定するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、“ **[localhost]** ” を選択します。
2. **[Tools]** → **[Use Wisards]** にチェックが入っていないことを確認して、**[Add Host]** ボタンをクリックします。
3. “ [Virtual Host Configuration] ” ダイアログ ボックスが表示されます。



[Local Addresses] リスト ボックスには、IMail Server によって割り当てられた仮想 IP アドレスだけでなく、Windows NT/2000 の [TCP/IP プロパティ] で設定したすべての IP アドレスが表示されます。

4. 仮想ホストの IP アドレスを（**[Local Addresses]** リスト ボックスで）選択するか、**[Add]** ボタンをクリックして、新しいメール ドメインで使用する新しい仮想 IP アドレスを割り当てます。

5. **[Official Host Name]** テキスト ボックスに、メール ホストの名前を入力します。

   ここで入力した名前は、仮想ホスト上のユーザにメールを送るときのアドレス指定に使用されます。例えば、メール ホスト名として「*mail.domain2.com*」と入力すると、仮想ホストに追加したユーザは、「*user@mail.domain2.com*」でメールを受信することになります。

6. **[Aliases]** テキスト ボックスで、ホスト名の別名を指定します。これにより、別名宛てのメールも受け取ることができます。例えば、自分のメール ホスト名が「*mail.domain2.com*」のとき、「*domain2.com*」というエイリアスを設定すると、IMail Server は、「*fred@mail.domain2.com*」宛てと「*fred@domain2.com*」宛てのメールを受け入れます。複数のエイリアスは、スペースで区切ります。

7. **[Top Directory Name]** テキスト ボックスに、この仮想ホストで使用するユーザ、メーリング リスト、および Web ファイル用のディレクトリを保存するディレクトリの名前を入力します。

   たいていの場合、作成する仮想ホストごとに、別々のディレクトリを使用します。仮想ホスト間で単一のディレクトリを共有することもできますが、同じ名前のユーザは、実際には、同一のメールボックスを共有することになります。

8. この仮想ホストで使用するデータベースの種類を選択します。

   [Use IMail User Database]
   [Use Local NT User Database]
   [Use External User Database]

   これらのオプションの説明については、13 ページの「第 2 章 : インストール」を参照してください。

9. メールボックスとメッセージ用のデフォルト　パラメータを入力します。これらのパラメータは、仮想ホスト上のすべてのユーザに適用されます。

   [Default Max Mailbox Size]

   1 つのユーザのメール アカウント内で作成されるメールボックスの合計のデフォルト最大サイズ (バイト数)。合計サイズがこの最大値を超えると、ユーザ宛ての新しいメールは、送信側に戻されます。サイズを制限しない場合は、0 を入力します。

   [Default Max Messages]

   メッセージのデフォルト最大数(ユーザのメール アカウント内に作成されているすべてのメールボックスでのメッセージの合計数)。この最大数を超えると、ユーザ宛ての新しいメールは、送信側に戻されます。メッセージ数を制限しない場合は、0 を入力します。

[Single Message Max Size]

このサーバに送信されてくる単一のメッセージのデフォルト最大サイズ (バイト数)。メッセージがこの最大サイズを超えると、メッセージは送信側に戻されます。サイズを制限しない場合は、0 を入力します。

[Maximum User Count]

ドメインに登録できる最大ユーザ数。ユーザ数を制限しない場合は、0 を入力します。

注記

これは、Windows NT のユーザ データベースまたは外部データベースを使用する仮想ドメインには適用されないので注意してください。更に、ここに表示されている、NT のユーザ データベースまたは外部データベースを使用するドメインのユーザ数は、正確でない場合があります。

[Save] をクリックすると、新しい仮想ホストの設定が保存されます。**[Exit]** をクリックすると、" [Virtual Host Configuration] "ダイアログ ボックスが閉じます。

10. 仮想ホストを作成したら、ユーザ メール アカウントを追加する必要があります。ユーザ メール アカウントの作成と修正の方法については、56 ページの「ユーザ メール アカウントの管理」を参照してください。

DNS

DNS の設定に関する背景情報については、297 ページの「付録 I: メールサーバと DNS」を参照してください。

IP アドレスのある仮想ホストの場合、DNS で次のエントリを作成する必要があります。

- **メール ドメイン (例えば、「*mail.domain2.com*」) 用の MX レコード**

  MX レコードによって、仮想ホストのホスト名が識別されます。

- **仮想ホストのホスト名用の A レコード**

  A レコードは、ホスト名から IP アドレスへの変換に使用されます。

- **仮想ホストの IP アドレス用の PTR レコード**

  PTR レコードは、IP アドレスからホスト名への変換に使用され、逆引き参照に使用されます。

例えば、仮想ホストの IMail でのホスト名が「*mail.domain2.com*」である場合、DNS エントリは次のようになります。

```
SOA
$ORIGIN
...
domain2.com
     IN MX 10 mail.domain2.com    (MX レコード )
     mail IN A 156.21.50.10       (A レコード )
                                  (PTR レコード )
10.50.21.156.in-addr.arpa.,type = PTR
 host = mail.domain2.com
```

DNS を参照することで、「*user@domain2.com*」に送信されたメールが、「*mail.domain2.com*」というホストに送信されることになります。

IP アドレスのない仮想ホストの場合、DNS で作成する必要があるエントリは、メール ドメイン (例えば、「*mail.domain3.com*」) 用の MX レコードだけです。この MX レコードによって、一次メール ホストのホスト名が識別されます。例えば、ホスト名が「*mail.domain3.com*」である場合、IP アドレスのない仮想ホスト用の DNS エントリは、次のようになります。

```
SOA
$ORIGIN
...
domain3.com
     IN MX 10 mail.domain.com
```

DNS を参照することで、「*user@domain3.com*」に送信されたメールが、「*mail.domain.com*」というホストに送信されることになります。

IP

ドメインの IP アドレスを変更するには、その前に IMail レジストリのバックアップを取る必要があります。

IMail Administrator 上の [local host] を選択し、右側に表示される [Backup] ボタンをクリックしてください。表示された [Registry Backup/Restore] ダイアログで [Filename] フィールドに任意のファイル名を入力し Backup ボタンをクリックしてください。

1. バックアップを取らない場合、新しい IP アドレスは *[コントロール パネル] → [ネットワーク] → [プロトコル] → [TCP/IP] → [プロパティ]* の NIC カードにバインドされます。
2. Regedit を実行して、以下のキーを検索します。

   HKEY_LOCAL_MACHINE/Software/Ipswitch/IMail/Domains

3. 古い IP アドレスと新しい IP アドレスのキーが表示される場合は、古い方を削除します。まず、新しい IP アドレス キーの下の “ Official ” 値に正しいホスト名が表示されているかどうかを確認します。古い IP アドレスのキーしか表示されない場合、そのキーを新しい IP アドレスの名前に変更することができます。
4. その IP アドレスに関連付けられているホスト名のキーを強調表示して、“ address ” 値がそのホストの正しい (新しい) IP アドレスに設定されているかどうかを確認します。正しい IP アドレスに設定されていない場合は、変更します。
5. 変更した内容を有効にするため、すべてのサービスを停止して再起動します。

IMail Server

IMail Server は、別のメール サーバに対する SMTP メール ゲートウェイとして機能するようにセットアップできます。つまり、別のサーバのメールは、IMail Server を通して送受信されることになります。多くの場合、メール ゲートウェイは、メール サーバがダイヤルアップ接続を使用していて、常にインターネットに接続されていないために、セットアップされます。

IMail Server を別のメール サーバに対するゲートウェイとして使用する場合、そのサーバが、SMTP を実行している必要があります。

IMail Server を別のメール サーバのゲートウェイとしてセットアップするには、次の点を確認してください。

- IMail Server がゲートウェイとして機能するメール ドメイン (例えば、「*domain2.com*」) が、IMail 上にない。
- メール ドメインのユーザ アカウントが、別のサーバ上にある。
- メール ドメインの MX レコードが、IMail Server ホストを指している。したがって、このドメイン宛てのメールが、IMail Server のホストに届きます。
- IMail Server ホストが、ドメイン名を別の SMTP サーバ上の IP アドレスへ解決できる。これは、IMail Server ホスト上にある「hosts」ファイル (*¥winnt¥system32¥drivers¥etc¥hosts*) に、このドメイン名および IP に対するエントリを作成することで実現されます。

  IMail Server は、DNS サーバより前に「hosts」ファイルおよび IP 情報をチェックするので、この方法が使用できます。IMail Server は、メールが別のサーバに配信されるか、または [Queue Timer] の設定値と [Number of Tries] の積の時間が経過するまで、そのメールをキューに蓄えます。([Queue Timer] と [Number of Tries] は、**[SMTP]** タブで設定します。)

- **[SMTP Security]** タブにあるいずれかの **[Relay Mail for]** オプションを使用して、別のメール サーバへの送信メールを中断する場合は、[Addresses] ボタンを使用して送信先サーバのアドレスを追加し、リモート IP アドレスをテーブルに入力する必要があります。

次の例では、単一ドメイン (*domain2.com*) 宛てのメールを受け取るために IMail Server をセットアップし、このドメイン宛ての全メールを別の SMTP サーバに転送する方法を示します。次のように仮定します。

使用しているメール ドメイン名： domain2.com

使用している SMTP サーバのホスト名： other_SMTP_server
使用している SMTP サーバの IP アドレス： 156.21.50.240

IMail Server のホスト名： my_imail_machine
IMail Server の IP アドレス： 156.21.50.10

Windows NT/2000 がドメイン名を参照するときは、最初に「*¥winnt¥system32¥drivers¥etc¥hosts*」ファイルを検索します。したがって「*hosts*」ファイルでは、次のように、ドメイン名が使用している SMTP サーバの IP アドレスを指すようにします。

156.21.50.240 domain2.com

ETRN コマンドを使用すると、ISP のメール サーバから手動でメールを取り込むことができます。詳細については、50 ページの「ETRN を使ったメールの取込み」を参照してください。

IMail Server

IMail Server は、顧客のメール サーバのバックアップ スプーラとして機能するようにセットアップできます。(顧客のコンピュータがダウンした場合は、そのコンピュータが復帰するまで、そのドメイン宛てのメールを IMail Server 上に蓄えます。) 顧客のメール サーバは、静的な、不変の IP アドレスを持つ必要があります。

バックアップ スプーラをセットアップするには、サーバのキュー処理間隔に合った間隔 (**[SMTP]** タブの **[Queue Timer]** の設定) で、顧客のコンピュータが ISP にログインするようにセットアップしてもらってください。例えば、キュー タイマが 30 分に設定されている場合は、顧客のコンピュータが 20 分ごとに ISP に接続するように設定してもらいます。キュー タイマで設定された時間が経過したときには、顧客はオンラインで受信可能な状態になっている必要があります。

あるいは、顧客は Telnet を使って、ポート 25(SMTP ポート) に接続し、次の形式の ETRN コマンドを送信することもできます。

```
etrn his_domain.com
```

これにより、キューに蓄えられているメールが顧客のコンピュータにダンプされます。

DNS では、顧客のサーバが一次 MX であるのに対して、自分のサーバは相手のドメインの二次 MX(優先順位が低い) となります。

また、「*hosts*」ファイル (*¥winnt¥system32¥drivers¥etc¥hosts*) には、次のエントリを作成して、顧客の IP アドレスとドメイン名を関連付けておく必要があります。

```
his.i.p.address his.domainname
```

これにより、IMail Server は、受信した顧客のドメイン宛ての全メールを顧客のコンピュータに送信しようとします。(DNS の MX レコードは無視されます。MX レコードは、IMail Server 自身を指しているので、無限のメール ループが発生する可能性があります。)

IMail Server の SMTP セキュリティ機能を使用して、コンピュータがスパム メールの中継として使用されないようにしている場合は、顧客のサーバの IP アドレスを、**[SMTP Security]** タブの **[Mail Relay Options]** にある “ [addresses] ” ダイアログ ボックスに追加してください。

例えば、リモート ホストの DNS が、一次ドメイン「*mail.widgets.com*」のメールを受信するように設定されていて、バックアップ サーバとして IMail Server「*mail.domain.com*」を指している場合、リモート ホストの DNS 用の MX レコードは、次のようになります。

```
MX
  10 mail.widgets.com
  20 mail.domain.com
```

「*mail.widgets.com*」がダウンした場合、メールはコンピュータ「*mail.domain.com*」に送信されます。ドメイン「*mail.widgets.com*」のメールを中継するには、**[Relay mail for]** オプションで、このドメインの IP アドレスを指定する必要があるのと同時に、IMail Server ホスト上の「*hosts*」ファイルに、このドメインのホスト名と IP アドレスを入力する必要があります。

“ Peer ” IMail Server

IMail Server では、1 つの特定のドメインのユーザを複数の物理コンピュータ上に分散できるように“ Peer ”サーバをセットアップできます。Peer サーバは、IMail Server 上のメールトラフィックが増大し、メールの処理速度が遅くなるときに使用されます。メール サーバが処理できるトラフィックの量は、コンピュータのハードウェア構成によって決まります。

Peer

2 つのシステムが Peer サーバとしてセットアップされていて、両方のシステムに IMail Server がインストールされていて、各サーバが 1 つのドメインのユーザ データベースを分担して管理していると仮定します。このドメインのあるユーザ (例えば、「*user@ipswitch.net*」) 宛てのメールが発信されると、送信側のサーバは、DNS 参照を実行し、2 つの Peer サーバのいずれかのホスト名と IP アドレスを取得します。そのメールは、2 つの Peer サーバのいずれかに送信されます。宛先のユーザがその Peer サーバ上で見つかった場合、メールは配信されます。宛先のユーザが見つからなかった場合、その Peer サーバは、SMTP の Verify コマンドを使って、ユーザがもう一方のサーバ上にいるかどうかを調べます。ユーザが見つかった場合、メールはもう一方のサーバに転送されます。

注記

Peer サーバを使用する場合は、**([SMTP Security]** タブにある **)[Disable SMTP VRFY command]** を選択しないでください。Peer サーバは、もう一方の Peer サーバ上のユーザを調べるのに、このコマンドを使用する必要があります。

Peer サーバのいずれかがダウンした場合は、そのサーバが復帰するまで、もう一方の Peer サーバが、ダウンしたサーバ宛てのメールを受信して蓄えます。

Peer

Peer サーバとして設定するコンピュータすべてに Peer サーバの設定を行う必要があります。

1 つの IMail Server ドメインに 1 つまたは複数の Peer サーバを追加するには、次の手順に従います。

1. DNS ゾーン ファイルに、Peer サーバ用の MX レコードを追加します。(この手順の後の例を参照してください。)
2. 各システムの「*hosts*」ファイルに、すべてのシステム用のエントリを作成します。

3. 各システムで、IMail Administrator を使用して、以下のように Peer リストを設定します。
   - 左側のパネルで、“ **[localhost]** ”を選択し、**[General]** タブをクリックして、**[Add Host]** ボタンをクリックします。すると、“ [Virtual Host Configuration] ” ダイアログ ボックスが表示されます。

     注記

     このダイアログボックスは **[Tools]** → **[Use Wizards]** のチェックが外れている時にのみ表示されます。

   - “ [Virtual Host Configuration] ”ダイアログ ボックスで、Peer サーバを追加するメール ホスト選択します。これは、仮想ホストではなく、実在するホストでなければなりません。
   - ダイアログ ボックスの右下にある **[Peer List]** ボタンをクリックします。すると、[Peer List] ダイアログ ボックスが表示されます。
   - “ [Peer List] ” ダイアログ ボックスで、Peer サーバの IP アドレスを入力します。Peer サーバの IP アドレスは、(仮想ではなく) 実在するホストを表していなければなりません。テキスト ボックスに、IP アドレスを入力し、**[Add]** をクリックして、このアドレスを Peer リストに追加します。

     自分自身の IP アドレスは、Peer リストに追加しないように注意してください。(この手順の後の例を参照してください。)

4. 各メール サーバの “ [Virtual Host Configuration] ” ダイアログ ボックスの **[Alias]** ボックスで、メールの送受信を行う一次ドメイン (例えば、「*ipswitch.net*」) を登録してください。
5. Peer リストを使用する場合は、各メール サーバの **([SMTP]** タブにある **)[Default Mail Host]** テキスト ボックスが空または “ localhost” であることを確認してください。

   注記

   Peer を構成するサーバ群では、ユーザ名は一意でなければなりません。

Peer

例えば、1 つのドメイン (「*ipswitch.net*」) と 3 つのサーバがあると仮定します。3 つのサーバはすべて同じ優先順位でメールを受け入れ、またそれぞれにユーザ データベースから割当てを受けているとします。DNS で、次のエントリを作成します。

DNS エントリ :

```
-------------
ipswitch.net

IN   MX 10 mail1.ipswitch.net
IN   MX 10 mail2.ipswitch.net
IN   MX 10 mail3.ipswitch.net

mail1      IN  A  1.1.1.1
mail2      IN  A  2.2.2.2
mail3      IN  A  3.3.3.3
```

3 つのサーバ上の IMail Server ソフトウェアで、次の Peer リストを作成します。

mail1 の Peer リスト :

```
2.2.2.2
3.3.3.3
```

mail2 の Peer リスト :

```
1.1.1.1

3.3.3.3
```

mail3 の Peer リスト :

```
1.1.1.1
2.2.2.2
```

3 つの各サーバ上の「*hosts*」ファイルに、次の 3 つのエントリを作成します。

```
1.1.1.1  mail1.ipswitch.net
2.2.2.2  mail2.ipswitch.net
3.3.3.3  mail3.ipswitch.net
```

3 つのコンピュータのそれぞれで、以下の点を確認してください。

- “ [Virtual Host Configuration] ” ダイアログ ボックスの **[Alias]** ボックスに「*ipswitch.net*」が登録されていること。
- Peer リストを使用する場合は、**[SMTP]** タブの **[Default Mail Host]** テキスト ボックスが空または ”localhost” であること。

ETRN

別のメール サーバから、自分または顧客が手動でメールを取り込みたい場合があります。

- IMail Server が、SMTP メールのゲートウェイ、または別のメールサーバのバックアップとしてセットアップされている場合、IMail Server は、そのサーバがオンラインになるか、もしくは **[Queue Timer]** の設定値と [Number of Tries] の積の時間が経過するまで、そのドメイン宛てのメールを保存します。(これらの値は、いずれも **[SMTP]** タブで設定します。) もう一方のサーバの管理者は、いつでも手動でメールを取り込むことができます。

手動でメールを取り込む方法

- Telnet プログラムを使って、もう一方のメール サーバのポート 25(SMTP ポート) に接続し、ETRN コマンドを送信します。例えば、次のように入力します。

  ```
  ETRN @domain2.com
  ```

  または

  ```
  ETRN mail.domain2.com
  ```

  最初のコマンドは、指定されたドメイン用にキューに蓄えられている全メールを取り込みます。2 番目のコマンドは、指定されたメール ホスト用にキューに蓄えられている全メールを取り込みます。

IMail Server は、特定のメール ホスト上のユーザの登録や認証を行うのに外部データベースを使用することができます。IMail Server を使って、そのホストに対して、後からユーザの追加および削除を行った場合は、外部データベースに対しても、それらのユーザの追加および削除が行われます。逆に、外部データベースに対する変更も、IMail Server に反映されます。

メール ホストに対して外部データベースを使用する前に、Windows の [コントロール パネル] → [ODBC データソース] で、[システム DSN] (Data Source Name) があることを確認してください。
［システム DSN] については、Windows NT/2000 のマニュアルおよびデータベースに関するドキュメントを参照してください。

［システム DSN] が、利用するデータベースを指していることを確認したら、次の手順は、①新しいホストを作成するか、または②既存のホストを外部データベース用に設定します。

IMail Server のインストール直後、一次ホストに対して外部データベースを使用する場合、次の手順に従います。

1. IMail Administrator を起動し、左側のパネルにある “ **[localhost]** ” をダブル クリックします。
2. リストから一次ホストを選択します。
3. **[User Database Type]** で **[External Database]** を選択し、**[Configure]** ボタンをクリックします。次に 52 ページの「外部データベースとのインターフェースの設定」に進んでください。

外部データベースを使用する仮想ホストを作成するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator を起動し、**[tools]** メニュー→ **[Use Wisard]** にチェックが入っていないことを確認します。
2. 左側のパネルにある “ **[localhost]** ” を選択し、右クリックで表示されるメニューから **[Add Host]** をクリックします。すると、“ **[Virtual Host Configuration]** ” ダイアログ ボックスが表示されます



3. **[Add]** ボタンをクリックします。**[Local Addresses]** リストに、仮想ホスト名 (例えば、**$virtual001**) が表示されます。
4. **[Use External User Database]** を選択します。
5. **[Save]** ボタンをクリックします。

注記

[Configure] ボタンをクリックする前に必ず **[Save]** ボタンをクリックする必要があります。

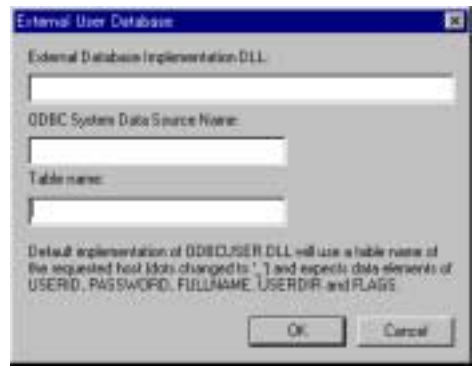
---

6. **[Configure]** ボタンをクリックします。
すると、“ **[External User Database]** ” ダイアログ ボックスが表示されます。

IMail Server と外部データベースとのインターフェースには、ダイナミック リンク ライブラリ (ODBCUser.dll) を使用します。この *DLL* は ODBC メソッドを使用しますが、あらゆる外部データベース用のメソッドをサポートするように修正できます。

注記

外部データベースを使用する場合は、IMail Server を実行するアカウントが外部データベースにアクセスするように、すべての IMail サービス (System Logger Service 以外) を設定する必要があります ([コントロール パネル] の **[サービス]** を確認してください)。



外部データベースとのインターフェースを設定するには、次の手順に従います。

1. **[External Database Implementation DLL;]** テキスト ボックスで、ODBCUser.dll、または GetUserEntry、SetUserEntry、DeleteUserEntry、AuthorizeUser、GetFirstUserEntry、および GetNextUserEntry などの各関数をサポートする *DLL* の完全なパスを指定します。(これらの各関数は、*odbcuser.h* ファイルで定義されています。)
2. **[ODBC System Data Source Name;]** テキスト ボックスでユーザ情報が格納されているデータベースのシステム DSN のデータ ソース名を指定します。

注記

SQL 7.0 以降を使用しているユーザの場合、**[ODBC Data Source Name]** に IMAILSECDB; UID=username; PWD=password という行を入力します。
ユーザ名とパスワードは、IMail Server のアカウントではなく、SQL データベースのユーザ ID とパスワードを使用する必要があります。

3. **[Table name;]** テキスト ボックスでテーブルの名前を指定します。フィールドが空白、または “ [default] ” となっている場合は、ホスト名のドット (.) を下線 (_) で置き換えた名前が採用されます。
4. **[OK]** をクリックします。

1 つの IMail Server システムあたり最大 10 個の異なる *DLL* を使用することができます。1 つの *DLL* がアクセスするテーブルの数に制限はありません。各 *DLL* には、任意の名前をつけることができますが、この名前を上の手順で説明したように、IMail に指定する必要があります。

4 :

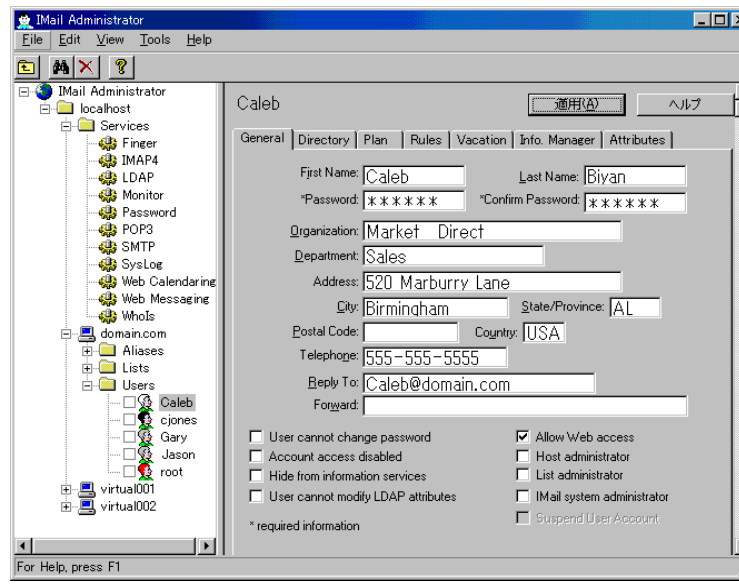
IMail Server は、ユーザ メール アカウントの作成と保守のためにシステム管理者が使用できる、いくつかのツールを提供します。これらのツールを使って、管理者は、次の機能を実行することができます。

- ユーザの追加、修正、および削除
- 標準エイリアス、グループ エイリアス、およびプログラム エイリアスの追加、修正、および削除
- メール転送
- メールボックス サイズの制限の設定
- Vacation 処理のセットアップ
- LDAP データベースのユーザ情報の変更
- Finger 要求に応答して送信されるユーザ情報の設定
- 受信メールに対する配信ルールのセットアップ (この機能については次章、77 ページの「第 5 章 : メール処理のテクニック」で説明されています。)

通常、ユーザ　メール　アカウントの追加や修正を行うには、IMail Administrator を使用します。ただし、IMail Administrator に加えて、次のようなプログラムを使ってユーザ メール アカウントを管理することができます。

- **Web Messaging (** ホスト、またはシステム管理者としてログオンしている場合 **)** 詳細については、95 ページの「第 6 章 :Web Messaging」を参照してください。
- **adduser.exe** このコマンドラインプログラムを使用すると、テキストファイルに名前とパスワードが記述されたユーザを一括して追加できます。詳細については、235 ページの「付録 C: コマンドライン ユーティリティ」を参照してください。

各ユーザには、ユーザ メール アカウントが割り当てられています。左側のパネルでユーザ名を選択すると、そのユーザのプロパティが右側に表示されます。



メール ホストが、IMail データベースまたは外部データベースを使用している場合は、IMail を使ってユーザ メール アカウントを追加できます。(しかし、ホストが Windows NT データベースを使用している場合は、IMail を使って、アカウントの追加および削除を行うことはできません。ユーザの追加および削除は、Windows NT のユーザ マネージャを使ってのみ行うことができます。)

ユーザを 1 人ずつ追加するには、次の手順に従います **([Tools]** メニューの **[Use Wizards]** オプションがオフになっていると仮定)。

1. 左側のパネルで、“ **[localhost]** ” およびメール ホスト フォルダを展開し、**[Users]** フォルダを選択します。
2. 右側のパネルで、**[Add User]** をクリックします。
3. **[New User]** ダイアログ ボックスで、ユーザ名を入力して **[OK]** をクリックします (ユーザ ID には、3 ～ 30 個の文字を入力します。使用できるのは、数字と文字のみです。スペースは使用しないでください)。

注記

ユーザ ID として、特殊なメール アカウントを入力することができます。このアカウントは、特定のユーザには属しませんが、一般的な情報を要求する定型のメールを受け入れます。この特殊なメール アカウントの使用方法については、89 ページの「情報マネージャの使用」を参照してください。

4. 左側のパネルでユーザIDが選択されていて、右側のパネルに**[General]** タブが表示されていることを確認します。
5. ユーザの **[First Name]** と **[Last Name]** を入力します。
6. **[Password]** ボックスに、**パスワード**を入力し、確認のためにもう一度パスワードを入力します。パスワードの長さは、4 〜 30 文字にしてください。
7. 必要ならば、ユーザの **[Organization]**、**[Department]**、**[Address]**、**[City]**、**[State/Province]**、**[Postal Code]**、**[Country]**、および **[Telephone]** を入力します。
8. メールへの返信の送信先を別のアドレスにする場合は、**[Reply To]** ボックスにその電子メール アドレスを入力します。

注記

この設定は、Web Messaging にのみ適用されます。

9. このユーザのメールを自動的に別のユーザ　アカウントに転送したい場合は、転送先の完全なメール アドレスを **[Forward]** ボックスに入力します。転送するメールのコピーをこのユーザのアカウントに残したい場合は、転送先アドレスの前にピリオドとカンマを入力してください。例えば、「`.,cecil@flores.com`」と入力します。複数の転送先は、カンマで区切ります。詳細については、69 ページの「他のユーザ アカウントへのメール転送」を参照してください。

   このボックスに、ポケベルのエイリアスを入力すると、メールの着信時にポケベルに通知することができます。詳細については、225 ページの「第 18 章 :Mail to Pager」を参照してください。
10. 以下の詳細オプションを設定します。
    - **[User cannot change password]** オプションをオンにすると、古いタイプの Eudora や NuPop メール クライアントから、ユーザがパスワードを変更しないようにできます。詳細については、95 ページの「第 6 章 :Web Messaging」を参照してください。

- **[Account access disabled]** オプションをオンにすると、ユーザがアカウントにアクセスすることを禁止できます。これにより、ユーザのパスワードの変更やシステムからの削除を行うことなく、アカウントを使用不可にすることができます。この機能は、ホストが Windows NT データベースを使用していて、そのデータベースの全ユーザが電子メールにアクセスできるわけではない場合に主に使用されます。
- **[Hide from information services]** オプションをオンにすると、Finger、Whois、または LDAP (これらのサーバを実行している場合) を介してこのユーザに関する情報を配布することを禁止できます。
- **[User cannot modify LDAP attributes]** オプションをオンにすると、ユーザが LDAP 属性 (名前、住所、所属組織など) を修正することを禁止できます。
- **[Allow Web access]** オプションをオンにすると、このユーザが、Web リモート管理ユーティリティ (同ユーティリティが設定されている場合) や Web Messaging、Web カレンダーを経由して、自分のアカウントにアクセスできるようになります。
- **[Host administrator]** オプションをオンにすると、このユーザが、このメール ホスト上のユーザまたはエイリアス (プログラム エイリアスを除く) を追加、修正、または削除できるようになります。ホストを管理するために Web ユーティリティを使用できるようにするには、**[Allow Web access]** オプションもオンにする必要があります。
- **[List administrator]** オプションをオンにすると、このユーザが、リスト サーバ メーリング リストを追加、修正、または削除できるようになります。
- **[IMail system administrator]** オプションをオンにすると、このユーザが、仮想ホストの作成および管理を含むすべての IMail 機能を実行できるようになります。
  このシステム管理者が、管理のために Web インターフェースを使用できるようにするには **[Allow Web access]** オプションもオンにする必要があります。
- **[Suspend User Account]** は、ユーザの Web アクセスが一時停止になると自動的に有効になります。ユーザに再び Web アクセスを許可する場合は、**[Suspend User Account]** チェックボックスをオフにします。

注記

[Suspend User Account] オプションを使用可能にしても、ユーザ アカウントを一時停止することはできません。ユーザ アカウントを一時停止する場合は、**[Account access disabled]** を選択します。

---

11. **[適用]** ボタンをクリックします。

ユーザ ID は、ホストのユーザのリストに追加されます。ここまでの作業により、ユーザは、IMail Server を介して指定のホストでメールを受信できます。例えば、「*fred*」というユーザを仮想ホスト「*petra.com*」に追加した場合、このユーザは、「*fred@petra.com*」宛てのメールを受信できます。

次に、このユーザ用の特殊な処理を設定できます。特殊処理のオプションについては、以下の節で説明されています。

- 69 ページの「他のユーザ アカウントへのメール転送」
- 62 ページの「メールボックスの管理」
- 65 ページの「Finger Plan のセットアップ」
- 78 ページの「配信ルールのセットアップ」
- 66 ページの「Vacation メッセージのセットアップ」
- 68 ページの「LDAP ディレクトリ情報 (属性) の入力」

NT

ホストが、ユーザ メール アカウント用に IMail データベースを使用している場合は、NT データベースからユーザをインポートして、IMail データベースに追加できます。このとき、インポートされたユーザは、Windows NT データベースにはリンクされず、NT のパスワードはインポートされません。

Windows NT からインポートされたユーザは、NT データベースと同じユーザ ID を持ちますが、パスワードには、デフォルトとして *password* が設定されます。ただし、IMail はデフォルトでは、アンパサンド (&) が含まれるユーザ名を受け入れません。ユーザ名にアンパサンド文字が含まれている場合は、259 ページの「Windows NT のユーザ名にアンパサンド (&) を使用可能にする方法」を参照してください。

NT ユーザをインポートするには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、メール ホストを展開し、**[Users]** フォルダを選択します。
2. 右側のパネルで、**[Import NT Users]** をクリックします。Windows NT データベースのユーザをリストしたダイアログ ボックスが表示されます。

3. 以下のいずれかを実行します。
   - ユーザおよびパスワードを 1 つずつ追加するには、ユーザを選択してパスワードを入力し、**[Add Selected Users]** をクリックします。追加するユーザごとに、この手順を繰り返します。
   - 同じ初期パスワードが設定された複数のユーザを一度に追加するには、追加する複数のユーザを選択し、選択したすべてのユーザに適用する初期パスワードを設定して、**[Add Selected Users]** をクリックします。パスワードの長さは、4 ～ 30 文字にしてください。
4. ユーザのインポートが終了したら、**[Exit]** をクリックします。

ユーザのメール アカウントを削除するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、メール ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、削除するユーザ名を選択します。

   削除するユーザを複数選択するには、各ユーザの名前の横にあるチェック ボックスをオンにします。
2. 左側のパネルで、右クリックしてポップアップ メニューを表示し、**[Delete]** を選択します。

ユーザを削除すると、そのユーザのアイコンは、IMail Administrator の左側のパネルに表示されなくなりますが、そのユーザのディレクトリは、IMail システム上に残ったままになっている場合があります。これを“ 孤立メール アカウント ” と呼びます。

孤立ユーザを検出し、そのユーザのディレクトリをシステムから削除するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルでホスト名を展開し、**[Users]** フォルダを選択します。
2. **[Find Orphans]** ボタンをクリックします。[Orphans] ダイアログ ボックスに、すべての孤立メール アカウントがリストされます。

   孤立ユーザのディレクトリおよびメッセージを 1 つずつ削除するには、ユーザ名を選択して、**[Delete]** をクリックします。すべての孤立ユーザのディレクトリを削除するには、**[Delete All]** をクリックします。
3. **[Close]** をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

IMail Administrator では、すべての新規ユーザ メール アカウントに適用されるデフォルト値を設定できます。新規ユーザ用のデフォルトのプロパティを設定するには、ホスト名を展開し、**[Users]** フォルダを選択します。すると右側のパネルに、デフォルトのユーザ プロパティが表示されます。

- **[Max.Mailbox Size]**
  ユーザの全メールボックスの合計の最大サイズ。
- **[Max.Mailbox Msgs]**
  メールボックスに保管できるメッセージの最大数。
- **[User cannot change password]**
  ユーザがパスワードを変更できないようにします。
- **[Account access disabled]**
  すべてのユーザ アカウントを使用禁止にして、ユーザがログインできないようにします。
- **[Hide from information services]**
  すべてのユーザ情報が情報サービスで自動的に非表示になります。
- **[User can't modify LDAP attributes]**
  すべてのユーザがLDAP属性(名前、アドレス、組織名、および電話番号など) を変更できないようにします。
- **[Allow Web access]**
  すべてのユーザが、IMail Web Messaging や IMail Web カレンダーなどの Web 機能にアクセスできるようにします。
- **[Host administrator]**
  すべてのユーザにホスト管理者権限を付与します。
- **[List administrator]**
  すべてのユーザにリスト管理者権限を付与します。
- **[IMail system administrator]**
  すべてのユーザにシステム管理者権限を付与します。

これらの設定は、現行ホストに作成されるすべてのメール アカウントで引き続き使用されます。唯一の例外は、**[set reply to]** の設定です。この設定は、既存のアカウントにのみ適用されます。新規のユーザ アカウントはすべて、ドメインの正式ホスト名に設定されます。

ここで表示される **[Max.Mailbox Size]** と **[Max.Mailbox Msgs]** の設定は、メール ホストのプロパティの **[General]** タブの設定と同じになります。これらの 2 つの場所のいずれかで、これらの設定を変更すると、その変更はもう一方の場所の設定にも反映されます。(これらの設定は、参照しやすいように 2 か所で表示されるようになっています。)

注記

変更を適用するには、IMail Administrator を閉じて再度開くことが必要な場合があります。

注記

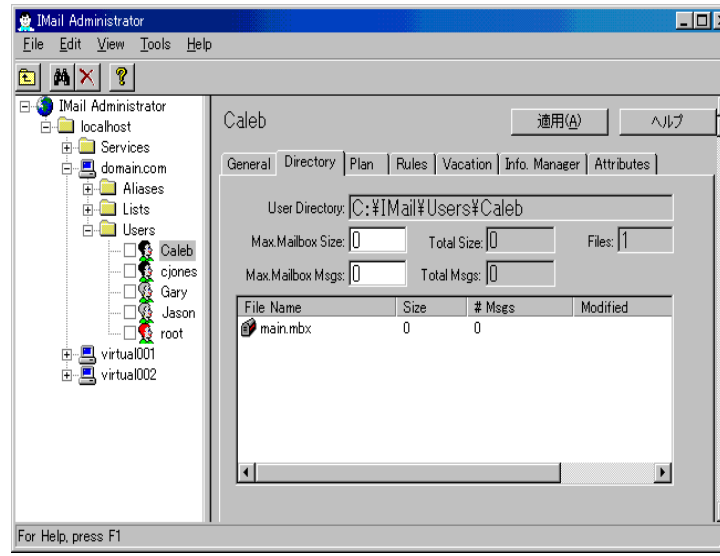
既存のユーザ用のグローバル設定を変更するには、**[Global User Changes]** ボタンを使用する必要があります。詳細については、71 ページの「既存ユーザのグローバル設定」を参照してください。

メールボックスのサイズとメッセージ数による制限を設定したり、指定日付より古いメッセージを削除したりすることによって、ユーザのメールボックスの管理を行うことができます。

IMail Server では、ユーザのメールボックス ファイルは自動的には作成されないので注意してください。メールボックスは、ユーザが初めてメールを受信するか、またはユーザが POP3 クライアントを使って、自分のメールボックスに初めてアクセスするまで作成されません。(これにより、IMail Server を全く使用していないユーザ用のファイルが作成されるのを防止できます。) メール転送、Vacation 処理、配信ルール、および情報マネージャによる自動応答などの設定は、ユーザのメールボックス ファイルが作成されていないと行うことはできません。

メールボックス ディレクトリを表示し、制限を設定するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、メール ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。すると、右側のパネルに、ユーザのプロパティが表示されます。
2. **[Directory]** タブをクリックします。



以下の設定を表示または変更することができます。

[User Directory]

IMail ユーザ データベース内のユーザのディレクトリ名。この項目は編集できません。

[Max. Mailbox Size]

ユーザのアカウント内で作成されるすべてのメールボックスのデフォルト最大サイズ (バイト数)。新着メールによって合計サイズがこの最大値を超えてしまう場合、そのメールは送信側に戻されます。ホストのデフォルト値を使用する場合は、0 を入力します。ホストのデフォルト値も 0 に設定されている場合、メールボックスのサイズは、無制限になります。ホストのデフォルト値の詳細については、61 ページの「新規ユーザ用のデフォルト値の設定」を参照してください。

[Max.Mailbox Msgs]

ユーザのメール アカウント内に保存できる (すべてのメールボックスでの) メッセージの合計の最大数。新着メールによってこの最大数を超えてしまう場合、そのメールは送信側に戻されます。ホストのデフォルト値を使用する場合は、0 を入力します。ホストのデフォルト値も 0 に設定されている場合、メッセージの数は、無制限になります。

[Total Size]

現時点での、ユーザのアカウント内にあるすべてのメールボックスの合計サイズ (バイト数)。

[Total Msgs]

現時点での、ユーザのアカウント内のすべてのメールボックスにあるメッセージの合計数。

[Files]

ユーザのアカウント内にあるメールボックスの合計数。

3. 変更を保存するには、**[適用]** をクリックします。

[Directory] タブには、IMail Server 上のユーザのディレクトリ内にあるすべてのメールボックス (*.mbx*) もリストされます。このリストには、メールボックスごとに、*.mbx* ファイル名、サイズ (バイト数)、メールボックス内のメッセージ数、最後に変更された日付、およびメールボックスが作成された日付が表示されます。ここから、メールボックスの削除や名前の変更を行うことができます。
メールボックス機能を使用するには、次の手順に従います。

1. メール ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。次に、**[Directory]** タブをクリックし、メールボックスを選択します。
2. 右クリックして表示される、次のポップアップ メニューの項目のいずれかを選択します。

[Delete File]

現在選択されているメールボックスを削除します。

[Rename File]

メールボックスの新しい名前を入力するダイアログ ボックスを表示します。

ID

ユーザにメールを送信する場合、ユーザ ID の末尾にハイフン (-) を使ってメールボックス名をつなげたアドレスを使用することができます。例えば、次のように指定できます。

dave-music@domain.com

ユーザ ID にハイフンが使用されている場合、IMail Server は、それが有効なユーザ ID であるかをチェックします。有効なユーザ ID でない場合、ハイフンに続く文字は、メールボックス名として解釈されます。

メールボックス名が存在しない場合は、IMail Server システム上に、そのメールボックスが作成されます。これは、管理者がユーザのメールボックスを作成できる唯一の方法です。

POP3 メール クライアントを使用しているユーザは、ログオン時にユーザ ID、ハイフン (-)、メールボックスの順に指定するという方法を使って、他のメールボックスにアクセスすることができます。例えば、上の例では、「dave-music」としてログオンすることができます。ただし、一度にアクセスできるのは、1 つの POP3 メールボックスだけなので注意してください。

ユーザが IMAP4 メール クライアントまたは Web Messaging を使ってログオンすると、メールボックスは利用可能なメールボックスのリスト上に表示されます。

Finger Plan

インターネットの Finger プロトコルを使用すると、インターネットのユーザは、管理者やユーザが公開したい情報を要求することができます。この情報は、“ Plan ” ファイルに保存されている必要があります。システム管理者が Finger を使用可能にして、ユーザの Plan ファイルの内容を公開できるようにすると、他のホストからの Finger 要求に対して、このファイルの内容が返されます。ログイン ユーザ名、および Finger サーバが表示するその他の情報に加えて、Plan ファイルの内容が表示されます。

IMail Server 製品には、Finger サーバも含まれています。システム管理者は、ユーザの **[General]** タブの **[Hide from information services]** オプションをオンにすることにより、ユーザの情報が Finger プロトコルを介して送信されないようにすることができます。

Finger Plan を作成または修正するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator を起動します。左側のパネルで、ホスト名、次にユーザを選択します。
2. **[Plan]** タブをクリックします。すると、Finger のプロパティが表示されます。
3. Finger クライアントに公開したい情報を入力します。この情報は、ユーザのホーム ディレクトリにある「*plan.ima*」ファイルに保存されます。
4. **[適用]** をクリックします。

IMail は、「*plan.ima*」ファイルがユーザのホーム ディレクトリ内に存在すると、Finger 要求に対して情報を送信します。送信されるのは、このファイルの内容です。(ただし、システム管理者は上に説明した方法を使って、情報が送信されないようにすることができます。)

1 人のユーザの Finger Plan をセットアップすると、この「*plan.ima*」ファイルは、他のユーザのホーム ディレクトリにコピーすることができます。詳細については、70 ページの「ユーザ設定の他のユーザへの適用」を参照してください。

注記

WebMessaging メニュー ページで “ [Finger 情報の変更] ” を選択することによって、ユーザは自分の Finger 情報を修正できます。

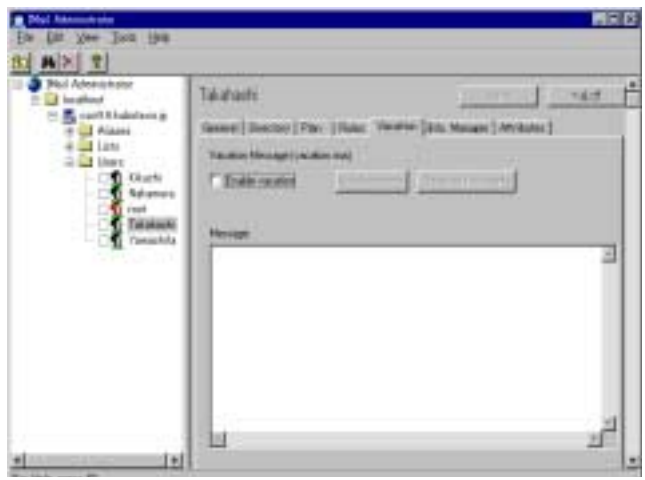
Vacation

ユーザにメールを送信してくる各ユーザに対して 1 回だけ返信される Vacation メッセージ (vacation.ima) をセットアップすることができます。Vacation メッセージが送信されるたびに、その受信者の電子メール アドレスが受信者のリストに保存されます。これにより、IMail はどのユーザが Vacation メッセージを既に受け取ったかを追跡することができます。
(受信者リストに含まれる電子メール アドレスからメールを受信した場合、Vacation メッセージがもう一度送信されることはありません。)

Vacation

Vacation メッセージをセットアップするには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。すると、右側のパネルに、ユーザのプロパティが表示されます。
2. **[Vacation]** タブをクリックします。



3. **[Enable vacation]** オプションをオンにします。

   Vacation メッセージの送信が不要になったら、**[Enable Vacation]** オプションをオフにすることができます。
4. **[Message]** ボックスに、着信したメールへの返信として送信するメッセージを入力します。
5. Vacation メッセージが既に使用中の場合は、次のオプションを使用することができます。
   - **[View recipients]** ボタンをクリックすると、この Vacation メッセージを受け取った電子メール アドレスが表示されます。

- **[Delete old recipients]** ボタンをクリックすると、受信者のリストがクリアされます。(このオプションは、ユーザが頻繁に休暇を取り、休暇に入るたびに使用可能にする標準の Vacation メッセージがある場合に利用するとよいでしょう。新しい休暇に合せてその Vacation メッセージを使用可能にするたびに、**[Delete old recipients]** ボタンをクリックします。)

6. **[適用]** をクリックします。

Vacation 機能を使用可能にすると、IMail Server はメッセージを「*vacation.ima*」ファイルに保存します。このファイルがユーザのホームディレクトリ内に存在すると、Vacation 機能が実行されるようになります。このファイルの内容が、ユーザにメールを送信してくるユーザに送信されます。したがって、1 人のユーザに Vacation メッセージを設定すると、その「*vacation.ima*」ファイルは、他のユーザのホーム ディレクトリにコピーすることができます。詳細については、70 ページの「ユーザ設定の他のユーザへの適用」を参照してください。

注記

Web Messaging のメニュー ページで“ [外出中メッセージの変更] ”を選択することによって、ユーザが自分の Vacation メッセージをセットアップすることもできます。

IMail Server は、Vacation メッセージを送信したアドレスのリストをファイル *(vacation.snt)* に記録します。このリストを表示したい場合は、**[Vacation]** タブの **[View recipients]** をクリックします。

「*vacation.snt*」ファイル内の送信側電子メール アドレスのリストをクリアしたい場合は、**[Vacation]** タブの **[Delete old recipients]** をクリックします。その時点で、「*vacation.snt*」ファイルが削除されます。

Vacation

メールの送信者ごとに (不在のユーザに何度メールを送信してきても)1 回だけメッセージを送信する代わりに、送信側が以前に不在の通知を受けたかどうかに関わらず、送信されてくるすべての電子メールに毎回メッセージを送信することもできます。この設定を行うには、89 ページの「情報マネージャの使用」で説明されている情報マネージャの機能を使用します。

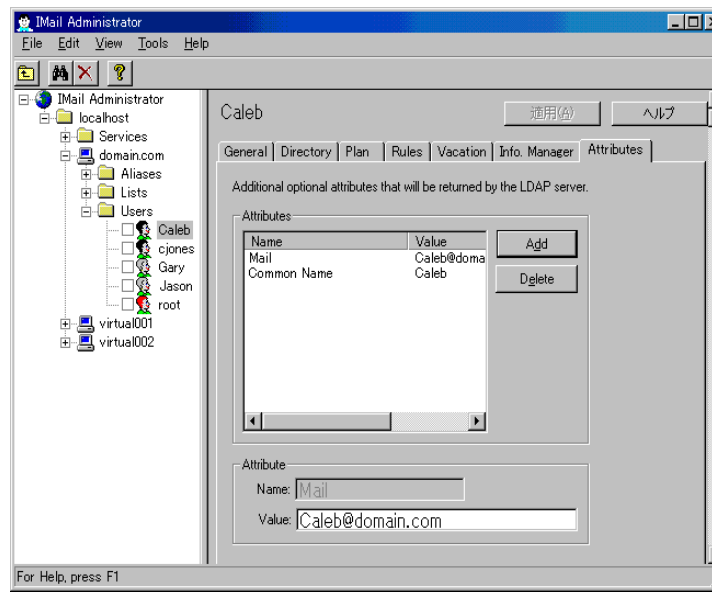
LDAP ( )

インターネットの LDAP プロトコルを使用すると、(アドレス ブックのような) ディレクトリ情報をインターネット上で公開できます。IMail Server は、IMail ユーザ データベースに LDAP インターフェースを提供します。(IMail ユーザ データベースには、name（名前）、address（住所）、organization（組織名）、phone number（電話番号）といった標準の LDAP 属性が含まれます。)

LDAP 情報は、LDAP が使用可能なクライアントで利用できます。LDAP サーバと LDAP データの詳細については、165 ページの「第 12 章 :LDAP サーバ」を参照してください。

ユーザの LDAP 情報を入力するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、メール ホスト フォルダと **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。すると、右側のパネルに、ユーザのプロパティが表示されます。
2. **[Attributes]** タブをクリックします。すると、以下のダイアログ ボックスが表示されます。



リストには、LDAPエントリで使用される最も一般的なAttribute(属性)が含まれています。他の Attribute は、システム管理者またはユーザが定義します。リストの下にある **[Name]** ボックスには、現在選択されている Attribute が表示されます。**[Value]** ボックスには、現在選択されている Attribute のエントリが表示されます。

Attribute(例えば、shoe_size または marital_status) を追加するには、**[Add]** をクリックし、テキスト ボックスに Attribute を入力します。

3. Attribute を修正するには、その Attribute を選択し、テキスト ボックスで編集します。
4. Attribute を削除するには、その Attribute を選択し、**[Delete]** をクリックします。
5. エントリの作成が終了したら、**[適用]** をクリックします。

注記

Web Messaging のメニュー ページで " [ユーザ情報の変更] " を選択することによって、ユーザが自分の LDAP 情報を更新することもできます。

IMail Server では、ユーザのメールを他のユーザ アカウントに自動的に転送できます。(Web Messaging のメニュー ページで " [メール転送情報の変更] " を選択することによって、ユーザがメール転送を設定することもできます。)

ユーザ宛てのメール転送をセットアップするには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、メール ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。
2. **[General]** タブをクリックします
3. **[Forward]** テキスト ボックスに、電子メール アドレスを入力します。ユーザのメールを同じホスト上の別のユーザに送信したい場合は、単にユーザ ID のみを入力することができます。(「*userid@domain.com*」ではなく「*userid*」と入力することができます。) ユーザのメールを別のシステムに送信したい場合は、完全な電子メール アドレスを (「*userid@domain.com*」の形式で) 指定する必要があります。ユーザのメールボックスにメッセージのコピーを残しておき、他のユーザにコピーを転送するには、次の形式で、アドレスの前にピリオドとカンマ (.,) を入力します。(「`.,userid@host.domain`」) 複数のユーザにメールを転送するには、各メール アドレスをカンマで区切ります。
4. **[適用]** をクリックして、変更を適用します。

IMail Server は、アドレスをユーザのホーム ディレクトリにある「*forward.ima*」ファイルに保存します。1 人のユーザにメール転送をセットアップすると、その「*forward.ima*」ファイルは、他のユーザのディレクトリにコピーすることができます。詳細については、70 ページの「ユーザ設定の他のユーザへの適用」を参照してください。

メール転送をオフにするには、テキスト ボックスが空であることを確認し、**[適用]** をクリックします。

注記

ユーザがメール転送を設定すると、Web Messaging の [Sent] フォルダや [Draft] フォルダに保存したメッセージは、転送先のアドレスに自動的に送信されます。メッセージを自動的に送信しないようにするには、[Sent] フォルダや [Draft] フォルダにメッセージを保存する前に、Forward フィールドにテキストが入力されていないことを確認します。

[Forward] ボックスを使って、IMail が、ユーザのメールをポケベルに転送、またはメールの着信をポケベルに通知するように設定できます。詳細については、225 ページの「第 18 章 :Mail to Pager」を参照してください。

1 つのユーザ メール アカウントに、Vacation 処理、Finger Plan 情報、配信ルール (次章で説明)、情報マネージャ (次章で説明)、またはメール転送をセットアップしてある場合、同じ設定を他のメール アカウントに適用するために、そのアカウントを選択し、適切な情報を入力することもできます。

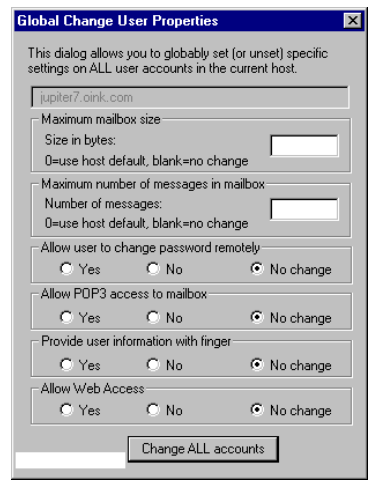
しかし、これらの機能は、特定のファイルがユーザ ディレクトリに存在することによって実行されるので、「*vacation.ima*」、「*plan.ima*」、「*rules.ima*」(およびすべての「*.rul*」ファイル)、「*main.inf*」や「*forward.ima*」の各ファイルを、あるユーザのディレクトリから別のユーザのディレクトリにコピーすることによって、これらの設定を適用することもできます。

IMail Administrator では、全既存ユーザに対して設定の変更を行うことができます。

全既存ユーザの設定を行うには、次の手順に従います。

1. 目的のホスト名の下にある **[Users]** フォルダを選択します。
2. **[Global User Changes]** ボタンをクリックします。

   次の既存ユーザ用のデフォルトの設定が表示されます。



ドメイン内の全ユーザを使用不可にするには、次の手順に従います。

1. ユーザが、メール クライアントや Web ブラウザからパスワードを変更できないようにするには、**[Allow user to change password remotely]** の **[No]** を選択します。
2. **[Allow POP3 access to mailbox]** の **[No]** を選択します。(IMAP では、同じログイン ID とパスワードを使用します。)
3. **[Allow Web access]** の **[No]** を選択します。

エイリアスとは、電子メールのアドレス、複数のアドレス、またはアプリケーションの別名のことです。既存のユーザ ID と同一のエイリアスは作成しないでください。ユーザ ID と同一のエイリアス宛てのメールは、そのユーザ ID ではなく、エイリアスに対応するアカウントに届いてしまいます。メールの処理順序の詳細については、77 ページの「メールの処理順序」を参照してください。

インターネット メールのRFC仕様に準拠するには、インターネットのメール ユーザが「*postmaster@your_domain_name*」宛てにメールを送信できるように、*postmaster* エイリアスを作成する必要があります。*postmaster* エイリアスは、IMail Server をインストールすると、*root* アカウントのエイリアスとして自動的に設定されます。*postmaster* エイリアスを変更すると、別のメール アカウントを指すことができます。

次の 4 種類のエイリアスを作成することができます。

- **Standard alias（標準エイリアス）**

  Standard alias は、同一システム上の単一ユーザ ID、同一システム上の最大 4 つのユーザ ID、1 つのリモート メール アドレス、最大 4 つのリモート メール アドレス、別のエイリアス、または以上の組合わせを表す名前です。
- **Group alias（グループ エイリアス）**

  Group alias は、最大 50 個の有効なメール アドレスを表す名前です。

  注記

  4 人以上のユーザを追加すると、標準エイリアスは自動的にグループ エイリアスに変更されます。グループ エイリアスは、IMail Server の以前のバージョンでは“ リスト エイリアス ”と呼ばれていました。
- **Program alias（プログラム エイリアス）**

  Program alias は、メール メッセージを受け入れ、その処理を行うためのプログラムを指す名前です。例えば、Program alias は、ワープロ ソフトウェアを指す場合があります。
- **Beeper/Pager alias（ポケベル エイリアス）**

  Beeper/Pager alias は、メッセージをポケベルに送信します。

IMail Administrator では、一度に 1 つずつエイリアスを作成することができます。複数のエイリアスを一括して追加したい場合の詳細については、235 ページの「付録 C: コマンドライン ユーティリティ」を参照してください。

Group alias を追加したい場合は、その Group alias を追加する前にテキスト ファイルを用意しておくことができます。
グループに含めたいすべてのメール アドレスをテキスト ファイルに入力します。アドレスは、1 行に 1 つずつ入力し、続けて改行を入力します。このテキスト ファイルはホスト ディレクトリに置いてください。

プログラム エイリアスを作成したい場合は、そのアプリケーションを IMail Server システムにコピーします。バッチ ファイル (*.bat*) を使って、使用したいコマンドを保存することもできます。(この場合、Program alias は *.bat* ファイルを指すので、Program alias を変更することなく、いつでも *.bat* ファイルを編集することができて便利です。)

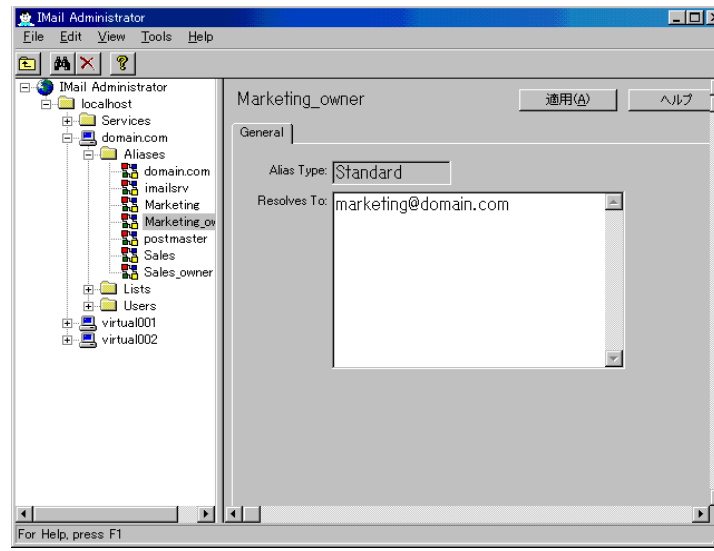
IMail Administrator を使ってエイリアスを追加するには、次の手順に従います (**[Tools]** メニューの **[Use Wizards]** がオフになっていると仮定)。

1. 左側のパネルで、エイリアスを追加するホストを選択します。
2. **[Aliases]** フォルダを選択します。
3. **[Add Alias]** ボタンをクリックします。
   [New Alias] ダイアログ ボックスが表示されます。

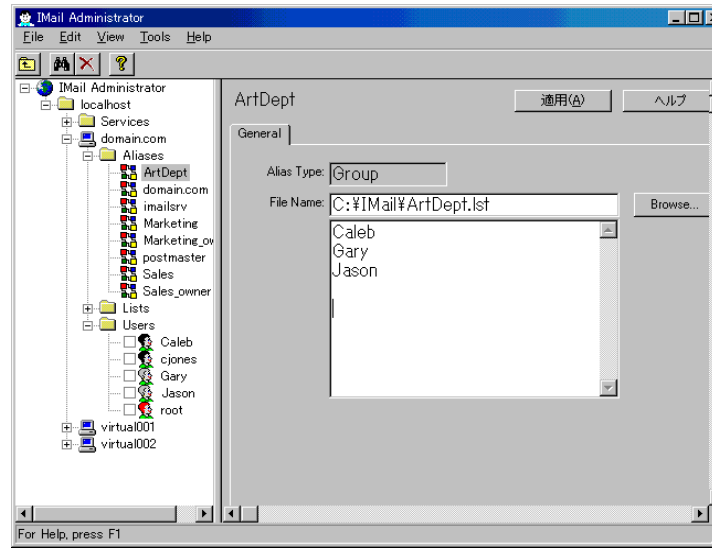


エイリアスとして使用する名前を入力します。エイリアスの名前は、45 文字に制限されています。名前は、A-Z、a-z、0-9、_ (下線)、および - (ハイフン) を使用して作成します。名前にはスペースは使用できません。また、エイリアス名は、このメール ホスト上で固有の名前でなければなりません。

4. 追加するエイリアスの種類を選択します。詳細については、72 ページの「エイリアスの種類」を参照してください。
5. **[OK]** をクリックします。
6. **[Standard]** エイリアスを選択した場合は、次のタブが表示されます。各行に、(「*userid@domain.com*」の形式で) 完全な電子メール アドレスを 1 つずつ入力します。4 つを超えるアドレスを入力すると、そのエイリアスは、グループ エイリアスに変換されるので注意してください。



7. **[Group]** エイリアスを選択した場合は、次のパネルが表示されます。

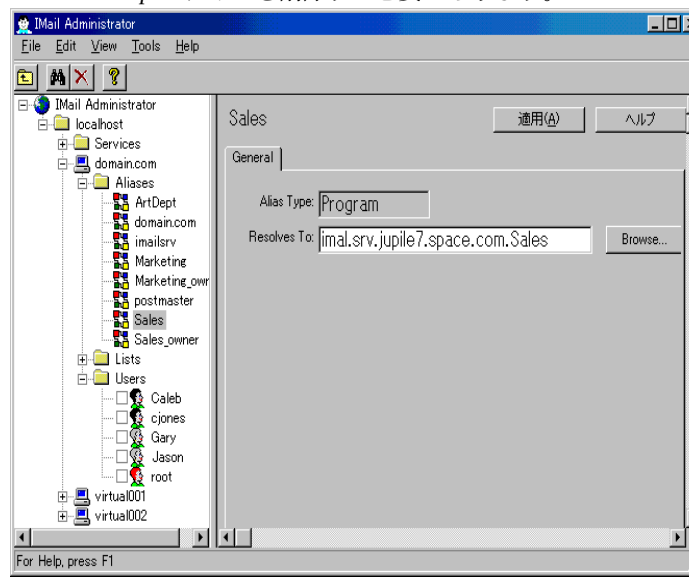


次のいずれかの操作を行います。

- **[File Name]**

  グループのアドレスが既に (上に説明したように) テキスト ファイルに入力されている場合は、そのファイルのパスとファイル名を入力します。
- グループ内の各ユーザの電子メール アドレスは、各行に 1 つずつ入力します。

8. **[Program]** エイリアスを選択した場合は、実行可能プログラムのパスとプログラム名、必要に応じてコマンド行パラメータを入力します。電子メールがプログラム エイリアスに送信されると、この実行可能プログラムが起動され、メッセージの全内容がプログラムに渡されます。次に、プログラムはこのファイルを処理し、処理終了時にはすべての *.tmp* ファイルを削除する必要があります。



9. **[Beeper/Pager]** エイリアスをを選択した場合は、
225 ページの「第 18 章 :Mail to Pager」を参照してください。

ローカル ホスト上で登録されていないユーザ宛てのメールを処理するために、「*nobody*」という特殊なエイリアスを作成することができます。この「*nobody*」エイリアスが存在すると、間違ったアドレス宛てのメールはすべて指定の場所に送信されます。

“ *nobody* ” エイリアスを使用すると、エラーメッセージが送信者へ戻らなくなることに注意してください。

5 :

IMail Server には、管理者が受信メールの処理に使用できる、数多くのオプションが用意されています。IMail Server が受信メールを処理する順序を理解することによって、メールのルーティングの方法を制御することができるようになります。配信ルールを使用すると、メールのルーティングをより詳細に制御することができます。更に、情報マネージャを使用すれば、定型的な問合わせに対する自動応答を設定することもできます。
本章では、次の項目を扱います。

- メールの処理順序
- ホスト、メーリング リスト、または個々のユーザに適用できる、受信メールの配信ルール
- 問合わせに対して自動応答を送信する情報マネージャ

有効なローカル アドレス宛ての着信メールは、以下の順序で処理されます。

1. エイリアス

IMail Server は、アドレスが宛先ドメインのエイリアスと一致しているかどうかをチェックします。エイリアスは、Standard alias（標準エイリアス）、Group alias（グループ エイリアス）、Program alias（プログラム エイリアス）、Beeper/pager alias（ポケベル エイリアス）、またはリスト サーバ メーリングリスト名のいずれかであると解釈されます。

- Program alias または Beeper/pager alias と一致した場合、IMail Server は、そのプログラムを実行したり、ポケベルに通知したりします。
- Standard alias または Group alias と一致した場合、IMail Server は、このエイリアスを適切なユーザ ID(複数も可) に解決し、このユーザ ID を手順 2 で説明する方法でチェックします。
- メーリング リスト名と一致した場合、IMail Server は、メールをそのメーリング リストの設定に従って処理します。
- どのエイリアスとも一致しなかった場合、IMail Server は、次の手順で説明する方法でユーザ ID をチェックします。

2. ユーザ ID

IMail は、このユーザ ID が宛先ドメインで有効であるかどうかを判別します。有効でない場合、メールは送信側に戻されます。有効な場合、IMail Server は、次の手順で説明するように、リスト サーバのメーリング リストの配信ルールをチェックします。

3. **リスト サーバのメーリング リストの配信ルール**

   メッセージがメーリング リストのルール基準を満たしている場合は、そのルールに従って配信が行われます。それ以外の場合、メッセージはリスト サーバに送信されます。

4. **転送**

   IMail Serverは、このアカウントの **[General]** タブにある **[Forward]** ボックスに、アドレスが存在するかどうかを判別します。転送先アドレスが存在する場合、IMail Server はメールを転送します。存在しない場合、メールはルール基準に従ってこのユーザ ID に配信されます。

5. **メーリング ホストの配信ルール**

   IMail Server は、メッセージがメール ホストの配信ルールと一致するかどうかを判別します。一致した場合は、そのルールに基づいて配信が行われます。一致しなかった場合は、次の手順で説明するように、ユーザ ID の配信ルールのチェックが行われます。

6. **ユーザ ID の配信ルール**

   IMail Server は、メッセージがユーザ ID のルール基準を満たしているかどうかを判別します。

   メッセージがユーザIDのルール基準を満たしている場合は、そのルールに従って配信が行われます。それ以外の場合は、次の手順で説明するように、情報マネージャのチェックが行われます。

7. **情報マネージャ**

   IMail Server は、ユーザ ID で情報マネージャが使用可能になっているかどうかを判別します。使用可能になっている場合は、自動応答が送信され、メッセージ自体は、転送先アドレス、または (転送先アドレスがない場合は) 指定されたサブエリアまたはメールボックスに配信されます。このユーザ ID で情報マネージャが使用可能になっていない場合は、次の手順で説明するように、Vacation 設定のチェックが行われます。

8. **Vacation**

   IMail Server は、ユーザ ID で Vacation メッセージが使用可能になっているかどうかを判別します。使用可能になっている場合は、Vacation メッセージが送信されます。

配信ルールを使用すると、メッセージの **[To]**、**[From]**、**[Sender]**、**[Subject]** の各フィールド、ヘッダ全体 (メッセージの本文以外のすべての部分)、またはメッセージ本文の内容に基づいて、着信メールを特定のメールボックスに配信することができます。配信ルールは、次の 3 つのレベルで適用することができます。なお、この機能は半角英数に対してのみ有効で、

日本語文字に対しての配信ルールはサポートされておりませんので、ご注意ください。

- メール ホスト
- メーリング リスト
- 個々のユーザ

配信ルールを情報マネージャと組み合わせて使用すると、特定の語句を検索して、該当語句が見つかった場合は、その語句に対する自動応答を送信し、メールを指定された転送先に配信することができます。

- **ホスト用の配信ルールの例**

  学校のシステムの管理者は、全てのユーザに対して一括して配信ルールをセットアップすることができます。例えば、学校からのお知らせを全ユーザのある特定のフォルダに配信することなどができます。

- **メーリング リスト用の配信ルールの例**

  システム管理者は、メーリング リスト用の配信ルールをセットアップして、メッセージがスパム メールやバルク メールであることを示す言葉について、そのメーリング リスト宛てに送信されてきた全メッセージの本文をスキャンし、そのようなメッセージをすべて無視することができます。ただし、**検索文字列は半角英数文字に限ります。**

- **個々のユーザ用の配信ルールの例**

  スポーツ用品のセールスマン用の配信ルールをセットアップして、baseball、softball、bat、base といった単語が **[Subject]** に使われている全メッセージを自動的に *baseball* という名前のメールボックスに配信することができます。

- **情報マネージャと組み合わせた配信ルールの例**

  配信ルールを設定して、“ requests ” という語句が含まれる全メールを宛先のユーザアカウントにある *Requests* という特定のメールボックスに転送することができます。次に、共通の応答を送信し、それらのメールを社内の営業担当者に転送するように、情報マネージャを設定することができます。(情報マネージャの詳細については、89 ページの「情報マネージャの使用」を参照してください)。

IMail Server は、配信ルールを *rules.ima* という名前のテキスト ファイルに保存します。ルールがホストに適用される場合、ファイルは Imail Server のインストールディレクトリ直下に保存されます。ルールがメーリング リストに適用される場合、ファイルはメーリング リストのディレクトリに保存されます。ルールが個々のユーザに適用される場合、ファイルはユーザ

のディレクトリに保存されます。配信ルール ファイルが処理される順序の詳細については、77 ページの「メールの処理順序」を参照してください。

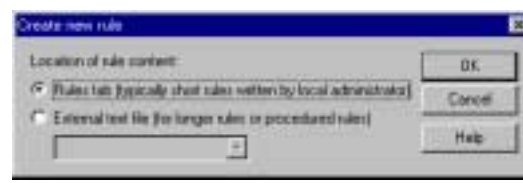
rules.ima ファイルは、他のディレクトリにコピーすることができます。例えば、あるユーザ用に配信ルールを作成し、その *rules.ima* ファイルを他のユーザのディレクトリにコピーして、それらのユーザに同じルールを適用することができます。詳細については、70 ページの「ユーザ設定の他のユーザへの適用」を参照してください。

個々のユーザ用に作成した配信ルールは、そのユーザの「*Main*」メールボックスにのみ適用されます。

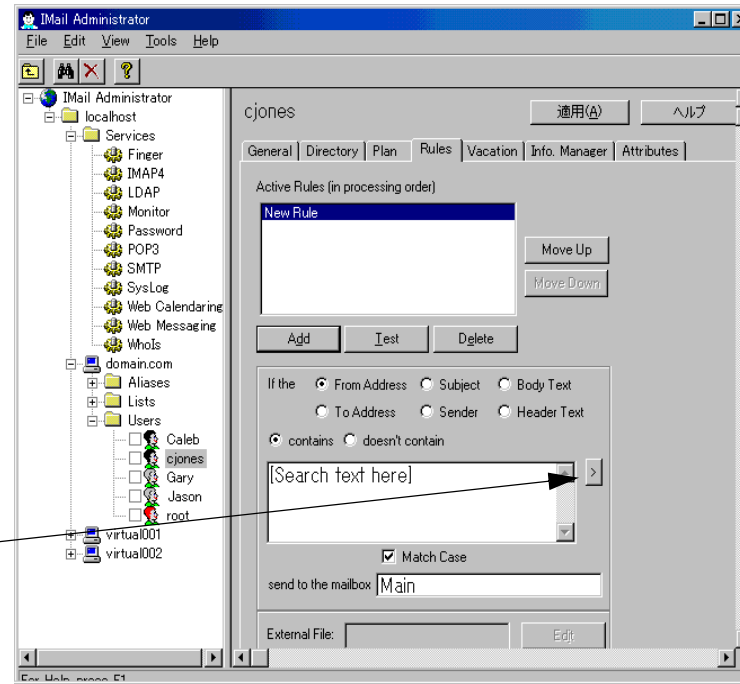
Web Messaging のメニュー ページで “ [配信ルール] ” を選択することによって、ユーザが Web Messaging を使って、自分の配信ルールを作成することができます。ただし、77 ページの「メールの処理順序」で説明したように、システム管理者が作成したドメイン全体のルールの方が、個々のユーザのルールよりも優先されます。

配信ルールを作成するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、次のいずれかを実行します。
   - メール ホスト用の配信ルールを作成するには、ホストを選択します。
   - ユーザ用の配信ルールを作成するには、ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。
   - メーリング リスト用の配信ルールを作成するには、ホストおよび **[Lists]** フォルダを展開し、メーリング リストを選択します。
2. 右側のパネルで **[Rules]** タブをクリックします。次に、**[OK]** ボタンをクリックします。次のダイアログ ボックスが表示されます。



3. “ **[Rules tab...]** ” オプションを選択されたままにしておいて、**[OK]** をクリックします。**[Rules]** タブは、次のようになります。



ポップアップの [search] オプション メニュー

ルールには、**[Active Rules]** リストの下に「*New Rule*」という名前が付けられています。“ **[contains]** ” ボックスに入力されているデフォルトの文字列は、「*[Search text here]*」です。
なお、デフォルトのメールボックスは、「*Main*」です。

なお、配信ルールに名前を付けることはできません。なぜなら、配信ルールは、**[Active Rules]** リスト内での順序によってのみ識別されるからです。配信ルールを識別するには、いずれかのルールを選択して、検索文字列のテキスト ボックスに表示される内容を確認します。

4. “ **[If the]** ” の横にあるオプションから、検索したいエリア ([From Address]、[To Address]、[Subject]、[Sender]、[Body Text]、または [Header Text]) を選択します。

5. **[contains]** オプションを選択すると、検索文字列が含まれるメッセージが配信ルールによって検索されます。**[doesn’t contain]** オプションを選択すると、検索文字列が含まれないメッセージが検索されます。

6. デフォルトの検索文字列を置き換えるには、次のいずれかまたは複数の方法を使用します。
   - 検索したい文字列を入力する。例えば、「*jazz*」という単語を探したい場合は、次のように入力します。
     ```
     jazz
     ```
   - 85 ページの「文字パターン」の表に示されている検索式および限定記号を入力する。
   - ポップアップ メニューを使って、汎用の検索式を挿入し、その式を編集する。
   - メールのメッセージの中から目的の検索条件を満たす部分を貼り付ける。例えば、メッセージのヘッダから「`XMSMailPriority(High)`」という文字列をコピーして貼り付けることができます。これにより、優先順位の高いメッセージが検索されます。
7. **[Match Case]** オプションをオンにすると、検索文字列の大文字と小文字も区別されます。大文字と小文字を区別しない場合は、**[Match Case]** オプションをオフにします。
8. 次のいずれかを実行します。
   - ユーザ用の配信ルールを作成する場合は、“ **[send to the mailbox]** ” ボックスに、ルール基準に合致した時にメッセージが送信されるメールボックスの名前を入力します。入力されたメールボックスが存在しない場合、そのメールボックスが IMail Server システム上に作成されます。POP3 ユーザに対してこのメールボックスが表示されるのは、「*userid-newbox*」の形式を使って、このメールボックスにログオンした場合だけです。メッセージを破棄するには、「*NUL*」と入力します。
   - メーリング リスト用の配信ルールを作成する場合は、“ **[send to address]** ” ボックスに、ルール基準合致した時にメッセージが配信されるメールアドレスを入力します。メッセージを破棄するには、「*NUL*」と入力します。
   - ホスト用の配信ルールを作成する場合は、“ **[send to the mailbox]** ” ボックスに、ルール基準合致した時にメッセージが配信されるメールボックスの名前を入力します。メッセージを破棄するには、「*NUL*」と入力します。入力されたメールボックスが存在しない場合、その特定のユーザ アカウント用のメールボックスがユーザ ディレクトリ内に作成されます。POP3 ユーザに対してこのメールボックスが表示されるのは、「*userid-newbox*」の形式を使って、このメールボックスにログオンした場合だけです。
9. **[適用]** をクリックして、ルールを保存します。

画面を更新すると、これまで「*New Rule*」として識別されていた配信ルールが、「*Rule#*」の形式で表示され、**[Active Rules]** リスト内での順序が識別

されます。この新しい順序に従って、既存の配信ルールの名前もすべて変更されます。

配信ルールは、ルール基準を満たすものが見つかるまで、上から下へ順番に処理されます。したがって、ルールは、目的の処理順序に合った順番に並べる必要があります。配信ルールをリスト内で上や下に移動させるには、移動させるルールを選択し、リストの右側にある **[Move up]** または **[Move down]** ボタンをクリックします。処理順序の詳細については、77 ページの「メールの処理順序」を参照してください。

配信ルールをテストするには、次の手順に従います。

1. **[Active Rules]** リストからテストしたいルールを選択します。
2. **[Test]** ボタンをクリックします。
   “ [Rule Tester] ” ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **[Test Text]** ボックスに、目的の検索基準を満たすメッセージを入力します。
4. 右上部にある **[Test]** ボタンをクリックします。

   配信ルールが目的の機能を実行した場合は、**[Test Result]** ボックスに「**TRUE**」と表示されます。

   配信ルールが目的の機能を実行しなかった場合は、**[Test Result]** ボックスに「False」と表示されます。配信ルールを編集して、もう一度テストします。ルールが長いまたは複雑な場合は、ルールをいくつかの部分に分けて、その部分ごとにテストすることを推奨します。
5. [**OK**] をクリックして、ルールを保存します。

注記

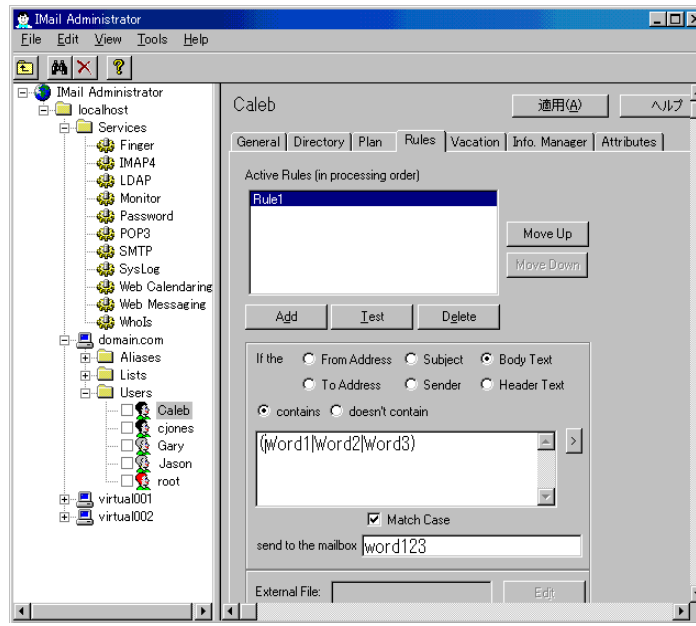
変更を取り消すことはできません。ミスした場合は、保存したルールを削除して、もう一度最初からやり直してください。

配信ルールを作成すると、作成されたルールは *rules.ima* ファイル内に次の形式で入力されます。

message_area　condition　search_text　quantifier :　mailbox_name

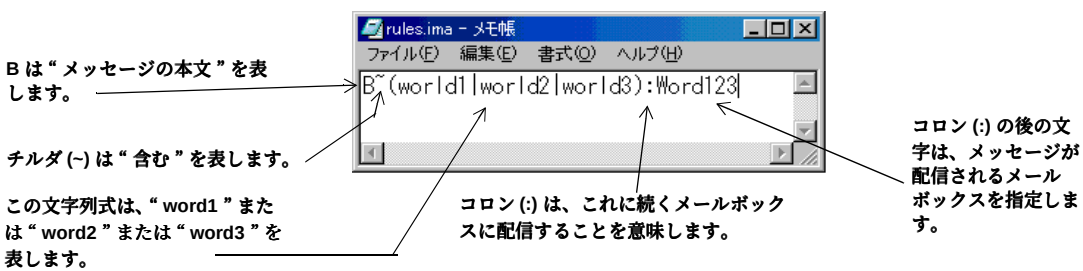
「message_area」は、メッセージの対象領域、「condition」は条件、「search_text」は検索文字列、「quantifier」は限定記号、「mailbox_name」は宛先メールボックス、もしくはメールアドレスをそれぞれ表します。ここで、「*search_text*」には、リテラル文字列と 85 ページに示されている文字パターンの組合わせを使用できます。

例えば、次のダイアログ ボックスに表示されているようなルールがあるとします。



このルールは、メッセージの本文で、「*word1*」または「*word2*」または「*word3*」という文字列を検索します。これらの単語の中の少なくとも 1 つが見つかった場合、メッセージは「*words123*」メールボックスに配信されます。

上のルールは、*rules.ima* ファイル内では次のようになります。



配信ルールの各要素の式を次の表に示します。

メッセージの対象領域

メッセージの対象領域	式
From:	F
Subject:	S
Sender:	N

メッセージの対象領域	式
To:	T
ヘッダ全体 (メッセージ本文より前にあるすべて)	H
メッセージの本文全体	B

条件

条件	式
含む	~
含まない	!~
等しい	=
等しくない	!=

文字パターン

文字パターン	式
任意の 1 文字	.
括弧内の縦棒 (|) で区切られた値のいずれか。 縦棒は “ または ” を表します。	(this|that|other)
英数字の任意の 1 文字 (a-z、A-Z、0-9)	¥w
英数字以外の任意の 1 文字	¥W
数字の任意の 1 文字 (0-9)	¥d
数字以外の任意の 1 文字	¥D
任意の空白 (スペース、タブ、復帰のいずれか、またはこれらの組合わせ)	¥s
空白以外の任意の文字	¥S
任意の区切り文字 (¥w または ¥s 以外の任意の文字)	¥p
区切り文字以外の任意の文字	¥P

限定記号

限定記号	式
0 以上	*
1 以上	+
100	{100}
少なくとも n1、ただし n2 以下 (ここで、n1 と n2 は数値)	{n1,n2}

注記

上で示されているように、ルールでは、次の文字は特別な意味を持っています。

```
{}()|*+,.:¥
```

これらの特殊文字のいずれかを検索文字列に使用したい場合は、その文字の前に ¥ 記号を記述します。例えば、プラス記号を検索するには、検索文字列に「¥+」と記述してください。

配信ルールの検索文字列を頻繁に更新し、広く配布したい場合は、その検索文字列を外部テキスト ファイルに保存することができます。こうすれば、テキスト ファイルを配るだけで済みます。外部テキスト ファイルの拡張子は *.rul* としてください。

例えば、管理者はこの方法を使って、既知のスパム メール送信者からのメールを見つけることができます。管理者は、*spam.rul* という名前のテキスト ファイルを作成します。管理者は、新しいスパム メール送信者のアドレスを発見するたびに、そのアドレスを *spam.rul* ファイルに追加します。*rules.ima* ファイルは、*spam.rul* という名前のテキスト ファイルを参照することができます。スパム メールを「*spambox*」メールボックスに送るには、*rules.ima* ファイル内に、次の行を含めます。

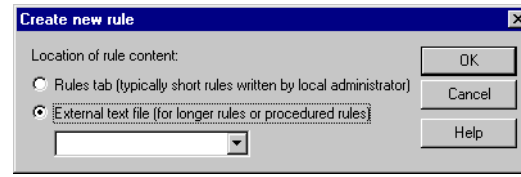
```
H~:spam:spambox
```

拡張子が *.rul* のファイル名の前には、コロン (:) が付いていることに注意してください。IMail Server は、*rules.ima* ファイルを読み込み、参照されている *spam.rul* ファイルを、*rules.ima* ファイルと同じ場所で検索します。

外部テキスト ファイルを参照する配信ルールを作成するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator を起動します。左側のパネルで、次のいずれかを実行します。
   - 仮想ホスト用の配信ルールを作成するには、ホストを選択します。
   - ユーザ用の配信ルールを作成するには、メール ホストおよび **[Users]** フォルダを展開し、ユーザを選択します。
   - メーリング リスト用の配信ルールを作成するには、メール ホストおよび **[Lists]** フォルダを展開し、リストを選択します。

2. 右側のパネルで、**[Rules]** タブをクリックします。**[Add]** ボタンをクリックします。



3. **[Create New Rule]** ダイアログ ボックスで、次のようにします。
   - **[External text file]** オプションを選択します。
   - 外部ファイルが既に存在する場合は、そのファイル名を入力します。例えば、参照したい *.rul* ファイルのファイル名が *rulefilename* である場合は、「`rulefilename`」を入力します。
   - 外部テキスト ファイルが存在しない場合は、*.rul* ファイルに付ける新しい固有の名前を入力します。拡張子 *rul* は、IMail Server が自動的に追加するので、入力しないでください。
   - **[OK]** をクリックします。

注記

外部ファイルは、そのルールを適用させるフォルダ直下に保存されます。

---

4. “ **[If the]** ”の横にあるオプションから、検索したい領域 ([From Address]、[To Address]、[Subject]、[Sender]、[Body Text]、または [Header Text]) を選択します。
5. **[contains]** オプションを選択すると、検索文字列が含まれるメッセージが配信ルールによって検索されます。**[doesn’t contain]** オプションを選択すると、検索文字列が含まれないメッセージが検索されます。
6. **[Match Case]** オプションをオンにすると、検索文字列の大文字と小文字も区別されます。大文字と小文字を区別しない場合は、**[Match Case]** オプションをオフにします。
7. 次のいずれかを実行します。
   - ユーザ用の配信ルールを作成する場合は、“ **[send to the mailbox]** ” ボックスに、ルール基準に合致した時にメッセージが送信されるユーザのメールボックスの名前を入力します。入力されたメールボックスが存在しない場合は、このユーザ用のメールボックスが IMail Server システム上に作成されます。POP3 ユーザに対してこのメールボックスが表示されるのは、「*userid-newbox*」の形式を使って、このメールボックスにログオンした場合だけです。「NUL」と入力して、メッセージを破棄することもできます。

- メーリング リスト用の配信ルールを作成する場合は、“ **[send to address]** ” ボックスに、ルール基準に合致した時にメッセージが送信されるメーリング リストの名前を入力します。メッセージを破棄するには、「*NUL*」と入力します。
- ホスト用の配信ルールを作成する場合は、“ **[send to the mailbox]** ” ボックスに、ルール基準に合致した時にメッセージが送信されるユーザ ID を入力します。メッセージを特定のメールボックスに送信したい場合は、「*ffarkle-news@company1.com*」のように、ユーザ ID に続けてハイフン (-) とメールボックス名を入力します。

  入力されたメールボックスが存在しない場合は、このユーザ用のメールボックスが IMail Server システム上に作成されます。POP3 ユーザに対してこのメールボックスが表示されるのは、「*userid-newbox*」の形式を使って、このメールボックスにログオンした場合だけです。

8. **[適用]** をクリックして、ルールを保存します。
9. テキスト エディタで *.rul* ファイルを開き、上の「ルールの構文」の節を参照しながら、検索文字列を作成します。

外部テキスト ファイルを参照する配信ルールをテキスト ボックスに表示させると、その背景色が灰色になっていて、**[Rules]** タブ内では、この検索文字列を編集できないことに注意してください。検索文字列を編集するには、**[Edit]** をクリックして、編集可能なダイアログ ボックスを開きます。

各配信ルールの長さは、4000 文字までに制限されます。

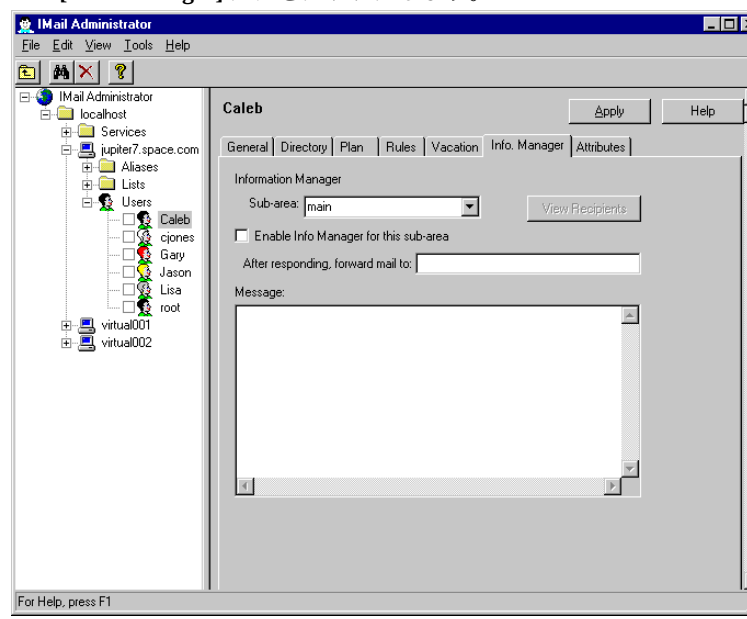
配信ルールは、メッセージの先頭の 32,000 バイトを検索します。メッセージに含まれる文字列が 32,000 バイト未満で、添付ファイルがある場合は、その添付ファイルも文字列とみなしてスキャンします。稀ではありますが、特に検索文字列が数文字しかないような場合、添付ファイル内で、実際は一致していない文字列が、検索文字列と一致したとして検索される可能性があります。

情報マネージャを使用すると、会社への電子メールによる一般的な情報に関する問合わせを自動的に処理することができます。例えば、その問い合わせを受理はしたが、現在休暇中のため処理ができないというような内容の応答をしたい場合に利用できます。

1

メール アカウントの自動応答を作成するには、次の手順に従います。

1. 情報マネージャ用のアカウントとして使用するユーザ　アカウントをセットアップしていない場合は、次の手順に従って、情報マネージャ用のアカウントを作成します。
   - ホスト名を展開し、**[Users]** フォルダを選択します。
   - **[Add User]** ボタンをクリックし、アカウント名を入力します。
   - **[OK]** をクリックします。アカウントが作成され、パスワードにはデフォルトとして、*password* が設定されます。
2. 情報マネージャ用にセットアップしたユーザ　アカウントを選択し、**[Info. Manager]** タブをクリックします。



3. すべての問合わせに対して 1 種類の自動応答だけを設定する場合は、**[Sub-area]** に、「*main*」(「*Main*」メールボックス) と入力します。

   (複数の種類の自動応答を使用したい場合は、下の「情報マネージャ アカウントでサブエリアを使用する」を参照してください。)

4. **[Enable Info Manager for this sub-area]** オプションをオンにします。
5. 自動応答を送信した後で、メッセージを転送するには、**[After responding, forward mail to]**ボックスに転送先アドレスを入力します。メッセージを破棄しても大丈夫な場合は、このボックスに「NUL」と入力します。詳細については、下の「転送に関する注意事項」を参照してください。

注記

IMail Server は、自動応答を送信した後で、着信メッセージを必ずどこかに転送しなければならないので注意してください。転送先アドレスが入力されていないと、IMail Server は、手順 3 で指定した **[Sub-area]**にメッセージを転送します。指定されたサブエリアがメールボックスではない場合、IMail は、メッセージを配信するために、それをメールボックスに変換します。

6. **[Message]** ボックスに、このアカウント宛てのメールへの応答を入力します。

   1 行目は、自動応答の Subject 行になります。この行の長さは、半角 80 文字未満 (日本語の場合は、エンコードされ文字長が長くなるため、約 25 文字程度) でなければなりません。
7. **[適用]** をクリックして、メッセージを保存し、情報マネージャを使用可能にします。

情報マネージャ用のアカウントを複数の特定のサブエリアに分割して、問合わせへの応答としてより詳細な情報を自動的に送信することができます。例えば、次の 3 種類の自動応答を使用することができます。

- 1 番目の応答には、製品、価格、注文情報がリストされています。
- 2 番目の応答には、会社が一般向けに提供しているクラスについて説明されています。
- 3 番目の応答では、会社のニュースが送信されます。

情報マネージャ用のアカウントで複数の特定の応答を使用するには、「*Info*」アカウントのサブエリア (例えば、「*Sales*」、「*Classes*」、「*News*」) を作成して、送信者がより詳細な情報を入手できるようにします。例えば、「*Info@ipswitch.com*」にメールを送信すると、IMail Server は、「*Info*」アカウントのサブエリアについて説明している、あらかじめ用意された次のような応答を返します。

Ipswitch へお問い合わせ頂きましてありがとうございました。弊社の製品に関する情報については、*Info-sales@ipswitch.com* 宛てに電子メールを送信してください。クラスに関する情報については、*Info-classes@ipswitch.com* 宛てに電子メールを送信してください。Ipswitch の最新ニュースについては、*Info-news@ipswitch.com* 宛てに電子メールを送信してください。

送信者は、「*Info-sales@ipswitch.com*」にメッセージを送信して、製品と価格に関する自動応答メッセージを受け取ったり、「*Info-classes@ipswitch.com*」にメッセージを送信して、会社が提供するクラスに関する情報を受け取ることができます。

情報マネージャで使用できるサブエリアの数には制限がありません。サブエリアは、転送先アドレスが指定されている限り、ディスク スペースを消費しません。ただし、転送先アドレスに何も入力されていない場合、IMail Server は、サブエリアをメールボックスに変換します。これは、前に述べた次の仕様によるものです。つまり、IMail Server は、自動応答を送信した後で、着信メッセージをどこかに転送しなければなりません。

分割した情報マネージャ用のメール アカウントを使用するには、次の手順に従います。

1. 情報マネージャで使用するアカウントをまだ作成していない場合は、次の手順に従います。
   - ホスト名とその **[Users]** フォルダを展開します。
   - **[Add User]**をクリックし、特殊なアカウントの名前を入力します。
   - **[OK]** をクリックします。アカウントが作成され、パスワードにはデフォルトとして、*password* が設定されます。
2. 左側のパネルで、新しいアカウントが選択されていることを確認し、**[Info.Manager]** タブをクリックします。89 ページに示されているタブが表示されます。
3. 応答メッセージが適用される新しいサブエリアを作成するか、または既存のサブエリアを選択します。
4. **[Enable info manager for this sub-area]** オプションをオンにします。
5. 自動応答が送信された後で、メッセージを転送するには、転送先アドレスを**[After responding, forward mail to]**ボックスに入力します。メッセージを破棄しても絶対に大丈夫な場合は、このボックスに「NUL」と入力します。詳細については、下の「転送に関する注意事項」を参照してください。

注記

IMail Server は、自動応答を送信した後で、着信メッセージを必ずどこかに (この " どこか " は NUL も含む) 転送しなければなりません。転送先アドレスが入力されていないと、IMail Server は、手順 3 で指定した **[Sub-area]** にメッセージを転送します。指定されたサブエリアがメールボックスではない場合、IMail Server は、メッセージを配信するために、それをメールボックスに変換します。

6. このアカウントのこのサブエリアにメールを送信するすべてのユーザに返すメッセージを入力します。

   1 行目は、自動応答の Subject 行になります。この行の長さは、半角 80 文字未満（日本語の場合は約 25 文字程度）でなければなりません。

7. **[適用]** をクリックして、メッセージを保存し、情報マネージャを使用可能にします。

転送先アドレスの記述方法には、次のオプションがあります。

- 同じホスト上の他のユーザ ID にコピーを転送するには、単にユーザ ID だけ (例えば、*userid@domain.com* ではなく *userid*) を入力することができます。
- 他のメール システム上のユーザにコピーを転送するには、「*userid@domain.com*」の形式で、完全な電子メールアドレスを入力する必要があります。
- 同じホスト上にあるアカウントの特定のメールボックスにコピーを転送するには、ユーザ ID に続けてハイフン (-) とメールボックス名を入力することができます。例えば、次のように入力します。

  ```
  dave-music@domain.com
  ```

自動応答を使用禁止にしたいが、再び使用可能にできるようにメッセージを保存するには、**[Enable info manager for this sub-area]** オプションをオフにします。

自動応答メッセージは、アカウントのフォルダに、拡張子が *.inf* のファイルとして保存されます。複数のアカウントに同じ情報マネージャ情報をセットアップしたい場合は、1 つのアカウントにその情報をセットアップして、そのアカウントのディレクトリにある *.inf* ファイルを他のアカウントのディレクトリにコピーします。

情報マネージャ用のアカウントにメールが送信されると、その送信者のメール アドレスは、そのアカウントのディレクトリにある、拡張子が *.snt* のファイルにリストされます。このファイルの内容を表示するには、**[View Recipients]** ボタンをクリックします。

バルク メールに自動応答するのを防ぐために、元のメッセージに [Precedence: bulk] というヘッダが含まれている場合、情報マネージャのメッセージは返されません。また、リスト サーバ メーリングリストに自動応答するのを防ぐために、元のメッセージのメール アドレス内に「imailsrv」が含まれている場合も、情報マネージャのメッセージは返されません。

注記

情報マネージャが使用可能になっているアカウントからは、メールを送信しないようにしてください。なぜなら、メッセージの受信者がそのメッセージに返信すると、そのアカウントから自動応答を受信することになるからです。

情報マネージャと配信ルールは、併用できます。例えば、配信ルールを使って、着信メッセージから特定の文字列を検索し、自動応答をセットアップした情報マネージャ用のアカウントに、そのメールを配信することができます。情報マネージャと配信ルールの併用の例については、79 ページの「例」を参照してください。

情報マネージャの処理は、配信ルールの後、Vacation 処理の前に行われます。処理順序の詳細については、77 ページの「メールの処理順序」を参照してください。

第 6 章 : Web Messaging

本章では、Web Messaging サーバの設定および使用方法、および Web Messaging インターフェースをカスタマイズする方法について説明します。

注記

Web Messaging の電子メール機能を使用するには、Web Messaging サーバを起動し、本章で説明されているように、ユーザによる Web アクセスが使用可能になっている必要があります。

Web Messaging

Web Messaging を使用すると、ユーザは、Web ブラウザからメールを送受信できるようになります。ユーザは、任意のマシン上の任意のブラウザから Web Messaging にログオンし、すべてのメール機能を実行することができます。この場合、ローカルの PC やワークステーションに、電子メール クライアント ソフトウェアやブラウザのプラグインをインストールする必要はありません。

Web Messaging は、IMAP4 メール クライアントと同じような動作をします。つまり、ユーザのメールはすべて、メール サーバに蓄えられます。ユーザが Web Messaging でメールボックスを作成すると、そのメールボックスは、メール サーバ上に作成されます。

Web Messaging は、メッセージング機能に加えて、以下の機能を提供します。

IMail Server のリモート管理

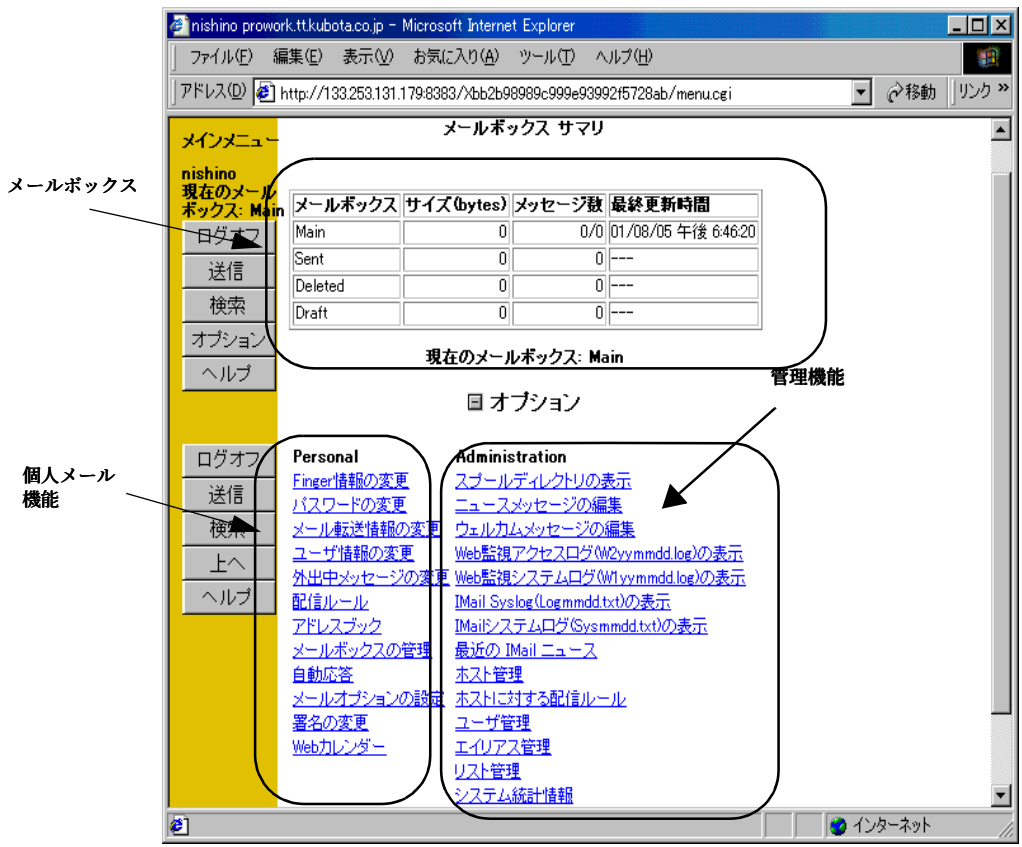
Web Messaging には、拡張メニューがあります。この拡張メニューを使用して、管理者は、リモートでメール サーバ、ユーザ アカウント、エイリアス、メーリング リスト、および配信ルールの監視および管理を行うことができます。これらの管理作業用のメニュー項目は、ユーザが必要な権限を持っている場合にのみ表示されます。管理機能の詳細については、112 ページの「リモート管理機能の使用」を参照してください。

インターフェースのカスタマイズ

Web Messaging ページの生成に使用される HTML テンプレートなどのファイルを編集することによって、Web Messaging インターフェースをカスタマイズすることができます。複数のメール ホストがある場合は、ホストごとに異なる Web Messaging インターフェースを使用することができます。インターフェースをカスタマイズする方法については、265 ページの「付録 G:Web Messaging のカスタマイズ」を参照してください。

オンライン広告

Web Messaging は、すべての Web Messaging ページにおいて、オンライン広告の表示もサポートしています。この機能は、自社のメール サーバ上のオンライン広告のスペースを販売するインターネット サービス プロバイダ (ISP) やその他のメール サービス プロバイダにとって、とても便利な機能です。また、この機能は、イントラネット上で「お知らせ」を表示するためにも使用できます。オンライン広告の詳細については、115 ページの「オンライン広告の表示」を参照してください。



Web Messaging

Web Messaging を使用すると、ユーザは、インターネットに接続された任意のシステム上の Web ブラウザから、電子メールのすべての機能の実行と、個人的な情報の変更を行うことができます。

ユーザは、IMail のユーザ ID とパスワードを使用して、Web Messaging サーバに接続したり、自分のメール アカウントにログオンすることができます。

Web Messaging を起動するには、ブラウザのアドレス フィールドに、Web サーバのアドレスを入力します。この Web アドレスは、IMail Server のホスト名と Web サーバのポート番号から構成されています。デフォルトのポート番号は 8383 です。例えば、IMail Server のホスト名が「mailhost1.ipswitch.com」である場合、Web アドレスは次のようになります。
`http://mailhost1.ipswitch.com:8383`

ポート番号の設定については、101 ページの「Web Messaging サーバの Web アドレス」を参照してください。

ユーザは、このアドレスに、Web ブラウザでブックマークを付ける (「お気に入り」として保存) ことができます。

一度ログオンすると、ユーザは、ブラウザで電子メールの送受信および削除、返信、添付ファイルの送受信、および印刷を行うことができます。

更にユーザは、メール転送の設定、Vacation メッセージの入力、メールのフォルダ (メールボックス) への分類、アドレス ブックの管理、LDAP および Finger 情報の管理、そして受信メールの配信ルールの設定を行うことができます。

ユーザがパスワードを変更できるようにすることもできます。ユーザは、メール サマリの表示やメール機能の動作を好みに応じて設定することもできます。

ユーザは、Web Messaging からログ アウトしなくても、IMail Web カレンダーに直接リンクすることができるようになりました。

Web Messaging ページから、オンライン ヘルプを参照することができます。

システム管理者への注意事項

- ユーザのブラウザから 12 分間操作が行われないと、Web Messaging サーバとの接続がタイムアウトになる場合があるので注意してください。12 分間操作が行われなかったセッションは、最大 50 ユーザまで保持できるロールオーバー キューに入れられます。
- ロールオーバー キューが使用されているので、ユーザは **[ログオフ]** をクリックして、Web Messaging セッションからログオフしたことを確認する必要があります。このログオフ機能は、ユーザをロールオーバー キューと標準接続テーブルから削除します。

ユーザがメッセージを作成している途中にサーバがタイムアウトになった場合、ユーザは、**[送信]** ボタンをクリックするまで気づくことはありません。この場合、ログオン画面が再び表示され、作成中だったメッセージは失われます。長いメッセージを作成する場合、頻繁に保存するようお勧めします。
[メールの送信] ページの **[保存]** ボタンをクリックして、**[Draft]** メールボックスにメッセージを保存します。その後、**[Draft]** メールボックスからメッセージを再度開き、編集を続けることができます。

- Web Messaging は POP3 メール クライアントではないので、ユーザが POP3 で各クライアント上に作成したメールボックスは表示されません。IMAP4 クライアントや Web Messaging は、サーバ上にメールボックスを作成するので、これらで作成したメールボックスは表示されます。

Web 経由で電子メールにアクセスするには、フレーム表示の可能なブラウザが必要です。古いバージョンのブラウザには、フレームをサポートしていないものがあります。Web Messaging は、Microsoft Internet Explorer 4.0 以上、Netscape Navigator 4.0 以上、または HTML4.0 に準拠したその他のブラウザをサポートするように設計されています。

IMail Server は、**[IMail のトップ ディレクトリ]**¥Web ディレクトリにあるファイルを使用して、Web Messaging インターフェースを生成します。現在使用しているバージョンに応じて、以下の通り Web テンプレートをインストールすることが可能です。

V4.1J からのアップグレード

バージョン 4.1J をお使いの場合は、以下のようにインストールを行ってください。

1. P.25 の IMail Server のアップグレードを参照して、IMail Server V7 のインストールを行います。
2. オンライン広告用のファイル (ads.txt/Mailtail.txt)、「本日のニュース」のメッセージファイル (Mailnews.txt)、ウェルカムメッセージ (Mailwelc.txt)、などの既存ファイルを編集している場合は、それらのファイルを以下の手順にしたがって Web ディレクトリにコピーしてください。

   2-1 バックアップより以下のファイルを¥Imail¥Web へコピーしてください。

   "ads.txt"、"Mailwelc.txt"、"Mailnews.txt"

2-2 バックアップより"Mailtail.txt"ファイルの名前を "Mailtail.html" と変更してから ¥IMail¥Web へコピーしてください。

2-3 ファイルのコピー後、WebMessaging のサービスを再起動してください。

V6J からのアップグレード

バージョン 6.0J の Web Messaging がインストールされている場合は、IMail Server のインストール中に、次のいずれかのオプションを選択できます。

WebMessaging のカスタマイズを行っている場合や、オンライン広告用のファイル (ads.txt)、「本日のニュース」のメッセージファイル (MailNews.txt) など既存ファイルを編集している場合は、特に気をつけて選択してください。

1. Yes, overwrite existing files with the new files.
   Web Messaging に関するすべてのファイル (.html, .gif, .cgi, .cap, .wav) は、¥Web¥ ディレクトリに上書きされます。
2. No, keep existing files; put new required files in .¥New
   Web Messaging に関するすべてのファイルは、¥Web¥New¥ ディレクトリに保存されます。
3. No, do not install new Web Messaging files.
   Web Messaging に関するファイルはインストールされません。

ファイルの編集を行っていない場合は、1 を選択することをお勧めします。また、編集を行っている場合は、¥Web¥ ディレクトリのファイルを一時ディレクトリに保存して 1 を選ぶか、2 を選んで必要なファイルのみを ¥Web¥New¥ からコピーするかのいずれかを選択することをお勧めします。

注記

既存のファイル (例えば、オンライン広告用の ads.txt ファイル、または「本日のニュース」のメッセージ (MailNews.txt)) を保存しておく場合は、それらのファイルを一時ディレクトリにコピーし、新しいバージョンのファイルを ¥new ディレクトリから ¥Web ディレクトリに移動しておきます。その後、新しいバージョンのファイルを以前のバージョンのファイルに置き換えてください(上記V4.1Jからのアップグレードの2をご参照ください)。

注記

V6.0 で作成された広告ファイル (ads.txt) は、ファイル内に余分なスペースが入っている場合があります。この場合、テキストエディタでファイルを開き、余分なスペースを削除し、ファイルの最後は改行して保存しなおしたものを V7.0 でご利用ください。

今後も使用するカスタマイズされたテンプレートがある場合は、IMail Server v7.0 で使用するために、『テンプレートファイルのアップグレード方法 (upgrade6to7.txt)』の該当する手順を参照して古いテンプレートをアップグレードしてください。この資料は、HTML 形式 (webtemp7.html) でも利用することができます。これらのファイルはインストール CD 内の「¥¥Web_Files¥Japan¥webtemplate¥web6to7」に格納されています。

Web Messaging

Web Messaging は、電子メールが通信の途中で改ざんされたり、本来の受信者以外のユーザに読まれたりすることを防ぐために、いくつかの手段を提供しています。

セキュリティ モード

Secure Sockets Layer (SSL) 接続と暗号化を使用可能にします。SSL 機能は、電子メール メッセージを保護するための最も安全な方法を提供します。なお、SSL を使用すると、サーバの処理時間が増大します。

ログオン時のユーザ ID とパスワード

ユーザは、ユーザ ID とパスワードを使用して、ログオンする必要があります。これにより、ユーザのメールを保護するための基本的なセキュリティのレベルが確保されます。

ログオフ

ブラウザでメールを読んだ後にログオフすると、ユーザは、ブラウザの **[戻る]** ボタンをクリックして、メール メッセージに戻ることはできなくなります。ただし、ブラウザの履歴リストをクリックすると、メッセージが再表示される場合があります。この場合、ユーザはいずれのメール機能も実行することはできません。
ブラウザを共用しているような場合は、念のためにブラウザの履歴をクリアすることをお勧めします。

[ページをキャッシュしない]

共用の端末や他の誰かのコンピュータからカレンダーにログオンしている場合、このオプションを選択して、表示したページがブラウザに保存 (キャッシュ) されないように設定することができます。Microsoft Internet Explorer では、この “ expire page views ” コマンドを無視するよう設定できるため、このオプションを選択してもページが保存される可能性があります。

Web Messaging

Web Messaging をセットアップするには、次の作業を行う必要があります。

- Web Messaging サーバの Web アドレスを決定する。
- サーバとユーザのブラウザ間のセキュリティで保護された通信を提供するために、SSL 機能をセットアップする。
- Web Messaging サーバを設定する。
- Web Messaging へのユーザ アクセスを設定する。

Web Messaging Web

特に指定しない限り、Web Messaging サーバには、IMail Server のホストと Web サーバのポート番号から構成される Web アドレスが割り当てられています。デフォルトのポート番号は、8383 です。例えば、メール ホストの名前が「mailhost1.ipswitch.com」の場合、Web アドレスは次のようになります。

```
http://mailhost1.ipswitch.com:8383
```

メール ユーザは、このアドレスをブラウザのアドレス フィールドに入力することによって、Web Messaging を起動することができます。

同じホスト上で、他の Web サーバを実行していない場合は、ポート番号を HTTP (Web) サーバのポートとして通常使用される 80 に設定することができます。この場合、ユーザは、Web アドレスにポート番号を指定する必要がなくなります。例えば、「http://mailhost1.ipswitch.com」と入力することができます。

ファイアウォールによっては、8383 ポートがブロックされる場合があります。このような場合は、ポート番号を変更する必要があります。ポート番号を変更するには、105 ページの「Web サーバの設定」を参照してください。

IMail Server システム上に複数のメール ホストをセットアップしている場合の Web アドレスは、メール ホストが独自の IP アドレスを持っているか、仮想 IP アドレスを使用しているかに応じて異なります。(仮想ホストについては、35 ページの「第 3 章 : 設定」を参照してください。)

各ホストが独自の IP アドレスを持っている場合は、ホストごとに別々の Web アドレスを持つことになります。例えば、次のホストをセットアップしているとします。

```
mail.marcel.com              156.21.50.78
mail.magnolia.net            156.21.50.80
```

それぞれのホストの Web アドレスは、それぞれ次のようになります。

```
mail.marcel.com:8383
mail.magnolia.net:8383
```

メール ホストが IP アドレスを持っていない場合、Web アドレスは、一次メール ホストの Web アドレスと同じになります。例えば、次のホストをセットアップしているとします。

```
mail.marcel.com              156.21.50.78
mail.magnolia.net            <$virtual IP>
```

これら両方のホストの Web アドレスは、次のようになります。

```
mail.marcel.com:8383
```

仮想ホスト「*mail.magnolia.net*」も、独自のユーザを持つことができますが、このホスト上のユーザは、ログイン ユーザ ID を入力するときに、ホストを明らかにする必要があります。例えば、仮想ホスト「*mail.magnolia.net*」上のユーザ「*fred*」は、ログオン ページを開くために、「*mail.marcel.com:8383*」という Web アドレスを入力し、ユーザ ID として「*fred@mail.magnolia.net*」と入力することになります。

Secure Sockets Layer (SSL)

ブラウザとサーバ間の通信において Secure Sockets Layer (SSL) を使用するように、Web Messaging サーバをセットアップすることができます。SSL は、通信データを暗号化して、本来の受信者だけがその内容を読むことができるようにします。

SSL は、クライアントとサーバの認証に “ 証明書 ” を使用し、通信の暗号化と復号化にパブリック / プライベート キーの “ ペア ” を使用するプロトコルです。主要なブラウザでは、SSL が使用可能です。

証明書

証明書は、クライアント (ブラウザ) とサーバの身元を確認するために使用されます。

Web Messaging の SSL は、次の証明書を使って実行することができます。

- **自己署名型の SSL 証明書**

  サーバは、クライアントに対して自分の身元を証明しますが、その証明書は、認証局によって発行されたものではありません。Netscape や Internet Explorer を使ってログオンすると、「この証明書は信頼されていません」という内容の警告メッセージが表示されます。ユーザは、この警告を了解すれば、ログオン操作を継続することができます。

- **認証局によって発行された SSL 証明書**

  この証明書は、クライアントに対して、証明書に記述されている身元が正しいことを保証します。この証明書は日本ベリサイン（http://www.verisign.co.jp）などから購入することができます。

IMail Server に付属している SSL ユーティリティ（IMail SSL Configuration Utility）は、IMail の自己署名型の証明書、および認証局に送信できる証明書の署名要求ファイル（CSR) を生成することができます。

パブリック / プライベート キーによる暗号化

ブラウザが Web Messaging サーバに接続すると、サーバは、自分の証明書とパブリック キーをブラウザに送信します。ブラウザは、そのパブリック キーを使って、通信内容を暗号化できるようになります。プライベート キーは、Web サーバだけが持っていて、ブラウザから送信されてきた通信内容を復号化するために使用されます。

Cipher

サーバとクライアントでは、データの暗号化に使用される“ cipher ”と呼ばれる暗号化方式のアルゴリズムが一致している必要があります。cipher は、SSL をサーバにセットアップするときに選択します。

SSL のサーバへのセットアップ

この節では､SSLをサーバ上にセットアップする手順の概要を説明します。

- まず最初に、IMail SSL 設定ユーティリティを使用して、SSL の証明書とパブリック / プライベート キーのペアをセットアップします。
- 次に、IMail Administrator で、ローカル ホストの **[Web Messaging Advanced]** タブから SSL を使用可能にします。

1. SSL キーのレジストリ パスを設定します。

   [スタート] メニューから、**[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail SSL Configuration Utility]** の順に選択します。
   [File] メニューから **[Registry Path]** を選択します。パスとして、「`software¥ipswitch¥imail¥ssl`」と入力します。

2. 証明書およびパブリック キーを生成します｡サーバには自己署名型の証明書を使用することを推奨します。

   (1) [Certificate] をクリックし、"Using certificate generation utility" の [Continue] をクリックします。

   (2) "IMail Certificate Creation" ダイアログボックスが表示されます。

   ・Certificate file, Key file は、英数字 8 文字以内で入力してください。スペースは使えません。

・Host Name, Adnin's email, Password は必須項目です。

(3) [OK] を押すと以下のファイルが作成されます。

・自己署名型の証明書 (.crt)

・プライベートキーファイル (.key)

・認証局への申請用の証明書署名要求ファイル (.csr)

認証局の署名付きの証明書を使用する場合は、次の手順にてデジタル ID を設定して下さい。

(1) "IMail SSLConfigration Utility" で作成した証明書ファイル (.crt) を削除。

(2) 認証局より送られてきたデジタル ID の証明書部分のみを、テキストエディタにコピーして、(1) で削除したファイル名で保存する。

3. SSL を設定し、暗号化に使用する cipher を選択します。

   [SSL Configuration] をクリックし、ウィザードを完了させます。

4. サーバがクライアントを認証するようにする場合は、その認証方法を設定します。

   [Client Authentication] をクリックします。**[Client Authentication]** オプションはオフにすることを推奨します。

5. Web Messaging サーバの SSL 機能を使用可能にします。
   IMail Administrator で、**[Services]** フォルダを選択して **Web Messaging** を選択し、**[Advanced]** タブをクリックして [SSL] オプションを表示します。**[Enable SSL]** オプションをオンにします。SSL オプションについては、105 ページの「Web サーバの設定」を参照してください。

ブラウザからの SSL 接続の開始

SSL 接続を使って Web Messaging を開くには、次の手順に従います。

1. ブラウザで、Web Messaging サーバのアドレス
   (例えば、「`mail.domain1.com:8383`」) を入力します。Messaging のログオン ページが表示されます。

2. ログオン ページ (または他の任意の Web Messaging ページ) で、
   [セキュアモードに入る] を選択します。

3. ブラウザは通常、“ セキュリティ モード ” を使用するかどうかをユーザに確認します。**[OK]** をクリックします。自己署名型の証明書を使用した場合、ブラウザは、この証明書は “ 信頼 ” されていないという警告も表示することがあります。もう一度 **[OK]** をクリックして、先に進みます。

以上により、ブラウザは、セキュリティ モードになりました。任意の Web Messaging ページで、ページ下部をもう一度クリックすれば、通常モードに戻ることができます。

Web アドレスから SSL を有効にする

ブラウザで Web サーバのアドレスを入力するときに、そのアドレスで (HTTP の代わりに) HTTPS を使用すると、ブラウザは、SSL を使ってサーバに接続しようとします。例えば、アドレスは次のようになります。

```
https://mail.domain1.com:8384
```

SSL

SSL の使用中に問題が生じる場合は、以下の点を確認してください。

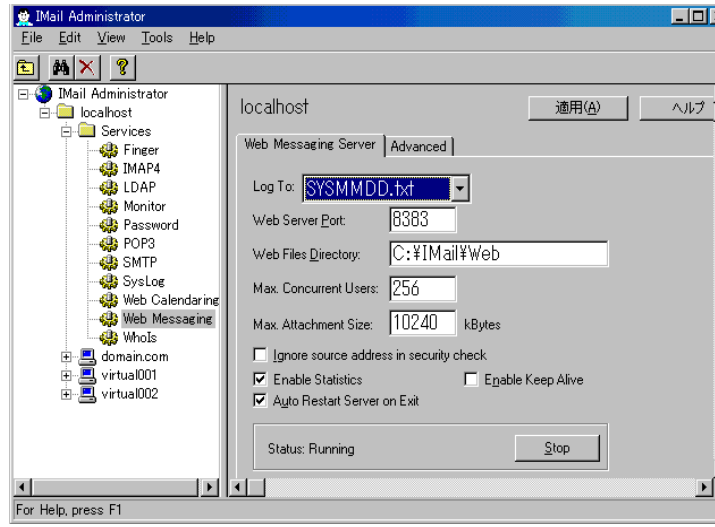
- IWebMsg.ini の値が EnableSSL=1 である (ForceSSL=1 は存在する場合もしない場合もある)。
- IWebMsg.ini が適切な Windows ディレクトリにある (通常は %WINDOWS% の ¥Winnt)。
- IWebMsg.ini の変更後に、アプリケーションが変更を認識するには、サービスを停止して再起動する必要がある。
- [Allow Service to interact with Desktop] を選択し、認証ファイルやキーファイルが見つからないため初期化に失敗したなどの、SSL.DLL からのメッセージがないかどうか確認する。SSL.DLL の初期化に失敗すると、Web Messaging を継続することはできません。
- アプリケーションが動作していて SSL が動作していない場合、唯一考えられる原因は EnableSSL です。
- SSL2.CGI により、セキュリティ モードから非セキュリティ モードに切り替えることが可能。SSL がオフになっていると、セキュリティ モードと非セキュリティ モードを切り替えることができないため、SSL2.CGI は解析されません。
- プライベート キー ファイルが、SSL ユーティリティで指定したパスワードにより保護されている。このパスワードは、SSL サーバのロード中にキー ファイルを復号化するのに必要です。このパスワードはレジストリに保管されており、SSL サーバのロード処理中に自動的に取り出されます。
  IMail Server のレジストリ パスは、通常、SOFTWARE¥Ipswitch¥imail¥ssl です。このレジストリ パスは正確でなければなりません。このパスに誤りがある場合、エラー メッセージが生成され、ファイルは作成されません。

Web

ユーザは、デフォルトのポート番号および Web ディレクトリの変更、SSL オプションの設定、その他の Web サーバ オプションの設定、および Web サーバの開始と停止を行うことができます。(これらのオプションの中には、*[winnt]* フォルダにある *iwebmsg.ini* ファイルからも設定できるものが

あります。)

1. 左側のパネルで **[Services]** フォルダを選択して、**Web Messaging** をクリックします。それから、**[Web Messaging Server]** タブをクリックします。



2. Web サーバのプロパティを変更します。Web サーバのポートおよび SSL の詳細については、前の節を参照してください。これらのプロパティを変換した場合は、Web Messaging サーバを停止し、再起動する必要があります。

   [Log to]

   これは、Web サーバの情報が保管される場所です。以下のいずれかを選択できます。

SYSMMDD.txt	No Log
App Log	Log Server

   [Web Server Port]

   このポートは、Web Messaging サーバが動作するローカル システム上のポートです。

   注記

   非標準のポート番号 (つまり、80 以外) を使用する場合、ユーザはログオン用の Web アドレスで、そのポートを指定する必要があります。詳細については、101 ページの「Web Messaging サーバの Web アドレス」を参照してください。

   [Web Files Directory]

このディレクトリには、Web Messaging の Web ページの作成に使用されるファイルが格納されます。

[Max Concurrent Users]

これは、Web Messaging に同時にログインできるユーザの最大数です。このオプションは、256 〜 1,024 ユーザに設定する必要があります。

注記

Web Messaging に同時にアクセスできるユーザを、256 人以下や 1,024 人以上に制限することはできません。この範囲外の値をこのオプションに入力すると、表示はされますが機能はしません。この場合、2 と設定されていても、システムが実際に許容する同時アクセスの数は 256 です。

[Max Attachment Size]

この設定は、添付ファイルの最大サイズ (KB 単位) を制御するために使用します。

[Ignore source address in security check]

Web サーバは、ページを表示する前に、そのページの表示を要求した IP アドレスが、ユーザがログオンした IP アドレスと一致するかどうかをチェックします。このオプションを選択すると、Web サーバは、この IP アドレスのチェックを行わなくなります。これは、一部のファイアウォール、および動的 IP アドレスを使用するサービス プロバイダにとって、便利な機能です。

[Enable Keep Alive]

Web Messaging サーバとブラウザ間で持続した TCP 接続を確立したい場合は、このオプションをオンにします (なお、このオプションはブラウザがこの接続方法をサポートしている場合にのみ有効です)。このオプションをオフにすると、サーバは、1 回の応答ごとに TCP 接続を終了します。

通常、ブラウザと Web サーバ間の接続は、1 回の要求 / 応答のペアが処理されている間だけ有効になります。**[Enable Keep Alive]** オプションをオンにすると、接続要求ごとのオーバヘッドを削減し、パフォーマンスを改善することができますが、同時に、新しい接続を確立するなどの他のプロセスで利用可能なリソースが減少することを意味します。

注記

[Enable Keep Alive] オプションと **[Enable Thread Pooling]** オプションの両方をオンにすると、サーバで許可される同時接続数が、**[Max Work Threads]** の設定値と等しくなります。つまり、許可される接続数を制限することになります。

[Enable Statistics]

システムに関する統計情報を使用可能にして、Web Messaging で表示することができます。

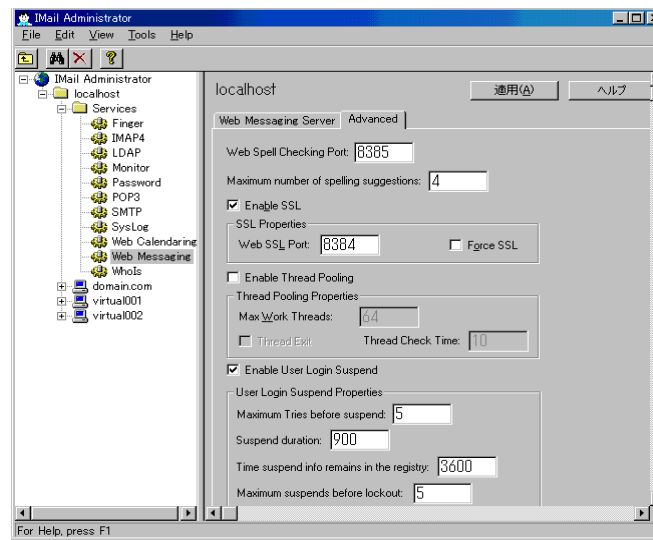
[Auto Restart Server on Exit]

このオプションを選択すると、**[適用]** をクリックしたとき (サーバを停止して再起動することが必要な変更を加えた場合)、Web サーバが自動的に停止して再起動します。このオプションを選択することをお勧めします。

3. **[適用]** をクリックして変更を保存します。
4. **[Stop]** をクリックして、Web Messaging サーバを停止します。**[Stop]** ボタンが **[Start]** ボタンに切り替わります。**[Start]** をクリックしてサーバを再起動します。

[Advanced]

[Advanced] タブで、スペル チェック、SSL、スレッド プール、およびユーザのログインを一時停止するプロパティを設定できます。



1. 必要ならば、スペル チェック オプションを設定します。

[Web Spell Checking Port]

スペル チェック機能の java アプレットを実行するポート。デフォルトでは 8385 ですが、変更することができます。

[Maximum Number of Spelling Suggestions]

スペルミスのある単語に対して提案するスペルの最大数。

注記

スペルチェック機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

2. 必要ならば、SSL オプションを設定します。SSL については、102 ページの「Secure Sockets Layer (SSL) の使用」を参照してください。

   [Enable SSL]

   Web Messaging クライアントとの通信を暗号化するために、Secure Sockets Layer (SSL) ユーティリティを使用している場合は、このオプションをオンにします。Web Messaging サーバは、通常の接続に加えて、SSL 接続も受け入れるようになります。

   [Web SSL Port]

   Web Messaging が SSL ベースの HTTP 要求に使用する TCP ポート。**[Web Server Port]** で、Web Messaging のデフォルトの番号 (8383) を使用した場合は、この TCP ポート番号に、任意の番号を割り当てることができます。デフォルトの番号は、8384 です。SSL の標準ポート番号は、443 です。

   注記

   非標準のポート番号 (つまり、443 以外) を使用する場合、ユーザはログオン用の Web アドレスで、その SSL ポート番号を指定する必要があります。

   [Force SSL]

   Web Messaging サーバが、SSL ベースの HTTP 接続だけを受け入れるようにしたい場合は、このオプションをオンにします。通常の HTTP 接続は、受け入れられなくなります。

3. 必要ならば、スレッド プール オプションを設定します。

   Web Messaging は、この TCP ポートに対する (ブラウザからの)HTTP 要求を扱うためのスレッド プールを作成することができます。スレッド プールを使用すると、スレッドの生成と終了によって発生するオーバヘッドを削減できます。しかし、プール内のスレッドがすべて使用中の場合 (つまり、サーバの負荷が大きい場合) は、追加の HTTP 要求は拒否されます。また、Web Messaging が使用するために予約されているスレッドは、同じサーバ上で実行されている他のプロセスからは利用できません。使用する Web Messaging サーバにおいて、スレッド プールの作成が適切であるかどうかを判断する必要があります。

   [Enable Thread Pooling]

   クライアントからの HTTP 要求を扱うためのスレッド プールを作成するには、このオプションをオンにします。Web Messaging は、要求を処理するために、最大で **[Max Work Threads]** で指定されている数

のスレッド (デフォルトは、64) を作成します。このオプションをオフにすると、Web Messaging は要求ごとにスレッドを作成し、要求の処理が終了すると、このスレッドを破棄します。

[Max Work Threads]

この設定は、Web サーバへのロードを制限するために使用します。この値は、Web Messaging で同時に使用できるワーク スレッドの最大数を設定します。HTTP 要求がワーク スレッドを必要とするにもかかわらず、すでにスレッドの最大数に到達している場合、Web Messaging は " server not available " というメッセージを戻します。このオプションでは、**[Enable Thread Pooling]** をオンにする必要があります。デフォルト値は 64 です。

[Thread Exit]

HTTP 要求が完全に処理された後で、Web Messaging が、スレッドを終了するようにしたい場合は、このオプションをオンにします。Web Messaging は、次のポーリング時間に、終了したスレッドの代替スレッドを生成します。このポーリング時間は、**[Thread Check Time]** で設定します。Web Messaging が、スレッドを開いたままにし、別の要求で利用できるようにするには、このオプションをオフにします。このオプションを使用できるのは、**[Enable Thread Pooling]** オプションがオンになっている場合だけです。

[Thread Check Time]

この値は、Web Messaging が、スレッド プールの状態をチェックする間隔 (秒数) です。現在のワーク スレッドの数が、**[Max Work Threads]** で指定された数よりも少ない場合は、新しいスレッドが生成されます。
このオプションを使用できるのは、**[Enable Thread Pooling]** オプションがオンになっている場合だけです。デフォルトの値は、10 秒です。

4. 必要ならば、ユーザの一時停止オプションを設定します。

[Enable User Login Suspend]

このオプションをオンにすると、ユーザ アカウントが自動的に一時停止されます。これは、ユーザのアカウントと管理者がリストする基準が適合する場合にのみ生じます。

[Maximum Tries before Suspend]

アカウントが一時停止されるまでに、ユーザがログインを試行できる回数。

[Suspend duration]

アカウントを一時停止する期間 (秒)。

[Time suspend info remains in the registry]

一時停止されたアカウントに関する情報を保存しておく期間。

[Maximun suspends before lockout]

システムがロック アウトするまでにユーザがログインを試行できる回数。

5. **[適用]** をクリックして、変更を保存します。

Web Messaging

Web Messaging は、IMail Administrator で割り当てられたユーザのアクセス権に基づくメール機能へのアクセスを提供します。
アクセス権は、個人のメール アカウントごとに割り当てることも、メールホスト上の全ユーザを対象にグローバルに割り当てることもできます。
各ユーザに対して、以下のアクセス権のいくつか、またはすべてを割り当てることができます。

[Allow Web access]

ユーザが、Web Messaging を介して各自のアカウントにアクセスすることを許可します。

[Host administrator]

ユーザが、各自のメール ホスト上で、ユーザおよびエイリアスの追加、修正、または削除、および配信ルールの設定を行うことを許可します。**[Allow Web access]** も同時に選択されている必要があります。

[List administrator]

ユーザが、各自のメール ホスト上の IMail メーリング リストをリモート管理することを許可します。**[Allow Web access]** も同時に選択されている必要があります。

[IMail system administrator]

ユーザが、全メール ホストの管理、spool ディレクトリおよびログの表示、配信ルールの設定、Web Messaging にログオンしたときに表示されるメッセージの編集を行うことを許可します。このユーザが **[Host administrator]** アクセス権も与えられている場合は、すべてのメールホスト上で、ユーザ アカウントおよびエイリアスの管理を行うことができます。
このユーザが **[List administrator]** アクセス権を与えられている場合は、すべてのメール ホスト上で、メーリング リストの管理を行うことができます。**[Allow Web access]** も同時に選択されている必要があります。

個人のユーザ メール アカウントに、Web Messaging へのアクセスを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator で、メール ホストを選択し、**[Users]** フォルダを選択します。ユーザ ID を選択すると、そのユーザのプロパティが、右側のパネルに表示されます。
2. **[Allow Web access]** を選択し、**[適用]** をクリックして、変更を適用します。

3. 必要ならば、**[Host administrator]**、**[List administrator]**、または **[IMail system administrator]** オプションをクリックして、各オプションに関連する拡張メニュー オプションへのアクセスを許可します。**[適用]** をクリックして、変更を保存します。

作成するすべての新しいユーザに、**[Allow Web access]** をデフォルトとして設定するには、次の手順に従います。

1. メール ホストを選択し、**[Users]** フォルダを選択します。
2. **[Allow Web access]** を選択し、**[Apply]** をクリックして、変更を適用します。

すべての既存のユーザに、**[Allow Web access]** をデフォルトとして設定するには、次の手順に従います。

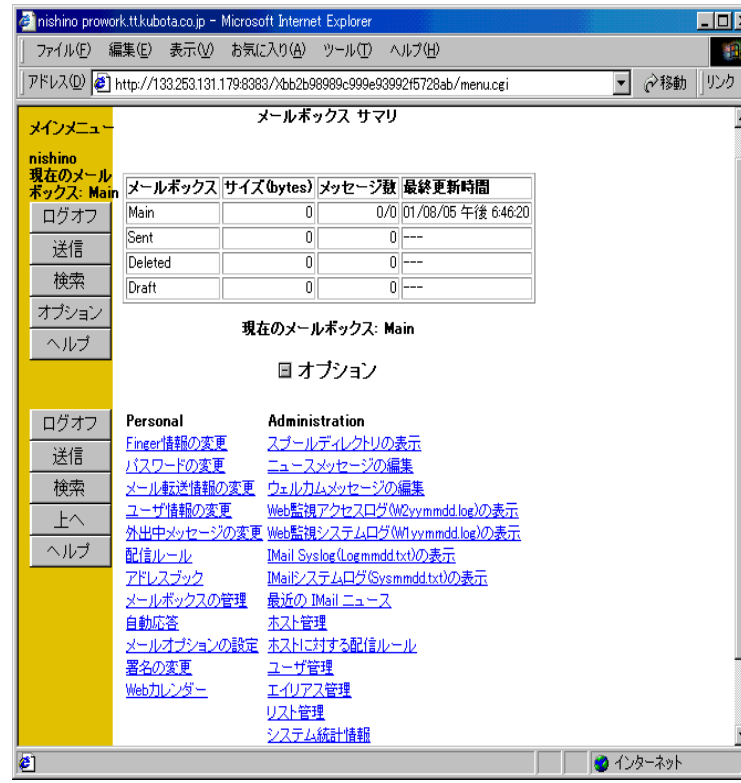
1. メール ホストを選択し、**[Users]** フォルダを選択すると、デフォルトの設定が、右側のパネルに表示されます。
2. **[Global User Changes]** を選択します。
3. **[Allow Web access]** を選択し、**[Change ALL accounts]** をクリックして、変更を適用します。

SSL

ドメイン全体で SSL を使用可能にするには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator で、**["localhost"]** フォルダを開き、ホストを選択します。**[Web Options]** タブを選択します。
2. **[Enable SSL]** の隣のチェック ボックスを選択します。
3. **[適用]** をクリックして、変更を保存します。

メール アカウントに、[Host administrator]、[List administrator]、または [IMail system administrator] アクセス権が与えられている場合は、リモート管理機能を含む拡張メニューを使用できます。アクセス権の設定方法については、「Web Messaging 機能へのアクセスの設定」を参照してください。



以下の節では、リモート管理機能の概要を説明します。これらの機能の詳細については、Web Messaging のオンライン ヘルプを参照してください。

[Host administrator] アクセス権が与えられている場合は、メール ホストに対して、ユーザ メール アカウントの追加、修正、削除を行うことができます。
[Host administrator] と [IMail system administrator] アクセス権が与えられている場合は、任意のメール ホストに対して、ユーザ メール アカウントの追加、修正、および削除を行うことができます。

[Host administrator] アクセス権が与えられている場合は、メール ホストに対して、エイリアスの追加、修正、および削除を行うことができます。
[Host administrator] と [IMail system administrator] アクセス権が与えられている場合は、任意のメール ホストに対して、エイリアスの追加、修正、お

よび削除を行うことができます。エイリアスのプロパティの説明については、55 ページの「第 4 章 : ユーザ メール アカウント」を参照してください。

[List administrator] アクセス権が与えられている場合は、メール ホストに対して、リストの追加、修正、削除、および調整を行うことができます。[List administrator] と [IMail system administrator] アクセス権が与えられている場合は、任意のメール ホストに対して、リストの追加、修正、削除、および調整を行うことができます。

Spool

[IMail system administrator] アクセス権が与えられている場合は、以下の IMail Server のログ ファイルを表示できます。

- [Web 監視アクセスログ]*(W2yymmdd.log)* ― Web Messaging サーバおよび IMonitor Web サーバへのアクセスが表示されます。
- [Web 監視システムログ]*(W1yymmdd.log)* ―メール サーバおよび IMonitor Web サーバへのログオン、およびサービスの状態が表示されます。
- [IMail システムログ] *(Sysmmdd.txt)* ― IMail Server のメール送受信のトランザクションが表示されます。これは *sysmmdd.txt* の内容と同じです。
- [IMail Syslog] *(Logmmdd.txt)* ―各サーバ (例えば、POP3 や SMTP) で使用可能となった時点のトランザクションおよびデバックに関する情報が記録されます。これはシステム ログ サービス ファイルである *logmmddn.txt* の内容と同じです。
- [スプールディレクトリ] ― IMail Server で処理中のすべてのメール送受信のトランザクションが表示されます。
  [スプールディレクトリの表示] をクリックすると、スプール情報が表示されます。

ログ ファイルおよび spool ディレクトリの詳細については、付録 E「Spool、キュー、ログ ファイル」を参照してください。

[IMail system administrator] アクセス権が与えられている場合は、仮想 (メール) ホストの追加、修正、および削除を行うことができます。

[List administrator]アクセス権が与えられている場合は、リスト サーバ メーリング リストの作成、修正、および削除を行うことができます。

[Host administrator] アクセス権が与えられている場合は、メール ホストの配信ルールを設定することができます。
更に、[IMail system administrator] アクセス権も与えられている場合は、任意のメール ホストの配信ルールを設定することができます。一般のユーザは、自分のメール アカウントの配信ルールを設定することができます。

[IMail system administrator] アクセス権を与えられている場合は、Web Messaging のインターフェースから直接「本日のニュース」や「ウェルカム メッセージ」の追加、削除、および修正を行うことができます。

Web Messaging では、広告を表示することができます。広告はハイパーリンクを含むHTMLテキストまたはグラフィックで構成され、Web Messagingの各ページの最上部に表示されます。時分割で複数の広告を表示することもできます。[Ad Support] が使用可能になっている場合、Web Messagingは、最大 1,000 件の広告をそれぞれ 30 秒ずつのサイクルで表示します。

広告サポートを使用可能にするには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator で、メール ホストを選択し、**[Web Messaging Ad Support]** タブを選択します。
2. **[Enable Ad Support]** オプションをオンにします。

   広告サポートを使用不可にするには、このボックスがオフになっていることを確認してください。

オンライン広告を作成または編集するには、次の手順に従います。

1. **[Web Messaging Ad Support]** タブで、**[Add]** をクリックします。テキスト ボックスに、広告用の HTML コードとテキストを入力し、**[OK]** をクリックします。その後 **[適用]** ボタンをクリックします。

   広告には、最大 512 文字の HTML コードを含めることができます。*gif* ファイルを表示したり、他の Web アドレス (URL) へのリンクを設

定することもできます。

広告の大きさがフレーム サイズを超える場合は、フレームの右側にスクロール バーが表示されます。これによって、広告をフル サイズの Web ページにすることができます。

このインターフェースを使用する広告を最大 1,000 件まで入力することができます。Web Messaging ページに表示される広告は、30 秒ごとに切り換わります。

広告は、*ads.txt* ファイルに保存されます。IMail Administrator 以外で編集する場合、エディタで ads.txt ファイルを開いて広告の入力や編集を行うことができます。*ads.txt* に保存できる広告数には制限はありません。

トレイラ メッセージを作成または編集するには、次の手順に従います。

1. トレイラ (脚注) メッセージは、[Ad Support] が使用可能になっている場合、画面の最下部のフレームに表示されます。
2. メール ホストを選択し、**[Web Messaging Content]** タブをクリックします。
   このメッセージは、<HTML><BODY> で始まり、</BODY></HTML> で終わる完全なHTMLページでなければなりません。トレイラ メッセージは、*mailtail.html* ファイルに保存されます。
3. トレイラ メッセージを使用して、Java のスクロール テキスト領域内で最新ニュースを印刷することもできます。

上記の手順以外にも、テキスト エディタで *mailtail.html* ディレクトリを編集する方法もあります。*mailtail.html* ファイルは、*C:¥Imail¥Web*（デフォルト値）にあります。

Web Messaging

Web Messaging は、電子メール機能、個人のメール アカウント情報、およびリモート管理機能へのアクセスを提供する Web ページから構成されています。

265 ページの「付録 G:Web Messaging のカスタマイズ」では、Web Messaging インターフェースをカスタマイズする方法について説明しています。複数のメール ホストがある場合は、メール ホストごとに異なる Web Messaging インターフェースを持つことができます。

7 :IMail Web

本章では、**IMail Web カレンダー**の設定と使い方について説明します。管理者は、ユーザが Web カレンダーを使用する前に、本章で説明する手順に従ってユーザが **IMail Web カレンダー**にアクセスできるようにしておく必要があります。

IMail Web

IMail Web カレンダーを使用して、スケジュールの管理、アポイントの設定、Web ブラウザを使用した通知メールの送信などを行うことができます。ユーザは、Microsoft Internet Explorer バージョン 4.0 以上または Netscape バージョン 4.0 以上を使用して、Web カレンダーにログオンし、カレンダー機能を使用することができます。

さまざまなスケジューリング機能に加え、IMail Web カレンダーには次のような機能があります。

イベントに関する通知メール

イベントの予定がある場合、ユーザはそのイベントを忘れないように通知メールを受け取ることができます。イベントの前後に最大 2 通の通知メールを送信することができます。

依頼メール

イベントの予定を立てるだけでなく、他の人に対してそのイベントに出席依頼することも同じページで行うことができます。出席依頼が別の IMail Web カレンダーのユーザに送信されると、受け取ったユーザは Web カレンダーの [依頼リスト] ページにアクセスして、招待状を受け取って自分のカレンダーに予定を追加するか、拒否するかのいずれかを行うことができます。

検索機能

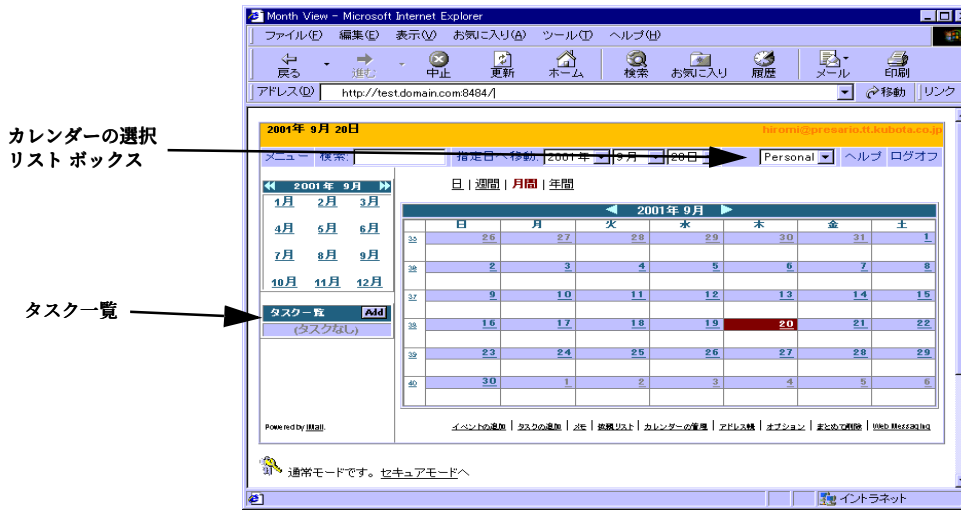
IMail Web カレンダーの検索機能には、日付や時間がわからなくても、名前でカレンダーを検索できる機能があります。検索結果には、タスク、メモ、およびイベントが含まれます。

カスタマイズ可能なインターフェース

Web カレンダーのページを作成するために使用した HTML テンプレートや他のファイルを編集することにより、Web カレンダーのインターフェースを独自のものにカスタマイズすることができます。複数のメール ホストが存在する場合、メール ホストごとに独自の Web カレンダーインターフェースを作成できます。インターフェースをカスタマイズする方法の詳細については、283 ページの「付録 H:Web カレンダーのカスタマイズ」を参照してください。

オンライン広告

IMail Web カレンダーは、すべての Web カレンダーページにおいて、広告の表示もサポートしています。この機能は、インターネット サービス プロバイダ (ISP) や、メール サーバ上でオンラインの広告スペースを販売する他のメール サービス プロバイダにとって大変便利です。この機能を使用して、イントラネット上で「お知らせ」を表示するためにも使用できます。オンライン広告の詳細については、130 ページの「オンライン広告の表示」を参照してください。



IMail Web

Web カレンダーは、タスクの管理、イベントの設定、通知メール (日付、時間、イベントの内容を含む) の受信などの機能を持った Web インターフェースを提供します。

ユーザは、IMail ユーザ ID とパスワードを使用して Web カレンダー サーバに接続し、メール アカウントにログオンすることができます。

Web カレンダーにアクセスするには、ブラウザのアドレス フィールドに Web サーバのアドレスを入力します。この Web アドレスは、IMail Server のホスト名と Web サーバのポート番号で構成されています。デフォルトのポート番号は 8484 です。例えば、ユーザの IMail Server のメール ホストが host1.ipswitch.com という名前の場合、Web アドレスは次のようになります。

http://host1.ipswitch.com:8484

ユーザは、このアドレスに、Web ブラウザでブックマークを付ける (「お気に入り」として保存) ことができます。

一度ログインするだけで、イベントの設定、メモの記録、イベントに関する通知メールの受信、依頼メールの送信などを行うことができます。

カレンダーのデフォルト設定を好みに応じて変更することもできます。ここでは、オープニング ビューだけでなく、カレンダーの表示設定を変更することもできます。

Web カレンダーからログ アウトしなくても、直接 IMail Web Messaging にアクセスすることができます。

Web カレンダーのページから、オンライン ヘルプを使用することができます。

Web カレンダーサーバは、IMail Server のソフトウェアをインストールしたホストにインストールされます。

カレンダーにアクセスするには、フレーム表示の可能なブラウザが必要です。古いバージョンのブラウザは、フレームをサポートしていないものがあります。IMail Web カレンダーは、Microsoft Internet Explorer バージョン 4 以上、Netscape Navigator バージョン 4 以上、および HTML 3 に準拠したその他のブラウザをサポートするように設計されています。

IMail Web

IMail Web カレンダーは、伝送中に通信内容が改ざんされたり、本来の受信者以外のユーザに読まれることがないよう、いくつかの手段を提供しています。

セキュリティ モード

Secure Sockets Layer (SSL) の暗号化の使用。SSL 機能は、スケジュール情報を保護する上で最も安全な方法を提供します。SSL を使用すると、サーバでの処理時間は増大します。

ログオン時のユーザ ID とパスワード

ユーザは、ユーザ ID とパスワードを使用してログオンする必要があります。これにより、ユーザのカレンダーを保護するための基本的なセキュリティ レベルが確保されます。

ログオフ

ブラウザからカレンダーにアクセスした後にログオフすると、ブラウザの **[戻る]** ボタンをクリックしても、カレンダーに戻ることはできません。ただし、履歴リストをクリックすると、カレンダーが再表示される場合があります。この場合、ユーザはいずれのカレンダー機能も実行することは

できません。ブラウザを共用しているような場合は、念のためにブラウザの履歴をクリアすることをお勧めします。

IMail Web カレンダーへのログオン時に、ログオン ページで以下のオプションのいずれか、または両方を選択することができます。

[ページをキャッシュしない]

共用の端末や他の誰かのコンピュータからカレンダーにログオンしている場合、このオプションを選択して、表示したページがブラウザに保存 (キャッシュ) されないように設定することができます。Microsoft Internet Explorer では、この " expire page views " コマンドを無視するよう設定できるため、このオプションを選択してもページが保存される可能性があります。

IMail Web

IMail Web カレンダーをセットアップするには、次の作業を行う必要があります。

- Web カレンダーサーバの Web アドレスを決定する。
- サーバとユーザのブラウザ間のセキュリティで保護された通信を提供するために、SSL 機能をセットアップする。
- Web カレンダーへのユーザ アクセスを設定する。

IMail Web Web

IMail Web カレンダーサーバには、デフォルトで IMail Server のホスト名と Web サーバのポート番号で構成される Web アドレスが割り当てられています。デフォルトのポート番号は 8484 です。メール ホストの名前が host1.ipswitch.com の場合、Web アドレスは次のようになります。

`http://host1.ipswitch.com:8484`

IMail Web カレンダーを起動するには、ブラウザのアドレス フィールドに Web アドレスを入力します。

同じホスト上で別の Web サーバが稼働していない場合は、ポート番号を標準の HTTP (Web) サーバ ポート 80 を設定することができます。この場合、Web アドレスを使用してポートを指定する必要はありません。

例えば、`http://host1.ipswitch.com` と入力することができます。

ファイアウォールによっては、8484 ポートがブロックされる場合があります。このような場合は、ポート番号を変更する必要があります。

IMail Server システム上に複数のメール ホストをセットアップしている場合の Web アドレスは、メール ホストが独自の IP アドレスを持っているか、

仮想IPアドレスを使用しているかに応じて異なります(仮想ホストの詳細については、35 ページの「第 3 章 : 設定」を参照してください)。

各ホストが独自の IP アドレス持っている場合は、ホストごとに別々の Web アドレスを持つことになります。
例えば、次のホストをセットアップしているとします。

```
mail.marcel.com              156.21.50.78
mail.magnolia.net            156.21.50.80
```

それぞれのホストの Web アドレスは、それぞれ次のようになります。

```
mail.marcel.com:8484
mail.magnolia.net:8484
```

メール ホストが IP アドレスを持っていない場合、Web アドレスは、一次メール ホストの Web アドレスと同じになります。
例えば、次のホストをセットアップしているとします。

```
mail.marcel.com              156.21.50.78
mail.magnolia.net            <$virtual IP>
```

これら両方のホストの Web アドレスは、次のようになります。

```
mail.marcel.com:8484
```

ホスト *mail.magnolia.net* も、独自のユーザを持つことができますが、このホスト上のユーザは、ログオン ユーザ ID を入力するときに、ホストを明らかにする必要があります。例えば、*mail.magnolia.net* 上のユーザ fred は、ログオン ページを開くために *mail.marcel.com:8484* という Web アドレスを入力し、ユーザ ID として *fred@mail.magnolia.net* と入力 . します。

Secure Sockets Layer (SSL)

ブラウザとサーバ間の通信において Secure Sockets Layer (SSL) を使用するように、Web カレンダーサーバをセットアップすることができます。SSL は、通信データを暗号化して、本来の受信者だけがその内容を読むことができるようにします。

SSL は、クライアントとサーバの認証に “ 証明書 ” を使用し、通信の暗号化や復号化にパブリック / プライベート キーの “ ペア ” を使用するプロトコルです。主要なブラウザはすべて SSL をサポートしています。

証明書

証明書は、クライアント (ブラウザ) とサーバの身元を確認するために使用されます。

Web カレンダーのSSLは、次の証明書を使用して実行することができます。

- 自己署名型の SSL 証明書

  サーバは、クライアントに対して自分の身元を証明しますが、その証明書は認証局によって発行されたものではありません。Netscape や Internet Explorer を使用して IMail Web カレンダーにログオンすると、「この証明書は信頼されていません」という内容の警告メッセージが

表示されます。ユーザは、この警告を了解すれば、ログオン操作を継続することができます。

- 認証局によって発行された SSL 証明書

  この証明書は、クライアントに対して、証明書に記述されている身元が正しいことを保証します。
  この証明書は、日本ベリサイン社 (http://www.verisign.co.jp) などから購入することができます。

IMail Server に付属している SSL ユーティリティ (IMail SSL Configuration Utility) は、IMail の自己署名型の証明書、および認証局に送信できる証明書の署名要求ファイル (CSR) を生成することができます。

パブリック / プライベート キーによる暗号化

ブラウザが Web カレンダーサーバに接続すると、サーバは、自分の証明書とパブリック キーをブラウザに送信します。ブラウザは、そのパブリック キーを使用して、通信内容を暗号化できるようになります。プライベート キーは、Web サーバだけが持っていて、ブラウザから送信されてきた通信内容を復号化するためのに使用されます。

Ciphers

サーバとクライアントでは、データの暗号化に使用される“ Cipher ”と呼ばれる暗号化方式のアルゴリズムが一致している必要があります。Cipher は、SSL をサーバにセットアップするときに選択します。

SSL に関する詳細については、http://home.netscape.com/security/techbriefs/ssl.html を参照してください。

SSL のサーバへのセットアップ

この節では、SSLをサーバ上にセットアップする手順の概要を説明します。

- まず最初に、IMail SSL 設定ユーティリティを使用して、SSL の証明書とパブリック / プライベート キーのペアをセットアップします。
- 次に、IMail Administrator で SSL を使用可能にします。
  [Services]フォルダを開き、**[Web Calendaring]**をクリックすると、**[Web Calendaring Server]** タブから SSL を使用可能にします。

SSL のサーバへのセットアップ

この節では、SSLをサーバ上にセットアップする手順の概要を説明します。

- まず最初に、IMail SSL 設定ユーティリティを使用して、SSL の証明書とパブリック / プライベート キーのペアをセットアップします。
- 次に、IMail Administrator で、ローカル ホストの
  [Web Messaging Advanced] タブから SSL を使用可能にします。

1. SSL キーのレジストリ パスを設定します。

[スタート] メニューから、**[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail SSL Configuration Utility]** の順に選択します。
[File] メニューから **[Registry Path]** を選択します。パスとして、「software¥ipswitch¥imail¥ssl」と入力します。

2. 証明書およびパブリック キーを生成します。サーバには自己署名型の証明書を使用することを推奨します。

   (1) [Certificate] をクリックし、"Using certificate generation utility" の [Continue] をクリックします。

   (2) "IMail Certificate Creation" ダイアログボックスが表示されます。

   ・Certificate file, Key file は、英数字 8 文字以内で入力してください。スペースは使えません。

   ・Host Name, Adnin's email, Password は必須項目です。

   (3) [OK] を押すと以下のファイルが作成されます。

   ・自己署名型の証明書 (.crt)

   ・プライベートキーファイル (.key)

   ・認証局への申請用の証明書署名要求ファイル (.csr)

   認証局の署名付きの証明書を使用する場合は、次の手順にてデジタル ID を設定して下さい。

   (1) "IMail SSLConfigration Utility" で作成した証明書ファイル (.crt) を削除。

   (2) 認証局より送られてきたデジタル ID の証明書部分のみを、テキストエディタにコピーして、(1) で削除したファイル名で保存する。

3. SSL を設定し、暗号化に使用する cipher を選択します。

   [SSL Configuration] をクリックし、ウィザードを完了させます。

4. サーバがクライアントを認証するようにする場合は、その認証方法を設定します。

   [Client Authentication] をクリックします。**[Client Authentication]** オプションはオフにすることを推奨します。

   めします。

5. Web カレンダーサーバの SSL 機能を使用可能にします。
   IMail Administrator で、**[Services]** フォルダを開いて **[Web Calendaring]** をクリックし、**[Web Calendaring Server]** タブを選択して [SSL] オプションを表示します。**[Enable SSL]** オプションをオンにします。

SSL

SSL 接続を使用して Web カレンダーを開くには、次の手順に従います。

1. ブラウザに、Web カレンダーサーバのアドレス (例えば、`mail.domain1.com:8484`) を入力します。Web カレンダーのログオン ページが表示されます。
2. ログオン ページ (または、他の任意の Web カレンダーページ) で、**[セキュアモード]** を選択します。
3. ブラウザは通常、" セキュリティ モード " を使用するかどうかをユーザに確認します。**[OK]** をクリックします。自己署名型の証明書を使用した場合、ブラウザは、この証明書は " 信頼 " されていないという警告も表示することがあります。もう一度 **[OK]** をクリックして、先に進みます。

以上により、ブラウザは、セキュリティ モードになりました。任意の Web カレンダーのページで、ページ下部をもう一度クリックすれば、通常モードに戻ることができます。

Web アドレスから SSL を有効にする

ブラウザで Web サーバのアドレスを入力するときに、そのアドレスで (HTTP の代わりに)HTTPS を使用すると、ブラウザは、SSL を使用してサーバに接続しようとします。例えば、アドレスは次のようになります。

```
https://mail.domain1.com:8485
```

SSL で別のポートを使用する

IMail Web カレンダー SSL の標準ポートは 8485 です。別のポート番号を使用する場合は、Web カレンダーがログオンに使用する Web アドレスでそのポート番号を指定する必要があります。例えば、SSL にポート 8585 を使用する場合、Web アドレスは次のようになります。

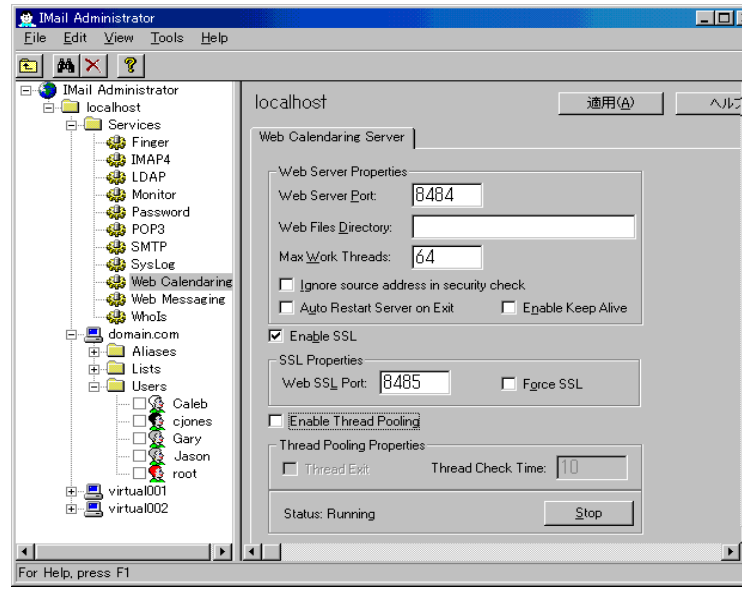
```
https://mail.domain1.com:8585
```

この Web アドレスにブックマークを付けると (「お気に入り」として保存)、ログオンするたびに入力する必要がなくなります。

Web

Web カレンダーサーバは、IMail Server のソフトウェアをインストールしたホストにインストールされます。デフォルトのポート番号や Web ディレクトリの変更、SSL オプションの設定、その他の Web サーバ オプションの設定、および Web サーバの開始や停止を行うことができます (これらのオプションの中には、[*winnt*] フォルダの *iwebcal.ini* ファイルからも設定できるものがあります)。

1. 左側のパネルで、**“ [Services] ”** フォルダを選択し、**[Web Calender]** をクリックします。**[Web Calender Server]** タブが表示されます。



2. Web カレンダーサーバのプロパティを変更します。Web カレンダーサーバ ポートおよび SSL の詳細については、前の節を参照してください。これらのプロパティを変更した後は Web カレンダーサーバを停止し、再起動する必要があります。

   [Web Server Port]

   このポートは、Web カレンダーサーバが動作するローカル システム上のポートです。

注記

非標準のポート番号 (80 以外) を使用する場合、ユーザはログオン用の Web アドレスで、そのポートを指定する必要があります。詳細については、121 ページの「IMail Web カレンダーサーバの Web アドレス」を参照してください。

[Web Files Directory]

このディレクトリには、Web カレンダーの Web ページの作成に使用されるファイルが格納されます。

[Ignore source address in security check]

Web サーバは、ページを表示する前に、そのページの表示を要求した IP アドレスが、ユーザがログオンした IP アドレスと一致するかどうかをチェックします。このオプションを選択すると、Web サーバは、この IP アドレスのチェックを行わなくなります。

このオプションは、一部のファイアウォール、および動的 IP アドレスを使用するサービス プロバイダにとって、便利な機能です。

[Enable Keep Alive]

Web カレンダーサーバとブラウザ間で持続した TCP 接続を確立したい場合は、このオプションをオンにします (なお、このオプションはブラウザがこの接続方法をサポートしている場合にのみ有効です)。このオプションをオフにすると、サーバは、1 回の応答ごとに TCP 接続を終了します。

通常、ブラウザと Web サーバ間の接続は、1 回の要求 / 応答のペアが処理されている間だけ有効になります。**[Enable Keep Alive]** オプションをオンにすると、接続要求ごとのオーバヘッドを削減し、パフォーマンスを改善することができますが、同時に、新しい接続を確立するなどの他のプロセスで利用可能なリソースが減少することを意味します。

[Auto Restart Server on Exit]

このオプションにより、サーバの再起動が必要な変更を行った場合は、**[適用]** ボタンをクリックすると、自動的に Web カレンダーサーバが停止され、再起動されるようになります。このオプションを選択することをお勧めします。

3. 必要ならば、SSL オプションを設定します。SSL の詳細については、102 ページの「Secure Sockets Layer (SSL) の使用」を参照してください。

[Enable SSL]

Web Messaging クライアントとの通信を暗号化するために、Secure Sockets Layer (SSL) ユーティリティを使用している場合は、このオプションをオンにします。Web カレンダーサーバは、通常の接続に加えて、SSL 接続も受け入れるようになります。

[Web SSL Port]

Web カレンダーが SSL ベースの HTTP 要求に使用する TCP ポート。[Web Server Port] で、Web カレンダーのデフォルトの番号 (8484) を使用した場合は、この TCP ポート番号に、任意の番号を割り当てることができます。デフォルトの番号は、8485 です。SSL の標準ポート番号は、443 です。

注記

非標準のポート番号 (つまり、443 以外) を使用する場合、ユーザはログオン用の Web アドレスで、その SSL ポート番号を指定する必要があります。

[Force SSL]

Web カレンダーサーバが、SSL ベースの HTTP 接続だけを受け入れるようにしたい場合は、このオプションをオンにします。通常の HTTP

接続は、受け入れられなくなります。

4. 必要ならば、**スレッド プール** オプションを設定します。

   Web カレンダーは、この TCP ポートに対する (ブラウザからの)HTTP 要求を扱うためのスレッド プールを作成することができます。スレッド プールを使用すると、スレッドの生成と終了によって発生するオーバヘッドを削減できます。ただし、プール内のスレッドがすべて使用中の場合 (つまり、サーバの負荷が大きい場合) は、追加の HTTP 要求は拒否されます。また、Web カレンダーが使用するために予約されているスレッドは、同じサーバ上で実行されている他のプロセスからは利用できません。使用する Web カレンダーサーバにおいて、スレッド プールの作成が適切であるかどうかを判断する必要があります。

   [Enable Thread Pooling]

   クライアントからのHTTP要求を扱うためのスレッド プールを作成するには、このオプションをオンにします。Web カレンダーは、要求を処理するために、64 のワーク スレッドを作成します。このオプションをオフにすると、Web カレンダーは要求ごとにスレッドを作成し、要求の処理が終了すると、このスレッドを破棄します。

   [Thread Exit]

   HTTP 要求が完全に処理された後で、Web カレンダーが、スレッドを終了するようにしたい場合は、このオプションをオンにします。
   Web カレンダーは、次のポーリング時間に、終了したスレッドの代替スレッドを生成します。このポーリング時間は、**[Thread Check Time]** で設定します。Web カレンダーが、スレッドを開いたままにし、別の要求で利用できるようにするには、このオプションをオフにします。このオプションを使用できるのは、**[Enable Thread Pooling]** オプションがオンになっている場合だけです。

   [Thread Check Time]

   この値は、Web カレンダーが、スレッド プールの状態をチェックする間隔(秒数)です。このオプションを使用できるのは、**[Enable Thread Pooling]** オプションがオンになっている場合だけです。デフォルトの値は、10 秒です。

5. **[Stop]** ボタンをクリックして、Web カレンダーサーバを停止します。このボタンはトグル ボタンであり、**[Stop]** から **[Start]** に切り替わります。**[Start]** ボタンをクリックして、サーバを再起動します。

IMail Web

IMail Web カレンダーは、IMail Administrator で割り当てられたユーザのアクセス権に基づくメール機能へのアクセスを提供します。アクセス権は、個人のメール アカウントごとに割り当てることも、メール ホスト上の全ユーザを対象にグローバルに割り当てることもできます。

個人のユーザ メール アカウントに、Web カレンダーへのアクセスを設定するには、次の手順に従います。

1. Web Messaging のインターフェースで、**[Administration]** オプションから **[ユーザ管理]** を選択します。
2. リスト ボックスからユーザ ID を選択して、**[ユーザの編集]** をクリックします。
3. **[ユーザ属性]** で、**[Web カレンダーを有効にする]** オプションを選択します。
4. **[保存]** をクリックして変更を更新します。

すべての新しいユーザにデフォルトとして設定を適用するには、次の手順に従います。

1. Web Messaging のインターフェースから、**[Administration]** オプションから **[ユーザ管理]** を選択します。
2. **[デフォルトのユーザ属性]** セクションで、任意の属性のチェックボックスを選択します。
3. **[属性の変更]** をクリックして変更を更新します。

注記

デフォルトではすべての新規ユーザが Web カレンダー機能を使用できる設定となっています。

ドメイン全体で SSL、スペル チェック、および Web カレンダーを使用可能にするには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator で、" [localhost] " フォルダを開き、ホストを選択します。**[Web Options]** タブを選択します。
2. [Enable Spell Checking]、[Enable SSL]、または [Enable Web Calendaring] の隣のチェック ボックスを選択して、それぞれの機能をオンにします。
3. **[適用]** をクリックして、変更を保存します。

注記

スペルチェック機能は日本語環境下ではサポートされておりません。

Web Messaging から Web カレンダーへのユーザ アクセスを設定するには、次の手順に従います。

1. Web Messaging のインターフェースで、[Administration] オプションから [ユーザ管理] を選択します。
2. [デフォルトのユーザ属性] で [Web アクセスを許可] と [Web カレンダーを有効にする] を選択します。

3. [属性の変更] をクリックして変更を更新します。

イベントをスケジュールするときに、依頼メールを送信して他の人に対して依頼を行うことができます。依頼メールは、メール アドレスが**[イベントの追加]** ページや **[タスクの追加]** ページの **[依頼]** セクションに含まれている人に送信されます。

依頼される人が IMail Web カレンダーを使用している場合、受け取った依頼メールは IMail Web カレンダーの **[依頼リスト]** ページに表示されます。招待される人が IMail Web カレンダーを使用していない場合は、イベントについて通知するメールを受け取ります。

IMail Web カレンダーのユーザは、依頼メールを他の人に送信できるだけでなく、1 つのページに依頼メールをすべて表示して、依頼に応じるか断るかを決めることもできます。これらの機能はすべて、IMail Web カレンダーの **[依頼リスト]** ページから実行します。**[依頼リスト]** のリンクをクリックすると、他の人から届いたすべての依頼を含むリストが表示されます。依頼の名前をどれかクリックすると、そのイベントに関する情報が表示され、依頼に応じるか断るかを決めることができます。

[承認] ボタンをクリックすると、そのイベントが自動的にカレンダーに追加されます。**[日]** または **[月間]** ビューを表示すると、この項目がカレンダーに表示されます。

[拒否] ボタンをクリックすると、依頼は **[依頼リスト]** ページから自動的に削除されます。この場合、このイベントがカレンダーに追加されることはありません。

IMail Web カレンダーでは、広告を表示することができます。広告はハイパーリンクを含む HTML テキストまたはグラフィックで構成され、Web カレンダーの各ページの最上部に表示されます。時分割で複数の広告を表示することもできます。[Ad Support] が使用可能になっている場合、Web カレンダーは、最大 1,000 件の広告をそれぞれ 30 秒ずつのサイクルで表示

します。メール ホストごとに広告を表示することもできます。このようにして、ホストごとに異なった広告を表示することが可能になります。

広告サポートを使用可能にするには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator で、メール ホストを選択し、**[Web Calendaring Ad Support]** タブを選択します。
2. **[Enable Ad Support]** オプションをオンにします。

   広告サポートを使用不可にするには、このボックスがオフになっていることを確認してください。

オンライン広告を作成または編集するには、次の手順に従います。

1. **[Ad Support]** タブで、**[Add]** をクリックします。テキスト ボックスに、広告用の HTML コードとテキストを入力し **[OK]** をクリックします。その後 **[適用]** をクリックします。

   広告には、最大 512 文字の HTML コードを含めることができます。gif ファイルを表示したり、他の Web アドレス (URL) へのリンクを設定することもできます。

   広告の大きさがフレーム サイズを超える場合は、フレームの右側にスクロール バーが表示されます。これによって広告をフル サイズのWeb ページにすることができます。

このインターフェースを使用する広告を最大 1,000 件まで入力することができます。入力した広告は、*ads.txt* ファイルに保存されます。
IMail Administrator よりもエディタを使用して編集したい場合は、エディタで ads.txt を開いて、広告を入力および編集することができます。*ads.txt* ファイルに手作業で広告を入力する場合は、広告数に制限はありません。

トレイラ メッセージを作成または編集するには、次の手順に従います。

トレイラ (脚注) メッセージは [Ad Support] が使用可能になっている場合、画面の最下部のフレームに表示されます。

メール ホストを選択し、**[Web Calendaring Content]** タブをクリックします。このメッセージは、`<HTML><BODY>` で始まり `</BODY></HTML>` で終わる完全な HTML ページでなければなりません。トレイラ メッセージは、*tail.html* ファイルに保存されます。

トレイラ メッセージを使用して、Java のスクロール テキスト領域内で最新ニュースを印刷することもできます。

上記の手順に加えて、テキスト エディタから直接 tail.html を編集することもできます。*tail.html* ファイルは、*C: ¥IMail ¥Web ¥Calendar*（デフォルト）にあります。

IMail Web

IMail Web カレンダーは、カレンダー機能へのアクセスを提供する Web ページから構成されています。283 ページの「付録 H:Web カレンダーのカスタマイズ」では、Web カレンダーインターフェースをカスタマイズする方法について説明しています。

HTML コードの編集方法の分かるユーザは、Web ページの作成に使用した Web テンプレートを編集することにより、ページ内容の再調整や、ラジオボタンまたはハイパーリンクの隣にあるテキストの変更などを行うことができます。

複数のメール ホストがある場合は、メール ホストごとに異なる Web カレンダーインターフェースを持つことができます。

8 :SMTP

SMTP サーバは、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) を使用して、他のインターネット ホストとのメールの送受信を行います。SMTP サーバは、全ての受信メールと送信メールを処理します。送信メールは、宛先に着信したことを SMTP サーバが確認するまでスプールされ、受信メールは、ユーザが POP3 または IMAP4 メール クライアントを使用してそのメールにアクセスするまでスプールされます。

プロパティを設定することによって、SMTP サーバを保護することができます。詳細については、139 ページの「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」を参照してください。

SMTP RFC

SMTPサーバは、以下のRFC (Request for Comments)をサポートしています。

- RFC 821 および 822『SMTP』
- RFC 1869『SMTP Service Extensions』
- RFC 1870『SMTPService Extension for Message Size Declaration』
- RFC 1891、1892、1893、1894『SMTP Service Extension for Delivery Status Notifications』
- RFC 1985『SMTP Service Extension for Remote Message Queue Starting』

  現時点では、IMail は、" ETRN host.name "および" ETRN @domain.name " をサポートしています。
  詳細については、50 ページの「ETRN を使ったメールの取込み」を参照してください。
- RFC 2222『SMTP Service Extension for Authentication』

  IMail は、PLAIN、LOGIN、および CRAM-MD5 をサポートしています。

SMTP

SMTP サーバ プログラムは、WindowsNT/2000 のサービスとして動作しているので、WindowsNT/2000 システムからログオフしても動作し続けます。

SMTP サーバは、smtpd32.exe プログラムを使用し、その処理対象のディレクトリなど、プログラムのほとんどの設定値を NT のレジストリから取り込みます。SMTP サーバを新しい場所に移動する場合は、必ず STMP サーバを削除してから、再インストールする必要があることに注意してください。これは、アプリケーションの完全なパス名が NT のレジストリに格納されているからです。

特に指定しない限り、SMTP サーバはシステム アカウントでログオンし、自動的に起動します。Windows NT/2000 の [コントロール パネル] の [サービス] アプリケーションを使用すると、SMTP の設定内容を表示および変更できます。

SMTP サービスの設定を表示または変更するには、次の手順に従います。

1. **[コントロール パネル]** で、**[サービス]** アプリケーションを選択します。**[サービス]** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[IMail SMTP Server]** サービスを選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 必要ならば、希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。
4. **[ログオン]** で、ログオン先にしたいアカウントを選択します。

   いずれかのホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のユーザ データベース オプションを使用している場合、SMTP サービスは、必ず **[システム アカウント]** にログオンする必要があります。

   サービスのアイコンを表示させたい場合は、[サービス] アプリケーションで、**[デスクトップとの対話をサービスに許可]** を選択します。これを選択すると、SMTP サービスは、現在ログオンしているユーザ アカウントのもとで実行されます。(詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。) SMTP サービスは、ログオフしても動作し続けます。この場合、アイコンは表示されなくなりますが、次回同じユーザとしてログオンすると、再び表示されます。

   Windows NT のデータベースを使用しているホストが 1 台もない場合は、**[アカウント]** を選択し、SMTP サービスがログオンするアカウントのユーザ名を選択することができます。指定するユーザは、ホスト管理者でなければなりません。

   注記

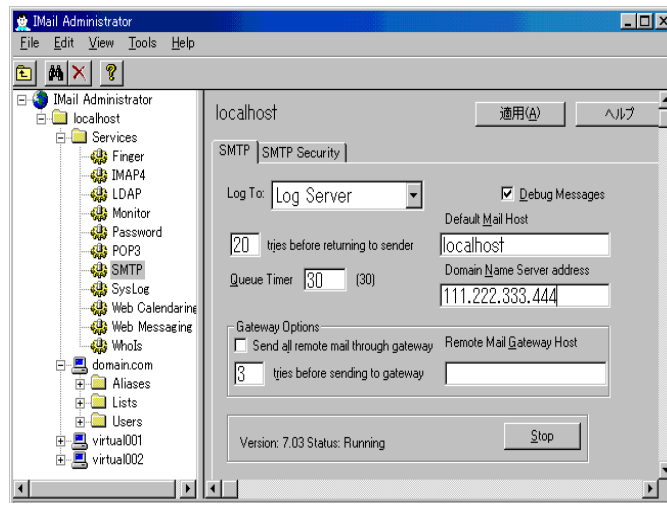
   ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合、SMTP サービスは、その外部データベースのアクセス権を持っているアカウントにログオンする必要があります。

インストールの後に 2 ～ 3 のテスト メッセージを送信して、*syslog* ファイルと *event log* を調べてください。SMTP サービスがロック ファイルを作成できない場合は、権限の設定が正しくない可能性があります。

SMTP

SMTP サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルにある **[Services]** フォルダを選択し、**[SMTP]** をクリックします。
2. 右側のパネルにある **[SMTP]** タブをクリックします。



3. SMTP サーバの設定に使用したいオプションを入力します。(各オプションについては、後の「SMTP オプション」で説明します。)
4. 変更を加えた後、**[適用]** ボタンをクリックします。その後サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。

SMTP

SMTP サーバを設定するには、次のオプションを使用できます。

ログ オプション

[Log To] ボックスで、SMTP イベントのログ収集に使用するファイルを選択します。

- **[No Log]** を選択するとログ収集を禁止できます。
- **[SYSMMDD.TXT]** を選択すると、受信メールと送信メールのログはすべて、`MAILDIR¥spool¥sysmmdd.txt` ファイルに書き込まれます。*mm* はログが書き込まれた月を、*dd* は日付を表します。
- **[App Log]** を選択すると、受信メールは、アプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]** (デフォルトの設定) を選択すると、メッセージは、**[Log Files]** タブで指定したログ サーバの IP アドレスに送信されます。

[Debug Messages]

このオプションをオンにすると、デバッグ メッセージがログ ファイルに書き込まれます。

[Default Mail Host]

メール メッセージでユーザ ID だけが指定されていて、そのユーザ ID がローカル システム上にない場合に、メールが送信されるホストの名前。通常、このフィールドは空白にしておいてください。このフィールドは、複数のシステムを1つのシステムとして動作させる必要がある場合に便利です。

[Domain Name Server address]

使用しているネットワークにドメイン ネーム サービスを提供するシステムの IP アドレス。複数のネーム サーバをスペースで区切って入力することができます。

[Tries before returning to sender]

メールの配信をあきらめ、送信側にメールを返すまでの配信の試行回数を定義します。**[Queue Timer]** が 0 になるたびに、配信が行われます。例えば、**[Queue Timer]** が 30(分間) と設定し、配信を最高 3 日間にわたって試行するには、このフィールドに「144」と入力してください。試行回数がデフォルト値の「20」で、**[Queue Timer]** が、デフォルト値の「30」の場合、メッセージは、約 10 時間後に返されます。

[Queue Timer]

キューされているメールの送信キューをSMTPサーバがチェックする頻度を分単位で指定します。**([Tries before returning to sender]** オプションも合わせて参照してください。**)**

[Server Status]

[Start/Stop] ボタンの左側のステータス メッセージでは、サービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop Service]

このボタンはトグル ボタンであり、サービスの稼動状況に応じて、**[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

ゲートウェイ オプションを使用すると、メール サーバをリモート メール ゲートウェイとして使用するように設定することができます。

[Remote Mail Gateway Host]

メールを宛先ホストに直接配信できない場合に、仲介役として、そのメールを送信するホストの名前。このオプションを **[Send all remote mail through gateway]** オプションと併用すると、ゲートウェイ ホストを介してメールの強制配信を行うこともできます。

[Send all remote mail through gateway]

リモート宛ての全メールを **[Remote Mail Gateway Host]** に送信します。このゲートウェイ ホストは、そのメールをアドレスで指定されたメール ホストに転送します。このオプションが選択されていないと、IMail は、メールをアドレスで指定されたメール ホストに直接送信します。

[Tries before sending to gateway]

リモート ホストへの直接配信をあきらめて、ゲートウェイ ホストに配信するまでの直接配信試行回数。この値が正しく機能するかどうかは、**[Remote Mail Gateway Host]** の名前が正しいかどうかと、**[Send all remote mail through gateway]** オプションを選択したかどうかによって決まります。

SMTP

IMail Server が子プロセスとして作成できる SMTP プロセスのデフォルトの個数は 30 です。メール トラフィックの量が多かったり、大きなリスト サーバ メーリング リストを多数実行している場合は、この数を増やす必要がある場合があります。この数を増やすには、Windows NT/2000 のレジストリで、次の設定を変更します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥System¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32¥
Parameters¥MaxQueProc
```

このエントリがレジストリの中にない場合は、これを DWORD 値として作成する必要があります。

SMTP

[SMTP Security] タブと他のセキュリティ機能の設定の詳細については、**「第 9 章 : セキュリティとアンチスパミング」**を参照してください。

9 :

本章では、メール サーバを保護する方法について説明します。SMTP サーバは、すべての受信メールと送信メールを処理します。SMTP (Simple Mail Transport Protocol) およびインターネット プロトコルが開放型であることにより、不要なメールをブロックしながら、同時に自分のユーザや他のインターネット上のメール ユーザからメール サーバを利用できるようにするのは困難です。しかし、サーバを保護するために使用できる、いくつかのテクニックがあります。

本章で説明されているセキュリティ オプションのほとんどは、**[SMTP Security]** タブにあります。

SMTP サーバの設定方法については、133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。

SMTP

“ スパミング ” や “ 第三者中継 ” という用語にあまりなじみがない場合は、以下の説明をお読みください。

インターネットにおけるメッセージのやりとりのために規定された SMTP 標準では、電子メールを 1 つのコンピュータ システムから別のコンピュータ システムに渡すことによって、電子メールが “ 1 ホップずつ ” ネットワーク内を移動することができます。このプロセスは、メールが最終的な宛先に到着するまで繰り返されます。これは、SMTP の当初の設計の一部であり、初期のインターネットにおいて、電子メールをさまざまなネットワーク間で移動させるために必要でした。現在のインターネットでは、この手法は必要ではなく、メールは通常、送信側のホストから受信側のホストに直接配信されます。例外は、ファイアウォールに使用されるアプリケーション ゲートウェイなどです。

この SMTP の本来の設計では、メッセージを他のコンピュータに対して (または何百、何千もの受信者に対して) 配信する必要のあるホスト コンピュータが、他の SMTP サーバとの接続 (または複数の接続) を行い、自分に代わってメッセージを中継するようにそのサーバに要求することができます。

最近では、受信したくないメールに関して盛んに議論が行われています。ファイアウォールやその他の手段を使用することによって、送信マシンによるアクセスを拒否することができるため、多くの会社や ISP は、メールの発信元が明らかな場合、その発信元からのメールをブロックしてきました。いったん、バルク メーラのホーム メール サーバが特定されブロックされると、バルク電子メールの送信者は、SMTP の開放型の設計を利用して、バルク電子メールを他のコンピュータを経由させて配信しようとするかもしれません。

迷惑メールの送信者は、この方法を使って自分の身元を隠します。具体的には、ある特定の方法でメッセージのヘッダを操作し、他のマシンを経由して最終的な宛先にメッセージを配信させ、あたかもメッセージが中継サーバから発信されたかのように見せかけます。これは“第三者中継”として知られています。(ただし、IMail Server では、常にメッセージ ヘッダに発信元の IP アドレスが含まれます。)

何千人もの人に迷惑メールを配信する(“スパミング”)ために、バルクメーラによって選ばれたコンピュータは、発信する意図のないメッセージの配信によってたちまちビジー状態になり、貴重なシステム リソースが費やされます。

IMail Server は、このような悪用からサーバを保護するために、いくつかの方法を提供します。以下の節では、これらのセキュリティ オプションについて説明します。

この節では、“スパミング”、“第三者中継”、およびその他のさまざまな悪用からシステムを保護するために使用できるオプションの概要を説明します。各オプションの説明およびその実装手順については、以下の節を参照してください。

IMail Server(または任意の SMTP サーバ)は、別のホスト宛てのメールを受け入れ、そのメールを別ホストに再配信することができます。これがメールの中継機能です。

IMail Server ホスト以外のコンピュータから発信された、別のホスト宛てのメッセージは、IMail Server を通過する(つまり、IMail Server がメッセージを中継する)必要があります。ユーザが、POP3 または IMAP メール クライアントを使ってメールを送信している場合、IMail Server は、このユーザのメールを中継する必要があります。

ローカル メールは、中継せずに処理されます。つまり、IMail Server ホスト宛てのメッセージ、または IMail Server ホストから発信されたメッセージは、中継機能を使用しません。したがって、全メール ユーザが、IMail Server と同じホストからメールを送受信する場合、または全ユーザが、Web Messaging を使ってメールにアクセスする場合は、**[No Mail Relay]** オプションを選択することができます。

バルク メーラが、中継機能を使用して、サーバ経由でメールを送信することが問題になっている場合は、以下のオプションを使用して、IMail Server がメールを中継するアドレスを制限することができます。

- **[Relay mail for]** オプションを使用して、メール サーバへのアクセス権を与える IP アドレス、または IP アドレスの範囲を指定することができます。ここではすべてのユーザの IP アドレスを指定する必要が

あります。なぜなら、ユーザがメッセージを送信すると、そのメッセージは、SMTP サーバを経由して宛先に中継されるためです。

- **[Relay mail for local hosts only]** オプションを使用して、中継アクセスを IMail Server 上のホストだけに制限し、**[Relay mail for local users only]** オプションを使用して、中継アクセスをこれらのホスト上のユーザだけに制限することができます。
- “ [Relay for] ” オプションのいずれかを使用すると、リストされていない IP アドレスからメールを送信する必要のあるユーザがいる可能性があります。その場合は、IMail Server がサポートしている **SMTP AUTH** コマンドを使用します。リモート ユーザが、メール クライアントで “ ユーザ認証 ” オプションを選択していることを確認してください。(この機能の名称は、クライアント ソフトウェアによって異なるので注意してください。) SMTP AUTH コマンドは、メールを送信するユーザのユーザ ID とパスワードを認証します。この認証は、メール サーバおよびクライアントによって透過的に処理されます。

中継オプションのセットアップ方法については、143 ページの「メール中継オプションの設定」を参照してください。

不要なメッセージを除外するために、受信メールのヘッダや本文の情報をチェックする数多くの方法があります。

- 既知のスパム メールのアドレスまたはドメイン名 (例えば、@domain.com) を **Kill ファイル**に入力する。
- 配信ルールを使用して、受信メールのメッセージ ヘッダや本文に含まれる特定の情報を検索する。例えば、ヘッダまたは本文で “ $$$ GET RICH QUICK ” を検索し、見つかった場合は、そのメールをユーザの特定のメールボックスに配信します。配信ルールは、高度な検索式をサポートしています。配信ルールを情報マネージャと組み合わせて使用すれば、ユーザがスパム メールを受け取らないように、スパム メールを管理者のメールボックスに配信することもできます。

  配信ルールの使用方法については、55 ページの「第 4 章 : ユーザ メール アカウント」を参照してください。

- **[Disable SMTP “VRFY” command]** オプションを選択する。SMTP VRFY コマンドは、ホスト上のユーザを検証するために使用されるので、ユーザ ID が有効かどうかをテストするために使用することができます。このコマンドを使用不可にすると、そのネットワーク外のユーザは、ユーザ ID が有効かどうかをチェックすることができなくなるので、“ 第三者中継 ” を防止することができます。このオプションを選択した場合は、IMail Server が SMTP VRFY 要求を受信すると、IMail Server は「`252 Cannot VRFY user`」というメッセージを返します。
- 次のいずれかのオプションを選択すると、サーバの不適切な使用またはメール ヘッダが識別されます。

  [Auto deny possible hack attempts]
  [Refuse NULL <> Senders]
  [Check valid sender]

これらのオプションの設定方法については、148 ページの「受信メールの検証」を参照してください。

既知の IP アドレスから送信されてくるすべてのメールをブロックしたい場合は、**[Control Access]** 機能を使用して、そのアドレスに対して、サーバへのアクセスを拒否することができます。アクセス権の設定方法については、149 ページの「SMTP サーバへのアクセス権の設定」を参照してください。

SMTP

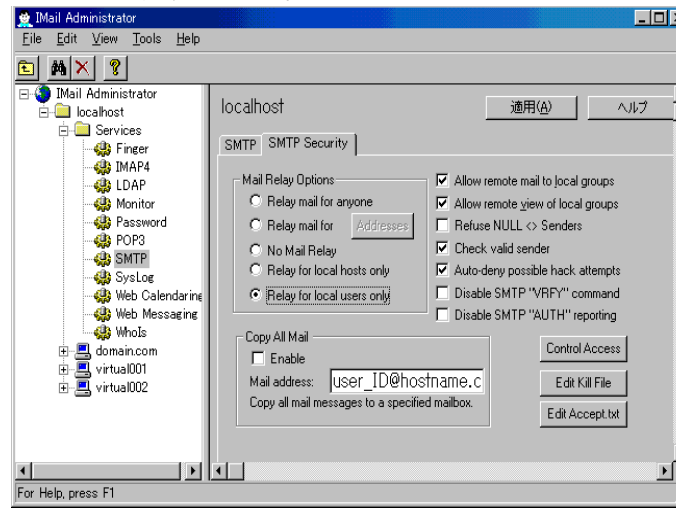
SMTP にログオンすると、“ ウェルカム メッセージ ”が表示されます。メッセージの中には、メール サーバのバージョン、ベンダ、およびオペレーティング システムが表示されます。これらの情報が表示されないように、ウェルカム メッセージを変更することができます。メッセージを変更することによって、スパム メールやハッカーによる攻撃からサーバを保護することができます。詳細については、262 ページの「SMTP、POP3、IMAP4 のサービス ウェルカム メッセージの変更」を参照してください。

SMTP

メール サーバへのアクセス権を持っているユーザを設定し、いくつかの方法で SMTP セキュリティを制御することができます。この節では、不正なアクセスや不要なメールを防止するために、SMTP セキュリティ オプションを使用する方法について説明します。異なるセキュリティ オプションの使用目的については、本章の 140 ページの「セキュリティ戦略」を参照してください。

SMTP サーバのこれらのセキュリティ オプションを設定するには、次の手順に従います。

1. **[SMTP Security]** タブをクリックします。SMTP セキュリティのプロパティが表示されます。



2. SMTP サーバのセキュリティ設定に使用したいオプション (以下の節で説明) を選択します。
3. **[適用] をクリックして、変更を保存します。**

注記

オプションを変更した場合は、変更を反映するために、SMTP サービスを停止し、再起動しなければなりません。

メール中継オプションを使用すると、(インターネット上でスパム メールとして知られている) 大量の宣伝用メールなどの無許可メールが、IMail Server を中継やゲートウェイとして通過することを防止できます。**[Relay mail for]** オプションを使用すると、IMail Server を、ローカル ユーザが発信したメール、またはローカル ユーザ宛てのメールだけを受け入れるように設定することができます。また、ローカルとみなすシステムやアドレス ブロックを定義することができます。

中継オプションを使用する場合の考慮点

“ [Relay for] ”オプションを使用する場合は、以下の点を考慮してください。

- メール ユーザがメール メッセージを送信すると、そのメッセージは、IMail Server を中継として通過することに注意してください。したがって、メール ユーザの全システムの IP アドレス、または IP アドレスの範囲を入力する必要があります。
- ユーザが、未知の IP アドレスからメールを送信する必要がある場合は、ユーザに、メール クライアントで “ ユーザ認証 ” オプションを選択してもらうことができます。
  このオプションが選択されていると、IMail Server は、SMTP AUTH コマンドを使って、ユーザのログオン ユーザ ID とパスワードを検証します。
- IMail Server をリモート メール サーバのバックアップ サーバとしてセットアップし、サーバへの中継アクセスを制限したい場合は、**[Relay for Addresses]** オプションを使用して、IMail Server がバックアップ サーバとして機能しているホストのアドレスを指定します。バックアップ サーバの設定方法の詳細については、35 ページの「第 3 章 : 設定」および 233 ページの「付録 B: バックアップ」を参照してください。

[Relay mail for anyone]

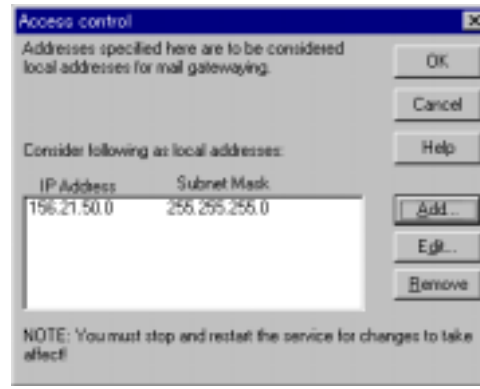
SMTP サーバは、他のホスト宛てのメールを受け入れ、そのメールを適切なホストに再配信 (つまり、メールを中継) します。これがデフォルトの設定です。

このオプションを設定すると、メール サーバは、他のどの SMTP サーバからでもメールの中継用に使用できるようになります。バルク メーラの中には、この機能を悪用して、サーバをメールの中継用に使用するだけでなく、あたかもメールが中継サーバから発信されたかのように見せかけるユーザもいます。詳細については、139 ページの「SMTP プロトコルのセキュリティに関する背景情報」を参照してください。

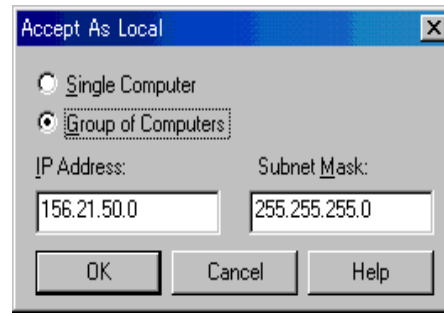
[Relay mail for]

(メール サーバがローカル アドレスとみなす) 指定の IP アドレスからメールを受信した場合にのみ、SMTP サーバは、他のホスト宛てのメールを受け入れます。

有効な IP アドレスを指定するには、**[addresses]** ボタンをクリックします。すると、“ [Access Control] ” ダイアログ ボックスが表示されます。



1. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、“ [Accept as Local] ” ダイアログ ボックスが表示されます。



2. **[IP Address]** ボックスに、IMail Server からローカルとみなされるコンピュータの IP アドレスを入力します。

   コンピュータのグループを追加するには、**[Group of Computers]** オプションを選択します。**[IP Address]** と **[Subnet Mask]** ボックスに、ローカルとみなすグループの IP アドレスとサブネット マスクを入力します。

   例えば、クラス C アドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。これにより、このアドレス空間に属する 254 個のシステムが、同じローカルなシステムとみなされ、メール サーバを使用して外部にメールを送信することができます。

3. **[OK]** をクリックして、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。

   IMail Server は、リストされているすべてのコンピュータのメールを中継します。

4. **[OK]** をクリックして、変更を保存します。変更を反映するには、サービスを停止し、再起動しなければならないので注意してください。

IMail Server システムを経由してメールの送信を試みた “ ローカルではない ” システムでは、次のメッセージを受信します。

```
550 unknown local host %s, not a gateway
```

[No Mail Relay]

SMTP サーバは、他のホスト宛てのメールの受け入れを拒否します。

[Relay mail for local hosts]

受信メールの [From] アドレスをチェックして、有効な IMail Server のホスト名が含まれているかどうかを判別します。これは、ホストまたは仮想ホストの名前、または IMail Server システム上の有効なエイリアスでなければなりません。それ以外の場合、サーバは、メールの中継を行いません。それ以外のホスト名で中継したい場合は、そのホスト名を *accept.txt* ファイルに入力する必要があります。

accept.txt ファイルとこのオプションを組み合わせて使用すると、IMail Server は、指定されているリモート ホストを “ ローカル ” なホストとして受け入れます。

他のサーバのメールを中継するために、“ コピーを残して転送する ” 設定を使用している場合、このオプションは使用できません。

[Relay mail for local users]

受信メールの [From] アドレスをチェックして、有効な IMail Server のホスト名が含まれているかどうかを判別し、次に、ユーザ ID がそのホスト上にあるかどうかをチェックします。ユーザのエイリアスはチェックしません。したがって、ユーザが、電子メール アドレスにエイリアスを使用する必要がある場合は、そのエイリアスを *accept.txt* ファイルに入力しておく必要があります。ホスト名またはユーザ ID が有効ではない場合、サーバはメールの中継を行いません。

accept.txt ファイルとこのオプションを組み合わせて使用すると、IMail Server は、指定されているリモート ホストおよびユーザを “ ローカル ” なホストおよびユーザとして受け入れます。

他のサーバのメールを中継するために、“ コピーを残して転送する ” 設定を使用している場合、このオプションは使用できません。

[accept.txt ファイルの使用]

accept.txt ファイルを使用すると、IMail Server に“ ローカル ”なホストおよびユーザとして受け入れてほしいリモート ホストおよびユーザを指定することができます。このファイルは、**[Relay for Local Hosts Only]** および **[Relay for Local Users Only]** オプションと組み合わせて使用することができます。

accept.txt ファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. Windows の「メモ帳」などのエディタを使用して、*accept.txt* という名前のファイルを作成します。
2. IP アドレスまたはホスト名は、1 行に 1 つずつ入力します。スペースおよび区切り文字は使用しないでください。

   例えば、ホストを入力するには、次のように指定します。

   ```
   mail1.widget.com
   mail5.foo.com
   ```

   例えば、ユーザを入力するには、次のように指定します。

   ```
   fred@mail1.widget.com
   bob@mail5.foo.com
   ```

   accept.txt ファイルの内容は、対応するホストまたは電子メール アドレスと正確に一致する必要があります。ワイルド カードや部分的に一致しているものは受け入れません。
3. *accept.txt* ファイルは、[IMail のトップ ディレクトリ]¥accept.txt に保存してください。

以下のオプションを使用して、メール サーバ上のローカル メール グループ (グループ エイリアス) へのアクセス権を設定することができます。(これらのオプションは、リスト サーバ、標準エイリアス、プログラム エイリアスには影響を与えません。)

[Allow remote mail to local groups]

このオプションが選択されていると、SMTP サーバは、グループ エイリアスとして定義されているエイリアス宛てのメールを受け入れます。SMTP サーバは、グループ内のユーザにそのメッセージを再送信します。

[Allow remote view of local groups]

このオプションが選択されていると、SMTP サーバは、リモート ホストが、SMTP “ EXPN ”コマンドを実行した場合、グループ エイリアス内の全ユーザを表示します。

注記

上で説明されている設定は、スタンダードエイリアスや、リスト サーバのメーリング リスト宛てのメールには影響を与えないことに注意してください。

以下のオプションを使用すると、受信メールが有効なユーザ メール アカウントから送信されたものかどうかをチェックしたり、特定のメール アドレスによるアクセスを拒否したりすることができます。IMail Server は、常にメッセージ ヘッダに、発信元の IP アドレスを保持しています。

[Refuse NULL <> Senders]

このオプションが使用可能になっていると、受信メッセージの MAIL FROM にアドレスが指定されていない (ヌル アドレス (<>) が使用されている) 場合は、そのメールの受け入れを拒否します。MAIL FROM にアドレスを指定しないことを許可すると、スパム メーラは、ユーザにバルク メールを送信しやすくなります。ただし、RFC822 では、メール サーバが、FROM にアドレスが指定されていないメールも受け入れるように規定されているので注意してください。

ポストマスタからのメッセージにはよくヌル アドレスが使用されるので注意してください。つまり、このオプションを使用すると、ホストによっては、ポストマスタからメールを受信できなくなります。

[Check valid sender]

このオプションが使用可能になっていると、受信メール メッセージの MAIL FROM または REPLY-TO に、ユーザ メール アドレス (`user@host`) が指定されている必要があります。MAIL FROM にヌル アドレス (`< >`) が指定されているときの処理は、**[Refuse NULL < > Senders]** オプションが使用可能になっているかどうかに応じて異なるので注意してください。

[Auto-deny possible hack attempts]

SMTP DATA コマンド以外で 512 個を超える文字が送信された場合、リモート IP アドレスは、サービスを一旦停止および再起動するまでの間、一時的に “ アクセス拒否 ” (アクセスの制御) ファイルに格納され、接続は切断されます。SMTP DATA コマンドで 512 個を超える文字が送信された場合は、サーバに対する “ ハッキング ” とみなされる可能性があります。このアドレスは “ アクセス拒否 ” リストには表示されませんが、ログ ファイルで報告されます。

[Disable SMTP 'VRFY' command]

SMTP VRFY コマンドは、ホスト上のユーザを検証するために使用されるので、リモート ホストから、ユーザ ID が有効かどうかをテストするために使用することができます。このオプションを選択した場合は、IMail Server が SMTP VRFY 要求を受信すると、IMail Server は「`252 Cannot VRFY user`」というメッセージを返します。

注記

Peer サーバを使用する場合は、**[Disable SMTP VRFY command]** を選択しないでください。Peer サーバは、もう一方の Peer サーバ上のユーザを調べるのに、このコマンドを使用する必要があります。詳細については、47 ページの「“ Peer ” IMail Server のセットアップ」を参照してください。

[Edit kill file]

KILL ファイルを使用すると、メール アドレスや特定のメール ホストを指定して、そこからのメールは受け取らないようにすることができます。KILL ファイル内にメール アドレスやホストを指定するには、**[Edit kill file]** ボタンをクリックします。

kill.lst ファイルは、Windows の「メモ帳」で表示されます。*kill.lst* ファイルには、次のいずれかの形式で、1 行に 1 エントリずつ入力してください。

```
userid@host
@host
```

例えば、あるユーザ メール アカウントからのアクセスを拒否するには、「`fred@widget.com`」と入力します。widget.com というメール ホスト上の全ユーザによるアクセスを拒否するには、「`@widget.com`」と入力します。

IMail Server は、受信メッセージの `MAIL FROM: <user@host>` をチェックします。KILL ファイルにリストされているアドレスからのメールを受信すると、IMail Server は、次のメッセージを返します。

```
501 unacceptable mail address
```

kill.lst ファイルは、*IMail* ディレクトリにあり、一次ホストおよび仮想ホストに適用されます。

SMTP

1 つの IP アドレスや一連の IP アドレス群からの SMTP サーバへのアクセスを許可するのか、それとも拒否するのかを指定することができます。SMTP サーバ システムへのアクセス権のないシステムは、接続することができません。これは、許可なしにメール サーバを使用しているメール送信者の IP アドレスがわかっている場合に便利です。

ほとんどの場合、アクセスを許可するアドレスを指定するために、このオプションを使用しないでください。なぜなら、メール ユーザにメールを送信してくる、インターネット上のすべてのホストを把握することはできないからです。

特定のコンピュータやコンピュータ群によるアクセスを拒否するには、次の手順に従います。

1. **[Control access]** をクリックします。[Access Control] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[Granted Access]** オプションを選択します。
3. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、[Deny Access On] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **[IP Address]** ボックスに、SMTP サーバへのアクセスが拒否されるコンピュータの IP アドレスを入力します。

   コンピュータ群によるアクセスを拒否するには、**[Group of Computers]** オプションを選択します。**[IP Address]** ボックスと **[Subnet Mask]** ボックスに、アクセスが拒否されるグループの IP

アドレスとサブネット マスクを入力します。例えば、クラス C アドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。これにより、このアドレス空間に属する 254 個のシステムによるアクセスが拒否されます。

5. **[OK]** をクリックして、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。このリストにリストされている以外のすべてのコンピュータによるアクセスが許可されます。
6. **[OK]** をクリックして、変更を保存します。変更を反映するには、サービスを停止し、再起動しなければならないので注意してください。

特定のコンピュータやコンピュータ群によるアクセスを許可するには、次の手順に従います。

1. **[Control access]** をクリックします。[Access Control] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[Denied Access]** オプションを選択します。
3. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、[Grant Access On] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **[IP Address]** ボックスに、SMTP サーバへのアクセスが許可されるコンピュータの IP アドレスを入力します。

コンピュータ群によるアクセスを許可するには、**[Group of Computers]** オプションを選択します。**[IP Address]** ボックスと **[Subnet Mask]** ボックスに、アクセスが許可されるグループの IP アドレスとサブネット マスクを入力します。例えば、クラス C アドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。これにより、このアドレス空間に属する 254 個のシステムによるアクセスが許可されます。

1. **[OK]** をクリックして、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。このリストにリストされている以外のすべてのコンピュータによるアクセスが拒否されます。
2. **[OK]** をクリックして、変更を保存します。変更を反映するには、サービスを停止し、再起動しなければならないので注意してください。

[SMTP Security] タブで、すべての受信メールおよび送信メールのコピーを、指定のメールボックスに送信するオプションを設定することができます。

1. **[Copy All Mail]** オプションの **[Mail address]** ボックスに、各メッセージのコピーを送信する完全な電子メール アドレスを入力します。
2. **[Enable]** オプションをオンにして、すべてのメールのコピーを使用可能にします。

   [Copy All Mail] 機能を使用しない場合は、**[Enable]** オプションもオフ

になっていることを確認してください。

3. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。

10 :POP3

POP3 サーバを使用すると、POP3 (Post Office Protocol Version 3) メールクライアントは、IMail Server と通信を行えます。
サポートされているPOP3クライアントとしては、Outlook Express、Netscape Messenger および Communicator、Eudora および UNIX 用の POP3 対応メールリーダなどがあります。

普通、POP3 クライアントは、メール サーバに “ オフライン ” アクセスを行います。“ オフライン ”アクセス方式では、メール クライアントが定期的にサーバに接続して、ユーザ宛てのメールをクライアント コンピュータにダウンロードした後、接続を切断します。このように、メール メッセージはメール サーバ上に一時的に格納されるだけで、クライアント コンピュータにダウンロードされるとサーバから自動的に削除されます。
このアクセス方法は、常に同じクライアント システムからメールを読むユーザに最適な方法です。

“ オンライン ” アクセス方式では、クライアントとサーバ間の対話型のセッションが保持されます。メール メッセージはメール サーバ システム上に残され、ユーザはメールをダウンロードせずに読むことができます。
この方法を使うと、異なるコンピュータ上のメール クライアント、例えば外出時のラップトップ コンピュータからメールにアクセスすることができます。

Windows NT のサービスとして、POP3 サーバは完全にバックグラウンドで、または何らかのフィードバックを返しながら実行することができます。POP3 サーバは、Windows NT からログオフしても動作し続けます。

POP3 プロトコルについては、『RFC 1957』を参照してください。

IMail Server では、IMAP4 (Internet Message Access Protocol Version 4) 経由でメール クライアントにアクセスすることもできます。IMAP4 サーバでは、“ オンライン ” アクセスと “ オフライン ” アクセスの両方を行うことができます。IMAP4 の詳細については、159 ページの「第 11 章 :IMAP4 サーバ」を参照してください。

特に指定しない限り、POP3 サービスはシステム アカウントで起動します。サービスのログオン方法は、表示および変更することができます。

1. [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** アイコンをダブルクリックします。
2. **[IMail POP3 Server]** のサービスを選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。

4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

[システム アカウント]

メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

[デスクトップとの対話をサービスに許可]

サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できるように、デスクトップ アイコンが表示されます。詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

[アカウント]

Windows NTのデータベースを使用しているホストが1台もない場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホスト管理者でなければなりません。

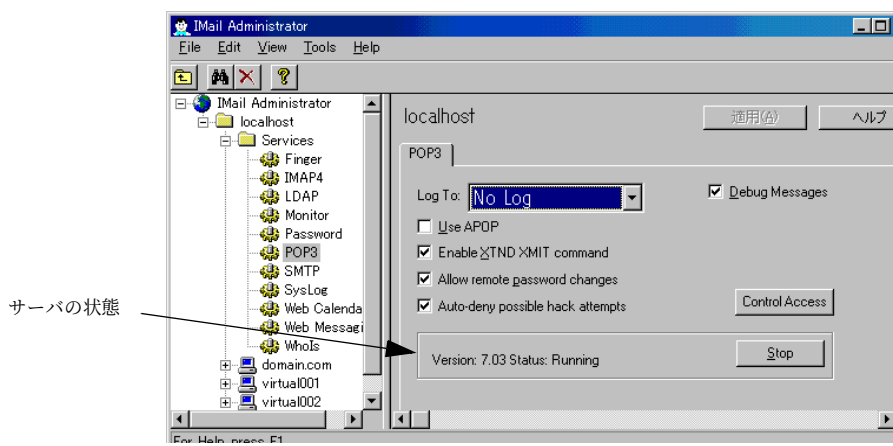
注記

ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合は、**[ログオン]** で指定するアカウントは、その外部のデータベースのアクセス権を持っていなければいけません。

POP3

POP3 サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator 内で、左側のパネルにある “ **[localhost]** ”を選択します。
2. **[Services]** フォルダを選択して **[POP3]** をクリックすると、[POP3] タブが表示されます。



3. POP3 サーバの設定に使用したいオプションを入力します。

各オプションについては、この手順の最後に説明します。

4. **[Apply]** ボタンをクリックします。
5. サービスを停止し、5 〜 10 秒待ってからサービスを再起動します。サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

[Log To] ボックスで、POP3 イベントのログの収集方法を選択します。

- **[SYSMMDD.TXT]**

  イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは、*Spool* ディレクトリに保存されます。

- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[App Log]**

  イベント情報は、Windows NT のアプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]**

  イベント情報は [localhost] を選択し右側に表示される [General] タブ内の [Log Server] に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

[Debug Messages]

このオプションがオンの場合、デバッグ メッセージはログ ファイルに書き込まれます。

[Use APOP]

このオプションがオンの場合、セキュリティで保護されたユーザ認証 (パスワードの暗号化) を行うことができます。
詳細については、『 RFC 1939』を参照してください。

注記

APOP は、IMail Server データベースの使用時にのみ動作します。**APOP** は NT データベースでは動作しません。

[Enable XTND XMIT command]

このオプションを選択すると、XTND XMIT 経由で送信された発信メールをサーバで受信できるようになります。(WinQVT/Net などのクライアントには、この機能が必要です。)

[Allow remote password changes]

古いタイプのメール クライアントの中には、POP3 プロトコルを使ってパスワードをリモートで変更できるものがあります。このチェック ボックスは、これらのアプリケーションを使用しているエンドユーザがいる場合に、システム管理者が使用します。

[Auto-deny possible hack attempts]

このオプションを選択すると、SMTP DATA コマンド以外で 512 個を超える文字が送信された場合、リモート IP アドレスは、サービスを一旦停止および再起動するまでの間、一時的に“ アクセス拒否 ”(アクセスの制御)ファイルに格納され、接続は切断されます。SMTP DATA コマンドとは別にコマンドで 512 個を超える文字が送信された場合は、サーバに対する“ ハッキング ”と見なされる可能性があります。このアドレスは“ アクセス拒否 ”リストには表示されませんが、ログ ファイルで報告されます。

[Server Status]

ステータス メッセージでは、サービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop Service]

このボタンはトグルボタンであり、サービスの稼動状況に応じて **[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

POP3

ここでは、POP3 サーバへのアクセスが許可される IP アドレスや IP アドレス群、または許可されない IP アドレスや IP アドレス群のいずれかを指定することができます。POP3 サーバ システムへのアクセス権のないシステムは接続を行うことができません。

特定のコンピュータやコンピュータ群による POP3 サーバへのアクセスを拒否するには、以下の手順に従います。

1. **[Control access]** ボタンをクリックします。すると、“ [Access Control] ”ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[Granted Access]** オプションを選択します。
3. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、“ [Deny Access On] ”ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **[IP Address]** ボックスに、POP3 サーバへのアクセスが拒否されるコンピュータの IP アドレスを入力します。

   コンピュータ群によるアクセスを拒否するには、
   [Group of Computers] オプションを選択します。**[IP Address]** ボックスと **[Subnet Mask]** ボックスに、アクセスが拒否されるグループの IP アド

レスとサブネット マスクを入力します。例えば、クラス C のアドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。以上により、クラス C に属する 254 個のシステムによる POP3 サーバへのアクセスが拒否されます。

5. **[OK]** をクリックし、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。このリストにリストされている以外のすべてのコンピュータによるアクセスが許可されます。
6. **[Apply]** をクリックし、変更を保存します。なお、設定の変更を反映するには、サービスを停止して再起動する必要があります。

特定のコンピュータまたはコンピュータ群による POP3 サーバへのアクセスを許可するには、以下の手順に従います。

1. **[Control access]** ボタンをクリックします。すると、" [Access Control] " ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[Denied Access]** オプションを選択します。
3. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、" [Grant Access On] " ダイアログ ボックスが 表示されます。
4. **[IP Address]** ボックスに、POP3 サーバへのアクセスが許可されるコンピュータの IP アドレスを入力します。

   コンピュータ群によるアクセスを許可するには、**[Group of Computers]** オプションを選択します。**[IP Address]** ボックスと **[Subnet Mask]** ボックスに、アクセスが許可されるグループの IP アドレスとサブネット マスクを入力します。例えば、クラス C のアドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。以上により、クラス C に属する 254 個のシステムによる POP3 サーバへのアクセスが許可されます。
5. **[OK]** をクリックし、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。このリストにリストされている以外のすべてのコンピュータによるアクセスが拒否されます。
6. **[Apply]** をクリックし、変更を保存します。なお、設定の変更を反映するには、サービスを停止して再起動する必要があります。

POP3

POP3 にログオンすると、" ウェルカム メッセージ " が表示されます。メッセージの中には、メール サーバのバージョン情報、ベンダ情報、およびオペレーティングシステムの情報が表示されますが、これらの情報が表示されないように変更することができます。ウェルカム メッセージを変更することによって、スパム メールやハッカーによる攻撃からサーバを保護することができます。詳細については、262 ページの「SMTP、POP3、IMAP4 のサービス ウェルカム メッセージの変更」を参照してください。

11 :IMAP4

複数のコンピュータからメールにアクセスすることの必要性を感じるユーザがますます増えてくるにつれ、IMAP4 (Internet Message Access Protocol Version 4) は急速にインターネット標準ベースのメール サーバの必須機能になりつつあります。

IMAP4 を組み込むことによって、IMail Server を使うと、メール ユーザはいつでもどこでも自分のメール フォルダに自由にアクセスし、操作することができるようになります。
現在では、オフィスにいようと家にいようと、また外出中であっても、メール ユーザは、そのメッセージが最初にどこで読み込まれたり保存されたかに関わらず、すべての自分のフォルダのメッセージにアクセスすることができます。このことは、“ 仮想オフィス ” で働く人々の作業効率の向上を意味します。

IMail Server IMAP4

IMAP4 サーバを使用すると、IMAP メール クライアントは、IMail Server と通信を行えるようになります。
サポートされている IMAP4 クライアントには、Netscape Messenger、Outlook Express などがあります。多くのメール クライアント ベンダが IMAP4 をサポートするようになっています。

IMAP4

IMAP4 はメール アクセスのみを処理し、インターネット経由のメールの送受信は SMTP が行います。IMAP4 サーバを使用すると、IMAP4 クライアントから次のことを行うことができます。

- リモート メールボックスにローカル メールボックスの場合と同様にアクセスできます。
- メールがサーバに格納されるため、複数のコンピュータからメールを読むことができます。
- メールにオフラインで、または、オンラインでアクセスできます。オフライン / オンライン アクセスの動作は使用しているメール クライアントによって決まります。

  オフライン アクセスでは、メール クライアントが IMAP4 サーバに接続して、メッセージ ヘッダをダウンロードした後、接続を切断します。

- 選択したメッセージが過去にダウンロードされていない場合、メール クライアントは接続を再確立して、メッセージをダウンロードします。
- 選択したメッセージが過去にダウンロードされている場合、メール クライアントはローカルにあるコピーを表示します。

オンラインでの操作は、クライアントとサーバ間の対話型のセッションが保持される以外は、オフラインでの操作と同じです。

メール クライアントによっては、IMAP4 と POP3 の切り替えをサポートしているものもあり、IMail Server はその両方をサポートしています。

IMAP4

IMAP4 クライアントは、(メール サーバ上に) 格納されているリモートのメッセージに、そのメッセージがローカルにあるのと同じようにアクセスすることができます。ユーザは次のことを行うことができます。

- ダウンロード前にメッセージ ヘッダを表示する。
- ダウンロードするメッセージやメッセージの一部を選択する。
- アーカイブしたり共有したりするメッセージをサーバ上に残す。
- MIME 形式の添付ファイルの送受信。
- MAIN(もしくはINBOX)のメールボックス以外のリモート メールボックスの処理。

ユーザが IMAP4 クライアントを使用してメールボックスを作成したときに、IMail Server システム上にメールボックスが作成されます。IMAP4 ユーザのメールは IMail Server 上に永久的に格納されるため、サーバのディスク領域を適切に設定し、メールボックスのあるディスクの使用量を監視してディスク領域を管理しなければならなくなります。一般に、ユーザ ディレクトリ全体が占有しているスペースの 4 倍の空き容量がディスクに必要となります。

ユーザ アカウントに対して、システム管理者は次のことを行うことができます。

- メールボックスのディレクトリの表示、削除、名前の変更。
- 全体での、あるいはユーザごとの、最大メールボックス サイズや最大メッセージ数を設定する。
- 日付や日数を指定して、それより古いメッセージを削除する。

ユーザ メールボックスの管理に関する詳細については、56 ページの「ユーザ メール アカウントの管理」を参照してください。

管理者は、ユーザがプライベートなメールボックスを読む前に、そのメールボックスに登録する必要があるかどうかを決定するオプションを設定

することができます。詳細については、162 ページの「IMAP4 サーバの設定」を参照してください。

IMAP4 サーバでは、公開されているメールボックスを作成できます。このメールボックスには、IMAP4 クライアントが読むメッセージを投函することができます。公開されているメールボックスを作成するには、「*public*」という名前のユーザ ID を作成します。この *public* ディレクトリにあるメールボックスはすべて、IMAP4 クライアントから読むことができます。

管理者は「*public*」ユーザ ID を使用して、メッセージを投函することができます。「*public*」以外のユーザは、公開されているメールボックスを読むことだけしか行えません。管理者はユーザが公開されているメールボックスを読む前に、そのメールボックスに登録する必要があるかどうかを決定するオプションを設定することができます。

公開されているメールボックスは設計上読み取り専用になっており、「*public*」というユーザのみが、公開されているメールボックスの管理を行うことができます。このアカウントが受け取るメッセージと、そのサブメールボックスは通常の場合と同様に扱われますが、IMAP4 経由でこれらのメールボックスを利用する「*public*」以外のユーザは、読み取り専用アクセス権しか与えられません。もし、あるユーザが、公開されているフォルダのメールに、読んだという印を付けようとすると、そのメールボックスが読み取り専用であることを通知するメッセージが表示されます。

特に指定しない限り、IMAP4 サービスはシステム アカウントで起動します。[コントロール パネル] の **[サービス]** アイコンを使用すると、IMAP4 の設定内容を表示および変更できます。

IMAP4 の設定を表示または変更するには、次の手順に従います。

1. [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** アイコンをダブルクリックします。
2. **[IMail IMAP4 Server]** を選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。
4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

   [システム アカウント]

   メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

   [デスクトップとの対話をサービスに許可]

   サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できる

ように、デスクトップ アイコンが表示されます。詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

[アカウント]

Windows NT のデータベースを使用しているホストが 1 台もない場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホスト管理者でなければなりません。

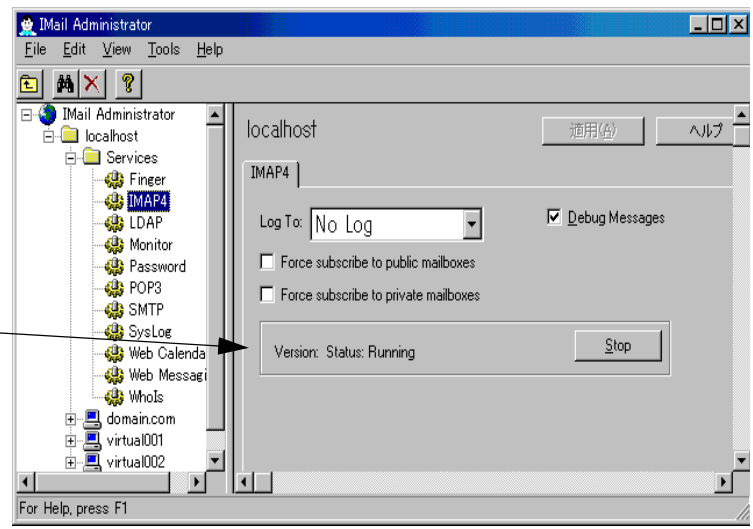
注記

ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合は、**[ログオン]** で指定するアカウントは、その外部のデータベースのアクセス権を持っていなければなりません。

IMAP4

IMAP4 サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator 内で、左側のパネルにある “ **[localhost]** ”を選択します。
2. **[Services]** フォルダを選択し、**[IMAP4]** をクリックします。[IMAP4] タブが表示されます。



3. IMAP4 サーバの設定に使用したいオプションを入力します。

   各オプションについては、この手順の最後に説明します。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。
5. サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

[Log To] ボックスで、IMAP4 イベントのログの収集方法を選択します。

- **[SYSMMDD.TXT]**

  イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは *Spool* ディレクトリに保存されます。

- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[App Log]**

  イベント情報は、Windows NT/2000 のアプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]**

  イベント情報は [localhost] を選択し右側に表示される [General] タブ内の [Log Server] に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

[Debug Messages]

このオプションがオンの場合、デバッグ メッセージがログ ファイルに書き込まれます。

[Force subscribe to public mailboxes]

このオプションがオンの場合、公開されているメールボックスを使用するには、IMAP4 クライアントが登録されていなければなりません。ユーザが登録者ではない場合、アクセスは拒否されます。メールボックスへの登録はプロトコル コマンドであり、クライアント アプリケーションがこの機能に対応していない場合には登録できないことに注意してください。

[Force subscribe to private mailboxes]

このオプションがオンの場合、非公開のメールボックスを使用するには、IMAP4 クライアントが登録されていなければなりません。ユーザが登録者ではない場合、アクセスは拒否されます。メールボックスへの登録はプロトコル コマンドであり、クライアント アプリケーションがこの機能に対応していない場合には登録できないことに注意してください。

[Server Status]

[Start/Stop] ボタンの左側のステータス メッセージでは、バージョン番号とサービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop Service]

このボタンはトグル ボタンであり、サービスの稼動状況に応じて **[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

IMAP4

IMAP4 にログオンすると、“ ウェルカム メッセージ ”が表示されます。メッセージの中には、メール サーバのバージョン情報、ベンダ情報、およびオペレーティング システムの情報が表示されますが、これらの情報が表示されないように変更することができます。メッセージを変更することによって、スパム メールやハッカーによる攻撃からサーバを保護することができます。詳細については 262 ページの「SMTP、POP3、IMAP4 のサービス ウェルカム メッセージの変更」を参照してください。

12 :LDAP

LDAP では、クライアント / サーバ アーキテクチャを使用して、サーバ上で (“ 属性（Attributes）” と呼ばれる) ユーザの情報を公開し、LDAP が使用可能なクライアントから、その情報にアクセスできる機能を提供しています。

ディレクトリ情報の要求や管理を行うための標準的な方法が作られたことにより、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、標準のメールサーバにとって一般的な機能になってきました。LDAP は、より複雑な X.500 ディレクトリ アクセス プロトコルを単純化したサブセットです。

LDAP の詳細については、このプロトコルについて解説している Internet Requests for Comments (RFC) を参照してください。IMail Server での LDAP の実装は、RFC2251 に基づいています。

IMail Server LDAP

IMail Server では、IMail ユーザ データベースに対し LDAP インターフェースを提供します。IMail ユーザ データベースは、標準の LDAP 属性 (名前、住所、所属組織名、電話番号など)、およびサイトで定義された他の属性を設定できるように拡張されています。ユーザ データベースはフラットな構造で、ユーザのツリー構造はサポートしていません。

IMail Server システム上にアカウントのある各ユーザには、対応する LDAP エントリが存在します。ユーザが IMail ユーザ データベースに追加されると、LDAP エントリが以下の属性と共に定義されます。

[ObjectClass]	エントリの種類。この値は “ Person ” です。
[CN CommonName]	ユーザのフルネーム
[Mail]	ユーザの IMail Server での電子メール アドレス。このアドレスはユーザ ID とホスト名で構成されます。
[UID]	IMail Server でのユーザ ID

LDAP が使用可能なクライアントを使用している場合、ユーザは各自の LDAP エントリ内の情報の追加、削除、および修正を行うことができます。ユーザは他のユーザのエントリを修正することはできません。以下の表で、ユーザが (修正機能をサポートしている LDAP クライアントを使用して) 追加することができる、いくつかの付加的な属性について説明します。

[SurName]	ユーザの名字
[Organization]	ユーザが所属している会社
[OrgUnit]	ユーザが所属している会社内の部署
[Street]	ユーザの住所
[City]	ユーザが住んでいる都市
[ST]	ユーザが住んでいる県
[Postal]	ユーザの住所の郵便番号
[C]	ユーザの住んでいる国名
[Telephone]	ユーザの電話番号

これらは LDAP エントリで使用される最も一般的な属性です。他の属性もシステム管理者やユーザが定義することができます。

システム管理者は次のアプリケーションを使って、ユーザの追加と削除、LDAP 属性の追加、および LDAP 属性値の修正を行うことができます。

- IMail Administrator

  詳細については、55 ページの「第 4 章 : ユーザ メール アカウント」を参照してください。

- Web ブラウザ

  詳細については、95 ページの「第 6 章 :Web Messaging」と 200 ページの「Web Administration 機能の使用方法」を参照してください。

注記

LDAP が使用可能なクライアントを使用して、LDAP の属性の追加や修正を行うことができます。(ただし、ユーザの追加や削除はできません。) LDAP ディレクトリへのアクセスおよび使用については、お使いのクライアントのマニュアルを参照してください。

LDAP

IMail Server は LDAP バージョン 3 をサポートしており、LDAP バージョン 3 では、次のような機能が提供されています。

- Netscape Communicator のような LDAP が使用可能なクライアントを使用しているユーザは、次のようなことを行うことができます。
  - 名前、電話番号、電子メール アドレス、所属組織、部門、住所などの LDAP ディレクトリ情報を確認する。
  - ホストのすべてのユーザをリストする。
  - 入力した基準を満たすユーザを検索する。
  - LDAP ディレクトリにある、自分自身のユーザ情報を修正する。
- ホスト管理者とシステム管理者は、LDAP が使用可能なクライアントを使用して、ユーザ アカウントの追加、削除、修正を行うことができます。これには LDAP ディレクトリ情報も含まれます。
- LDAP サーバを監視し、ダウンしたときに通知することができます。詳細については、185 ページの「第 16 章 : 監視サーバ」を参照してください。

LDAP

LDAP データベースにユーザを追加するには、そのユーザのメール アカウントを作成する必要があります。LDAP のユーザ情報としては提供したいが、そのユーザに電子メールは使わせたくない場合は、そのユーザのアカウントを作成した後に、ユーザのプロパティで **[Account Access Disabled]** を選択する必要があります。

Microsoft LDAP

メール クライアントとしてOutlook Expressを使用しているユーザが、IMail LDAP サーバから LDAP 情報にアクセスする場合は、Outlook Express の LDAP のプロパティを編集する必要があります。

ユーザが IMail LDAP サーバのエントリを設定していない場合は、次の手順に従ってエントリを作成する必要があります。

1. Outlook Express で、**[ツール]** メニューから、**[アカウント]** → **[ディレクトリ サービス]** → **[追加]** → **[ディレクトリ サービス]** の順に選択します。
2. [インターネット　ディレクトリ (LDAP) サーバ] ボックスに、IMail Server システムの名前か IP アドレスを入力し、他のパネルにも記入します。
3. 終了したら **[完了]** をクリックします。

LDAP のエントリを作成したら、LDAP のプロパティを編集する必要があります。

1. Outlook Express で、**[アカウント]** → **[ディレクトリ サービス]** の順に選択します。
2. LDAP アカウントを選択します。
3. **[プロパティ]** を選択し、**[詳細設定]** タブをクリックします。
4. **[検索ベース]** テキスト ボックスに、次のように入力します。

   ```
   objectclass=Person
   ```
5. **[適用]**、**[OK]**、**[閉じる]** の順にクリックします。

LDAP

一度に多数のユーザを追加した場合は、後で LDAP データベースに値を入れたい場合があります。詳細については、243 ページの「LDAP データベースへの値の挿入 (ldaper.exe)」を参照してください。

特に指定しない限り、LDAP サービスはシステム アカウントで起動します。Windows NT/2000 で、[コントロール パネル] の **[サービス]** アイコンを使用すると、LDAP の設定内容を表示または変更できます。

LDAP サービスの設定を表示または変更するには、次の手順に従います。

1. [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** アイコンをダブルクリックします。
2. **[IMail LDAP Server]** を選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。
4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

   [システム アカウント]

   メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

   [デスクトップとの対話をサービスに許可]

   サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できるようにデスクトップ アイコンが表示されます。詳細については、Windows NT/2000 のマニュアルを参照してください。

   [アカウント]

   Windows NT のデータベースを使用しているホストが 1 台もない場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホストの管理者でなければなりません。

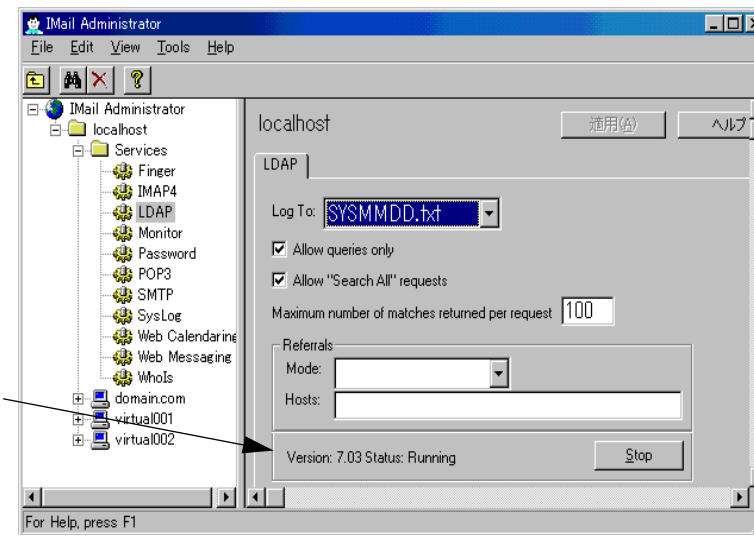
注記

ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合は、**[ログオン]** で指定するアカウントは、その外部のデータベースのアクセス権を持っていなければなりません。

LDAP

LDAP サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator 内で、左側のパネルにある “ **[localhost]** ”を選択します。
2. **[Services]** フォルダを選択し、**[LDAP]** をクリックします。[LDAP] タブが表示されます。



3. LDAP サーバの設定に使用したいオプションを入力します。

   各オプションについては、この手順の最後に説明します。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。
5. サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

[Log To] ボックスで、LDAP イベントのログの収集方法を選択します。

- **[SYSMMDD.TXT]**

  イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは、*Spool* ディレクトリに保存されます。

- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[App Log]**

  イベント情報は、Windows NT のアプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]**

  イベント情報は [localhost] を選択し右側に表示される [General] タブ内の [Log Server] に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

[Allow queries only]

このオプションがオンの場合、LDAP クライアントは LDAP 情報をサーバに問い合わせ結果を読み取りますが、LDAP 情報を入力したり修正したりすることはできません。

[Allow “Search All” requests]

このオプションをオフにして、LDAP クライアントが検索条件を限定するように強制することができます。

[Maximum number of matches returned per request]

LDAP 要求によるサーバの負荷を抑えるには、小さい数値を入力します。

[Referrals]

別の LDAP データベースに対する参照を設定します。
LDAP サーバは、この機能を使用して、別の LDAP サーバ上にある追加情報の参照先を LDAP クライアントに通知します。参照を設定するには、以下のオプションを設定します。

[Mode]

このオプションは、LDAP クライアントが戻す参照を決定します。

- **[Send data only]** は、IMail LDAP サーバからのデータのみを戻します。参照は戻しません。
- **[Send referral only]** は、別の LDAP サーバのホスト名 ([Hosts] に入力した名前) を戻します。

- **[Send both]** は、IMail LDAP サーバからのデータと、他の LDAP サーバ ([Hosts] に入力したサーバ) への参照を戻します。

[Hosts]

リモート LDAP サーバのホスト名を入力します。複数のホスト名をカンマで区切って入力することができます。

[Server Status]

[Start/Stop] ボタンの左側のステータス メッセージでは、バージョン番号とサービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop Service]

このボタンはトグル ボタンであり、サービスの稼動状況に応じて **[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

13 :Whois

Whois サーバによって、Whois クライアントは IMail Server のユーザについての情報を参照することができます。Whois 情報には、ユーザのフルネーム、メール アドレス、電話番号、ネットワーク上のメールボックスといった情報を含めることができます。Whois サーバは、特定のユーザに関する参照要求を受信すると、そのユーザに関する IMail データベース内の情報を送信します。

特に指定しない限り、Whois サービスはシステム アカウントで起動します。

Whois サービスの設定を表示または変更するには、次の手順に従います。

1 [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** アイコンをダブルクリックします。

2. **[IMail WHOIS Server]** を選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。

3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。

4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

   [システム アカウント]

   メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

   [デスクトップとの対話をサービスに許可]

   サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できるように、デスクトップ アイコンが表示されます。詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

   [アカウント]

   Windows NTのデータベースを使用しているホストが1台もない場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホスト管理者でなければなりません。

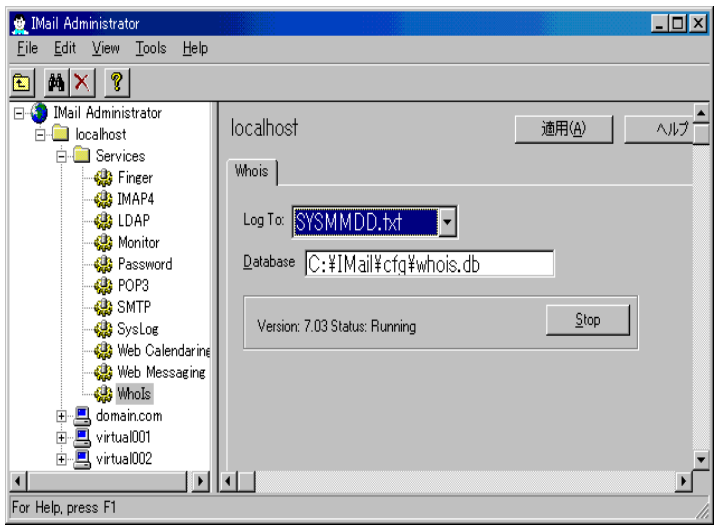
注記

ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合、**[ログオン]** で指定するアカウントは、その外部のデータベースのアクセス権を持っていなければなりません。

Whois

Whois サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administorator 内で、左側のパネルにある“ **[localhost]** ”を選択します。
2. **[Services]** フォルダを選択し、**[WhoIs]** をクリックします。
   [Whois] タブが表示されます。



3. Whois サーバの設定に使用したいオプションを入力します。

   各オプションについては、この手順の最後に説明します。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。
5. サービスを停止し、5 〜 10 秒待ってからサービスを再起動します。
   サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

ログ オプション

[Log To] ボックスで、Whois イベントのログの収集方法を選択します。

- **[SYSMMDD.TXT]**

  イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは、*Spool* ディレクトリに保存されます。
- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[App Log]**

  イベント情報は、Windows NT のアプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]**

  イベント情報は [localhost] を選択し右側に表示される [General] タブ内の [Log Server] に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

[Database]

Whois データベース ファイルの完全なパス名。

[Server Status]

[Start/Stop] ボタンの左側のステータス メッセージでは、Whois サーバのバージョン番号とサービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop Service]

このボタンはトグル ボタンであり、サービスの稼動状況に応じて **[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

14 :Finger

他のホストからの Finger 要求に応じて、Finger サーバは、指定のユーザのフルネーム、ユーザの完全な電子メール アドレス、ユーザが自分のメールを読んだ最終日付、そして Plan ファイルが存在すれば Plan ファイルの情報を返します。Finger プロトコルの詳細については、65 ページの「Finger Plan のセットアップ」を参照してください。

他のホストからの Finger 要求にエイリアスが指定されている場合、Finger サーバはそのエイリアスの展開名を返します。

ユーザを指定していない Finger 要求に対しては、Finger サーバは、現在ログイン中のユーザを表示しないことを報告します。現在ログイン中のユーザを表示すると、多くの場合、セキュリティ ホールになりえます。

特に指定しない限り、Finger サービスはシステム アカウントで起動します。[コントロール パネル] の **[サービス]** アイコンを使用すると、Finger サービスの設定内容を表示および変更できます。

Finger サービスの設定を表示または変更するには、次の手順に従います。

1. [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** アイコンを選択します。
2. **[IMail FINGER Server]** を選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。
4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

   [システム アカウント]

   メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

   [デスクトップとの対話をサービスに許可]

   サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できるように、デスクトップ アイコンが表示されます。詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

   [アカウント]

   Windows NT のデータベースを使用しているホストが 1 台もない場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホスト管理者でなければなりません。

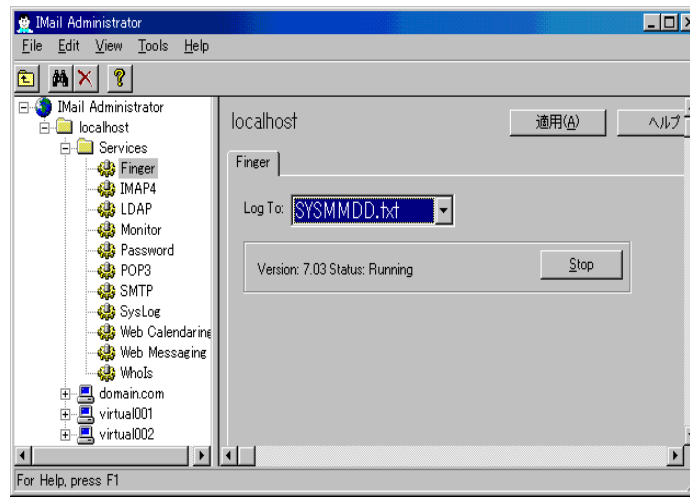
注記

ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合、**[ログオン]** で指定するアカウントは、その外部のデータベースのアクセス権を持っていなければなりません。

Finger サーバの設定

Finger サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administorator 内で、左側のパネルにある “ **[localhost]** ”を選択します。
2. **[Services]** フォルダを選択し、**[Finger]** をクリックします。[Finger] タブが表示されます。



3. Finger サーバの設定に使用したいオプションを入力します。

   各オプションについては、この手順の最後に説明します。
4. **[適用]** ボタンをクリックします。
5. サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

[Log To] ボックスで、Finger イベントのログの収集方法を選択します。

[SYSMMDD.TXT]

イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは、*Spool* ディレクトリに保存されます。

- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[App Log]**

  イベント情報は、Windows NT のアプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]**

  イベント情報は [localhost] を選択し右側に表示される [General] タブ内の [Log Server] に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

[Server Status]

[Start/Stop] ボタンの左側のステータス メッセージでは、バージョン番号とサービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop Service]

このボタンはトグル ボタンであり、サービスの稼動状況に応じて **[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

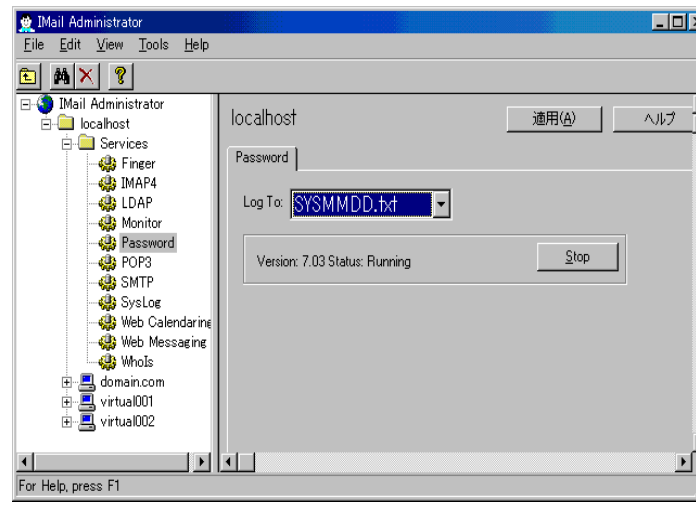
15 :

パスワード サーバを使用すると、古いタイプの POP3 メール クライアントは、POP3 プロトコルを使って、IMail Server のパスワードをリモートで変更できます。これらのクライアントには、古いバージョンの Eudora が含まれます。

なお、通常の使用中にパスワード サーバが動作している必要はありません。

パスワード サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator 内で、左側のパネルにある **[Services]** フォルダを選択し、**[Password]** をクリックします。[Password] タブが表示されます。



2. パスワード サーバの設定に使用したいオプションを入力します。各オプションについては、この手順の最後に説明します。
3. **[適用]** ボタンを押します。
4. サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

[Log To] ボックスで、パスワード イベントのログの収集方法を選択します。

- **[SYSMMDD.TXT]**

  イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは、*Spool* ディレクトリに保存されます。

- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[App Log]**

  イベント情報は、Windows NT のアプリケーション ログにログ収集されます。このアプリケーション ログは、Windows NT のイベント ビューアで表示されます。

- **[Log Server]**

  イベント情報は **[localhost]** を選択し右側に表示される **[General]** タブ内の**[Log Server]**に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

[Status]

[Start/Stop] ボタンの左側のステータス メッセージでは、サービスの稼動状況が表示されます。

[Start/Stop] ボタン

このボタンはトグル ボタンであり、サービスの稼動状況に応じて **[Start]** と **[Stop]** が切り替わります。

特に指定しない限り、パスワード サービスはシステム アカウントで起動します。[コントロール パネル] の **[サービス]** アイコンを使用すると、パスワードの設定内容を表示および変更できます。

パスワード サービスを表示または変更するには、次の手順に従います。

1. [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** アイコンをダブルクリックします。
2. **[IMail PWD Server]** を選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。
4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

   [システム アカウント]

   メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

   [デスクトップとの対話をサービスに許可]

   サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できるように、デスクトップ アイコンが表示されます。詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

   [アカウント]

   Windows NT のデータベースを使用しているホストが**1台もない**場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホスト管理者でなければなりません。

   ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合、**[ログオン]** で指定するアカウントはその外部のデータベースのアクセス権を持っていなければなりません。

注記

IP のない仮想ホストからパスワード サーバにログインするには、user@domain.com という形式を使用してログイン先のドメインを確認する必要があります。

16 :

監視サーバを使用すると、IMail Server やその他のサービスの状態を監視することができます。また、監視サーバは、Web ブラウザを使ってシステム管理を行う手段を提供しています。

監視サーバを使用すると、次のことを行うことができます。

- IMail サービス (SMTP、POP3、IMAP4、LDAP、PServe、Whois、Finger、Syslog、Web Calendaring、および Web Messaging) と、IMail Server システム上のディスク領域を監視する。
- サービスのダウン時に、監視プログラムによる電子メールの送信、ポケベルによる通知を行う。
- ローカル システムまたはリモート システム上の DNS、NNTP、WWW、FTP、Telnet、の各サービスを監視する。
- ローカル システムまたはリモート システム上のデフォルト ゲートウェイを監視する。

Web ブラウザから監視機能にアクセスした際、サービスの状態は、緑で表示されている場合は起動されて実行中であることを、赤で表示されている場合はダウンしていることを意味します。

監視機能にアクセスするには、IMail Administrator、または (監視サーバの Web Administration 機能が設定され実行中であれば)IMail Server システムにポート 8181(デフォルト)に接続されている Web ブラウザを使用します。

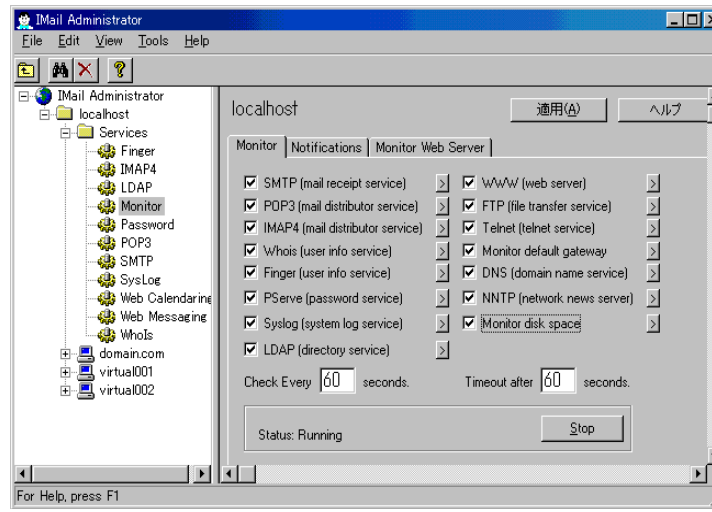
監視サーバはその設定内容を、Windows NT レジストリと *winnt* ディレクトリ内にある 2 つの *.ini* ファイル「*IMonitor.ini*」と「*ipnotify.ini*」から取得します。これらの *.ini* ファイルを使用すると、Ipswitch 社の WhatsUp ネットワーク監視ツールとの互換性が維持されます。
このツールは、使用しているシステムにインストールできます。インストールすると、IMail Server または WhatUp で定義した通知は、自動的にもう一方のアプリケーションの通知リストに表示されます。

変更を加え **[適用]** ボタンをクリックした後、サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。変更内容は、**[Stop/Start]** ボタンを押すと、自動的に保存されます。

監視サーバを設定するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで **[Services]** フォルダを選択し、**[Monitor]** をクリックし

ます。[Monitor] タブが表示されます。



2. 監視したいサービスを選択します。選択した各サービスについては、その矢印ボタンをクリックすると、設定オプションにアクセスできます。例えば、SMTP サービスの矢印ボタンをクリックすると、次のダイアログ ボックスが表示されます。



[Monitor this service] オプションが選択されていることを確認してください。サービスがダウンした後に自動的に再起動するには、**[Auto Restart this Service]** オプションを選択します。

IMail Server の構成要素であるサービスについては、サービス名と IP アドレスを設定する必要がありません。具体的には、SMTP、POP3、IMAP4、Whois、Finger、LDAP、Syslog、および Password です。

IMail Server システムの構成要素ではない サービス (DNS など) については、そのサービスがローカルにある場合はそのサービス名を、

リモート システム上にある場合は IP アドレスを入力することができます。

3. 電子メールやポケベルによる通知を定義して有効にした場合には、**[Notify if Down]** オプション、および **[Notify when Up after Down]** オプションを必要に応じて選択します。
通知の設定に関する詳細については、189 ページの「通知のセットアップ」を参照してください。通知の有効化に関する詳細については、197 ページの「通知の有効化」を参照してください。
4. **[OK]** をクリックして、" [Monitor Configuration] " ダイアログ ボックスを閉じて、**[Monitor]** タブに戻ります。
5. IMail Server システム上のデフォルト ゲートウェイやディスク領域を監視対象として選択できます。
デフォルト ゲートウェイについては、[Monitor default gateway] の 矢印ボタンををクリックして設定オプションを表示してから、IP アドレスを入力してください。
IMail Server システム上のディスク領域を監視するには、[Monitor disk space] の矢印ボタンをクリックして設定オプションを表示してから、ディスクの空き領域（MB 単位）を入力してください。空き領域がこの値を下回ると、通知を行います。
6. **[Check Every nn seconds]** ボックスで、監視プログラムがサービスのポーリングを行う頻度を秒数で指定します。
7. **[Timeout after nn seconds]** ボックスで、応答の待ち時間を秒数で指定します。

特に指定しない限り、監視サービスはシステム アカウントで起動します。

注記

監視サービスは、システム アカウントのもとで実行することを推奨します。システム アカウント以外のアカウントを使用すると、全機能が正しく動作しない場合があります。

[ ] [Monitor]

[コントロール パネル] の **[サービス]** アイコンを使用すると、監視サービスの設定を表示および変更できます。

監視サービスの設定を表示または変更するには、次の手順に従います。

1. [コントロール パネル] 内で、**[サービス]** をダブルクリックします。
2. **[IMail Monitor Service]** を選択して、**[スタートアップ]** ボタンをクリックします。
3. 希望する **[スタートアップの種類]** を選択します。
4. **[ログオン]** で、適切なアカウントを選択します。

[システム アカウント]

メール ホストが、ユーザの登録や認証のために Windows NT のデータベースを使用している場合に選択します。

[デスクトップとの対話をサービスに許可]

サービスが開始されたときにログオンしているユーザが利用できるように、デスクトップ アイコンが表示されます。
デスクトップ アイコンを使用して監視アプリケーションのウィンドウを表示すると、監視サービスのデバッグ情報や TCP ログを参照することができます。
参照するには、**[View]** メニューから **[Debug info]** または **[TCP Log]** を選択します。(デバッグ ログは、実行しているサービスの " 応答 " を表示します。TCP ログは、IMail Server とサービスとの間での実際の対話を表示します。)

詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

[アカウント]

Windows NT のデータベースを利用しているホストが **1 台もない** 場合にのみ選択します。適切なユーザ アカウント名を入力します。ユーザはホスト管理者でなければなりません。

注記

ホストの中に外部データベースを使用しているものがある場合、**[ログオン]** で指定するアカウントはその外部のデータベースのアクセス権を持っていなければなりません。

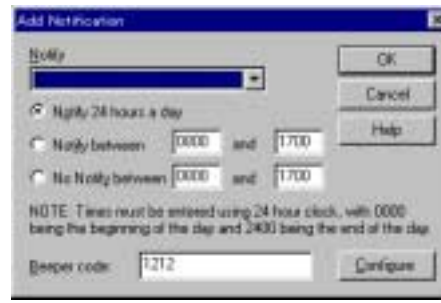
サービスがポーリングに応答しない場合、監視サーバは、ポケベル メッセージまたは電子メールによって通知することができます。
これは、視覚的な (赤、緑) 状態表示や、オプションの音声による
アラームに追加されるものです。

サービスの通知をセットアップするには、次の 3 段階の手順を踏みます。

1. まず最初に使いたい通知方法を定義する必要があります。
   例えば、ネットワーク管理者のポケベルを呼び出したり、個人に電子メールを送信したりします。
2. 次に、IMail Server で通知を利用可能にするために、**[Notifications]** タブに定義した通知を追加します。
3. 最後に、各サービスに対する通知を使用可能にします。
   これは、単に定義した 1 つまたは複数の通知を **[Notifications]** タブの中でオンにするだけです。
   サービスの通知を使用可能にする方法の詳細については、197 ページの「通知の有効化」を参照してください。

通知方法を定義するには、以下の手順に従います。

1. IMail Administrator 内で、左側のパネルにある **[Services]** フォルダを選択し、**[Monitor]** をクリックします。次に、**[Nortifications]** タブをクリックします。
2. **[add]** ボタンをクリックします。すると、“ [Add Notification] ” ダイアログ ボックスが表示されます。



3. このボックスでは何も設定せずに、**[Configure]** をクリックして、[Notifications] ダイアログ ボックスを表示します。



リストに表示されている通知方法は、(*winnt* ディレクトリにある) [ipnotify.ini] ファイルで定義されています。

以下の各項では、各種の通知をセットアップする方法について説明します。この製品では、モデムのトーン記号でポケベルに通知する方法を「Beeper」、モデムによるデータ通信でポケベルに通知する方法を「Pager」として区別しています。

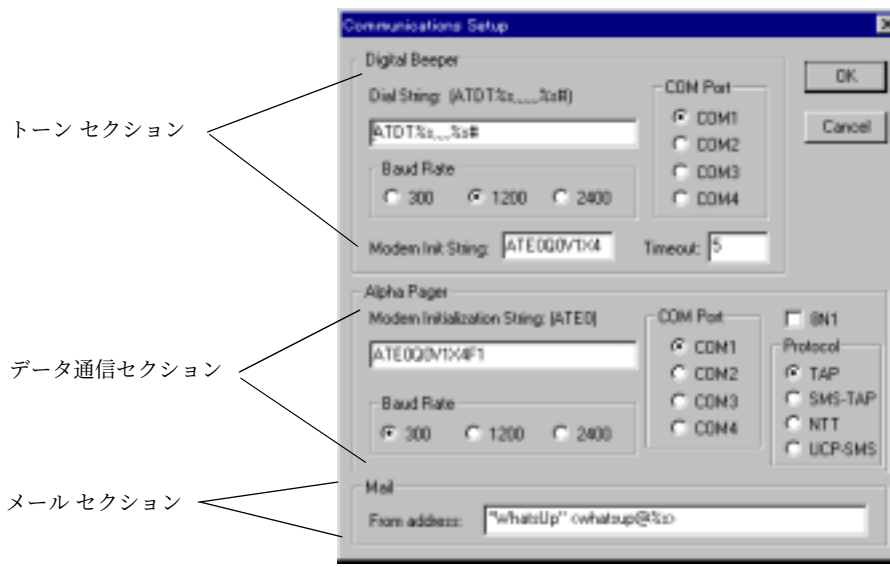
Beeper

サービスがポーリングに応答しないときに、モデムのトーン信号を使ってポケベルを呼び出すように通知を定義できます。

新しい Beeper 通知を定義するには、次の手順に従います。

1. **[Name]** テキスト　ボックス内の名前を削除して、“ BeepBob ” など、Beeper 通知を識別する固有の名前を入力します。
2. **[Type]** で、**[Beeper]** を選択します。

   ポケベルに接続するために外部のプログラムを使用するには、192 ページの「外部プログラムの使用方法」を参照してください。
3. **[Phone]** テキスト ボックスに、ダイヤルする電話番号を入力します。
4. **[Comm Setup]** をクリックします。すると、“ [Communications Setup] ” ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックス上部にある **[Digital Beeper]** セクション内に情報を入力します。



5. デフォルトの **[Dial String]** は、[ATDT%s,,,,%s#] です。最初の「%s」には電話番号が入り、2 番目の「%s」にはメッセージ コードが入ります。モデムやポケベルの多くは、‘ # ’ をメッセージの終端としていますが、NTT DoCoMo においては ‘ ## ’ を終端としていますので、日本国内においては ‘ # ’ を 1 つ追加してください。

   なお、‘ * ’ はダッシュ記号の表示としてサポートされています。また、電話番号をダイヤルしてからメッセージ コードをダイヤルするまでの時間が早すぎるときは、[dial string] 内のカンマの数を増やし、

逆に、長すぎるときは、カンマの数を減らさなければならない場合があります。

6. **[Baud Rate]**で、シリアル ポートとモデムの通信速度(bps)を選択します。
7. **[Com Port]** で、モデムが接続されているポートを選択します。
8. 信号の遷移を認識できない場合は、**[Timeout]** 値によって、システムから最後の文字を送信してから電話を切るまでの待ち時間を決定します。

情報の入力が完了したら、**[OK]** をクリックしてください。
次に、[Notifications] ダイアログ ボックスの **[Add]** ボタンをクリックして、新しい Beeper 通知を追加します。追加した Beeper 通知は、ダイアログ ボックスの左側にある **[Notifications]** リストに追加されます。
Beeper 通知をテストするには、リストでその名前を選択して、**[Test]** ボタンをクリックします。

外部プログラムを使用して、ポケベル通知を扱うこともできます。**[External Program]** テキスト ボックス内に外部プログラムの名前を指定すると、その外部プログラムが使用可能になります。

外部プログラムは、次の情報をコマンド行経由で利用できます。

引き数 1:　DN または UP
引き数 2:　[Notification] オプションに入力した電話番号
引き数 3:　[Notification] オプションで指定したメッセージ コード
引き数 4:　ホストの IP アドレス

外部プログラムの引き数の例

0: beeper.exe 1: DN 2: 8694297 3: 3333 4: 127.0.0.1
0: beeper.exe 1: DN 2: 8694297 3: 2222 4: 127.0.0.1
0: beeper.exe 1: UP 2: 8694297 3: 2222 4: 127.0.0.1

外部プログラムは、SW_SHOWMINNOACTIVE で実行されます。

システムのチェックが行われる前にアラームが解除されると、外部プログラムは起動しません。

サービスの再起動時に、パケットの消失数がシステム チェック数よりも多い場合にのみ [UP] メッセージが送信されます。

Pager

Pager 通知を定義すると、サービスがポーリングに応答しないときに、メッセージをポケベルに送信することができます。ポケベルに送信される通知メッセージはあらかじめ定義されています。
このメッセージは、`SMTP down`、`SMTP up` といったシンプルなメッセージです。IMail Server では、Motorola PageNet や他の TAP (Telocator Alphanumeric Protocol)、NTT ネクスト サービスをサポートしています。

注記
日本においてサポートしているのは、NTT ネクストサービスのみです。

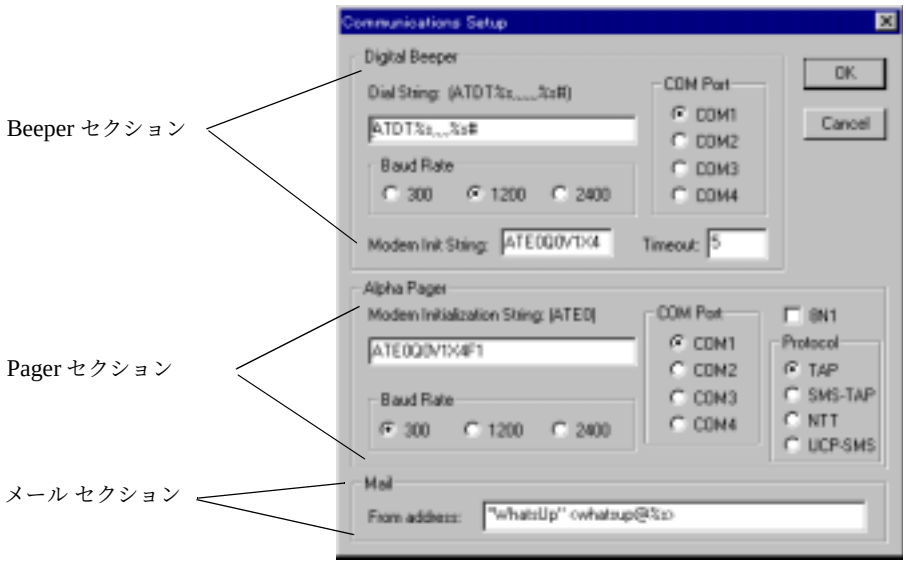
Pager 通知方法を定義するには、次の手順に従います。

1. 190 ページ上部にある [Notifications] ダイアログ ボックスを表示していない場合は、190 ページの「通知方法の定義」の手順を実行します。
2. **[Name]** テキスト ボックスに、“ PageKen ” など、データ通信通知を識別する固有の名前を入力します。
3. **[Type]** で、**[Pager]** を選択します。ダイアログ ボックスに、データ通信オプションが表示されます。



4. **[Terminal]** ボックスに、ダイヤルするセンター電話番号を入力します。
5. 必要に応じて、ポケベルの **[Password]** を入力します。
6. **[Pager ID]** ボックスに、ポケベルの番号を入力します。
7. **[Pager Type]** を選択します。

8. **[Comm Setup]** をクリックします。ダイアログ ボックス中央部にある **[Alpha Pager]** セクション内に情報を入力します。



デフォルトの **[Modem Initialization String]** は、ATEO です。このコマンドでは、“ コマンド エコー Off ”(EO)、“ リザルト コード On ”(QO)、“ リザルト コードを文字で表示 ”(V1)、“ リザルト コードを表示 ”(X4)、および “ ローカル エコー OFF ” (F1) の各モデム コマンドを指定します。推奨する文字列は、`[ATE0Q0V1X4F1]` です。

9. **[Baud Rate]** で、シリアル ポートとモデムの通信速度 (bps) を選択します。
10. モデムが接続されている **[COM Port]** を選択します。
11. データ送信の際に、データ 8 ビット、パリティ無し、ストップ ビット 1 でデータを送信するには、**[8N1]** チェック ボックスをオンにします。なお、日本国内においては **[8N1]** を選択してください。データ 7 ビット、パリティ偶数、ストップ ビット 1 でデータを送信するには、オフのままにします。
12. **[Protocol]** で、適切な値を選択します。これは、ご利用になっているデータ通信サービスを提供する企業によって決まります。TAP は、代表的な米国のデータ通信システムです。SMS-TAP は、米国の代表的な SMS データ通信システムです。**NTT は、日本における主なデータ通信システムです。**UCP-SMS は、ヨーロッパの代表的な SMS データ通信システムです。
13. 情報の入力が完了したら、**[OK]** ボタンをクリックしてください。すると、[Notifications] ダイアログ ボックスに戻ります。

14. [Notifications] ダイアログ ボックスにある **[Add]** ボタンをクリックすると、新しいデータ通信通知がダイアログ ボックスの左側にある [Notifications] のリストに追加されます。
    新しいデータ通信通知をテストするには、リストでその名前を選択して、**[Test]** ボタンをクリックします。

Mail

電子メール通知を定義すると、サービスがポーリングに応答しないときに、あらかじめ定義されたメッセージを電子メールのアドレスに送信することができます。このメッセージは、`SMTP down`、`SMTP up` といったシンプルなメッセージです。

電子メール通知処理を定義するには、次の手順に従います。

1. 190 ページ上部にある [Notifications] ダイアログ ボックスを表示していない場合は、190 ページの「通知方法の定義」の手順を実行します。
2. **[Name]** テキスト ボックスに、“ MailJohnson ” など、電子メール通知を識別する固有の名前を入力します。
3. **[Type]** で、**[Mail]** を選択します。ダイアログ ボックスに、電子メール オプションが表示されます。



4. **[Address]** に、ゲート IP で許可されている電子メール アドレスを入力します。(これは、簡単な名前にすることができます。) このアドレスには、各括弧 ([ ])、波括弧 ({ })、引用符、丸括弧 (( )) を使用しないでください。
5. **[Gate IP]** に、SMTP を実行しているホストの IP アドレスを入力します。
6. **[From]** のアドレスを変更したい場合は、**[Comm Setup]** をクリックします。すると、191 ページに示されている [Communications Setup] ダイアログ ボックスが表示されます。ダイアログ ボックス最下部にある **[Mail]** セクションで、変更したい情報を入力します。

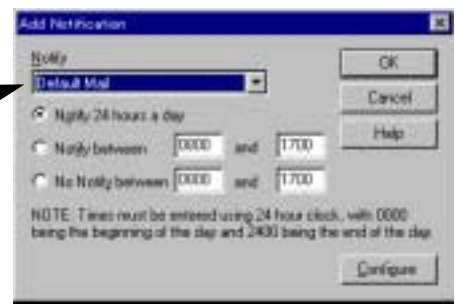
7. **[From]** のアドレスでは、電子メール通知の送信元を、`<Monitor@%s>` のように定義します。「`%s`」は、ローカル ホスト名で置換されます。ほとんどの場合、このアドレスを変更する必要はありません。変更するときは、必ず山形括弧 (< >) を正しく使用してください。
8. 情報の入力が完了したら、**[OK]** をクリックしてください。すると、[Notifications] ダイアログ ボックスに戻ります。
9. [Notifications] ダイアログ ボックスにある **[Add]** ボタンをクリックすると、新しい電子メール通知がダイアログ ボックスの左側にある [Notifications] リストに追加されます。新しい電子メール通知をテストするには、リストでその名前を選択して、**[Test]** ボタンをクリックします。

[Notifications]

IMail では , 通知方法は **[Notifications]** タブ内に表示されないと使用可能になりません。定義済みの通知方法を IMail で使用可能にするには、次の手順に従います。

1. **[Notifications]** タブが表示されていない場合は、左側のパネルで **[Services]** フォルダを選択し、**[Monitor]** をクリックします。次に、**[Nortifications]** タブをクリックします。
2. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、“ [Add Notification] ” ダイアログ ボックスが表示されます。定義済みの通知方法は、**[Notify]** ドロップ ダウン リストから選択できます。

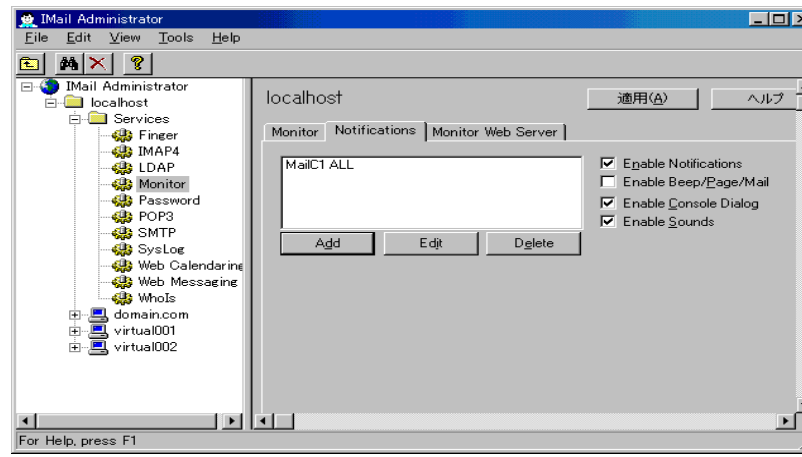
このリストには、定義済みのすべての通知方法が表示されます。ドロップ ダウン リストの矢印をクリックして、すべての項目を表示することができます。



3. ドロップ ダウン リストから、**[Notifications]** タブに追加したい通知方法を選択します。
4. 通知を受信する時間帯として、終日 (Notify 24 hours a day)、または特定の時間帯を選択します。
5. **[OK]** ボタンをクリックします。通知方法が **[Notifications]** タブのリスト ボックスに表示され、使用可能になります。

前の項で説明されているように、通知方法を定義し、**[Notifications]** タブに追加したら、通知方法を使用可能にする必要があります。

1. **[Notifications]** タブを選択します。すると、リスト ボックスに IMail で使用可能にしたすべての通知方法が表示されます。



使用可能な通知方法を編集するには、その通知方法を選択し、**[Edit]** ボタンをクリックします。

2. **[Enable Notifications]** オプションを選択すると、コンソールや音声による通知が使用可能になります。
3. **[Enable Beeper/Pager/Mail]** オプションを選択すると、リスト ボックス内で定義されているポケベルまたは電子メールによる通知を使用できます。
4. **[Enable Console Dialog]** オプションを選択すると、IMail Server システム上のメッセージ ボックス内に通知が表示されます。

注記

[Enable Console Dialog] オプションを使用可能にするには、コンピュータの [サービス] で **[デスクトップとの対話をサービスに許可]** をオンにする必要があります。詳細については、187 ページの「[コントロール パネル] で [Monitor] の設定を変更する」を参照してください。

---

5. **[Enable Sounds]** オプションを選択すると、監視対象のサービスが再起動またはダウンしたときに、*.wav* ファイルを使って、音声が再生されます。(システムには、サウンド カードがインストールされていなければなりません。)
6. **[適用]** ボタンをクリックして、変更内容を保存します。

これで、サービスごとに通知方法を使用可能にしたり使用不可能にしたりする用意ができました。

1. **[Monitor]** タブをクリックして、監視したいサービスが選択されていることを確認します。
2. 監視対象のサービスに関して通知を行うには、サービス名の右側にある矢印ボタンをクリックします。**[Notify if Down]**、**[Notify when Up after Down]**、またはその両方を選択して、**[OK]** をクリックします。
3. **[Monitor]** タブの **[適用]** をクリックして、変更内容を保存します。

通知を使用不可能にするには、次の手順に従います。

1. **[Notifications]** タブを選択します。すると、リスト ボックスに IMail で使用可能にしたすべての通知方法が表示されます。
2. 通知方法を無効にするには、その方法を選択し、**[Delete]** をクリックします。

Web Administration

監視サーバでは、Web Administration 機能を使用して、監視対象のサービス状態の表示、IMail Server ユーザ登録データの修正、およびログ データの表示を行うことができます。

監視サーバの Web Administration を設定するには、次の手順に従います。

1. **[Monitor Web Server]** タブをクリックします。すると、Web アクセスのプロパティが表示されます。
2. **[Enable Web administration through Imonitor]** オプションをオンにします。
3. Web Administration の **[Port]** 番号を入力します。デフォルトは「8181」です。
4. Web ブラウザからアクセスしたときに、Web ページ上に表示したい **[Title]** を入力します。
5. **[Web Dir]** ボックスに、Web Administration 機能で使用する追加のファイルを置くディレクトリ名を入力します。
6. **[Hide User List Button]** オプションがオンになっている場合、Web Administration 機能は、ホスト管理者の権限でアクセスしても、ユーザのリストを表示しません。
7. **[Control Access]** ボタンをクリックして、アクセスを許可または拒否する IP アドレスや一連の IP アドレス群を指定します。
   アクセス権のないシステムは、Web サーバ システムへ接続することができません。

8. **[適用]** をクリックし、設定内容を保存します。変更を反映させるには、監視サーバを停止し、再起動しなければなりません。

Web Administration

IP アドレスや一連の IP アドレス群によるアクセスの許可または拒否を指定することができます。アクセス権のないシステムは、監視サーバへ接続することができません。

特定のコンピュータや一連のコンピュータ群によるアクセスを拒否するには、以下の手順に従います。

1. **[Control Access]** ボタンをクリックします。すると、アクセス制御のプロパティが表示されます。
2. **[Granted Access]** を選択します。
3. **[Add]** ボタンをクリックします。すると、" [Deny Access On] " ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **[IP Address]** ボックスに、Web Administration へのアクセスが拒否されるコンピュータの IP アドレスを入力します。

   一連のコンピュータ群によるアクセスを拒否するには、**[Group of Computers]** を選択します。**[IP Address]** ボックスと **[Subnet Mask]** ボックスに、アクセスを拒否するグループの IP アドレスとサブネット マスクを入力します。例えば、クラス C アドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。
   これにより、このアドレス空間に属する 254 個のシステムによるアクセスが拒否されます。
5. **[OK]** をクリックして、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。このリストにリストされている以外のすべてのコンピュータによるアクセスが許可されます。
6. **[OK]** をクリックし、変更を保存します。変更を反映させるには、監視サービスを停止して再起動しなければなりませんので注意してください。

特定のコンピュータや一連のコンピュータ群によるアクセスを許可するには、以下の手順に従います。

1. **[Control access]** ボタンをクリックします。すると、" [Access Control] " ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[Denied Access]** オプションをオンにします。
3. **[Add]** ボタンをクリックします。すると " [Grant Access On] " ダイアログ ボックスが表示されます。
4. **[IP Address]** ボックスで、監視サーバの Web Administration へのアクセスが許可されるコンピュータの IP アドレスを入力します。

   一連のコンピュータ群によるアクセスを許可するには、

[Group of Computers] オプションを選択します。**[IP Address]** ボックスと **[Subnet Mask]** ボックスに、アクセスが許可されるグループの IP アドレスとサブネット マスクを入力します。
例えば、クラス C のアドレスが 156.21.50.0 の場合、グループ アドレスとして 156.21.50.0 を、サブネット マスクとして 255.255.255.0 を入力します。これにより、このアドレス空間に属する 254 個のシステムによるアクセスが許可されます。

5. **[OK]** をクリックして、リストに IP アドレス (複数も可) を追加します。このリストにリストされている以外のすべてのコンピュータによるアクセスが拒否されます。
6. **[OK]** ボタンを押します。その後サービスを停止し、5 ～ 10 秒待ってからサービスを再起動します。
サービスの再起動は **[Stop/Start]** ボタンによって行ってください。

Web Administration

Web Administration 機能が使用可能である場合は、198 ページの「Web Administration 機能の設定」で説明されているように、どの Web ブラウザからでも監視サーバにアクセスすることができます。

Web ブラウザから監視サーバにアクセスしたときに表示される内容は、ログオンしたユーザ ID のユーザ プロパティによって決まります。

例えば、監視サーバの Web Administration 機能にログオンするには、**[Allow Web access]** オプションが選択されている必要があります。
更に、ログオンすると、[システム管理] メニューは、システム管理者に対してのみ表示されます。同様に、[ホスト管理] メニューは、ホスト管理者に対してのみ表示されます。

リスト管理者は、監視サーバの Web Administration 機能にログオンしてリストを管理することはできないことに注意してください。
リスト管理者が Web 上でリストを管理するためには、Web Messaging を使用する必要があります。

Web ブラウザから監視サーバの Web Administration 機能にアクセスするには、次の手順に従います。

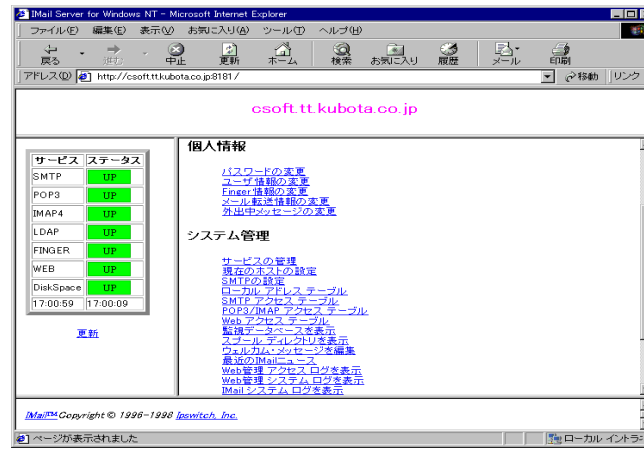
1. Web ブラウザを起動して、Web Administration サーバの URL アドレスを入力します。アドレスは、次のとおりです。
`http://your_imail_server_system:8181`
ここで「*your_imail_server_system*」は IMail Server のホスト名で、「8181」は Web 機能のポート番号で置き換えられます。
2. IMail のユーザ ID とパスワードを入力します。

注記

HTTP プロトコルを使ってこの情報を送信する際には、IMail のユーザ

ID とパスワードは、base64 で符号化されます。

次の画面は、Web ページの表示例です。Web ページでは、ユーザ メール アカウントにアクセスできるだけでなく、監視サーバによる監視の対象サービスの状態を表示することができます。



左側のパネルでは、監視対象サービスの状態が表示されます。緑色のサービスは実行中で、赤色のサービスは停止しています。

右側のパネルでは、管理機能のメニューを表示しています。**[個人情報]** の下の各機能は、すべてのユーザが見ることができます。システム管理者は、**[システム管理]** 機能も見ることができます。ホスト管理者は、**[ホスト管理]** 機能と **[リスト管理]** 機能も見ることができます。

[ ]

すべてのユーザは、以下の個人情報の項目にアクセスすることができます。

- [パスワードの変更] ―パスワードを変更することができます。
- [ユーザ情報の変更] ― LDAP サーバで公開されている情報を変更することができます。
- [Finger 情報の変更] ― *plan* ファイル中の情報を変更することができます。この情報は、Finger 要求に対して提供されます。
- [メール転送情報の変更] ―電子メールの転送先を設定します。すべてのメールは転送先に送信されます。
- [外出中メッセージの変更] ―ユーザにメールを送信してきた人に、一度だけ送信されるメッセージを入力します。この機能は、メッセージが存在すると有効となります。したがって、ウィンドウ内に何もない場合には、この機能は無効となります。

- [リストの保守 list_name] (ユーザがリスト所有者のときのみ表示されます。) ー特定のメーリング リストを保守することができます。

[ ]

システム管理者に対しては、以下のメニュー項目が表示されます。

- [サービスの管理] ー IMail Server を停止および起動することができます。また、サービスの監視方法を設定することができます。
- [現在のホストの設定] ーホストの設定を表示および修正することができます。
- [SMTP の設定] ー SMTP サーバの設定を変更することができます。それぞれの設定については、133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。
- [ローカルアドレス テーブル] ーローカル アドレス テーブルを修正することができます。メール中継機能の詳細については、133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。
- [SMTP アクセス テーブル] ー SMTP アクセス テーブルを修正することができます。SMTP アクセスの詳細については、133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。
- [POP3/IMAP4 アクセス テーブル] ー POP3/IMAP4 アクセス テーブルを修正することができます。詳細については、153 ページの「第 10 章 :POP3 サーバ」と 159 ページの「第 11 章 :IMAP4 サーバ」を参照してください。
- [Web アクセス テーブル] ー Web アクセス テーブルを修正することができます。この表では、監視サーバの Web Administration 機能に接続できる IP アドレスを指定します。
- [監視データベースを表示] ーサービスの監視に関するすべてのイベントを表示します。
- [スプールディレクトリを表示] ーメッセージ キューを表示して、ログ ファイルへアクセスすることができます。
- [ウェルカム・メッセージを編集] ープレーン テキストまたは HTML ソース コードを最大1000文字まで入力することができます。メッセージは、ログオン フォームの上にあるメイン ログオン画面に表示されます。このメッセージは、再起動するまで消えません。
- [最近の IMail ニュース] ー Ipswitch 社の新製品、バグ フィックス、問題の回避策などの情報を表示します。
- [Web 管理 アクセス ログを表示] ー IMail Web Messaging サーバと監視サーバへのアクセスの履歴を表示します。
- [Web 管理 システム ログを表示] ー IMail Server と監視サーバへのログオン、およびサービスの状態を表示します。

- [IMail システム ログを表示] ― IMail Server のメール送受信のトランザクションを表示します。(これは、*sysmmdd.txt* の内容です。)
- [IMail syslog ログを表示] ―システム ログ ファイル サービス ファイルである、*logmmdd.txt* の内容を表示します。このファイルが IMail サービスで使用可能になっている場合は、トランザクションとデバッグに関する情報が記録されます。

[ ]

ホスト管理者に対しては、**[ユーザ管理]** メニューの項目が表示されます。ホスト管理者は、これを使ってユーザとエイリアスの追加、修正、削除を行うことができます。

また、**[List Administration]** メニューの項目も表示されます。
ユーザは、この項目を使用して、特定のリスト サーバのメーリング リストを保守することができます。

ユーザやエイリアスの作成と保守の詳細については、55 ページの「第 4 章 : ユーザ メール アカウント」を参照してくださいを参照してください。

17 :

IMail リスト サーバを使用すると、IMail Server 上に“ メーリング リスト ” をセットアップすることができます。メーリング リストは、単純なグループ エイリアス (ユーザ リストの単なる名前) とは大きく異なります。

メーリング リストでは、メールを受信すると、その受信したメールをメーリング リストの全ユーザに再送信します。メーリング リストは、インターネット上で特定の話題についての情報を共有する手段として幅広く使われています。

IMail リスト サーバの設定は、IMail Administrator を使用して行ってください。

IMail リスト サーバでは、次の機能が提供されています。

- メーリング リストは、完全に“ オープン ” にすることができます。つまり、インターネット上で誰でも投稿することができます。
- また、メーリング リストは“ 公開 ” にすることができます。つまり、誰でもメーリング リストに登録することができます。ユーザは、リスト サーバに適切なコマンドメールを送ることで、リストに登録あるいは登録解除することができます。
- メーリング リストは**アンモデレート** (メーリング リストに送信されたメッセージは、直接メーリング リスト上の全ユーザに投稿される) ように設定することも、**モデレート** (すべてのメッセージを、メーリング リストに投稿される前にモデレータが確認する) ように設定することもできます。
- メーリング リストへの投稿を、パスワードまたは“ 投稿者リスト ” (投稿を許可された人のリスト) を使用することによって制限することができます。
- メーリング リストは非公開にすることもできます。非公開メーリング リスト (プライベート リスト) は、*Subscribe* コマンドを受け入れません。メーリング リストにユーザを追加できるのは、リスト管理者だけです。
- メーリング リストに送信されてきたメッセージを蓄積し、定期的に**ダイジェスト**として送信することができます。
- リスト管理者は、メーリング リストに投稿されたすべてのメッセージ (またはダイジェスト) の **Subject** 行に、設定した文字列を表示させることができます。

- リスト管理者は、(登録や登録解除の方法といった情報が含まれている) ヘッダ テキストやトレイラ テキストを設定し、メーリング リストに投稿されたすべてのメッセージ (またはダイジェスト) にそれを表示することができます。

メーリング リストに投稿（送信）できるユーザは、メーリング リストの種類によって決まります。基本的にメーリング リストには 3 種類あります。(メーリング リストの種類は、リストのプロパティの **[Security]** タブで設定します。)

- オープン リスト (誰でもメッセージを投稿することができます。投稿者を、メーリング リストに登録する必要もありません。)
- 登録者リスト (登録者のみが投稿することができます。)
- モデレータリスト (メーリング リスト所有者のみが投稿することができます。)

メーリング リストへのメッセージの投稿は、以下のいずれか、または両方を有効にすることによって、更に制限することができます。

- パスワードの要求 (208 ページの「パスワードの使用方法」を参照してください。)
- 投稿者リスト

パスワードまたは投稿者リストが有効になっている場合、パスワードを使用しない、または投稿者リストにリストされていないユーザがメールを送信すると、そのメールは返送されます。メーリング リスト所有者 (モデレータ) には、投稿しようとしたことが通知されます。

注記

メーリング リストに投稿することを許可したいユーザ数を少なくしたい場合は、それらのユーザに適切なパスワードを提供すればよいでしょう。しかし、メーリング リストに投稿することを許可するユーザ数が多い場合は、“ 投稿者リスト ” を利用した方が効率的です。

(　　)

オープン リストには、次の特徴があります。

- **[Use Password]** と **[Enable Posters List]** が無効になっている場合は、「*listname@domain.com*」の形式のアドレス宛てにメッセージを送信することによって、誰でもメーリング リストに投稿するこ

とができます。

- **[Use Password]** が有効になっている場合は、パスワードを知っているユーザのみが投稿できます。(208 ページの「パスワードの使用方法」を参照してください。)
- **[Enable Posters List]** が有効になっている場合は、投稿者リストに含まれるユーザのみが投稿できます。
- **[Use Password]** と **[Enable Posters List]** の両方が有効になっている場合、投稿者はパスワードを知っていて、かつ投稿者リストに含まれていなければなりません。

登録者リストには、次の特徴があります。

- メーリング リストは、登録者から成ります。登録者になるには、IMail リスト サーバ「imailsrv@*domain.com*」(*domain.com* は、メール ホストを表します。) 宛てにメッセージを送信します。このとき、登録しようとするユーザは、メッセージの本文に、subscribe コマンドとメーリング リスト名を入力します。詳細については、208 ページの「情報の要求と登録」を参照してください。
- **[Use Password]** と **[Enable Posters List]** が無効になっている場合、登録者は、「*listname@domain.com*」の形式のアドレス宛てにメールを送信することによって、投稿することができます。
- **[Use Password]** が有効になっている場合は、パスワードを知っている登録者のみが投稿できます。(208 ページの「パスワードの使用方法」を参照してください。)
- **[Enable Posters List]** が有効になっている場合は、投稿者リストに含まれる登録者のみが投稿できます。
- **[Use Password]** と **[Enable Posters List]** の両方が有効になっている場合、登録者はパスワードを知っていて、かつ投稿者リストに含まれていなければなりません。

モデレータリストには、次の特徴があります。

- **[Use Password]** と **[Enable Posters List]** が無効になっている場合、モデレータは、「*listname@domain.com*」の形式のアドレス宛てにメッセージを送信することによって、投稿することができます。
- **[Use Password]** が有効になっている場合、モデレータは、投稿するためにパスワードを入力する必要があります。この機能により、モデレータのメール アドレスを使用した“ なりすまし ”を防ぐことができます。(208 ページの「パスワードの使用方法」を参照してください。)

- **[Enable Posters List]** が有効になっている場合、モデレータは、投稿者リストに含まれるユーザのみからメールを受け取ります。
- **[Use Password]** と **[Enable Posters List]** の両方が有効になっている場合、モデレータは、投稿者リストに含まれるユーザのみからメールを受け取ります。また、モデレータは、メーリング リストに投稿するためにパスワードを入力する必要があります。

ユーザは、メーリング リスト名宛てにメッセージを送信することによって、メーリング リストにメッセージを投稿できます。例えば、domain.com 上の " beer " メーリング リストにメッセージを投稿するには、次のように入力します。

```
To: beer@domain.com
Subject: India Pale Ale

... 本文 ...
```

パスワードを使用するには、**Subject** 行の最初に、パスワードをコロンと角括弧［］ではさんで入力します。

```
To: beer@domain.com
Subject: [:password:]India Pale Ale

... 本文 ...
```

注記

パスワードには大文字 / 小文字の区別があります。

ユーザが特定のホスト上にあるメーリング リストに関する情報を入手したり、特定のホスト上のメーリング リストに登録するには、「`imailsrv`*@domain.com*」(*domain.com* はホスト名) 宛てにコマンドメールを送信する必要があります。この電子メールアドレスは、IMail に組み込まれたエイリアスです。このエイリアスを使って、ユーザは次のことを行うことができます。

- 特定のメール ホストのリスト サーバに関する一般ヘルプを得る
- 特定のメーリング リスト用のヘルプを得る
- 特定のメール ホスト上で利用可能な全メーリング リストの一覧を得る
- 特定のメーリング リストの全登録者の一覧を得る

- 登録者リストに登録する
- 登録者リストから登録を解除する

「imailsrv*@domain.com*」宛ての要求には、リスト サーバ コマンドと (必要に応じて) メーリング リストの名前がメッセージの本文に含まれていなければなりません。メッセージの本文中には、次のコマンドを入れることができます。

- Help
- Help *listname*
- List
- List *listname*
- Subscribe *listname your_name*
- Unsubscribe *listname your_name*

以下の例では、*domain.com* というメール ホスト上に「*beer*」というメーリング リストがあるものと想定しています。情報を要求するためのコマンドを以下に示します。

- **リスト サーバから一般ヘルプを得るには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

help
```

- **IMail Server 上の全メーリング リスト名を表示するには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

list
```

- **特定のメーリング リストに登録されているユーザの一覧を得るには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

list beer
```

- **特定のメーリング リスト用のヘルプを得るには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

help beer
```

以下の例では、*domain.com* というメール ホスト上に「*beer*」というメーリング リストがあるものと想定しています。登録および登録解除するためのコマンドを以下に示します。

- **メーリング リストに登録するには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

Subscribe beer Fred Farkle
```

- **メーリング リスト登録を解除するには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

Unsubscribe beer Fred Farkle
```

以下の例では、*domain.com* というメール ホスト上に「*beer*」というメーリング リストがあるものと想定しています。ユーザが既にメーリング リストに登録されている場合、そのユーザは、以下に示すコマンドを使用することができます。

- **メーリング リストに送信されたメッセージのダイジェストを受信するには、「set mode digest *listname*」という形式でコマンドを入力します。例えば、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

set mode digest beer
```

- **ダイジェスト モードをキャンセルし、メッセージがメーリング リストに送信されたときにそれを受信するには、set mode standard listname という形式でコマンドを入力します。例えば、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

set mode standard beer
```

( )

以下の例では、*domain.com* というメール ホスト上に「*beer*」というメーリング リストがあるものと想定しています。以下のコマンドを使用できるのは、メーリング リスト所有者 (モデレータ) だけです。

- **メーリング リストからユーザの登録を解除するには、次のように指定します。**

```
TO: imailsrv@domain.com
Subject:

Unsubscribe beer userid@domain.com
```

メール ホストを作成すると、*imailsrv* というプログラム エイリアスが自動的に作成され、*imailsrv.exe domain* として定義されます。したがって、「imailsrv*@domain.com*」宛てのメッセージは、IMail リスト サーバ アプリケーションである *imailsrv.exe* によって処理されます。

注記

アップ グレードの方へ：以前のバージョンの IMail Server では、リスト サーバとそのエイリアスは、*listserv* という名前でした。しかし、商標名の問題が発生したために、名前が変更されました。*listserv* というエイリアスをお使いになったことがある場合は、何も変更する必要はありません。IMail Server では、*listserv* という古いエイリアスも問題なく動作します。しかし、すべてのエイリアスは *listserv* の代わりに *imailsrv* を返すようになります。新しいメーリング リストを設定する場合は、*imailsrv* というエイリアスを使用してください。

リスト サーバのディレクトリは、*lists* です。このディレクトリは、*imail* ディレクトリの下に作成されます。各メーリング リストは、この最上位ディレクトリの下に別々のディレクトリとして作成されます。また、IMail Administrator 上には各メーリング リスト用のエイリアスが作成されます。

メーリング リストを作成するには、**[Tools]** メニューの **[Use Wizards]** がオフになっていると仮定)、次の手順に従います。

1. 左側のパネルで、[mail host] フォルダを展開し、**[Lists]** フォルダを選択します。
2. **[Add List]** ボタンをクリックします。すると、“ [Add New List] ” ダイアログ ボックスが表示されます。
3. メーリング リストの名前を入力します。この名前は、メーリング リストにメールを送信するのに使用されます。例えば、名前を「*Parrotlist*」と入力した場合、ユーザは “ [To] ” に「`Parrotlist@domain.com`」と指定して、メールをメーリング リストに送信します。

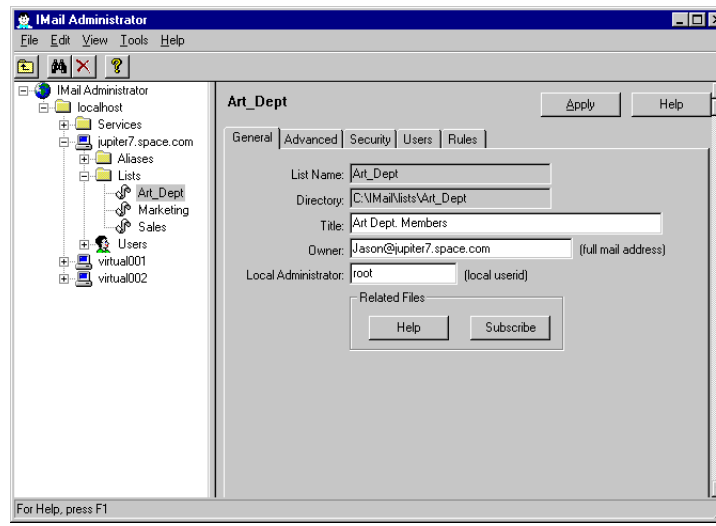
   名前の長さは、文字と文字の間にスペースを入れないで、アルファ

ベットで 3 ～ 23 まで文字にしてください。

注記

メーリング リストの名前に「*imailsrv*」という名前を使用しないでください。この名前は予約されています。

4. **[OK]** をクリックすると、**[General]** タブが表示されます。なお、**[List Name]** と **[Directory]** は、編集することはできません。



5. 入力を完了してください。

[Title]

メーリング リスト所有者や管理者が、メーリング リストを識別しやすくするために、リストの説明となるタイトルを入力します。タイトルの長さは、3 ～ 23 文字までにしてください。スペースを入力することもできます。

[Owner]

メーリング リスト宛てのすべてのメール (例えば、**登録要求**、**登録解除要求**、エラー メッセージなど) を受信するメール アカウントの完全な電子メール アドレスです。このアカウントは、以下のメッセージすべての送信元でもあります。

- メーリング リスト宛てのメッセージ(投稿メールを受信するためには、メーリングリストの登録者として登録されている必要があります。)
- メーリング リストに関する情報を要求したユーザ宛てのメッセージ
- メーリング　リストに投稿しようとして失敗したメールへの応答メッセージ

通常、メーリング リスト所有者と管理者は同じですが、“ ダミー ”ユーザ アカウントをリスト所有者として設定して、管理者と同一であることを隠すことができます。

[Local administrator]

Web Messaging を使ってメーリング リストの管理ができる、現在のメール ホスト上のユーザ ID です。このユーザは、メーリング リストのプロパティの修正、ユーザの追加または削除、および関連するすべてのファイルの編集を行うことができます。

注記

メーリング リストは、ローカル メール ホスト上の List Administrator **（リスト管理者）**である任意のユーザが管理することもできます。これは、ユーザ プロパティの **[General]** タブで指定されています。

[Related Files]

以下に示す適切なボタンをクリックすると、関連ファイルを編集できます。

- **[Help]**

  ヘルプ ファイル (HELP.TXT) は、リスト サーバが `Help` *listname* 要求に応答して送信する、あらかじめ用意された (1000 文字までの) メッセージを表示します。

- **[Subscribe]**

  登録ファイル (SUBSCRIB.TXT) には、`Subscribe` *listname* 要求が問題なく完了したときにサーバが送信する、あらかじめ用意された (1000 文字までの) メッセージが格納されています。

- **[Addresses]**

  アドレス ファイル (USERS.LST) は、電子メール アドレスの一覧で、このメーリング リスト宛てにメールを送信するときに使用します。このファイルは、ユーザの登録または登録解除時に、自動的に更新されます。ファイルの形式はテキスト ファイルで、1 行に 1 つのアドレスが記述され、行の末尾に改行（CR/LF）が入ります。

  このファイルをテキスト エディタで編集して、このメーリング リストからメールを受信するアドレスの追加または削除を行うことができます。なお、テキストエディタ等を使用してこのファイルを編集する場合は、ユーザファイル（USERS.TXT）も同様に編集することを推奨いたします。USERS.TXT を編集されない場合は、ユーザが *list listname* コマンドを使用した場合に、更新された登録者の一覧を参照できない等の問題が発生します。このファイルの中に無効なアドレスがある場合 (例えば、ファイルを編集していてタイプ ミスをした場合など)、メーリング リスト宛てにメッセージが送信されると、そのアドレスは無視されますので注意してください。

- **[Users]**

  この USERS.TXT というファイルを使用すると、ユーザは、メーリング リスト宛てに list listname コマンドを送信して、登録者の一覧を入手することができます。(リスト管理者は、list コマンドを使用禁止にすることができます。) このファイルは、ユーザ名と電子メール アドレスの一覧で、ユーザの登録または登録解除時に自動的に更新されます。この一覧は、実際にメーリング リスト宛てにメールを送信するときに使用される一覧とは異なります。

6. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。
7. 別のシステムから、テスト メール メッセージを「`imailsrv@`*domain*」に送信します。メッセージの本文には、次のように入力してください。

   ```
   subscribe listname your_full_name
   help
   help listname
   list
   list listname
   ```

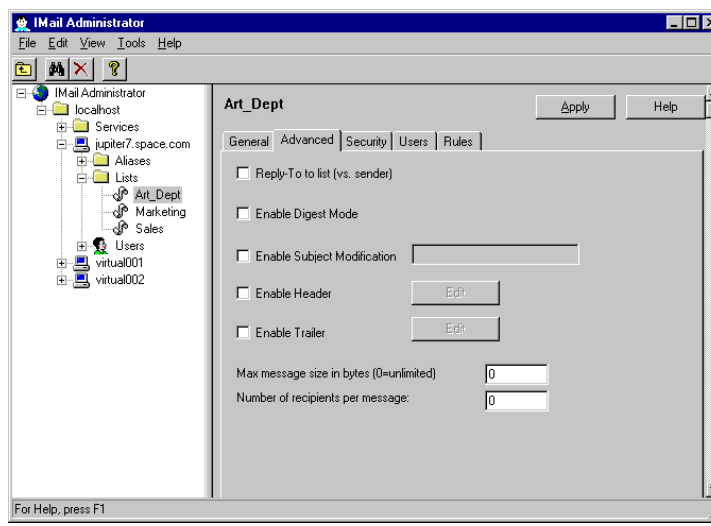
   すると、システムから 5 つのメッセージが送信されます。

   リスト サーバが受け入れるコマンドの説明については、208 ページの「情報の要求と登録」を参照してください。

[Advanced]

[Advanced] タブを使用して、メーリング リストの詳細を設定することができます。設定するには、次の手順に従います。

1. **[Advanced]** タブをクリックします。すると、[Advanced] オプションが表示されます。



2. 使用するオプションを選択します。各オプションについては、以下に説明します。

[Reply-To list (vs. sender)]

[Reply-To list (vs. sender)] オプションがオンの場合、登録者からの返信は、メーリング リストに送信されます。このオプションがオフの場合、登録者からの返信は、元のメッセージの送信者に送信されます。

[Enable Digest Mode]

このオプションがオンの場合、メーリング リストに送信されたメッセージを 1 つのダイジェストにまとめ、単一メッセージとして送信できます。このダイジェストは、一定間隔ごとに、または蓄えられたメッセージのサイズが指定された値に達したときに送信されるようにスケジュールできます。メーリング リストのユーザが受信するダイジェストには、以前のダイジェスト送信以降にリストに送信されたすべてのメッセージが含まれています。

[Enable Digest Mode] を選択すると、**[Digest]** タブと **[Digest Scheduling]** タブが表示されます。これらのタブのオプションを設定して、ダイジェストの運用方法を定義する必要があります。詳細については、218 ページの「ダイジェスト モードの設定」を参照してください。

[Enable Subject Modification]

このオプションがオンになっていると、([編集] ボックスで入力した) 文字列が、メーリング リストに送信された各メッセージの Subject 行の最初に表示されます。

例えば、[Bird-info] を定義文字列として入力すると、メッセージの Subject 行には次のように表示されます。

```
Subject: re:[Bird-info] How do you receive mail?
```

デフォルトの文字列は、メーリング リスト名です。

[Enable Header/Enable Trailer]

このオプションがオンになっていると、(**[Edit]** 機能で入力された) テキスト情報が、メーリング リストに送信された各メッセージの最初か最後に表示されます。ヘッダ情報を入力するには、**[Enable Header]** オプションを選択し、**[Edit]** をクリックします。次に、テキスト情報を入力します。この情報は、*header.txt* ファイルに保存されます。トレイラ情報を入力するには、**[Enable Trailer]** オプションを選択し、**[Edit]** をクリックします。次に、テキスト情報を入力します。この情報は、*trailer.txt* ファイルに保存されます。

例えば、メーリング リストの登録や登録解除の方法を入力し、各メッセージの最初や最後に表示させることができます。

[Max message size in bytes (0 = unlimited)]

メーリング リストに送信できるメッセージの最大サイズ (バイト数)。サイズを無制限にしたいときは、0 を入力します。

[Number of recipients per message]

SMTP の各プロセスが送信するメールの受信者数を決めるために、計算して入力する必要があります。

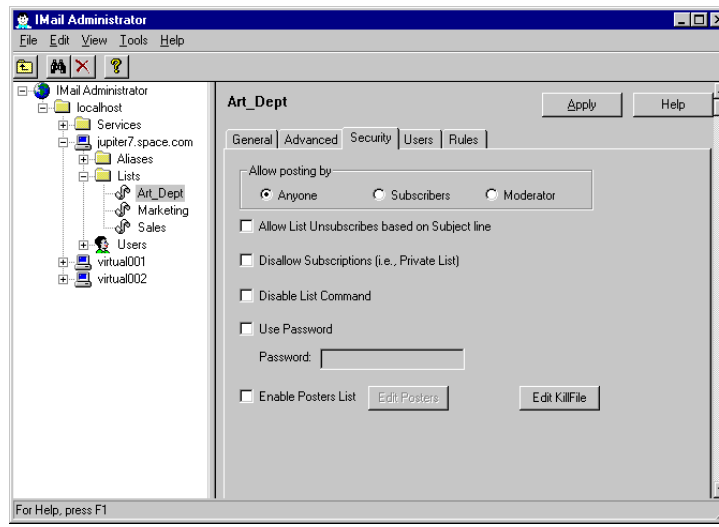
予想される登録者数を 25 で割り、その結果を入力します。各メーリング リストが使用するプロセスは、25 個以下にすることを推奨します。

IMail Server の SMTP プロセス数のデフォルト値を変更する方法については、262 ページの「SMTP プロセス数の変更」を参照してください。

3. **[OK]** をクリックして、変更を保存します。

[Security] タブを使用して、メーリング リストへのアクセス権の設定を行うことができます。

1. **[Security]** タブをクリックします。すると、[Security] オプションが表示されます。



2. 使用するオプションを選択します。各オプションについては、以下に説明します。

   [Allow posting by]

   メーリング リストにメールを投稿できるユーザを決定します。

   - **[Anyone]** どのユーザでもメールを投稿できるようになります。
   - **[Subscribers]** を選択すると、登録者だけがメールを投稿できるようになります。

- **[Moderator]** を選択すると、メーリング リスト所有者だけがメールを投稿できるようになります。**[Moderator]** は、メッセージがリストに投稿される前に、メーリング リスト所有者がすべてのメッセージを再確認する場合に使用します。

[Allow List Unsubscribes based on Subject line]

ユーザがメーリング リストへの登録を解除する場合､ほとんどのリスト サーバでは、*Unsubscribe* コマンドがメールの本文で指定されることを想定しています。メーリング リストで、メッセージの Subject 行で指定されている *Unsubscribe* コマンドも受け入れるようにするには、このオプションを選択してください。

このオプションがオンになっていると、メーリング リストは **Subject** 行にある、次の登録コマンドを受け入れます。*unsubscribe*、*remove*、*signoff*

注記

このコマンドを有効にしておくことを推奨します。ただし、リスト サーバがサポートしていることを公表しないでください。これは、コマンドにスペル ミスがあった場合、メッセージがメーリング リストのアドレスに送られ､メーリング リストに送信されてしまう可能性があるからです。

[Disallow Subscriptions]

メーリングリストへの *Subscribe* 要求が拒否されます。ユーザの追加は、次の方法のいずれかを使ってのみ行うことができます。

- IMail Administrator を使用して、ユーザ ファイルを編集する。
- リスト管理者が、Web Messaging を使用して行う。
- リスト管理者が、Web リモート管理ユーティリティを使って行う。
- なお、**登録解除要求は禁止できないので注意してください**。

[Disable List Command]

メッセージの本文に `List` *listname* コマンドを入力して、リスト サーバ (例えば、*imailsrv@domain.com*) にメールを送信すると、メーリング リストに登録されているユーザの一覧を入手することができます。メーリング リストへの登録者の一覧をユーザが受信できないようにするには、このオプションを選択します。
(ただし、メーリング リスト所有者は、常にこのコマンドを使用できますので注意してください。)

[Use Password]

このオプションがオンになっていると､メーリング リストへ投稿するには、パスワードが必要となります。詳細については、208 ページの「パスワードの使用方法」を参照してください。

[Enable Posters List]

このオプションがオンになっていると、ユーザの電子メール アドレスを一覧にしたファイルを使って、投稿できるユーザを指定できます。**[Edit Posters]** をクリックして、ファイルを編集してください。

[Edit Kill File]

Kill ファイルにメール アドレスや特定のメール ホストを指定すると、そこからのメールは受け取らないようにすることができます。Kill ファイル内にメール アドレスやメール ホストを指定するには、[Edit kill file] ボタンをクリックします。*kill.lst* ファイルが、Windows の「メモ帳」で表示されます。*kill.lst* ファイルには、次のいずれかの形式のエントリを 1 行に 1 つずつ入力してください。

```
userid@host
@host
```

例えば、あるユーザ メール アカウントからのアクセスを拒否するには、「*fred @widget.com*」と入力します。メール ホスト widget.com の全ユーザのアクセスを拒否するには、「*@widget.com*」と入力します。

リスト サーバは、着信メッセージの `MAIL FROM: <user@host>` をチェックします。リスト サーバは、Kill ファイルにリストされているすべてのメール アドレスからのアクセスを拒否します。

kill.lst ファイルは *IMail¥lists¥listname* ディレクトリに存在し (*listname* はそのメーリング リストのあるディレクトリ)、指定のメーリング リストに対してのみ適用されます。

3. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。

メーリング リストは、ダイジェスト モードを設定することができます。これにより、登録者はメーリング リストからのメッセージを頻繁に受信する代わりに、一定間隔ごとにダイジェストを受信するオプションを選択できます。

リスト サーバは、メーリング リストに送信されたすべてのメッセージをダイジェスト メールボックスに格納します。蓄積されたメッセージは、ダイジェストの購読者に単一メッセージとして送信されます。

ダイジェストは、一定間隔ごとに (例えば毎日や毎週など)、あるいはダイジェストのサイズが指定のバイト数に達したときに送信されるようにスケジュールできます。ユーザが受信するダイジェストには、以前のダイジェスト送信以降にリストに送信されたすべてのメッセージが含まれています。

ダイジェストは、指定された特殊なメールボックスに書き込まれます。ユーザはダイジェストを受信するか、送信されたメッセージをすべて受信

するかを選択することができます。ダイジェストを受信するには、ユーザは、次のコマンドをメッセージの本文に入力したメールをリスト サーバ (*imailsrv@domain*) に送信します: `set mode digest listname`。*listname* はメーリング リスト名です。確認メッセージがユーザに送信されます。ダイジェスト モードをキャンセルするには、メッセージ本文に次のコマンドを入力します。

```
set mode standard listname
```

listname はメーリング リスト名です。

メーリング リストのダイジェスト モードを有効にするには、次の手順に従います。

ダイジェスト モードを設定するには、次の手順に従います。

1. **[Advanced]** タブで、**[Enable Digest Mode]** を選択します。

   [Enable Digest Mode] オプションがオンの場合、**[Digest]** タブと **[Digest Schedule]** タブが表示されます。

2. **[Digest]** タブをクリックします。すると、オプションが表示されます。

3. **[Digest Mailbox]**

   ダイジェスト メールが送信される前に、メールが格納されるメールボックス名を入力してください。

   すべてのメールのコピーは、次のアドレスに送信されます。

   `list_administrator-`*`mailboxname@domain.com`*

   メールがダイジェスト リストに送信された後に、ダイジェスト メールボックスは空にされ、コピーが次の形式で作成されます。

   `digestmail``boxMMDD.mbx`

   digestmailbox はダイジェスト メールボックスの名前を、MM は投稿された月を、DD は日付をそれぞれ表します。

   リスト管理者は、Web Messaging またはリモート管理ユーティリティを使用して、メールボックスを参照することができます。管理者は、メールが投稿される前にメッセージを追加または削除したり、上で説明した *digestmailboxMMDD.mbx* ファイルに格納されている投稿済みのダイジェストを参照することができます。

4. **[Subject Line for Digest Postings]**

   ダイジェストの **Subject** 行に使用されるテキストを入力します。

5. **[Include Headers/Trailers When Posting to Digest Mailbox]**

   このオプションがオンの場合、ダイジェストとして投稿されるメッセージにヘッダ メッセージやトレイラ メッセージが付きます。このオプションを使用すると、ダイジェストのサイズが大きくなる上、ダイジェスト自体にもヘッダやトレイラが付いているため、このオプションの使用は推奨しません。

6. **[Strip Non-Text Attachments before Posting]**

   このオプションがオンの場合、ダイジェストが送信される際に、画像ファイルや Zip ファイルなどの添付ファイルが除去されます。

7. **[Enable Message Separators]**

   ダイジェスト内でメッセージを自動的に区切るのに使用する線や文字を入力できるようにします。このオプションを選択すると、**[Edit]** ボタンが使用可能になります。**[Edit]** ボタンをクリックし、セパレータとして使用する線や文字を入力してください。

8. **[Enable Digest Header/Enable Digest Trailer]**

   このオプションがオンになっていると、各ダイジェストの最初か最後にテキスト情報が表示されます。ヘッダ テキストまたはトレイラ テキストを入力するには、**[Enable Digest Header/Trailer]** オプションを選択し、**[Edit]** をクリックします。次に、テキストを入力します。(このテキストは、*digest_header.txt* ファイルまたは *digest_trailer.txt* ファイルに保存されます。)

   例えば、ダイジェストに登録や登録解除の方法を入力し、それを各ダイジェストの最初か最後に表示することができます。

9. **[Digest Subscribers]**

   ダイジェストを購読しているユーザの一覧(*digest.lst*)を編集するには、このボタンをクリックします。

10. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。

11. スケジュールの方法 (必要なら日付と時間) を設定し、ダイジェストを送信する頻度と時期を決定します。

前の手順を完了したら、ダイジェストのスケジューリングを行うことができます。

1. **[Digest Scheduling]** タブをクリックします。すると、スケジューリング オプションが表示されます。

2. **[Periodicity]** ドロップ ダウン リストから、ダイジェストを投稿する頻度を選択します。

   - **[Daily]**

     ダイジェストを毎日投稿したい場合に選択します。投稿する日付と時間を設定します。

   - **[Weekly]**

     ダイジェストを毎週投稿したい場合に選択します。投稿する日付と時間を設定します。

- **[Bi-Weekly]**

  ダイジェストを隔週で投稿したい場合に選択します。投稿する日付と時間を設定します。

- **[Monthly]**

  ダイジェストを毎月投稿したい場合に選択します。投稿する日付と時間を設定します。

- **[User-defined]**

  ダイジェストを nn 日ごとに投稿したい場合に選択します。日数を入力します。ここでは、ダイジェストを投稿する頻度、および次の投稿の再スケジュール方法を調整することができます。

- **[Size-Exceeds]**

  このサイズに達したときに、ダイジェストを発信する場合に選択します。キロ バイト数を入力します。ここでは、ダイジェストを投稿する頻度、および次の投稿の再スケジュール方法を調整することができます。

- **[Manual]**

  [Process/Send Now] ボタンをクリックしたときにのみダイジェストを投稿する場合に選択します。

3. **[Last Processing Date/Time]** には、最後にダイジェストが投稿された日時が表示されます。
4. **[Next Processing Date/Time]**

   次回のダイジェストがスケジュールされている場合は、次回の日付と時間が表示されます。日付と時間が空白の場合は、次に処理したい日付と時間を入力します。これらの値は、次回のダイジェストが投稿されると更新されます。
5. **[Process/Send Now]** をクリックすると、ダイジェストを直ちに投稿し、選択した周期で次の投稿を再スケジュールすることができます。
6. **[適用]** をクリックして、設定を保存します。

メッセージ転送によってユーザを追加するための特殊なエイリアスをセットアップするには **([Tools]** メニューの **[Use Wizards]** がオフになっていると仮定 **)**、次の手順に従います。

1 IMail Administrator で、メール ホストのフォルダを展開し、**[Aliases]** フォルダを選択します。

2 **[Add Alias]** ボタンをクリックします。“ [New Alias] ” ダイアログ ボックスで、次のようにします。

- エイリアス名を入力します。例 : Parrots_add
- **[Program]** エイリアスを選択します。

- **[OK]** をクリックします。

3 **[General]** タブの **[Resolves To]** ボックスに、次の形式でエイリアスのプロパティを入力します。

```
imailsrv -add domain listname
```

例えば、*Parrot_add* というプログラム エイリアスを作成した場合、次のように解決されます。

```
imailsrv -add  exoticbirds.com Parrotlist
```

メッセージが「*Parrots_add@exoticbirds.com*」に転送されると、転送されたメッセージの **[Reply-To]** ヘッダ (**[Reply-To]** ヘッダがない場合は、**[From]** ヘッダ) で指定されたユーザが、*Parrotlist* メーリング リストに追加されます。(メッセージの本文は無視されます。)

注記

メッセージは修正せずに (ヘッダも変更せずに) 転送しなければなりません。メッセージを修正した場合は、転送者自身がメーリング リストに追加されます。

メーリング リストへの新規登録者の追加を確認するメッセージが、メーリング リスト所有者 (またはモデレータ) と新規登録者の両方に送信されます。

メッセージ転送によってユーザを削除するための特殊なエイリアスをセットアップするには、次の手順に従います。

1 IMail Administrator で、メール ホストのフォルダを展開し、**[Aliases]** フォルダを選択します。

2 **[Add Alias]** ボタンをクリックします。" [New Alias] " ダイアログ ボックスで、次のようにします。

- エイリアス名を入力します。例 : Parrot_del
- **[Program]** エイリアスを選択します。
- **[OK]** をクリックします。

3 **[General]** タブの **[Resolves To]** ボックスに、次の形式でエイリアスのプロパティを入力します。

```
imailsrv -remove domain listname
```

例えば、*Parrot_del* というプログラム エイリアスを作成した場合は、次のように解決されます。

```
imailsrv -remove exoticbirds.com Parrotlist
```

すると、どのメッセージも「*Parrots_del@exoticbirds.com*」に転送することができます。転送したメッセージの **[Reply-To]** ヘッダ (**[Reply-To]** ヘッダがない場合は、**[From]** ヘッダ) で指定されたユーザが、*Parrotlist* メーリング リストから削除されます。(メッセージの本文は無視されます。)

注記

メッセージは修正せずに (ヘッダも変更せずに) 転送しなければなりません。メッセージを修正した場合は、転送者自身がメーリング リストから削除されます。

ユーザの削除を確認するメッセージが、メーリング リスト所有者 (またはモデレータ) に送信されます。ユーザを追加する場合は、登録者にも確認のメッセージが送信されます。

“ 未知のユーザ ” や “ 未知のホスト ” メッセージからメーリング リストの登録者が想定される場合は、このようなユーザをメーリング リストから削除するエイリアスを作成することができます。

未知のユーザまたはホストを削除するための特殊なエイリアスをセットアップするには、次の手順に従います。

1 IMail Administrator で、メール ホストのフォルダを展開し、**[Aliases]** フォルダを選択します。

2 **[Add Alias]** ボタンをクリックします。“ [New Alias] ” ダイアログ ボックスで、次のようにします。

- エイリアス名を入力します。例 : *Unknown_del*
- **[Program]** エイリアスを選択します。
- **[OK]** をクリックします。

3 **[General]** タブの **[Resolves To]** ボックスに、次の形式でエイリアスのプロパティを入力します。

```
imailsrv -ruhost domain listname
```

例えば、*Unknown_del* というプログラム エイリアスを作成した場合は、次のように解決されます。

```
imailsrv -ruhost exoticbirds.com Parrotlist
```

すると、未知のユーザや未知のホストのメッセージを「*unknown_del@exoticbirds.com*」に転送することができます。転送したメッセージの **[Reply-To]** ヘッダ (**[Reply-To]** ヘッダがない場合は **[From]** ヘッダ) で指定されたユーザは、*Parrotlist* メーリング リストから削除されます。(メッセージの本文は無視されます。)

18 : Mail to Pager

IMail Server では、サーバ上にエイリアスを作成し、メッセージの着信時にメール ユーザのポケベルにメッセージを転送したり、メールの到着を知らせることが可能です。

例えば、“PageFred”というエイリアスを作成し、そのエイリアスにセンター番号とポケベル番号を定義しておきます。これにより、ユーザがメールを “PageFred” というアドレスに宛てて送信すると、IMail Server はそのメールを指定のポケベルに転送します。

Beeper Pager

Beeper Pager

1. IMail Administrator を起動し、次に **Aliases** フォルダを選んでください。
2. **Add Alias** ボタンをクリックしてください。
3. **Alias ID** を入力して [次へ] をクリックしてください。
4. **Beeper/Pager** を選択して [次へ] をクリックしてください。
5. **“Standard Aliases ”** ダイアログボックスが表示されます。
6. **Pager** または **Beeper** のどちらかを選択してください。
7. **Pager** を選択した場合は “ Pager エイリアスの定義 ”に、**Beeper** を選択した場合は “ Beeper エイリアスの定義 ”に進んでください。

Pager

ダイアログボックスに次のように記入してください。

1. **“Phone number ”** にダイアルする**センター番号**を入力してください。
2. 必要であれば、**パスワード**を入力してください。
3. **Pager ID** にポケベル番号を入力してください。
4. **“Maxmam Size”** に送信する最大文字数を入力してください。(設定可能最大文字数は 200 文字)
5. 日本国内では **Parity** を 8N1 に設定してください。
6. 日本国内では **Protocol** を NTT に設定してください。
7. モデムが接続されている **COM ポート**を選択してください。
8. シリアルポートがモデムと通信する **Baud Rate** を選択してください。(単位はビット／秒)

9. ポケベルへの通知と同時に、メールアドレスへの通知を行いたい場合には、Deliver copy to message to チェック ボックスをオンにしてメールアドレスを入力してください。
10. 設定が終了したら [次へ] をクリックします。

Beeper

ダイアログボックスに次のように記入してください。

1. **“Phone number ”** にポケベル番号 を入力してください。
2. Numeric コードには、ポケベルに送信するメッセージを数字と記号で入力します。(メッセージの記述方法はポケベルの取扱説明書をご覧ください。)
3. COM ポートを選択してください。
4. シリアルポートがモデムと通信する Baud Rate を選択してください。(単位はビット／秒)
5. ポケベルへの通知と同時に、メールアドレスへの通知を行いたい場合には、Deliver copy to message to チェック ボックスをオンにしてメールアドレスを入力してください。
6. 設定が終了したら [次へ] をクリックします。

通知の設定については、190 ページの「通知方法の定義」を参照してください。

Pager/Beeper

指定した pager エイリアスに対してメールを送信すると、メールの内容をポケベルに送信することができます。

また、beeper エイリアスに対してメールを送信すると、事前に定義された送信メッセージがポケベルに通知され、メールの着信が知らされます。

また、ユーザ ID の転送先アドレスとして、pager または beeper エイリアスを指定することもできます。

そうするとユーザ ID 宛にメールが届くと、ポケベルがメールを受信することができます。

注記

ユーザ ID の転送先アドレスに、pager または beeper エイリアスを指定した場合は、pager または beeper エイリアスの定義の際、Deliver copy to message to フィールドに、転送対象のユーザ ID をセットしないでください。メールがユーザ ID とポケベル間でループすることになります。

19 :IMail Administrator

管理者は、IMail Server のリモート管理機能を使用して、別の IMail 7 サーバに接続し保守を行うことができます。この機能を使用すると、管理者はリモートの IMail Administrator コンソールに直接接続し、ローカル マシンで実行できる機能をすべてリモート コンソールで実行することができます。

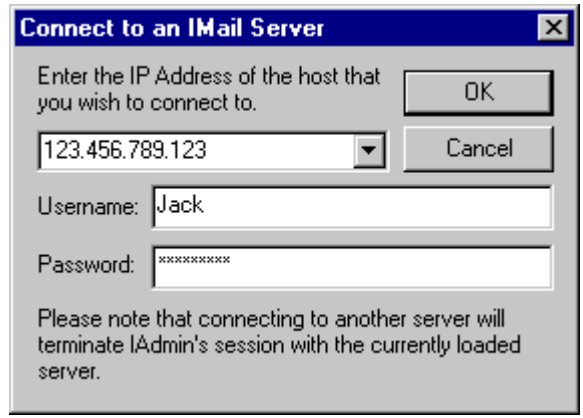
IMail Administrator のリモート接続機能を使用するには、以下の条件を満たす必要があります。

- ローカル マシンとリモート マシンの両方で、IMail Server バージョン 7.0 が稼働している
- リモート マシンでパスワード サーバが稼働し、正しいポートが設定されている
- ユーザが、有効な IMail システム管理者である

リモート サーバに接続するには、パスワード サーバがローカル マシンとリモート マシンの両方で稼働していなければなりません。パスワード サーバは、リモート接続を受信するためポート 8399 とポート 106 にバインドされます。

リモート サーバに接続するには、次の手順に従います。

1. まず最初に、パスワード サーバがリモート IMail サーバで稼働していることを確認してください。
2. IMail Administrator の **[File]** メニューから、**[Connect]** を選択します。リモート接続用のダイアログが表示されます。



3. 接続先のホストの IP アドレスを入力します。ここには、コンピュータ名ではなく、リモート ホストの IP アドレスを入力します。
4. IMail Server は、入力した IP アドレスを保管します。そのため、今後の接続では、アドレスをドロップ ダウン リストから選択できるようになります。
5. IMail Sever のユーザ名とパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。

ローカル サーバの IMail Administrator インターフェースは、リモート サーバのインターフェースから閉じたり開いたりすることができます。同時に 2 つの IMail Administrator セッションを開くことはできません。そのため、リモート サーバに接続すると、現在ロードされているサーバの IMail Administrator セッションが終了することに注意してください。ただし、別のサーバに接続する場合は、後から接続し直すことができます。

ローカル サーバに再度接続するには、次の手順に従います。

1. IMail Administrator の **[File]** メニューから、**[Connect]** を選択します。
2. ローカル マシンの IP アドレスを入力します。127.0.0.1 や “ localhost ” ではなく、IP アドレスを入力する必要があります。
3. IMail Server のユーザ名とパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。

リモート サーバの IMail Administrator インターフェースが閉じ、ローカル サーバのインターフェースになります。

A:

IMail は、組み込まれているロック機能を使用して、同時読取り / 更新エラーの発生を防ぎます。ファイルのロックは、ファイル名の最初の文字を変更し、ロックされたファイルと同じディレクトリ内に特別なファイルを作成して行われます。

重要な読取りや書込みがファイルに対して実行されているときにだけ、ファイルがロックされます。ロックは、1 時間以上行われると解除されます。つまり、重要な読取りや書込みの間にシステムがクラッシュすると、最高 1 時間はファイルやサービスがロックされ、アクセスできなくなることを意味します。

ロック ファイルに実際にアクセスしているプロセスがないことがわかっているときは、そのロック ファイルを手作業で削除することができます。ロック時間として 1 時間を設定している理由は、遅いリンクで大きなファイルを転送するのに必要な時間を考慮しているためです。

B:

本付録では、IMail Server 情報のバックアップ方法について説明します。

IMail Server

IMail Server の設定は、レジストリに保存されています。

IMail Administrator

バックアップを手動で行うには、次の手順に従います。

1. “ **[localhost]** ” フォルダを選択します。
2. **[General]** タブで、**[Backup]** ボタンをクリックします。

ダイアログ ボックスが表示されますので、“ Filename ” フィールドにファイル名を入力した後、［Backup］ボタンをクリックしてください。

バックアップ ファイルからレジストリを復元するには、次の手順に従います。

1. “ **[localhost]** ” フォルダを選択します。
2. **[General]** タブをクリックします。
3. **[Backup]** ボタンをクリックします。
4. “ [Possible IMail backup files...] ” ボックスの中の、使用するバックアップ ファイルを選択します。
5. **[Restore]** ボタンをクリックします。

バックアップ ファイルを復元すると、バックアップした時点から復元した時点までに行われた変更は失われます。

上で説明したバックアップと同じ操作を、コマンドラインユーティリティ (regback.exe) を使用して実行することができます。このユーティリティを使用すると、他のシステムからバックアップを行ったり、スケジューリング プログラムを使って、定期的にバックアップを実行することができます。

詳細は、付録 C：コマンドラインユーティリティを参照してください。

IMail Server のレジストリ設定をバックアップするには、**レジストリエディタ（regedit.exe）**を使用して、HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Ipswitch¥IMail キーを保存することもできます。この方法では、システム設定とすべてのユーザ設定が保存されます。

ユーザ設定だけをバックアップしたい場合は、次のキーをバックアップします。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Ipswitch
      ¥IMail¥Domains¥domain_name¥Users
```

この方法で保存されたユーザは、レジストリのテキスト ファイルを編集して“ ドメイン名 ”を変更することによって、どのドメインにもインポートすることができます。

IMail Server

IMail Server のシステム ファイルは (ディレクトリ名を変更していない場合)、*¥imail* ディレクトリに格納されていますので、全てのシステムファイルのバックアップを行いたい場合は、*¥imail* 以下の全てのファイル及びディレクトリをコピーしてください。

ユーザのメールは、*¥imail(* 通常、*imail¥users* の下ですが、ドメインによって異なる場合があります。) ディレクトリの下に格納されますので、ユーザのメールのバックアップを行いたい場合は、*¥imail¥user* 以下の全てのファイル及びディレクトリをコピーしてください。

C:

IMail Server のコマンドライン ユーティリティは、煩雑な作業を自動化するために役立ちます。これらのアプリケーションは、Windows NT のコマンド プロンプトからの入力を受け入れることができます。また、同様に、コマンド プロンプト表示にメッセージを送ることができます。

これらのユーティリティは、いくつかの方法で実行できます。コマンド プロンプトでコマンドを入力する方法、バッチ ファイルに記述されたコマンドを実行する方法、またはテキスト ファイルに格納されたコマンドを実行する方法があります。

本付録では、以下の IMail コマンドラインユーティリティを扱います。

- *addalias.exe* - エイリアスを追加、修正、および削除します。
- *adduser.exe* - ユーザを追加、修正、および削除します。
- *imail1.exe* - メール メッセージを作成します。
- *immsgexp.exe* - ユーザ ディレクトリから古いメッセージを削除します。
- *ldaper.exe* - LDAP データベースに値を入れます。
- *mailall.exe* - ホスト上の全ユーザにメール メッセージを送信します。
- *regback.exe* -IMail のレジストリ キーをバックアップおよび復元します。
- *smtp32.exe* - メッセージを配信します。

注記

ほとんどのコマンドライン ユーティリティでは、区切り文字としてハイフン (-) またはスラッシュ (/) を使用することができます。

(addalias.exe)

Addalias.exe は、テキスト ファイルに格納されたエイリアスを一括して追加したり、IMail Serverシステム上のエイリアスを修正または削除するユーティリティです。*addalias* をオプションなしで呼び出した場合は (MS-DOS プロンプトで、「*addalias*」とだけ入力した場合)、コマンドラインを手動で入力することができます。この場合、1 行入力するごとに **Enter** を押します。作業が終了したら、CTRL-Z を押してユーティリティを終了してください。

```
addalias [-h hostname] [-cX] [-{a|d|m}] alias[=destination]
```

引き数	説明
-h *hostname*	エイリアスの仮想ホストを指定します。ホストを指定しない場合は、一次 IMail Server ホストが使用されます。(テキスト ファイルで -h を使用すると、ファイル内のすべての行に適用されます。)
-cX	代替区切り文字を指定します。Addalias は、指定された区切り文字でデフォルトの区切り文字 (=) を置き換えます。スペースは使用できませんので注意してください。(テキスト ファイルで -c を使用すると、ファイル内のすべての行に適用されます。)
-a *aliasname*	同じエイリアス名が存在しない場合に、エイリアスを追加します。*aliasname* は、追加したいエイリアス名です。単一のコマンド行で追加できるエイリアスは、1 つだけです。
-m *aliasname*	同じエイリアス名が存在している場合でも、エイリアスを修正または追加します。*aliasname* は、変更したいエイリアス名です。単一のコマンド行で修正できるエイリアスは、1 つだけです。
-d *aliasname*	既存のエイリアスを削除します。*aliasname* は、削除したいエイリアス名です。単一のコマンド行で削除できるエイリアスは、1 つだけです。
-f *filename*	複数のコマンドをテキスト ファイルに格納し、Addalias で一度に実行することができます。-f を使って、Addalias コマンドが含まれるテキスト ファイルの名前を指定します。(上記のすべてのコマンドは、テキスト ファイルで有効ですが、-h と -c は複数の入力行に適用されるので注意してください。)
-l	現在のエイリアスをリストします。この引き数は、テキスト ファイルでは使用できません。
-?	引数オプションの概要を表示します。

次の例では、*newalias* → *email* というエイリアスを追加します。

```
addalias -c: -a newalias:email
addalias -a newalias=email
addalias -c: newalias:email
addalias newalias=email
addalias newalias email
```

次の例では、*secondhost.com* に *newalias* → *email* というエイリアスを追加します。

```
addalias -h secondhost.com -a newalias email
```

次の例では、エイリアスを削除します。

```
addalias -d oldalias
addalias -h another.net -d alias1
```

Addalias は、要求された処理を少なくとも 1 つ実行した場合は 1 を、失敗した場合は 0 を返します。

MS-DOS プロンプトからコマンドを入力する代わりに、テキスト ファイルを使用して複数のコマンドを一度に実行することができます。この方法は、他のメール システムから IMail Server システムにエイリアスを追加する場合に使用することができます。**ただし、そのメール プログラムが、エイリアスを区切り文字で区切ったテキスト ファイルを作成できる必要があります。**

例えば、次の行が含まれる *test.txt* というファイルを作成します。

```
test1=me
test2=test1
test3=test2
-h virtual001 test1=me
test3=me
-m test2=him
-d test3
```

MS-DOS プロンプトで、次のように入力します。

```
addalias <test.txt
```

<という記号は、addaliasにtest.txtを入力として使用するように知らせます。

すると、次のメッセージが表示されます。

```
current host is wks003.augusta.ipswitch.com
added [wks003.augusta.ipswitch.com] test1 -> me
added [wks003.augusta.ipswitch.com] test2 -> test1
added [wks003.augusta.ipswitch.com] test3 -> test2
current host is virtual001
added [virtual001] testl -> me
added [virtual001] test3 -> me
modified [virtual001] test2 -> him
deleted [virtual001] test3 -> me
```

```
addalias -f test.txt
```

としても同様の結果が得られます。

(adduser.exe)

Adduser.exe は、ユーザを追加、修正、または削除するユーティリティです。ただし、このユーティリティを使用するには、**そのドメインが、IMail データベースまたは外部データベースを使用している必要があります。** (*Adduser.exe* を使って、Windows NT データベースを使用しているドメインにユーザを追加することはできません。)

adduser.exe を使用して、ユーザ ID とパスワードがテキスト ファイルに格納されているユーザを追加することができます。パスワードは、4 ～ 15 文字でなければなりません。

adduser をコマンドラインオプションなしで呼び出した場合は (MS-DOS プロンプトで、「*adduser*」とだけ入力した場合)、コマンドラインを手動で入力することができます。この場合、1 行入力するごとに **Enter** を押します。作業が終了したら、CTRL-Z を押してユーティリティを終了します。

```
Adduser.exe [-h hostname] [-k userid] [-m userid] [-u userid]
       [-p password] [-n name] [-f filename] [-l] [±chgpass] [±web]
        [±active] [±info]
```

引き数	使用目的
-h *hostname*	ユーザの仮想ホストを指定します。*hostname* は、ホスト名です。ホストを指定しない場合は、一次 IMail ホストが使用されます。(テキスト ファイルで -h を使用すると、ファイル内のすべての行に適用されます。)
-k *userid*	ユーザ ID を削除します。*userid* は、削除したいユーザ ID です。単一のコマンド行で削除できるユーザ ID は、1 つだけです。
-m *userid*	ユーザ ID を修正します。*userid* は、修正したいユーザ ID です。単一のコマンド行で修正できるユーザ ID は、1 つだけです。

-u *userid*	ユーザ ID を追加します。*userid* は、追加したいユーザ ID です。単一のコマンド行で追加できるユーザ ID は、1 つだけです。
-n *“name”*	ユーザのフルネームを二重引用符で囲んで指定します。*name* は、ユーザのフルネームです。
-l	LDAP データベースに、[reply-to] アドレスとユーザのアドレスを追加します。
-p *password*	ユーザのパスワードを指定します。*password* は、ユーザのパスワードです。このパラメータを省略すると、ユーザのパスワードは ‘ password ’ となります。
-q	エイリアスの重複チェックを無視します。
-c*X*	代替区切り文字を指定します。*X* は、区切り文字を表します。*adduser.exe* は、指定された区切り文字でデフォルトの区切り文字 (,) を置き換えます。スペースは使用できません。(テキスト ファイルで -c を使用すると、ファイル内のすべての行に適用されます。)
-f *filename*	複数のコマンドをテキスト ファイルに格納し、*adduser.exe* で一度に実行することができます。-f を使って、*adduser.exe* コマンドが含まれるテキスト ファイルの名前を指定します。(上記のすべてのコマンドは、テキスト ファイルで有効ですが、-h と -c は複数の入力行に適用されるので注意してください。)
-chgpass	ユーザがパスワードを変更できないようにします。
+chgpass	ユーザがパスワードを変更できるようにします。
-web	ユーザが Web Messaging を使用できないようにします。
+web	ユーザが Web Messaging を使用できるようにします。
-active	ユーザがログオンできないようにします。
+active	ユーザがログオンできるようにします。
-info	Whois、Finger、および LDAP の問合わせに対してユーザを表示しないようにします。
+info	Whois、Finger、および LDAP の問合わせに対してユーザを表示するようにします。
-?	引き数オプションの概要を表示します。
# : ;	コメント (テキスト ファイルで使用します。)

ID

次の例では、*test01* というユーザ ID を追加します。

```
Adduser -h myhost.com -u test01 -n "ms test" -p yourpass
Adduser -u test01 -n "mr test" -p nopass
Adduser -u test01
Adduser test01
```

ID

次の例では、test01 というユーザ ID を削除します。

```
Adduser -k -u test01
Adduser -h another.net -k test01
```

Adduser は、要求された処理を少なくとも 1 つ実行した場合は 1 を返します。*Adduser* は、失敗した場合は 0 を返します。

MS-DOS プロンプトからコマンドを入力する代わりに、テキスト ファイルを使用して複数のコマンドを*adduser.exe*で一度に実行することができます。この方法は、他のメール システムから IMail Server システムにユーザを追加する場合に使用することができます。**ただし、そのメール プログラムは、ユーザ ID、パスワード、およびユーザ名を区切り文字で区切ったテキスト ファイルを作成できる必要があります。**

例えば、4 つのユーザ ID (*userid*、*smith*、*test1*、*jones*) を **wks013 サーバ**に追加するとします。*Adduser.exe* は、テキスト ファイルに引き数が存在しない場合、各行の情報はユーザ ID、パスワード、フルネームがこの順に並んでいるとして解釈します。

例えば、次の行が含まれる *addfour.txt* というファイルを作成します。

```
userid,password,full name
smith,whypass,Mrs Smith
test1,,Mr Smith
jones,okpass,Tom Jones
```

MS-DOS プロンプトで、次のように入力します。

```
Adduser -h wks013.augusta.ipswitch.com -f addfour.txt
```

すると、次のメッセージが表示されます。

```
current host is wks013.augusta.ipswitch.com
OK: added userid to host wks013.augusta.ipswitch.com
OK: added smith to host wks013.augusta.ipswitch.com
OK: added test1 to host wks013.augusta.ipswitch.com
OK: added jones to host wks013.augusta.ipswitch.com
```

test1 という名前のユーザのパスワードは、(デフォルトの)“ password ”になることに注意してください。

```
#Entries below default to Primary domain automatically.
#Adds user test100 with password nopass, and full name Mr. Test100
test100,nopass,"Mr. test100"
#adds user test101 with password nopass, name of Ms. Test101,
#has ability to #change own password, access from web,
#account is not disabled, user info is accessible from outside.
-u test101 -p nopass -n "Ms. test101" +chgpass +web +active +info
#Add user killthisone
-u killthisone
#Remove user killthisone
-k killthisone
#Change domain(host)
-h virtual001
#Change delimiter from default(,) to a (+).
-c+
#Add user test100 with password of password and name of Mr. Test100
test100+password+"Mr. Test100"
#Modify user test100 with new name of Mrs. Test100
-m -u test100 -n "Mrs. Test100"
#Change domain(host)
-h virtual002
#Change delimiter back to default
-c,
#Add user test101 with password nopass and name Mrs. Test101
test101,nopass,"Mrs. test101"
#Add user test103 with default password, with default name test103,
has #ability to change own password, access from web, account is not
disabled, user #information is accessible from outside.
-u test103 +chgpass +web +active +info
#Add user test104 with default password, with default name test103,
has #ability to change own password, access from web, account is not
disabled, user #information is not accessible from outside.
-u test104 -chgpass +web +active -info
#Modify user test103 so user information is not accessible from
outside.
-m test103 -info
```

上のファイルを実行した結果

```
current host is mail.some.where.com
OK: added test100 to host mail.some.where.com
OK: added test101 to host mail.some.where.com
OK: added killthisone to host mail.some.where.com
OK: User "killthisone" removed from " mail.some.where.com ".
INF: current host is virtual001
OK: added test100 to host virtual001
OK: user test100 modified in virtual001
INF: current host is virtual002
OK: added test101 to host virtual002
OK: added test103 to host virtual002
OK: added test104 to host virtual002
OK: user test103 modified in virtual002
```

(imail1.exe)

imail1.exe は、メール メッセージを作成し、作成したメッセージを SMTP 経由でローカル メールボックスまたはリモート ホストに配信するために使用します。(SMTP による配信は、*ismtp1.exe* アプリケーションによって行われます。) *imail1.exe* は、UNIX の *sendmail* と似ています。

メッセージの本文は、ファイルから取得する必要があることに注意してください。ファイル名を指定するときには、完全なパスとファイル名を指定してください。

現在の *imail1.exe* では、作成したメッセージ (エディタ内のみ) の本文サイズは、使用できるメモリにより、32KB 以下に制限されます。最終的なメッセージ サイズ (添付ファイルも含む) は、使用できるディスク領域によってのみ制限されます。

現在の *imail1.exe* では、マルチパート MIME メッセージは、バイナリおよび base64 の Content-transfer-encoding を使用して、あるいはテキスト、マルチパート、アプリケーションという各コンテンツ タイプを使用して、作成することができます。

imail1.exe は、次のコマンドラインオプションをサポートします。

-u “*userid*”	メッセージを送信してくるユーザを指定します (**[From:]** フィールド)。引用符でユーザ ID を囲むことを推奨します。
-t “*recipient1*[,*recipient2*][,...]”	一次受信者を指定します (**[To:]** フィールド)。
imail1 -s “*subject*”	メッセージの Subject 行を指定します。
-c “*recipient1*[,*recipient2*][,...]”	カーボン コピー (複写) 受信者を指定します (**[cc:]** フィールド)。
-b “*recipient1*[,*recipient1*][,...]”	ブラインド カーボン コピー受信者を指定します (**[bcc:]** フィールド)。
-f *filename*	-f パラメータは、メッセージの本文にどのファイルを使用するかを示します。(コマンド行で受信者も指定した場合は、) 編集せずに送信するファイルの名前を指定します。
-i *filename*	-i パラメータは、対話式の [Create Mail] ウィンドウを表示します。このウィンドウには、編集できるように *filename* の内容が表示されます。
-r	Army “Registered:” ヘッダを追加します。
-a *filename*	メッセージに (MIME 形式で) 添付するファイル名を指定します。

(immsgexp.exe)

Immsgexp.exe は、指定した日数を経過した古いメールを削除するユーティリティです。

```
immsgexp -t startdirectory -d #of_days_to_save
```

startdirectory より下にあるすべてのメールボックスがスキャンされ、*#of_days_to_save* を超える日数を経過したメッセージは削除されます。そして、*exYYMMDD.log* (*.log* が既に存在している場合は、*exYYMMDD.###*) というログが作成され、スキャンされたディレクトリとメールボックス、削除されたメッセージ数、(ファイルやディレクトリによって) 節約できたディスク容量が記録されます。

ユーザ「test001」のメールで 10 日を越える日数を経過している（11 日以上経っている）メッセージを削除
（7 月 1 日に実行する場合 6 月 20 日までのメールが削除される）

```
C:\IMail>immsgexp -tusers\test001 -d10
```

LDAP (ldaper.exe)

Ldaper.exe は、ユーザ プロパティの **[General]** タブにある指定された情報を、LDAP データベースに挿入します。この方法は、*adduser.exe* を使用して、多数のユーザを一括して追加したときに便利です。

```
ldaper [options]:
```

Ldaper.exe は、次のコマンドラインオプションをサポートします。オプションの前には、ハイフン (-) またはスラッシュ (/) を付けることができます。

-H	ホスト名
-U	ユーザ ID
-P	パスワード
-GN	名前
-SN	名字
-S	住所
-C	市町村
-ST	県

-CO	国名
-Z	郵便番号
-T	電話番号
-O	所属組織
-OU	所属組織内の単位 (部署)

* オプションは全て大文字で入力してください。

```
ldaper -H imail.co.jp -U user1 -GN 太郎 -SN 山田 -S 新宿区新宿 2-8-8
-ST 東京都
```

(mailall.exe)

Mailall.exe は、特定のホスト上または IMail システム上の全ホスト上の全ユーザにメールを送信するコマンドラインユーティリティです。

```
mailall -h hostname|ALL> -f sender -d [-s Subject] <FullPathToMessageFile>
```

-h *hostname* or -h ALL	-h パラメータは必須です。ホスト名を指定するか、または ALL という語を使用して IMail システム上の全ホストを指定することができます。
-f *sender*	-f パラメータは、**[From:]** フィールドに表示されるアドレスを指定します。**[From:]** ヘッダ行がないテキスト ファイルを使用する場合は、必須です。
-s *subject*	-s パラメータは、オプションです。[Subject] フィールドの内容を指定します。
-d	オプションです。メール送信が完了したら、元のファイルを削除する場合に指定します。
FullPathToMessageFile	メッセージファイルのフルパスとファイル名で、必須です。

```
mailall -h myhost -f admin@myhost -s"Admin note" C:¥mailnotes.txt
```

上の例では、*mailnotes.txt* というファイルを *myhost* というホスト上の全ユーザに送信します。差出人は、*admin@myhost* で、**[Subject]** は、*Admin Note* です。

```
Alias1=|mailall -h ALL -d
```

この例では、システム上の全ユーザにメールを送信するために使用されるプログラム エイリアスを作成します。作成方法は Program　Alias を作成し、Resolve To: に mailall -h all -d を指定してください。Alias1 にメールを送信すると、システム上の全ユーザにメッセージが送信されます。

IMail Server (regback.exe)

Regback.exe は、SOFTWARE¥Ipswitch¥IMail レジストリ キーとすべてのサブキーをバックアップします。

```
regback [options]
```

Regback.exe は、次のコマンドラインオプションをサポートします。オプションの前には、ハイフン (-) またはスラッシュ (/) を付けることができます。

-?	ヘルプを表示します。
-b *filename*	レジストリを *filename* で指定したファイルにバックアップします。*

* filename の長さは 8 文字以下で、ファイル名が最大文字数を超えている場合は、最大文字数に切り詰められます。ファイル名が省略されている場合、regback.exe は、デフォルトの imyymmdd を使用します。yymmdd は、2 桁の現在の年、月、および日を表します。

(smtp32.exe)

smtp32.exe プログラムは、SMTP の配信プログラムで、IMail Server サービスで使用されます。このプログラムは、DNS Mail Exchanger (MX) やリスト サーバなどをサポートしています。このプログラムは、*smtpd32* から呼び出され、受信メッセージの最終配信および送信メール キューをクリアするためのキュー処理を行います。

Smtp32 は、*Spool* ディレクトリ内でメッセージを処理し、ローカル アドレスとリモート アドレスの両方に (SMTP 経由で)、最終配信を試みます。

Smtp32 は、*users.sys* と *aliases.sys* の各ファイル内にあるアドレスに対してだけ、メールの配信を行います。ファイル名として解決されるエイリアスは無効とみなされ、さらに、こうしたエイリアスによって、プログラムが *spool* ディレクトリ内にメッセージを格納した (または格納する) としても、エイリアスは展開されます。
(*Smtp32.exe*は、メッセージの受信時にグループ エイリアスを展開し、*imail1* は、新しいメッセージの作成時にグループを展開します。したがって、グループを参照するキューに、展開しないままメッセージをダンプすることはできません。)

Smtp32 (および *imail1*) では、1 つのメッセージ内の受信者数制限として、100 名を想定していますが、これは受信者のアドレスの長さと、重複の数などによって決まります。これは RFC 821 セクションの 4.5.3 に準拠しています。

Smtp32 は、メッセージ自体に含まれているヘッダの構文解析を行わず、キュー制御ファイル内に情報が正しく書式化されているものと想定しています。したがって、行の長さに関する制約はありません。

smtp32 に渡されたメッセージはすべて、入力チェックなしに最終システムに渡されます。

smtp32 (imail1)

Smtp32 と *imail1* は、メッセージを次のように処理します。

1. 受信者ホストがローカル ホストかどうかを確認します。
   - 受信者ホストがローカル ホストの場合、ホスト名が存在しているときはそれを削除して、「LOCALHOST」というホスト名を追加します。
   - ホストが指定されておらず、*users.sys* 内にユーザがリストされている場合は、ホスト名として「LOCALHOST」を設定します。
   - ユーザが *users.sys* 内にリストされていない場合は、ホストには“ デフォルトのホスト名 ” を設定します。
2. すべての受信者をホスト名で分類します。
3. すべてのローカル受信者に配信します。
4. 受信者がこのリスト内に残っており、各ホストごとに、**[Send Direct]** オプションが使用可能になっている場合は、そのホストに接続して、ホスト上の全受信者にメールを配信します。
   - 配信が正常終了した場合は、受信者をリストから削除します。
   - 接続が失敗した場合は、受信者をリストに残しておきます。
5. リスト内に受信者が残っている場合は、“ スマート ゲートウェイ ” に接続して、残りのアドレスすべてに配信します。
   - 配信が正常終了した場合は、受信者をリストから削除します。
   - 接続が失敗した場合は、受信者をキューに残しておきます。
6. 無効な受信者を送信側に返します。

smtp32 は、次のコマンドラインオプションをサポートします。

smtp32	オプションの指定がない場合、*smtp32* は、メール キュー内にあるすべてのメッセージの配信を行います。
smtp32 *queue_filename*	*smtp32* は、queue_filename で示されるメッセージを処理します。
smtp32 -qr -x	*smtp32* は、メール キュー内にあるすべてのメッセージの配信を行います。
smtp32 -v	通信状況の表示を有効にします (詳細表示)。

D: Spool

Spool ディレクトリは、メッセージが配信されるまで待機している場所であることから、“ キュー ” とも呼ばれます。キュー内のメッセージには、受信メッセージ、発信メッセージ、および添付ファイル、そして IMail Server や他のメール サーバが生成したエラー メッセージが含まれます。

キュー内のファイルを表示するには、**[General]** タブの **[View Queue]** ボタンをクリックします (左側のパネルで、“ **[localhost]** ” が選択されている場合)。**[Number of times]** ボックスには、選択されたメッセージを IMail Server が配信しようとした回数が表示されます。

また、spool ディレクトリには、IMail Server のログ ファイルも格納されています。

Spool ディレクトリにあるファイルは、すべてプレーン テキスト ファイルであり、Windows の「メモ帳」を使用して表示することができます。ただし、D ファイル (データ ファイル) や Q ファイル (配信待ちのメッセージ) を編集すると、そのファイルを IMail Server が受け付けなくなる可能性があるので注意してください。

キュー内のファイルは、受信途中あるいは発信途中のメール メッセージです。キュー内のファイルを見ると、メッセージが今、処理のどの段階にあるのかを知ることができます。これは、ファイル名の最初の文字とファイル拡張子によって示されます。

電子メール メッセージがキュー内にあるとき、そのメッセージは“ データ ファイル ” であり、ファイル名は D で始まります。データ ファイルには、処理段階に応じて対応する T ファイルまたは Q ファイルがあります。

ファイル名	説明
D*.txt	処理中のデータ ファイル。メッセージが配信されると削除されます。
T*.txt	メッセージが受信中のとき、データ ファイルに対応するファイル。メッセージが完全に受信されると、T ファイルは Q ファイルに名前が変更されます。
Q*.txt	IMail Server がメッセージの配信を試みている間、データ ファイルに対応するファイル。

ファイル名	説明
_*.~??	現在処理中のロック ファイルです。また、これらのファイルの拡張子には、チルダ (~) が付いています。(ファイル名の 3 文字が *nex* の場合、そのファイルは Web Messaging または *imail1.exe* によって処理中です。)

通常、メッセージは数秒または数分で処理されます。しかし、メッセージの配信に問題がある場合は、関連するファイルがキュー内に長時間存在し続けることがあります。IMail Server は、**キュー タイマ**が 0 に達するごとに、自動的にキュー内のメッセージを再処理しようとします。“ 試行回数 ” が [SMPT] タブの **[Number of tries]** の設定と等しくなってもメッセージが配信されない場合は、メッセージは送信側に戻されます。

IMail Server では、メッセージが配信不能、返送不能、または *postmaster* エイリアスがない場合 (または *postmaster* エイリアスか *root* エイリアスに問題がある場合) は、データ ファイルを削除しません。したがって、メッセージは、どこにも配信できない場合でも、完全に失われることはありません。

ファイル拡張子も、ファイルの種類を示しています。

- *.smd* および *.smp* のファイル拡張子は、SMTP によって処理される通常のメール メッセージを表します。
- *.fwd* および *.fwp* のファイル拡張子は、転送メッセージを表します。
- *.LST* のファイル拡張子は、メーリング リストの登録者へのメッセージを表します。
- *.tmp* は、Web Messaging、または Mail to Beeper/Pager を表します。
- *.GSE* および *.GSP* のファイル拡張子は、送信者へ返されるエラー メッセージを表します。これらのメッセージは、通常サーバ (*postmaster*) によって生成されます。

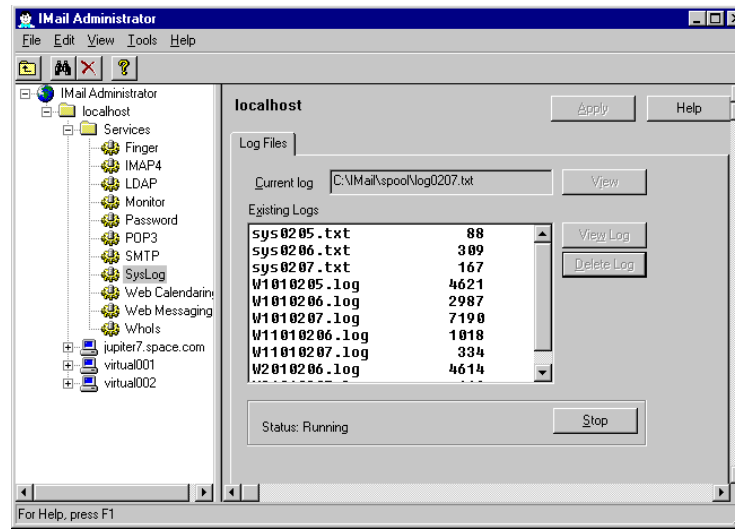
ファイル拡張子にチルダ (~) が含まれる *.~mp* や *.~md* などのファイルは、現在処理中のロック ファイルです。また、これらのファイルでは、ファイル名の最初の文字が下線 (_) になっています。

キュー内には、添付ファイルも含まれています。添付ファイルが複数ある場合は、Windows エクスプローラの名前付け規則が使用されるので、*attach.txt*、*attach(1).txt*、*attach(2).txt* などになります。

キュー内に、損傷したファイルや壊れたファイルがあると、メールを正常に受信できない場合があります。問題がそのようなファイルによって起こっている可能性がある場合は、*Spool* ディレクトリにある全ファイルを他の場所 (例えば、IMAIL¥SPOOL¥SAVE) に一時的に移動して、メールを受信できるかどうか確認することができます。メールを受信できる場合は、ファイルをいくつかずつ *Spool* ディレクトリにコピーし直して、それらが送信されるかどうか確認します。送信されないメッセージは、損傷している可能性があります。

左側のパネルで [localhost] を選択して **[Log Files]** タブをクリックすると、IMail Server の Spool ディレクトリに以下のようなログ ファイルが表示されます。

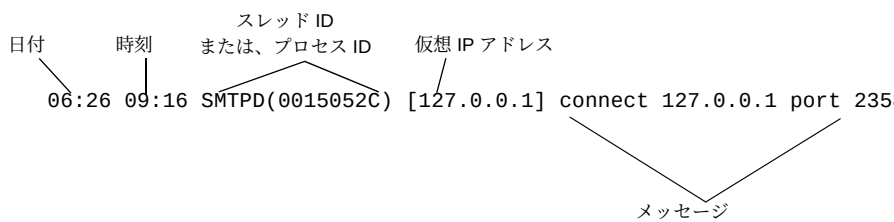
ファイル名の最初の文字はログの種類を、数字は日付をそれぞれ表します。



[Current log] ボックスには、現在アクティブなログ ファイルが表示されます。**[View]** をクリックすると、Windows の「メモ帳」にファイルが表示されます。

[Existing Logs] ボックスに、最近のログ ファイルがリストされます。リストからログ ファイルを選択し、**[View Log]** をクリックすると、Windows の「メモ帳」で開くことができます。

ログ ファイル エントリの一般的な形式は、次のとおりです。



主なログ ファイルには、次のものがあります。

- *logMMDD.txt* の形式のファイルには、IMail ログ サーバに送信されたすべてのメッセージが含まれています。
- *sysMMDD.txt*の形式のファイルは、IMail Serverからのメッセージです。

- *W1yymmdd.log* は、Web 監視システムログ ファイルです。(監視サーバの Web Administration が使用可能になっている場合)
- *W2yymmdd.log* は、Web 監視アクセスログ ファイルです。

IMail サービス (例えば、POP3 や IMAP4) に関するイベントのログ収集方法には、次のオプションがあります。

- **[No Log]**

  このオプションを選択すると、ログ収集を禁止できます。

- **[SYSMMDD.TXT]**

  イベント情報は、このファイル名のファイルに書き込まれます。*MM* はログが書き込まれた月を、*DD* は日付を表します。ファイルは、Spool ディレクトリに保存されます。

- **[App Log]** を選択すると、情報は Windows NT のアプリケーション ログにログ収集されます。(Windows NT のイベント ビューアで表示されます。)

- **[Log Server]**

  イベント情報は [localhost] を選択し右側に表示される [General] タブ内の [Log Server] に指定されたログ サーバのファイルにログ収集されます。

ログ サーバ ファイルにすべての、または数多くのサービスのログを収集している場合に、トラフィックの量が多いと、ログ サーバ ファイルは、非常に大きくなる可能性があります。

ログ情報が必要でないサービスのログ収集を禁止することができます。通常、ログ収集は、サービスに問題がある場合にのみ必要です。

ログ収集を禁止するには、次の手順に従います。

1. 左側のパネルにある " **[Services]** " を選択し、適当なサービスのタブをクリックします。
2. ログ収集を禁止したいサービスごとに、次の手順を実行します。
   - デバッグ メッセージだけを禁止したい場合は、**[Debug Messages]** をオフにします。
   - サービスに関するすべてのログ収集を禁止したい場合は、**[Log To]** を **[No Log]** に設定します。
   - サービスを停止し、再起動して、設定が反映されているかどうか確認します。

E:

Windows NT レジストリ内には、システム管理者のために、次のエントリが設定されています。本付録のすべての例では、C:¥IMail は、IMail Server がインストールされているディレクトリを表します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Ipswitch¥IMail¥Global

TopDir	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMAIL
CfgDir	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMAIL¥cfg
SpoolDir	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMAIL¥spool
UsersDir	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMAIL¥users
HostName	REG_EXPAND_SZ	(full workstation name)
SendName	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMAIL¥SMTP32.EXE

Finger

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥FINGRD32

DisplayName	REG_SZ	IMail FINGER Server
ErrorControl	REG_DWORD	0x1
ImagePath	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥FINGRD32.exe
ObjectName	REG_SZ	LocalSystem
Start	REG_DWORD	0x3
Type	REG_DWORD	0x10

次の設定は、このサービスをインストールした場合にのみ作成されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥FINGRD32¥Parameters

LogLevel	REG_DWORD	0x0
Version	REG_EXPAND_SZ	(set only)

IMAP

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥Application¥IMAP4D32

EventMessageFile	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥mailmsg.dll
TypesSupported	REG_DWORD	0x7

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥IMAP4D32

DisplayName	REG_SZ	IMail IMAP4 Server
ErrorControl	REG_DWORD	0x1
ImagePath	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥IMAP4D32.exe
ObjectName	REG_SZ	LocalSystem
Start	REG_DWORD	0x3
Type	REG_DWORD	0x10

次の設定は、このサービスをインストールした場合にのみ作成されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥IMAP4D32¥Parameters

LogLevel	**REG_DWORD**	**0x1**
IMAP4Flags	**REG_DWORD**	**0x10**
Version	**REG_EXPAND_SZ**	**(set only)**

LDAP

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥ILDAP

DisplayName	**REG_SZ**	**IMail LDAP Server**
ErrorControl	**REG_DWORD**	**0x1**
ImagePath	**REG_EXPAND_SZ**	**C:¥IMail¥ILDAP.exe**
ObjectName	**REG_SZ**	**LocalSystem**
Start	**REG_DWORD**	**0x3**
Type	**REG_DWORD**	**0x10**

次の設定は、このサービスをインストールした場合にのみ作成されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥ILDAP¥Parameters

LogLevel	**REG_DWORD**	**0x1**
QueriesOnly	**REG_DWORD**	**0x1**
Port	**REG_DWORD**	**0x6e(389)**
Version	**REG_EXPAND_SZ**	**(set only)**

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥PSERVE

DisplayName	**REG_SZ**	**IMail PWD Server**
ErrorControl	**REG_DWORD**	**0x1**
ImagePath	**REG_EXPAND_SZ**	**C:¥IMail¥PSERVE.exe**
ObjectName	**REG_SZ**	**LocalSystem**
Start	**REG_DWORD**	**0x3**
Type	**REG_DWORD**	**0x10**

次の設定は、このサービスをインストールした場合にのみ作成されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥PSERVE¥Parameters

Version	**REG_EXPAND_SZ**	**(set only)**

POP3

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥POP3D32

DisplayName	**REG_SZ**	**IMail POP3 Server**
ErrorControl	**REG_DWORD**	**0x1**
ImagePath	**REG_EXPAND_SZ**	**C:¥IMail¥POP3D32.exe**
ObjectName	**REG_SZ**	**LocalSystem**
Start	**REG_DWORD**	**0x2**
Type	**REG_DWORD**	**0x10**

次の設定は、このサービスをインストールした場合にのみ作成されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE_SYSTEM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥POP3D32¥Parameters

LogLevel	REG_DWORD	0x1
POP3Flags	REG_DWORD	0x73
Version	REG_EXPAND_SZ	(set only)

SMTP

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥Application¥SMTPD32

EventMessageFile	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥mailmsg.dll
TypesSupported	REG_DWORD	0x7

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥SMTPD3

DisplayName	REG_SZ	IMail SMTP Server
ErrorControl	REG_DWORD	0x1
ImagePath	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥SMTPD32.exe
ObjectName	REG_SZ	LocalSystem
Start	REG_DWORD	0x2
Type	REG_DWORD	0x10

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32¥Parameters

	Version	REG_EXPAND_SZ(set only)

Whois

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥EventLog¥Application¥WHOISD32

EventMessageFile	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥mailmsg.dll
TypesSupported	REG_DWORD	0x7

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WHOISD32

DisplayName	REG_SZ	IMail WHOIS Server
ErrorControl	REG_DWORD	0x1
ImagePath	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMail¥WHOISD32.exe
ObjectName	REG_SZ	LocalSystem
Start	REG_DWORD	0x3
Type	REG_DWORD	0x10

次の設定は、このサービスをインストールした場合にのみ作成されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥WHOISD32¥Parameters

Database	REG_EXPAND_SZ	C:¥IMAIL¥cfg¥whois.db
LogLevel	REG_DWORD	0x1
Version	REG_EXPAND_SZ	(set only)

F:

システム管理者は、Windows NT/2000 レジストリ内で、次の設定を使用することができます。

本付録で説明されている手順を実行する前に、Windows NT/2000 レジストリを必ずバックアップしてください。これにより、間違った操作を実行した場合でも、レジストリをバックアップから復元することができます。

IMail レジストリをバックアップするには、IMail Administrator から行うこともできます。（付録 B 参照）

ユーザ ID 内のメールボックス名を区切るために使用する文字を変更することができます。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Ipswitch¥IMail¥Global
```

2. このキーの下に、**MailBoxSplitChar** という名前のレジストリ文字列変数を新規に作成します。
3. この変数に新しい区切り文字を設定します。
4. SMTP サーバを停止し、再起動します。

注記

メールボックスの区切り文字を変更する前に、まずメールボックスやエイリアスに新しい区切り文字が含まれていないかどうか確認します。
含まれている場合、これらのエイリアスやメールボックスも区切られるため、メールが送信不能になる場合があります。

Windows NT (&)

IMail は、デフォルトでは、電子メール アドレス内のアンパサンド文字 (&) を @ の代用とみなします。これは、Netscape、Microsoft Internet Explorer、および Eudora では、ユーザは、共用 IP アドレスの仮想ドメインに、次のようにしてログインできるからです。

```
user&Virtual_Domain@Primary_Domain
```

IMail Server では、ユーザ ID とホスト名を区切るために、複数の文字を使用することができます。デフォルトでは、次の文字を使用できます。

@#$%&*

これらの文字は、POP3 や IMAP のログイン ユーザ ID 内で、ユーザ ID と仮想ドメイン名の間に使用することができます。

これらの文字は、変更することができます。変更するには、次の手順に従います。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Ipswitch¥IMail¥Global
```

2. このキーの下で、**HostDelimiters** という名前のレジストリ文字列変数に移動します。存在しない場合は、新規に作成します。
3. この変数に文字列を設定します。IMail Server は、電子メール アドレス内のそれぞれの文字を @ と同じものと見なします。アンパサンド記号を (ユーザ名に) 使用するには、文字列を次のように設定します。

   @#$%*

   @ は、Web カレンダーでは必須なので注意してください。
4. SMTP サーバを停止し、再起動します。

IMail Server をアップデートするために、セットアップを実行した場合は、このキーをもう一度作成しなければならない場合があります。

1

大量のメッセージが一度に複数のユーザに送信される (スパム メールに共通する特徴) のを制限するには、次の手順に従います。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32¥Parameters
```

2. このキーの下で、**MaxRCPTPerMessage** という名前のレジストリ文字列変数に移動します。存在しない場合は、新規に作成します。
3. DWORD 値に、希望する最大受信者数を設定します。(0 は無制限という意味なので注意してください。)
4. SMTP サーバを停止し、再起動します。

外部から中継されてきたメールに対して、メッセージ内の受信者間の遅延を設定することができます。これにより、スパム メールの処理に CPU 時間が独占されるのを防ぐことができます。しかし同時に、この機能を使用すると、サーバの処理は少し遅くなります。

注記

サーバの中には、応答を待つことなく、すべての RCPT 行を一度に送信してしまうものがあります。このような場合は、この設定により問題が発生する可能性があります。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32¥Parameters
```

2. このキーの下で、**DelayBetweenRCPT** という名前のレジストリ文字列変数に移動します。存在しない場合は、新規に作成します。
3. DWORD 値に、連続する RCPT 間の待ち時間を、ミリ秒数で設定します。(0 は待ち時間なしという意味なので注意してください。)
4. SMTP サーバを停止し、再起動します。

SMTP

状況によっては、SMTP がポートを変更する必要があります。IMail は、SMTP ポートを制御するために、Windows NT レジストリの設定を使用します。ポートを変更するには、次の手順に従います。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32¥Parameters
```

2. このキーの下で、**Port** という名前のレジストリ文字列変数に移動します。存在しない場合は、新規に作成します。
3. DWORD 値に希望するポート番号を設定します。
   (デフォルトのポート 25 の 16 進値は、0x19 です。)
4. SMTP サーバを停止し、再起動します。

SMTP　POP3　IMAP4

SMTP、POP3、または IMAP にログオンすると、“ ウェルカム メッセージ ” が表示されます。メッセージの中には、メール サーバのバージョン、ベンダ、およびオペレーティング システムが表示されます。このサーバのバージョンやベンダ情報が表示されないように、サービス メッセージを変更することができます。メッセージを変更するには、次の手順に従います。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services
¥ServerKey¥Parameters
```

ServerKey には、SMTPD32、POP3D32、または IMAP4D32 のいずれかを指定します。

2. このキーの下に、**HelloMsg** という名前のレジストリ文字列変数を作成します。

HelloMsg には、サービス ウェルカム メッセージのテキストを入力します。メッセージの長さは、半角英数で 400 文字以下にしてください。400 文字を超えた場合は、デフォルトのメッセージが使用されます。POP3 では、APOP が使用可能になっている場合に、メッセージとタイム スタンプを合わせて 400 文字を超えた場合は、メッセージが切り詰められます。

SMTP

レジストリ内で別の数を指定しない限り、IMail で許可される SMTP プロセスのデフォルトの個数は 30 です。メーリング リストの登録者が多数いる場合は、SMTP プロセス数を増やす必要があることがあります。IMail Server が、どのように SMTP プロセスの使用しているかを理解し、デフォルト値を変更する必要があるかどうかを判断するには、133 ページの「第 8 章 :SMTP サーバ」を参照してください。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥SMTPD32¥Parameters¥
```

2. このキーの下で、**MaxQueProc** という名前のレジストリ文字列変数に移動します。存在しない場合は、新規に作成します。
3. DWORD 値に希望する SMTP プロセス数を設定します。
4. SMTP サーバを停止し、再起動します。

IP

IMail Server システムの IP アドレスが変更された場合は、使用しなくなった IP アドレスを削除する必要があります。IP アドレスを削除するには、Windows NT レジストリを編集する必要があります。

1. 次のキーまで移動します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Ipswitch¥IMail¥Domains
```

2. 古い IP アドレスと新しい IP アドレスの両方のキーが表示されます。新しい IP アドレスが、正しいホスト名を表示していることを確認します。
3. 古いアドレスを削除します。
4. IP アドレスに関連付けられているホスト名を強調表示し、この“ Address ”値が、ホストの正しい (現在の)IP アドレスを指していることを確認します。指していない場合は、値を変更します。
5. SMTP サーバを停止し、再起動します。

G: Web Messaging

Web Messaging で表示される各ページは、Web テンプレートによって生成されます。Web テンプレートを編集して、Web Messaging インターフェースをカスタマイズすることができます。複数のメール ホストがある場合は、メール ホストごとに異なる Web Messaging インターフェースを持つことができます。

例えば、次の変更を行うことができます。

- ログイン ページのウェルカム メッセージやロゴを簡単に変更することができます。
- デフォルトのグラフィック (*.gif*) ファイルを独自のグラフィック ファイルで置き換えることによって、ページの背景、色、およびスタイル、ボタンの色とスタイル、およびラベルを変更することができます。
- ページの構成要素 (例えば、段組み、ボタン、リスト ボックス、テキスト ボックス) を再配置することができます。また、Web テンプレートの HTML コードを編集して、機能を移動および削除することができます。
- IMAIL “ タグ ” をテンプレート内で使用して、メールボックスやメッセージなどの動的な情報を変更することができます。テンプレート内でタグを使用する方法の詳細については、『IMail Server Web Messaging HTML ドキュメント (ファイル名：tags.doc,stattags.doc)』を参照してください。

以下の節では、Web Messaging のディレクトリ構造とインターフェースの変更方法について説明します。

Web Web

IMail Server をインストールする時に、Web Messaging ファイルの標準構成を [IMail Top Directory]\IMail\Web にインストールすることができます。IMail Server は、この標準構成のファイルを使用して、一次メール ホストおよびサーバ上の任意の仮想メール ホストの Web Messaging インターフェースを作成します。以前の Web Messaging のバージョンからアップグレードしたい場合は、98 ページの「アップグレード」を参照してください。

注記

インストール時に、新しい IMail Web Messaging のテンプレートを保存だけして、インストールしない場合は、そのテンプレートは [IMailTop Directory]¥Web¥New に置かれます。

Web ディレクトリ内には、次のファイルが含まれます。

- .html ― “ Web テンプレート ” のファイルです。各テンプレートには、特定の Web Messaging ページを生成するために使用される、HTML コードが含まれています。例えば、*login.html* ファイルは、ログインページを生成するために使用されるコードが含まれています。

  Webテンプレートのリストと、対応するWeb Messagingインターフェース内のページについては、272 ページの「ページと対応するテンプレート」を参照してください。

- *.gif* ―ロゴ、ボタン、およびアイコンなどのグラフィックに使用されるファイルです。*.gif* ファイルは、Web テンプレートまたは *.txt* ファイルから、必要に応じて “ 呼び出されます ”。したがって、対応する *.gif* ファイルを置き換えることによって、Web Messaging インターフェース全体にわたって、ロゴ、ボタン、その他のグラフィックの外観を変更することができます。

  グラフィック ファイルのリストについては、281 ページの「Web ディレクトリにあるグラフィック ファイルのリスト」を参照してください。

- *.txt* ―ウェルカム メッセージ、ニュース、および広告 (広告を設定している場合) の ASCII テキストが含まれるファイルです。*.txt* ファイルは、Web テンプレートから、必要に応じて “ 呼び出されます ”。これらのファイル内のテキストは、編集することができます。

- .cgi ― Webサーバからのデータの受け入れおよび戻しをするファイルです。

メール ホストが１つの場合、またはすべてのメール ホストの外観を同じにしたい場合は、**[IMail のトップ ディレクトリ]¥Web** ディレクトリにあるデフォルト ファイルを変更します。

Web

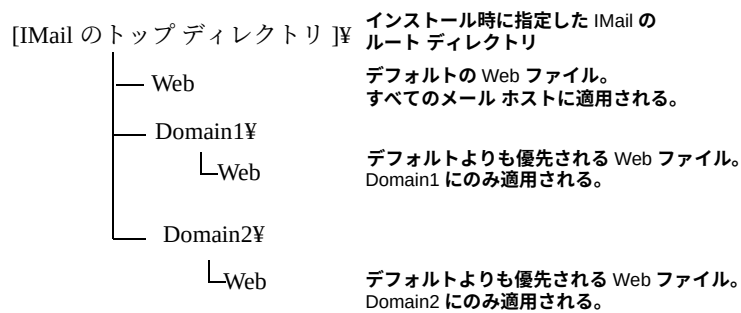
IMail Server 上に複数のメール ホストがある場合は、各ホストの Web ディレクトリを作成することができます。

Web テンプレートをデフォルトの Web ディレクトリから、メール ホスト固有の Web ディレクトリー **[IMail のトップ ディレクトリ]¥[ドメイン名]¥Web¥ ディレクトリ**にコピーして、そのホスト専用のテンプレートとしてカスタマイズすることができます。

例えば、domain1 というドメインのログイン ページをカスタマイズするには、*login.html* ファイルをデフォルトの Web ディレクトリから、このドメインのディレクトリ (*domain1¥web¥*) にコピーします。次に、そのファイルを編集して保存します。このドメインのディレクトリに、Web ディレクトリが存在しない場合は、作成する必要があります。テンプレートの名前を変更することはできません。

Web Messaging ページが Web サーバから要求されると、Web Messaging アプリケーションは、まず、ドメイン固有のディレクトリ (**[IMail のトップ ディレクトリ]¥[ドメイン名]¥Web¥**) を読み取り、次に、デフォルトの Web ディレクトリ (**[IMail のトップ ディレクトリ]¥Web**) を読み取ります。Web テンプレートが、ドメインの Web ディレクトリで見つかった場合は、それを使用し、見つからなかった場合は、デフォルトの Web テンプレートを使用します。

複数のメール ホストのディレクトリ構造



Web Messaging インターフェース上のテキスト メッセージ、グラフィック、ボタン、および色は、簡単に変更することができます。以下の節では、デフォルトの Web ディレクトリ (**[IMail のトップ ディレクトリ]¥Web**) 内のテキストおよびグラフィック ファイル、および変更できる内容について説明します。複数のメール ホストがある場合は、ファイルをメール ホストの Web ディレクトリにコピーして、そのメール ホスト用にカスタマイズ

することができます。また、任意のグラフィック ファイル (*.gif*) を、同じ名前の独自の *.gif* ファイルに置き換えることができます。

ウェルカム メッセージとロゴは、Web Messaging のログイン ページに表示されます。

ウェルカム メッセージの内容は、*mailwelc.txt* ファイルに保存されています。

mailwelc.txt ファイルには、プレーン テキストまたは HTML のソース コードを 1000 文字まで入力することができます。

ウェルカム メッセージを編集するには、次の手順を使用することもできます。

- IMail Administrator で編集するには、メール ホストを選択し、**[Web Messaging Content]** タブをクリックします。*[mailwelc.txt]* を選択し、[Edit] をクリックします。
- Web Messaging インターフェースで編集するには、Web Messaging にログインし、[Administration] の **[ウェルカムメッセージの編集]** をクリックします。

Web Messaging にログインすると、**「本日のニュース」**が表示されます。「本日のニュース（News of the Day）」に何も入力されていない場合は、ログイン後にメニュー画面が表示されます。本日のニュースの内容は、*mailnews.txt* ファイルに保存されています。*mailnews.txt* ファイルには、プレーン テキストまたは HTML のソース コードを 10 ～ 1000 文字まで入力することができます。

「本日のニュース」を編集するには、次の手順を使用することもできます。

- IMail Administrator で編集するには、メール ホストを選択して **[Web Messaging Content]** タブをクリックし、**[News OTD]** ボタンをクリックします。
- Web Messaging インターフェースで編集するには、Web Messaging にログインし、[Administrative Account Options] の **[ニュースメッセージの編集]** をクリックします。

.gif ファイルをもつボタンについて、これらのファイルを独自の *.gif* ファイルで置き換えることができます。独自のボタンを作成するには、空のボタンの *.gif* ファイルを使用することができます。これらのファイルは、**[IMail のトップ ディレクトリ]** にあります。

[blank_button_57_24.gif] (小ボタン : 高さ 57 ピクセル、幅 24)

[blank_button_74_24.gif] (大ボタン : 高さ 74 ピクセル、幅 24)

注記

複数のメール ホストがある場合は、*.gif* ファイルや *butontxt.ini* ファイルを任意のメール ホストの Web ディレクトリにコピーして、そのホスト用にファイルを変更することができます。

message.ini

message.ini ファイルには、WebMessaging で使用されているメッセージが定義されています。この内容を変更することで、メッセージ内容のカスタマイズが可能です。

messagi.ini ファイルは、トップディレクトリに保存されています。

Web

Web Messaging ページは、HTML コードと JavaScript コードが含まれる“ テンプレート ” からコンパイルされます。JavaScript コードは内部処理を実行するので、このコードは変更しないことを推奨します。

Web テンプレートを編集する前に、次の点を理解する必要があります。

- Web ディレクトリ構造、および Web ディレクトリ内のテンプレートの処理方法 (265 ページの「Web ファイルと Web ディレクトリ構造」を参照してください。)
- テンプレート内での IMAIL の“ タグ ”の使用方法 (278 ページの「IMail タグ」を参照してください。)

Web Web

Web Messaging インターフェース内の各ページには、そのページの生成に使用される、Web テンプレートがあります。例えば、ログイン ページは、*login.html* テンプレートから生成され、アドレス ブック ページは、*ab.html* テンプレートから生成されます。

Web テンプレートの HTML コードを表示および編集するには、次の手順に従います。

- テンプレートをテキスト エディタで開きます。

  WSYWIG エディタ (Microsoft の FrontPage など) の使用は、テンプレートで使用されている特殊なタグを変換してしまう可能性があるため、推奨しません。

- **[スタート]** メニューから、**[プログラム]** -> **[IMail]** -> **[IMail Administrator]** の順に選択します。次に、メール ホストを選択し、**[Web Messaging Content]** タブをクリックします。ファイルを選択し、**[Edit]** をクリックします。

注記

一次メール ホストは、デフォルトの Web ファイルを使用します。各メール ホストは、そのホスト用にカスタマイズされた Web Messaging インターフェースを持つことができます。詳細については、267 ページの「複数ホストの Web ディレクトリ」を参照してください。

Web Messaging ページを参照するには、次の手順に従います。

- Web Messaging にログインし、参照するページに移動し Web ブラウザの [表示] メニューから [ソース]（Microsoft Internet Explorer の場合, Netscape Navigator の場合は [ページのソース] を）選択します。
- Windows エクスプローラを使用して、**[IMail のトップ ディレクトリ]¥**

Web ディレクトリに移動し、Web テンプレートをダブルクリックします。そのファイルが、Web ブラウザで開きます。この方法では、Web ページのコンパイル前の状態を見ることができます。これは、ページの構成要素を素早く表示するのに便利です。(ファイルの関連付けを設定して、HTML ファイルを Web ブラウザで開くようにしておく必要があるので注意してください。)

Web テンプレートと対応する Web ページの一覧については、272 ページの「ページと対応するテンプレート」を参照してください。

Web

メール ホストの Web ページをカスタマイズするには、そのホストの Web ディレクトリにある、関連する Web テンプレートを編集します。

1. **IMail Administrator** で、メール ホストを選択し、**[Web Messaging Content]** タブをクリックします。

   注記

   一次メール ホストは、デフォルトのテンプレートを使用します。一次ホストの *Web* フォルダにある任意のテンプレートは、IMail Server 上にあるすべてのメール ホストに適用されます。あるメール ホスト用にテンプレートをカスタマイズしたい場合は、(Windows エクスプローラまたは **[Get Default]** ボタンを使用して) テンプレートを一次ホストのフォルダから、そのメール ホストのフォルダにコピーして編集する必要があります。

2. フォルダが空 (+ 記号が表示されない) の場合は、**[Get Default]** をクリックして、すべてのテンプレートをそのメール ホストのフォルダにコピーします。メール ホストのフォルダ内で、カスタマイズしないテンプレートは削除することができます。
3. カスタマイズしたいページのテンプレートを選択し、**[Edit]** をクリックします。テンプレートは、Windows の「メモ帳」で開きます。テンプレート内の HTML コードを直接編集することができます。

   注記

   [Get Default] をクリックすると、すべてのファイルがメール ホストのフォルダにコピーされます。HTML ファイルと .txt ファイルだけは、編集することができるように IMail Administrator に表示されます。

4. 変更が完了したら、テンプレートをメール ホストのフォルダに保存します。

次の表は、各 Web テンプレートと対応する Web Messaging ページの一覧です。表の内容は、Web Messaging 機能に応じて、次のように分類されています。

電子メール ページ－ログイン、メッセージの作成、メールの読取り、メール サマリ ページ用のテンプレートが含まれます。

個人情報ページ－アドレス ブック、メールボックス管理、メールオプションの設定、外出中メッセージ、finger 情報、メール転送、パスワードの変更、およびその他ユーザ情報ページ用のテンプレートが含まれます。

管理ページ－リスト管理者、ホスト管理者およびシステム管理者が、メール ホスト、ユーザ、エイリアス、およびメーリング リストをリモート管理するために使用するページを生成するテンプレートが含まれます。

オンライン ヘルプ ページ－ Web Messaging 機能についてのヘルプ。インターフェースをカスタマイズする場合は、これらのヘルプ ファイルも修正する必要があります。

Web

これらのテンプレートは、ユーザがメール機能を実行するときに表示される Web ページを生成します。

テンプレート	Web ページ
draft.html	編集や送信のために保存されている (下書き) メール メッセージを表示します。
fwdmsg1.html	メッセージを転送するためのフォーム。
login.html	ログイン画面
logout.html	ログアウト時に表示されるページ
menu.html	メイン メニュー ページ。すべてのメールボックスとオプションを表示します。
msgsum.html	メールボックスのメッセージ サマリ
readmail.html	メッセージを読むためのページ
replymsg1.html	[返信] または [全員に返信] ボタンがクリックされたときに表示される、返信メッセージのためのフォーム
search.html	メッセージを検索するためのフォーム
sendmail.html	メッセージを送信するためのフォーム

状態ページとエラー ページ	
badact.html	サーバの処理がユーザによって中断されると表示されます。
delconfirm.html	メッセージの削除を確認するためのプロンプト
disableaccount.html	アカウントが使用できなくなると表示されます。
disabledlist.html	ドメインの無効なユーザを表示します。
fwdmsg.html	転送時に、メッセージ番号が間違っている、またはメールボックスが無効である場合は、エラー状況を表示します。それ以外の場合は、fwdmsg1.html が使用されます。
msgdel.html	メッセージ削除の結果を表示します。
msgmove.html	移動されたメッセージの状態を表示します。
plogin.html	ユーザのログイン再試行を行います。
psearch.html	メールボックスの検索結果を表示します。
psndmail.html	送信されたメールの状態を表示します。
readfail.html	ユーザが空のメールボックスを読み取ろうとすると、このページを表示します。
replymsg.html	メッセージへの返信時に、メッセージ番号が間違っている、またはメールボックスが無効である場合は、このページを表示します。それ以外の場合は、replymsg1.html を使用します。
suspendaccount.html	アカウントがサスペンドになると表示されます。

Web

これらのテンプレートは、ユーザが、メール転送、外出中メッセージ、受信メールの配信ルールなど、自分のアカウントに関連する個人情報を変更するときに表示される Web ページを生成します。

テンプレート	Web フォーム
ab.html	アドレス帳
addrule.html	メールのフィルタリングのための配信ルールを追加または変更します。
autoresp.html	ユーザの自動応答メッセージを変更します。
chgfwd.html	メール転送情報を変更します。
chgldap.html	LDAP ユーザ情報を変更します。
chgpass.html	パスワードを変更するためのフォーム
chgplan.html	Finger 情報を変更します。
chgrule.html	受信メールの配信ルールを変更します。
chgvac.html	外出中メッセージを変更します。
modrule.html	メール処理のルールを変更します。

pref.html	メールオプションを設定するためのフォーム
subfold.html	フォルダ(メールボックス)を管理するためのフォーム。メールボックスの作成、名前の変更、削除に使用します。
viewvac.html	外出中メッセージの受信者を表示するフォーム
状態ページとエラー ページ	
pchgauto.html	自動応答メッセージを変更した後の状態を表示します。
pchgplan.html	Finger 情報を変更した後の状態を表示します。
pchgfwd.html	メール転送情報を変更した後の状態を表示します。
pchgldap.html	LDAP 情報を変更した後の状態を表示します。
pchgpass.html	パスワードを変更した後の状態を表示します。
pchgsign.html	署名ファイルを変更した後の状態を表示します。
pchgvac.html	外出中メッセージを変更した後の状態を表示します。

Web

これらのテンプレートは、メール ホスト、ユーザ、エイリアス、およびメーリング リストのリモート管理に使用されるWebページを生成します。

テンプレート	Web フォーム
addalias.html	新しいエイリアスを追加します。
addhostrule.html	メールのフィルタリングのためのメール ホストのルールを、追加または変更します。
adduser.html	新しいユーザを追加します。
aliasadmin.html	エイリアスのリスト、[追加]、[削除]、[編集]ボタンを表示します。
aliasdisplay.html	エイリアスの情報を表示します。
aliasmodify.html	エイリアスの宛先を変更します。
chpasuad.html	ユーザのパスワードを変更します。
chguser.html	ユーザ名、メールボックスのサイズなどを変更します。
delalias.html	エイリアスを削除します。
dghedlst.html	ダイジェストのヘッダ情報を変更します。
dgseplst.htm	ダイジェストのセパレータ情報を変更します。
dgtralst.html	ダイジェストのトレイラ情報を変更します。
dispuser.html	ユーザ情報を表示します。
disabledlist.html	無効なユーザのリストを表示します。
displayuserlist.html	ユーザのアカウント情報を表示します。

editnews.html	ニュース メッセージを変更します。
editwelc.html	ウェルカム メッセージを変更します。
headlist.html	メーリング リストの header.txt ファイルを変更します。
helplst.html	メーリング リストの help.txt ファイルを変更します。
listaddrule.html	メール リストのルールを作成します。
listadm.html	メーリング リスト管理機能を表示します。
listchgrule.html	メール リストのルールを変更します。
listmaintain.html	メーリング リストのプロパティを設定または変更します。
listmodrule.html	メール リストのルールを修正します。
mnacclog.html	Web 監視アクセス ログ（W2yymmdd.log）の内容を表示します。
mnsyslog.html	Web 監視システム ログ（W1yymmdd.log）の内容を表示します。
mntlst.html	メーリング リストの保守機能を表示します。
mntlst1.html	kill リストのパラメータを設定します。
mntlst2.html	ダイジェスト パラメータを設定します。
modhostrule.html	メール ホストのメール処理のルールを修正します。
nolistfile.html	メーリングリストの nolist.txt ファイルを変更します。
shspool.html	spool ディレクトリの内容を表示します。
subslst.html	メーリング リストの subscribe.txt ファイルを変更します。
syntax.html	メーリングリストの syntax.txt ファイルを変更します。
syslog.html	IMail Syslog の内容を表示します。
sysstat.html	システムの統計情報を表示します。
systmlog.html	IMail システムログの内容を表示します。
traillst.html	メーリング リストの trailer.txt ファイルを変更します。
usradmin.html	ユーザのリスト、[追加]、[編集]、[削除] ボタンを表示します。
userstat.html	すべてのユーザの統計情報を表示します。
vh.html	仮想ホスト管理機能を表示します。
vh_add.html	仮想ホストを追加します。
vh_modify.html	仮想ホストを修正します。
welcome.html	ニュース メッセージを表示します。

状態ページとエラー ページ	
ntaddusr.html	NT データベース使用時にユーザ追加を行った場合に表示されます。
padduser.html	ユーザを追加した後の状態を表示します。
pchgalis.html	エイリアスを追加した後の状態を表示します。
pchguser.html	ユーザ名、メールボックスサイズなどを変更した後の状態を表示します。
pdeluser.html	ユーザを削除した後の状態を表示します。
pedtnews.html	ニュース メッセージを変更した後の状態を表示します。
plfile.html	メーリングリストのsyntax.txt,nolist.txtを変更した後の状態を表示します。
pedtwelc.html	ウェルカム メッセージを変更した後の状態を表示します。
plistadm.html	メーリング リストを作成または更新した後の状態を表示します。
plistdig.html	メーリング リストのダイジェスト オプションを設定した後の状態を表示します。
plistset.html	メーリング リストのパラメータを設定した後の状態を表示します。
plstaddr.html	アドレス リスト、ダイジェスト アドレス リスト、または kill リストで、ユーザを修正、追加、または削除した後で、状態を表示します。
plstfile.html	ヘッダ、トレイラ、subject など、メーリング リストおよびダイジェストに関連するファイルを修正した後の状態を表示します。
pshspool.html	spool ディレクトリ内のファイルを削除した後の状態を表示します。または、選択した spool ファイルを表示します。
puchgpass.html	ユーザ管理でパスワードを変更した後の状態を表示します。
vaddstats.html	仮想ホストを追加した後の状態を表示します。
vhdelete.html	仮想ホストを削除した後の状態を表示します。
vmodifystatus.html	仮想ホストを修正した後の状態を表示します。

これらは、Web Messaging 機能のヘルプ ページです。名前の先頭が cs_ のファイルは、Web Messaging ページの [Help] ボタンから呼び出されます。名前の先頭が t_ のファイルはこのボタンで直接呼び出すことはできませんが、目次からアクセスすることができます。

ファイル	Web ページ
cs_ab.html	アドレス ブックの使用方法
cs_addalias.html	エイリアスの追加方法
cs_addhostrule.html	ホストの配信ルールの追加方法
cs_addrule.html	ユーザのメール ルールの追加または変更方法
cs_adduser.html	管理者によるユーザの追加方法
cs_aliasadmin.html	エイリアスの管理
cs_aliasmodify.html	エイリアスの修正方法
cs_autoresp.html	自動応答メッセージのセットアップ方法
cs_chgfwd.html	メール転送先アドレスの変更方法
cs_chghostrule.html	ホストの配信ルールの変更方法
cs_chgldap.html	ユーザの LDAP 属性の変更方法
cs_chgpass.html	ユーザのパスワードの変更方法
cs_chgplan.html	ユーザの Finger ファイルの変更方法
cs_chgsign.html	ユーザの署名ファイルの変更方法
cs_chgvac.html	ユーザの外出中メッセージの変更方法
cs_displayuserlist.html	アカウントの状態にユーザのリストを表示する方法
cs_editnews.html	新しいメッセージの編集方法
cs_editwelc.html	ウェルカム メッセージの編集方法
cs_listaddrule.html	メーリング リストの配信ルールの追加方法
cs_listadm.html	管理者によるメーリング リストの追加、修正方法
cs_login.html	ログイン方法の画面
cs_menu.html	メールボックスとオプションの使用方法
cs_mnacclog.html	Web 監視ログの表示方法
cs_mnsyslog.html	Web 監視システム ログの表示方
cs_mntlst.html	管理者によるメーリング リストのプロパティの設定方法
cs_mntlst1.html	Kill リストの使用方法
cs_mntlst2.html	メーリング リストのダイジェスト オプションの設定方法

cs_msgsum.html	メールボックスのメッセージ サマリの使用方法
cs_nolistfile.html	Nolist ファイルの使用方法
cs_pref.html	メールオプションの設定の使用方法
cs_readmail.html	メッセージの読取り方法
cs_search.html	メールボックス内のメッセージを検索する方法
cs_sendmail.html	メッセージの作成と送信方法
cs_shspool.html	Spool ディレクトリの表示方法
cs_syntax.html	構文ファイルの使用方法
cs_syslog.html	syslog の表示方法
cs_sysstat.html	システムの統計情報の使用方法
cs_systmlog.html	システム ログの表示方法
cs_sysusradmin.html	ユーザ管理の使用方法
cs_tableC.html	目次
cs_userstat.html	ユーザの統計情報の読取り方法
cs_usradmin.html	管理者によるユーザ プロパティの変更方法
cs_vhadd.html	仮想ホストの追加方法
cs_vh_modify.html	仮想ホストの修正方法
cs_welcome.html	ウェルカム ページのヘルプ
t_*topicname*.html	Web Messaging のタスクに関する、分類されたヘルプ トピック

IMail

Web Messaging ページを生成するために使用されるテンプレートの大部分は、HTML コードで構成されています。しかし、テンプレートの中には、JavaScript コードが含まれているものもあります。

テンプレート内で特殊な“ タグ ” 言語を使用すると、実行時－つまりブラウザが情報を要求したときに、メールボックスやメッセージなど、“ 動的な ” 情報を生成することができます。これらのタグを使用して、Web Messaging ページのカスタマイズ、独自のページの追加、またはページの構成要素の追加または名前の変更を行うことができます。

すべてのタグは **IMAIL** というラベルで始まります。IMAIL タグは、常に標準の HTML コメント タグに埋め込まれます。例えば、次のように指定します。

<!--IMAIL.UserID -- >

- IMAIL.TagName －この種類のタグは、値を返します。値には、現在ロ

グインしているユーザのユーザ ID や IMail Server のホスト名などがあります。

- IMAIL.*TagName.Value* ― *TagName* は、ボタン、ハイパーリンク、チェック ボックスなどの項目の名前です。*TagName* は編集できません。ボタンに表示されるテキストの場合は、*TagName* の末尾に Button が付きます (例えば、LogonButton、SaveButton)。ハイパーリンクに表示されるテキストの場合は、末尾に Link が付きます。単純なテキスト タグの場合は、末尾に Text が付きます。*Value* は、ボタン上、ハイパーリンク内、またはチェック ボックスの横に表示される実際のテキストです。*Value* を変更して、希望のテキストに変更することができます。

『IMail Server Web Messaging HTML ドキュメント』*([IMail のトップ ディレクトリ]¥Web* ディレクトリにある *tags.doc,stattags.doc* ファイル) に、すべての IMAIL タグがリストされています。

タグを使用すると、次の種類の操作を行うことができます。

- **通常**タグは、１つまたは複数の値を返します。これらのタグは、ログインしているユーザ名などの動的情報を Web ページに挿入するために使用します。
- **条件**タグは、条件が真か偽かをチェックし、その結果に基づいて処理を継続します。これらのタグは、If-Then-Else 構文を使用します。
- **While** タグは、メールボックス内のメッセージのリストなどの表に、値を入れます。これらのタグは、For-Each 構文を使用します。
- **インクルードファイル**タグを使用すると、HTML、ASP、CGI、CSS またはその他のファイルを指定して、そのタグの位置に挿入できます。ファイルの拡張子が *.asp* または *.cgi* の場合、挿入されたファイルに対して、さらに IMail タグの構文解析が行われます。例えば、**Include** タグを使用して、標準ヘッダをすべてのファイルに挿入することができます。

テンプレート内でタグを使用する方法の詳細については、『IMail Server Web Messaging HTML ドキュメント』**([IMail のトップ ディレクトリ]¥Web** ディレクトリにある *tags.doc,stattags.doc* ファイル) を参照してください。

ParseExtensions

ドキュメントの IMail タグを解析する場合、ファイル拡張子に関係なく、ParseExtensions を使用して組み込みファイルを解析することができます。これは、ファイル拡張子を手作業で変更できないユーザにとって便利な機能です。この機能は、IMail “ include ” タグを使用している場合に動作します。これで、IMail “ include ” タグを使用して、レジストリにリストさ

れているファイル拡張子に関係なく解析することができます。例えば、ParseExtensions を使用して、以下の IMail タグを有効にすることができます。

<!--IMAIL.Include filename.asp-->

<!-- IMAIL.Include filename.cgi-->

<!--IMAIL.Include filename.js-->

<!--IMAIL.Include filname.txt-->

この機能は基本的には、組み込まれているドキュメント (特定のファイル拡張子をもつ) の IMail タグを解析するか、IMail タグの表示のみをするかを制御します。

ParseExtensions

ParseExtensions REG_MULTI_SZ 値は、次のレジストリに保存されます。
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Ipswitch¥IMail¥Global]

このレジストリに ParseExtensions がない場合、IMail “ include ” タグは、cgi、asp、htm、および html などの拡張子がついたファイルを自動的に解析します。これにより、指定したファイルの中で IMail タグを実行することができます。

これ以外のファイル拡張子もすべて解析されますが、IMail タグは記述されているとおりに表示されるだけで実行されません。IMail “ include ” タグも、ファイル拡張子をすべて解析しますが、ファイル内に含まれている IMail タグを実行することはありません。

ParseExtensions がレジストリにあってもファイル拡張子が含まれていない場合、IMail “ include ” タグはタグに指定されているすべてのファイル拡張子を解析します。また、解析したファイル内で検出されるすべての IMail タグを実行します。

ParseExtensions

ParseExtensions をレジストリに追加するには、次の手順に従います。

1. [ファイル名を指定して実行] コマンド行を起動します。
2. “ regedt32 ” と入力し、キーボードで **[Enter]** を押します。
3. 以下のレジストリに移動します。

[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Ipswitch¥IMail¥Global]

4. REG_MULTI_SZ と入力して、ParseExtensions の値を追加します。

5. 実行可能な IMail タグを含むファイルの拡張子を、テキスト ボックスに入力します。このとき、区切り文字は使用しないでください。例えば、CGI、HTML、および ASP ファイルの IMail タグのみを解析する場合は、それぞれの行にそのファイルの拡張子を入力します。

以下のように、1 つの行に 1 つの拡張子を入力します。

cgi

html

asp

6. 変更した内容が有効になるようにするには、Web Messaging を再起動する必要があります。

注記

IMail “ include ” タグを使用してドキュメントに組み込んだ場合、リストされているファイル拡張子だけが IMail タグを実行することができます。

Web

次の表は、デフォルトのグラフィック ファイルと、それが Web Messaging インターフェースで使用される場所の一覧です。

ファイル名	説明
ascend.gif	列が昇順になっていることを示すアイコン
att_new.gif	添付ファイルのある新着メッセージを示すアイコン
attach.gif	添付ファイルのある既読メッセージを示すアイコン
blank_button_57_24.gif	57 × 24 ピクセルの空のボタン。新しいボタンを作成するときに使用します。
blank_button_74_24.gif	74 × 24 ピクセルの空のボタン。新しいボタンを作成するときに使用します。
blbkg.gif	すべてのページの背景グラフィック
*buttonname*btn.gif	ボタン。*buttonname* はボタンのラベルを表しています。例えば、sendbtn.gif,readbtn.gif などがあります。
descend.btn	列が降順になっていることを示すアイコン
downrule.gif	リストの配信ルールを下の方に移動するアイコン
down.gif	「サービス Down」を示すアイコン。Web 監視ユーティリティーで使用されます。
downrule.gif	[ルールの一覧] ページで優先度を下げるアイコン
forward.gif	メールを転送したことを示すアイコン
imailc.gif	ログイン ページのロゴ。mailwelc.txt から呼び出されます。

logo.gif	Ipswitch 社のロゴ
mail.gif	既読のメッセージを示すアイコン
mail_new.gif	新しい (未読) メッセージを示すアイコン
mail.gif	既読メッセージを表示するアイコン
replied.gif	メールを返信したことを示すアイコン
ssl-key.gif	鍵のアイコン。SSL が使用されていないことを示します。
ssl-lock.gif	ロックのアイコン。SSL が使用中であることを示します。
up.gif	「サービス起動中」を示すアイコン。Web 監視ユーティリティで使用されます。
uparrow.gif	上向き矢印
uprule.gif	[ルールの一覧] ページで優先度を上げるアイコン
urgent.gif	緊急メッセージを示すアイコン

H: Web

IMail Web カレンダーインターフェースで表示される各ページは、Web テンプレートによって生成されます。Web テンプレートを編集して、Web カレンダーインターフェースをカスタマイズすることができます。複数のメール ホストがある場合は、メール ホストごとに異なる IMail Web カレンダーインターフェースを持つことができます。

例えば、次の変更を行うことができます。

- テンプレート内の HTML コードを編集することによって、ページの構成要素 (例えば、段組み、ボタン、リスト ボックス、テキスト ボックス) を再配置することができます。また、Web ページの生成に使用される Web テンプレートを編集して、機能を移動および削除することができます。
- カレンダーの“ タグ ”をテンプレート内で使用して、カレンダーの表示などの動的な情報を変更することができます。テンプレート内でタグを使用する方法の詳細については、『IMail Server Web カレンダー HTML ドキュメント ([*IMail Top Directory*¥*Web*¥*Calendar* にある *iwebcaltags.doc*)』を参照してください。

以下の節では、IMail Web カレンダーのディレクトリ構造とインターフェースの変更方法について説明します。

Web Web

IMail Server のインストール時に、IMail Web カレンダーファイルの標準構成を、IMail のトップ ディレクトリにある Web ディレクトリ (通常、*\IMail\Web\ カレンダー*) にインストールすることができます。IMail Server は、この標準構成のファイルを使用して、一次メール ホストおよびサーバ上の任意の仮想メール ホストのIMail Web カレンダーインターフェースを作成します。カレンダーディレクトリ内には、次ファイルが含まれます。

- .html ―“ Web テンプレート ”のファイルです。各テンプレートには、特定の Web カレンダーページを生成するために使用される、HTML コードが含まれています。例えば、*login.html* ファイルは、ログインページを生成するために使用されるコードが含まれています。

Web テンプレートのリストと、対応する IMail Web カレンダーインターフェース内のページについては、288 ページの「ページと対応するテンプレート」を参照してください。

- *.gif* ― ロゴ、ボタン、およびアイコンなどのグラフィックに使用されるファイルです。*.gif* ファイルは、Web テンプレートまたは *.txt* ファイルから、必要に応じて “ 呼び出されます ”。したがって、対応する *.gif* ファイルを置き換えることによって、IMail Web カレンダーインターフェース全体にわたって、ロゴ、ボタン、その他のグラフィックの外観を変更することができます。

  グラフィック ファイルのリストについては、295 ページの「Web ディレクトリにあるグラフィック ファイルのリスト」を参照してください。

- *.cgi* ― Webサーバからのデータの受け入れおよび戻しをするファイルです。

- *.txt* ― 広告および本日のニュースの ASCII テキストが含まれるファイルです。.txt ファイルは、Web テンプレートから、必要に応じて “ 呼び出されます ”。これらのファイル内のテキストは、編集することができます。

メール ホストが１つの場合、またはすべてのメール ホストの外観を同じにしたい場合は、[*IMail Top Directory*]¥*Web*¥*Calendar* ディレクトリにあるデフォルト ファイルをを変更します。

注記

IMail Web カレンダーの体験版がインストールされている環境に、バージョン 7.0 をインストールすると、デフォルトの Web カレンダーファイルは *[IMail Top Directory]¥Web¥New* に格納される場合があります。このオプションは、カスタマイズされた Web テンプレートが上書きされるのを避けるため、インストール時に選択することができます。

Web

IMail Server 上に複数のメール ホストがある場合は、ホストごとに Web\Calendar ディレクトリを作成することができます。

Web テンプレートをデフォルトの Web ディレクトリから、メール ホスト固有の Web ディレクトリ ― [*IMail Top Directory*]¥[*Domain Name*]¥*Web*¥*Calendar* ディレクトリにコピーして、そのホスト専用のテンプレートとしてカスタマイズすることができます。

例えば、domain1 というドメインのログイン ページをカスタマイズするには、*login.html* ファイルをデフォルトの Web ディレクトリから、このドメインのディレクトリ (*domain1¥web¥calendar*) にコピーします。次に、そのファイルを編集して保存します。このドメインのディレクトリに、Web

ディレクトリが存在しない場合は、作成する必要があります。テンプレートの名前を変更することはできません。

IMail Web カレンダーページが Web サーバから要求されると、カレンダーアプリケーションは、まず、ドメイン固有のディレクトリ ([*IMail Top Directory*]¥[*Domain Name*]¥*Web*¥*Calendar*) を読み取り、次に、デフォルトの Web ディレクトリ ([*IMail Top Directory*]¥*Web*¥*Calendar*) を読み取ります。Web テンプレートが、ドメインの Web ディレクトリで見つかった場合は、それを使用し、見つからなかった場合は、デフォルトの Web テンプレートを使用します。

複数のメール ホストのディレクトリ構造



Web カレンダーインターフェース上のテキスト メッセージ、グラフィック、ボタン、リンク、および色は、簡単に変更することができます。以下の節では、デフォルトの Web ディレクトリ (*[IMail Top Directory]¥Web¥Calendar*) 内のテキストおよびグラフィック ファイル、および変更できる内容について説明します。複数のメール ホストがある場合は、ファイルをメール ホストの Web ディレクトリにコピーして、そのメール ホスト用にカスタマイズすることができます。また、任意のグラフィック ファイル (*.gif*) を、同じ名前の独自の *.gif* ファイルに置き換えることができます。

Web カレンダーにログインすると、「本日のニュース」が表示されます。「本日のニュース (News of the Day)」に何も入力されていない場合は、ログイン後にメニュー画面が表示されます。*mailnews.txt* ファイルには、プレーン テキストまたは HTML のソース コードを 10 ～ 1,000 文字まで入力することができます。

「本日のニュース」を編集するには、次の手順を使用することもできます。

- IMail Administrator で、**[スタート]** メニューから、**[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail Administrator]** の順に選択します。メール ホストを選択してから **[Web Calendaring Content]** タブをクリックし、**[News OTD]** ボタンをクリックします。

インターフェース内のほとんどのボタンには、*.gif* ファイルが使用されていますが、これらのファイルを独自の .gif ファイルで置き換えることができます。独自のボタンを作成するには、空のボタンの *.gif* ファイルを使用することができます。これらのファイルは、*[IMail Top Directory]\Web* にあります。

[*blank_button_57_24.gif*] (小ボタン : 高さ 57 ピクセル、幅 24)

[*blank_button_74_24.gif*] (大ボタン : 高さ 74 ピクセル、幅 24)

複数のメール ホストがある場合は、*.gif* ファイルを、メール ホストの Web ディレクトリにコピーし、そのホスト用にファイルを変更することができます。

注記

複数のメールホストがある場合は *gif* ファイルを任意のメールホストの Web ディレクトリにコピーして、そのホスト用にファイルを変更することが出来ます。

Web

IMail Web カレンダーページは、HTML コードと JavaScript コードが含まれる " テンプレート " からコンパイルされます。JavaScript コードは内部処理を実行するので、このコードは変更しないことをお勧めします。

Web テンプレートを編集する前に、次の点を理解する必要があります。

- Web ディレクトリ構造、および Web ディレクトリ内のテンプレートの処理方法 (283 ページの「Web ファイルと Web ディレクトリ構造」を参照してください。)
- テンプレート内での ICAL の " タグ " の使用方法 (292 ページの「IMail タグ」を参照してください。)

Web Web

Web カレンダーインターフェース内の各ページには、そのページの生成に使用される Web テンプレートがあります。例えば、ログイン ページは、

login.html テンプレートから生成され、アドレス帳 ページは、*addressbook.html* テンプレートから生成されます。

Web テンプレートの HTML コードを表示および編集するには、次の手順に従います。

- テンプレートをテキスト エディタで開きます。

  WSYWIG エディタ (Microsoft の Frontpage など) の使用は、テンプレートで使用されている特殊なタグを変換してしまう可能性があるため 00 お勧めしません。

- **[スタート]** メニューから、**[プログラム]** → **[IMail]** → **[IMail Administrator]** の順に選択します。次に、メール ホストを選択して、**[Web Calendaring Content]** タブをクリックします。ファイルを選択して、**[Edit]** をクリックします。

注記

一次メール ホストは、デフォルトの Web ファイルを使用します。各メール ホストは、そのホスト用にカスタマイズされたWeb カレンダーインターフェースを持つことができます。詳細については、284 ページの「複数ホストの Web ディレクトリ」を参照してください。

Web カレンダーページを参照するには、次の手順に従います。

- Web カレンダーにログインし、参照するページに移動し Web ブラウザの [表示] メニューから [ソース]（Microsoft Internet Explorer の場合，Netscape Navigator の場合は [ページのソース] を）選択します。
- Windows エクスプローラを使用して、*[IMail Top Directory]¥Web¥* カレンダーディレクトリに移動し、Web テンプレートをダブルクリックします。そのファイルが、Web ブラウザで開きます。この方法では、Web ページのコンパイル前の状態を見ることができます。これは、ページの構成要素を素早く表示するのに便利です。(ファイルの関連付けを設定して、HTML ファイルを Web ブラウザで開くようにしておく必要があるので注意してください)。

Web テンプレートと対応する Web ページの一覧については、288 ページの「ページと対応するテンプレート」を参照してください。

Web

メール ホストの Web ページをカスタマイズするには、そのホストの Web ディレクトリにある、関連する Web テンプレートを編集します。

1. **IMail Administrator** で、メール ホストを選択し、**[Web Calendaring Content]** タブをクリックします。

   注記

   一次メール ホストは、デフォルトのテンプレートを使用します。一次ホストの *[Content]* フォルダにある任意のテンプレートは、IMail Server

上にあるすべてのメール ホストに適用されます。あるメール ホスト用にテンプレートをカスタマイズしたい場合は、(Windows エクスプローラまたは **[Get Default]** ボタンを使用して) テンプレートを一次ホストのフォルダから、そのメール ホストのフォルダにコピーして編集する必要があります。

2. フォルダが空 (+ 記号が表示されない) の場合は、**[Get Default]** をクリックして、すべてのテンプレートをそのメール ホストのフォルダにコピーします。メール ホストのフォルダ内で、カスタマイズしないテンプレートは削除することができます。
3. カスタマイズしたいページのテンプレートを選択し、**[Edit]** をクリックします。テンプレートは、Windows の「メモ帳」で開きます。テンプレート内の HTML コードを直接編集することができます。デフォルトのエディタを変更すると、テンプレートを別のエディタで開くことができます。

注記

[Get Default] ボタンをクリックすると、すべてのファイルがメール ホストのフォルダにコピーされます。HTML ファイルと .txt ファイルだけは、編集することができるように IMail Administrator に表示されます。

4. 変更が完了したら、テンプレートをメール ホストのフォルダに保存します。

次の表は、各 Web テンプレートと対応する Web カレンダーページの一覧です。

カレンダー Web ページ ― Web カレンダー全般のテンプレートが含まれています。

オンライン ヘルプ ページ ― Web カレンダー機能についてのヘルプ。インターフェースをカスタマイズする場合は、これらのヘルプ ファイルも修正する必要があります。

Web

これらのテンプレートは、ユーザが Web カレンダーを使用するときに表示される Web ページを作成します。

テンプレート	Web フォーム
addevent.html	イベントを追加するためのページ
addjournal.html	メモを追加するためのページ

addressbook.html	通知電子メールの送信に使用するアドレスの追加や編集を行うページ
addtask.html	タスクを追加するためのページ
bulkdelete.html	すべてのイベント、タスク、およびメモを削除するためのページ
cal_pref.html	カレンダーの設定を編集するためのページ
createcalendar.html	カレンダーを作成、編集、および削除するためのページ
day_view.html	カレンダーで選択した日を表示します。
displayalltask.html	スケジュール設定したタスクがすべて表示されるタスク リスト
editevent.html	イベントを編集するためのページ
editIMIPRequest	依頼内容を確認し自分のカレンダーに追加するためのページ
editjournal.html	メモを編集するためのページ
edittask.html	タスクを編集するためのページ
invitation.html	イベントに関する電子依頼状
login.html	ログイン ページを表示します。
logout.html	ログアウト ページを表示します。
monthlyview.html	月間のカレンダーを表示します。
receivedIMIP.html	受信した依頼を表示するページ
reminder.html	スケジュール設定されたイベントやタスクに関する通知電子メール
searchresult.html	スケジュール設定されたイベントやタスクに関する検索結果を表示します。
showjournal.html	メモを表示するページ
tail.html	カレンダーのトレイラ メッセージが含まれています。
user_pref.html	オプション設定を表示します。
view_pref.html	カレンダーの表示方法の設定を編集するページ
weekview.html	週間のカレンダーを表示します。
welcome.html	ウェルカム メッセージを表示します。
yearview.html	年間のカレンダーを表示します。
状態ページとエラー ページ	
CalEnableError.html	カレンダーを開くときにエラーが生じました。
createcalendarwarning.html	現行のカレンダーは存在しません。
createcalfailed.html	カレンダーの作成、編集、または削除の状態を表示します。
disableaccount.html	ユーザ アカウントは無効となりました。

entrynotfound.html	カレンダーの項目が見つからない状態を表示します。
invalidpostaction.html	サーバへの無効な送信要求です。
nouser.html	ユーザは無効です。
plogin.html	ログインに失敗しました。
servererror.html	サーバ エラーを表示します。
suspendaccount.html	ユーザ アカウントがサスペンドになりました。
usererror.html	ユーザ エラーを表示します。
wrongversion.html	誤った Web カレンダーバージョン

これらは、Web カレンダー機能のヘルプ ページです。名前の先頭が cs_ のファイルは、Web カレンダーページの [ヘルプ] ボタンから呼び出されます。名前の先頭が t_ のファイルは、索引ファイル、目次ファイル、およびその他のヘルプ トピックから呼び出されます。

ファイル	Web ページ
cs_addevent.html	カレンダーへのイベントの追加方法
cs_addressbook.html	アドレス 帳へのアドレスの追加方法
cs_addtask.html	カレンダーへのタスクの追加方法
cs_cal_pref.html	カレンダーの表示設定の変更方法
cs_choosing_a_calendar.html	現在のカレンダー ページからのカレンダーの選択方法
cs_createcalendar.html	カレンダー リストへの新規カレンダーの追加方法
cs_day_view.html	現在のカレンダー ページを日表示にする方法
cs_deleting_addresses.html	アドレス 帳からの電子メール アドレスの削除方法
cs_deleting_a_calendar.html	カレンダー リストからのカレンダーの削除方法
cs_deleting_notes.html	現在のカレンダーからのメモの削除方法
cs_deleting_reminders.html	カレンダー画面からの通知電子メールの削除方法
cs_deleting_tasks.html	タスクの削除方法
cs_displayalltask.html.html	タスク リストにすべてのタスクを表示する方法
cs_editevent.html	現在のカレンダー ページでのイベントの編集方法
cs_editing_addresses.html	アドレス 帳の電子メール アドレスの編集方法
cs_editing_notes.html	メモの編集方法
cs_editing_reminders.html	タスクやイベントに関する通知電子メールの編集方法
cs_editing_tasks.html	現在のカレンダー ページからのタスクの編集方法
cs_generate_an_email_reminder.html	通知電子メールの作成方法
cs_intro.html	Web カレンダーの紹介
cs_login.html	Web カレンダーへのログイン方法
cs_marking_tasks.html	現在のカレンダー ページからタスクにマークを付ける方法
cs_monthview.html	現在のカレンダー ページを月間表示にする方法

cs_printing.html	現在のページの印刷方法
cs_printing_an_event.html	イベントの印刷方法
cs_printing_notes.html	メモの印刷方法
cs_printing_reminders.html	イベントやタスクに関する通知電子メールの印刷方法
cs_printing_tasks.html	タスクの印刷方法
cs_printing_the_address_book_page.html	アドレス ブックからの電子メール アドレスの印刷方法
cs_receivedimip.html.html	他のユーザから受け取った依頼の表示方法
cs_renaming_a_calendar.html	現在のカレンダー リストにあるカレンダーの名前の変更方法
cs_searchresult.html.html	検索結果の読取り方法
cs_showjournal.html	現在のカレンダーへのメモの追加方法
cs_tablec.html.html	ヘルプ トピックの目次
cs_user_pref.html	オプション設定について
cs_view_pref.html	表示設定の変更方法
cs_viewing_a_task.html	タスクの表示方法
cs_viewing_an_event.html	イベントの表示方法
cs_viewing_notes.html	メモの表示方法
cs_viewing_reminders.html	通知電子メールの表示方法
cs_viewing_the_calendar.html	現在のカレンダーの表示方法
cs_web_access.html	Webブラウザを使用してWeb カレンダーへのアクセス方法
cs_weekview.html	現在のカレンダー ページを週間表示にする方法
cs_yearview.html	現在のカレンダー ページを年間表示にする方法
t_*topicname*.html.html	Web カレンダーのタスクに関する、類別されたヘルプ トピック

IMail

Web カレンダーページを生成するために使用されるテンプレートの大部分は、HTML コードで構成されています。ただし、テンプレートの中には、JavaScript コードが含まれているものもあります。

テンプレート内で特殊な“ タグ ” 言語を使用すると、実行時－つまりブラウザが情報を要求したときに、メールボックスやメッセージなど、“ 動的

な ”情報を生成することができます。これらのタグを使用して、Web カレンダーページのカスタマイズ、独自のページの追加、またはページの構成要素の追加や名前の変更を行うことができます。

すべてのタグは **ICAL** というラベルで始まります。**ICAL** タグは、常に標準の HTML コメント タグに埋め込まれます。例えば、次のように指定します。

<!--ICAL.UserID -- >

- **ICAL**.TagName ― この種類のタグは、値を返します。値には、現在ログインしているユーザのユーザ ID や IMail Server のホスト名などがあります。
- **ICAL**.*TagName*.*Value* ― *TagName* は、ボタン、ハイパーリンク、チェック ボックスなどの項目の名前です。*TagName* は編集できません。ボタンに表示されるテキストの場合は、*TagName* の末尾に Button が付きます (例えば、LogonButton、SaveButton)。ハイパーリンクに表示されるテキストの場合は、末尾に Link が付きます。単純なテキスト タグの場合は、末尾に Text が付きます。*Value* は、ボタン上、ハイパーリンク内、またはチェックボックスの横に表示される実際のテキストです。*Value* を変更して、希望のテキストに変更することができます。

『IMail Server Web カレンダー HTML ドキュメント』([*IMail Top Directory*]¥*Web* にある *iwebcaltags.doc* ファイル) に、すべての ICAL タグがリストされています。

タグを使用すると、次の種類の操作を行うことができます。

- **通常**タグは、1 つまたは複数の値を返します。これらのタグは、ログインしているユーザ名などの動的情報を Web ページに挿入するために使用します。
- **条件**タグは、条件が真か偽かをチェックし、その結果に基づいて処理を継続します。これらのタグは、If-Then-Else 構文を使用します。
- **While** タグは、メールボックス内のメッセージのリストなどの表に、値を入れます。これらのタグは、For-Each 構文を使用します。
- **インクルード** ファイル タグを使用すると、HTML、ASP、CGI、CSS またはその他のファイルを指定して、そのタグの位置に挿入できます。ファイルの拡張子が *.asp* または *.cgi* の場合、挿入されたファイルに対して、さらに IMail タグの構文解析が行われます。例えば、Include タグを使用して、標準ヘッダをすべてのファイルに挿入することができます。

テンプレート内でタグを使用する方法の詳細については、『IMail Server Web カレンダー HTML ドキュメント』([*IMail Top Directory*]¥*Web* ディレクトリにある *iwebcaltags.doc* ファイル) を参照してください。

Web

次の表は、デフォルトのグラフィック ファイルと、それが Web カレンダー インターフェースで使用される場所の一覧です。これらの .gif ファイルの多くは、Web カレンダーページで使用するボタンを表します。

グラフィック	説明
addtodo.gif	[タスク一覧] ダイアログ ボックスの [Add] ボタン
advert.gif	WhatsUp Gold の広告バナー
bdc.gif	日表示および週間表示のカレンダー画面に表示されるバースディ ケーキのアイコンで、イベントが誕生日であることを示します。
bell.gif	日表示および週間表示のカレンダー画面に表示される鈴のアイコンで、イベントやタスクに関する通知電子メールが設定されていることを示します。
close.gif	ポップアップ メニューを閉じます。
del.gif	割り当てられているイベントやタスクを削除できるゴミ箱のアイコン
ftpgrphw.gif	WS_FTP Pro の広告バナー
gotobtn.gif	検索機能の [Go] ボタン
left.gif	現在のカレンダー画面に表示される左矢印ボタン
nextleft.gif	月間カレンダーのリスト ボックスに表示される左矢印ボタン
mail.gif	既読のメール メッセージを示すアイコン
mail_new.gif	新着 (未読) のメール メッセージを示すアイコン
nextleft.gif	月間カレンダーのリスト ボックスに表示される左矢印ボタン
nextright.gif	月間カレンダーのリスト ボックスに表示される右矢印ボタン
pdate.gif	[イベントの追加] ページや [タスクの追加] ページの [日時] セクションにある小さなカレンダー
repeat.gif	日表示および週間表示のカレンダー画面で、イベントやタスクの繰り返しを示すために使用される繰り返しアイコン
right.gif	現在のカレンダー画面に表示される右矢印ボタン
ssl-key.gif	鍵のロゴ。SSL が使用されていないことを示します。
ssl-lock.gif	ロックのロゴ。SSL が使用中であることを示します。

I: DNS

本付録では、ドメイン ネーム システム (DNS) に関する背景情報、およびメール サーバによる DNS の使用方法について説明します。ここでは、DNS についても簡単に説明しますが、メール サーバ、およびメール サーバが他のメール サーバを見つけるために使用する DNS レコードに焦点をあてて説明します。

DNS サーバにエントリを作成する方法については、DNS サーバに関するドキュメントを参照してください。

DNS

DNS とは、ネットワーク上のアプリケーションが、インターネット上の他のホストのアドレスを特定するための仕組みです。また、インターネット上の他のホストがユーザのホストを特定するための仕組みでもあります。DNS とは、本質的にインターネットの構造の地図を提供するものです。

インターネットに参加するには、組織は JPNIC (社団法人 日本ネットワーク インフォメーション センター) などにドメイン名を登録し、ドメイン内のホストが使用するアドレスを取得する必要があります。例えば、「*ipswitch.com*」は、登録されたドメイン名であり、「*ipswitch.com*」に割り当てられたアドレスには、156.21.50.1 から 156.21.50.255 までがあります。ドメイン名の登録については、JPNIC のホームページ **http://www.nic.ad.jp/** を参照してください。

インターネット上のすべてのホストは、ホスト名と IP (Internet Protocol) アドレスを持っている必要があります。ホストには、ドメイン内で一意の名前を自由に付けることができます。例えば、*ipswitch.com* ネットワーク内には、次のホスト名とアドレスがあります。

```
test1.ipswitch.com  156.21.50.1
test2.ipswitch.com  156.21.50.2
test3.ipswitch.com  156.21.50.3
```

DNS サーバは、ホスト名をアドレスに対応させます。「*ipswitch.com*」のドメイン サーバは、Ipswitchの各ホストと対応するアドレスをリストします。したがって、「*ipswitch.com*」の外にあるホストは、「*ipswitch.com*」の DNS サーバに問い合わせて、特定のホストのアドレスを知ることができます。要求したアプリケーションは、アドレスを取得すると、そのホストと直接通信できるようになります。

また、DNS サーバへの問合わせは、“ DNS 参照 ”、または、“ 参照 ” とも呼ばれます。

「*ipswitch.com*」の外にあるホストが、*ipswitch.com* ネットワーク上のユーザにメールを送信したい場合、そのホストは、「*ipswitch.com*」の DNS サーバに問い合わせて、「*ipswitch.com*」上のユーザのメール サーバを見つけます。ホストが、メール サーバにメールを送信すると、メール サーバは、そのメールを適切なユーザに配信します。

DNS

他のインターネット上のホストと通信する SMTP メール サーバは、DNS サーバを使用して、メール アドレスを参照します。受信メールと送信メールにおいて、メール サーバと DNS サーバの間では、次のような基本的な通信が行われます。

受信メール

他のインターネット ホスト上のユーザが、IMail Server ホスト上のユーザ (例えば、「*fred@domain.com*」宛てに) にメールを送信するときの流れを例に、以下に説明します。

1. ユーザが、IMail のユーザ「*fred@domain.com*」にメールを送信します。
2. 送信側のメール サーバは、*domain.com* ネットワーク上の DNS サーバに、メール サーバのホスト名を問い合わせます。DNS の MX (Mail eXchanger) レコードによって、メール サーバのホスト名が識別されます。
3. 「*domain.com*」の DNS サーバは、MX レコードの値、つまりメール サーバのホスト名を返します。この場合は、「*mail.domain.com*」になります。
4. 送信側のメール サーバは、*domain.com* ネットワーク上の DNS サーバに、メール サーバのホスト (「*mail.domain.com*」) のアドレスを問い合わせます。DNS の A レコードが、ホスト名を IP アドレスに対応させます。
5. 「*domain.com*」の DNS サーバは、メール サーバのホスト (「*mail.domain.com*」) の A レコードの値、つまり IP アドレス (156.50.1.5) を返します。
6. 送信側のメール サーバは、受信側のメール サーバの IP アドレスに接続し、メールを送信します。

送信メール

IMail Server のユーザが、他のインターネット ホスト上のユーザ (例えば、「*sam@widgets.com*」宛て) にメールを送信する場合も、同じ流れになります。ただし、この場合は、IMail メール サーバが *widgets.com* ネットワークの DNS サーバ上にある MX レコードと A レコードを参照します。

逆引き参照

メール サーバの中には、メールの受信時に、アドレスが有効であることを確認するために、アドレスの " 逆引き参照 " を行うものがあります。これは、バルク メーラが他人のメール サーバを不正に使用して、メールを中継することを防ぐ目的で行われています。逆引き参照を行うには、受信側のメール サーバが、送信側のメール サーバのネットワーク上にある DNS サーバに問い合わせて、送信側のサーバの IP アドレスが、送信側のサーバのホスト名と一致することを確認します。

逆引き参照を DNS で使用可能にするには、メール ホストの PTR レコードを作成します。PTR レコードは、IP アドレスをホスト名に対応させます。

DNS

DNS にメール サーバをセットアップするには、他のメール サーバがそのメール サーバを見つけて接続するために使用するレコードを作成する必要があります。これらのエントリを作成するには、次の準備をしておく必要があります。

- ローカル ネットワークの登録されたインターネット ドメイン名 (例えば、「*domain.com*」)
- ローカル ネットワークの DNS サーバ

DNS

メール サーバが他のメール ホストと通信できるようにするには、DNS サーバがメール サーバを認識するように設定する必要があります。DNS が正しく設定され、機能していないと、IMail Server は、IMail 内のドメイン以外にメールを配信することができません。

ネットワーク上の各ホストに対して、次のエントリを DNS に作成する必要があります。

- メール ドメイン (例えば、「*domain.com*」) 用の MX レコード

  MX レコードによって、メール ホストのホスト名が識別されます。

IP アドレスのないメール ホスト (仮想ホスト) で作成する必要があるのは、MX レコードだけなので注意してください。詳細については、42 ページの「複数のメール ホストに対する DNS のセットアップ」を参照してください。

- メール ホストのホスト名用の A レコード

  A レコードは、ホスト名を IP アドレスに対応させます。

- メール ホストの IP アドレス用の PTR レコード

  PTR レコードは、IP アドレスをホスト名に対応させ、逆引き参照に使用されます。

DNS サーバはさまざまなベンダから発売されているので、特定の DNS サーバ用にレコードを作成する方法を説明することはできません。代わりに、単一のメール ホスト用の基本的な設定例を示します。

この例では、DNS 参照ツールを使用して、DNS サーバに問い合わせて、その応答を示します。DNS サーバに問い合わせるには、Windows NT のコマンドライン プログラムである NSLOOKUP を使用することができます。

メール サーバ用の DNS エントリを説明するために、典型的な小規模ネットワークの例を使用します。まず、次のように想定します。

- ネットワーク インターフェース カード (NIC) がインストールされたコンピュータが 1 台ある。
- このコンピュータの IP アドレスとして、割り当てられているアドレス範囲の中の有効なアドレスを設定している。この例では、156.21.50.5 を使用します。
- このコンピュータに、ドメイン内で有効なホスト名を割り当ててある。この例では、「*mail.domain.com*」を使用します。
- メール サーバがダウンした場合にバックアップとして機能する、別の SMTP サーバを設定している。この例では、「*cecil.domain.com*」を使用します。

このコンピュータ用に、次のレコードを設定する必要があります。

- ドメイン「*domain.com*」用の MX レコード

  これは IMail を実行しているコンピュータ (「*mail.domain.com*」) のホスト名を指します。

- 「*mail.domain.com*」用の A レコード
- 「*mail.domain.com*」用の PTR レコード

このメール ホスト上のユーザの電子メール アドレスは、「*user@domain.com*」となります。

まず最初に、(送信側のメール サーバと同様に) MX 参照を行って、*domain.com* ネットワークのメール ホストを見つけます。
参照ツールを使用し、ホスト名を「*domain.com*」、[Query Type] を MX(レコード) で参照した場合は、次のような応答が返されます。

```
domain.com
    10, mail.domain.com
    50, cecil.domain.com
```

これは、「*mail.domain.com*」と「*cecil.domain.com*」の両方が、*domain.com* ネットワークのメール ホストであることを示しています。
「*cecil.domain.com*」ホストは、バックアップ メール サーバです。数字はメール ホストの優先順位を示しています。つまり、送信側のメール サーバに、最初に試行するメール ホストを知らせます。数字が小さいほど、優先順位は高くなります。この場合は、「*mail.domain.com*」が、他のメール サーバが最初に使用するホストです。「*cecil.domain.com*」は、「*mail.domain.com*」がダウンしている場合にのみ使用されます。

バックアップ メール サーバの仕組みについては、45 ページの「バックアップ メール スプーラとしての IMail Server のセットアップ」を参照してください。

MX 問合わせに対しては、ホスト名のみが返されます。送信側のメール サーバが、このメール ホストに接続するには、ホスト名の IP アドレスが必要です。送信側のサーバは、もう一度 DNS 参照を実行して、優先順位が最も高いメール ホストの、(A レコードに定義されている)IP アドレスを取得します。
参照ツールを使用し、ホスト名を「*mail.domain.com*」、[Query Type] を A (レコード) で参照した場合は、次のような応答が返されます。

```
mail.domain.com
    156.21.50.5
```

「*cecil.domain.com*」の A レコードを問い合わせると、次の応答が返されます。

```
cecil.domain.com
    156.21.50.100
```

「*mail.domain.com*」ホストの IP アドレスがわかったので、送信側のメール サーバは、このホストに接続して、メールを配信することができます。処理が正常に終了した場合は、これ以上処理を行う必要はありません。ただし、「*mail.domain.com*」ホストがダウンしている場合は、接続が失敗するので、送信側のメール サーバは、次に優先順位が高い MX レコード (ここでは「*cecil.domain.com*」) に接続しようとします。

DNS

DNS 参照ツールを使用して、この例のネットワークの DNS サーバに (詳細表示モードで、すべての情報を) 問い合わせると、次のようなエントリが表示されます。

```
domain.com.  IN MX   50 cecil.domain.com.
             IN MX   10 mail.domain.com

cecil.domain.com.  IN A  156.21.50.100
mail.domain.com.   IN A  156.21.50.5

5.50.21.156.in-addr.arpa.,type = PTR
 host = mail.domain.com
5.100.21.156.in-addr.arpa.,type = PTR
 host = cecil.domain.com
```

IMail Server に複数のホストがある場合は、ホストごとに MX、A、PTR の各レコードが必要となります。35 ページの「第 3 章 : 設定」では、これらの詳細設定、および詳細設定用に作成する必要がある DNS エントリについて説明しています。

A

A レコードは、ホスト名を IP アドレスに対応させます。

(Host Aliases)

ホスト名に割り当てられている別名。ホスト名 (および、それに続くドメイン名) の代わりに使用できます。便宜上、エイリアスは、長いホスト名を短縮するために使われることがよくあります。

Baud rate

シリアル ポートとモデムの通信速度 (ビット / 秒)。

ドメイン ネーム サーバは、自分のドメイン内に存在しないホストへの参照要求を処理するたびに、別のネーム サーバに情報を問い合わせなければなりません。ドメイン ネーム サーバは、応答を受信すると、このアドレス情報をキャッシュに保存します。これにより、次回、同じ情報についての問合わせを受信したとき、その情報について別のネーム サーバに問い合わせる必要がなくなります。ドメイン ネーム システムにあるアドレス データは頻繁に変更されるので、システム管理者は、キャッシュの Time to Live (**TTL**) を設定し、その後キャッシュをクリアします。

ネットワーク接続されたコンピュータ上で実行されるプログラム。通常、ネットワーク接続された他のコンピュータ上で実行されているサーバ プログラムにサービスを要求します。クライアントは、プロトコルを使用してサーバと通信します。例えば、FTP クライアントは、FTP プロトコルを使用して FTP サーバと通信します。

DLL

ダイナミック リンク ライブラリ (Dynamic Link Library) は、アプリケーションによって使用される実行可能な機能をもつライブラリです。DLL には、1 つまたは複数の機能があります。プログラムは、DLL へのリンクを作成することによりその機能にアクセスします。

インターネット ネットワークの区分けを表すときに使用される用語。ドメインは、利用しているネットワークがどの一部となっているかという主要な区分け (.com、edu、.gov、.net、.us、.uk) の意味や、自分が使用しているネットワーク上の部分 (ipswitch.com) を指すこともあります。(「**ドメイン ネーム システム**」も合わせて参照してください。)

ホスト名(例えば、tortoise.ipswitch.com)をIPアドレス(例えば、156.21.50.10)に変換する分散型データベース システム。インターネット上のすべてのホストには、ドメイン ネーム システムで指定されている規約に従って名前が付けられています。ホスト名が使用されるのは、数字のアドレス (IP アドレス) よりも覚えやすいためです。例えば、「tortoise.ipswitch.com」の場合は、「tortoise」がホスト名、「ipswitch.com」がドメイン名です。ドメインは、ホストが存在するネットワークを意味しています。

ホスト名と IP アドレスのテーブルを保持しているホストであり、クライアント プログラムのために参照サービスを提供しています。クライアント プログラムは、ドメイン ネーム サーバを使用して、特定のホストの IP アドレスを参照します。ドメイン ネーム サーバは、ローカル ネットワークに対し、ホスト名から IP アドレスへのマッピングを提供し、他のドメイン内にあるホストを参照するために、ドメイン ネーム システムへのアクセスを提供しています。

一次ネーム サーバのデータベース ファイルには、ドメインに関するすべての情報が保持されています。一次サーバのバックアップや負荷分散のために、2 つ目のネーム サーバを追加する場合は、そのサーバを**二次**サーバとしてセットアップすることができます。二次ネーム サーバは、そのドメインの一次ネーム サーバからデータベース ファイルをコピーすることで、そのドメイン情報を取得します。二次サーバを使用する利点は、1 台のネーム サーバ(一次サーバ)だけでドメイン情報を保守できることです。

Finger

インターネットの標準プロトコルの 1 つで、これを使用してリモート ユーザは、システムに登録されているユーザについての情報を知ることができます。この情報には、指定したユーザのフル ネーム、そのユーザの完全な電子メール アドレス、およびユーザが提供している“ Plan ”ファイルが含まれています。このファイルには、Finger の要求に応じてユーザが提供する追加情報が含まれています。

FTP (File Transfer Protocol :)

TCP/IPネットワーク上で使用するために定義された標準プロトコルの1つで、システム間でファイルを転送するために使用されています。

Gate host

ゲート ホストとは、メールを送信先のホストへ直接配信できない場合に、メールの配信先となる別のホスト名です。

IMAP4 (Internet Message Access Protocol Version 4)

メール サーバからメールを読み出すためのプロトコルで、サーバ側でメールの保存管理が行えます。この方法によって、クライアント電子メール アプリケーションは、リモート マシン上にあるメッセージの格納場所がローカル マシン上にあるかのようにアクセスすることができます。

in-addr.arpa

インターネット上の特別なドメインで、IP アドレスをドメイン名に対応させるときに使用されます。このドメインは、逆引き参照のために使用されます。逆引き参照は、IP アドレスがわかっているときに、アプリケーションがホスト名の問合わせをする場合に使用されます。

IP (Internet Protocol :)

このプロトコルにより、パケット (データ束) がその宛先を見つけるために、ネットワーク間を移動する方法が決定されます。(「**TCP**」を合わせて参照してください。)

IP

インターネット上のすべてのホストは、IP アドレスと呼ばれる一意の数字コードにより識別されます。「156.21.50.1」といったものが、IP アドレスの一例です。ドメイン ネーム システムは、IP アドレスをホスト名に対応させるために使用されます。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

サーバ上に格納されているディレクトリ情報にアクセスするためのプロトコル。LDAP が使用可能なクライアントは、LDAP ディレクトリに格納されているユーザ情報を検索し、表示することができます。

リスト サーバは、メーリング リストを管理する方法を自動化します。リスト サーバが受信したメーリング リスト宛てのメッセージは、そのメーリング リストの全メンバに送信されます。

リスト サーバは、すべての登録済みユーザにメッセージを配布するだけでなく、登録者リストに対するユーザの追加や削除を管理します。

MX

MX レコードは、メール サーバを実行しているコンピュータ (この場合は、IMail Server コンピュータ) のホスト名を識別します。

ODBC

オープン データベース コネクティビティ (Open DataBase Connectivity) は、標準のデータベース アクセス方式で、これにより、どのデータベース管理システム (DBMS) がデータを処理するかに関わらず、任意のアプリケーションからデータにアクセスすることができます。ODBC は、アプリケー

ションと DBMS の間に、データベース ドライバと呼ばれるレイヤを挿入します。このレイヤが、アプリケーションのデータ照会を、DBMS が認識するコマンドに変換します。

POP3 (Post Office Protocol Version 3)

ユーザ宛てのメッセージを取り出すために、メール サーバ (またはポスト オフィス) と通信する際に使用される、最も一般的なプロトコル。POP3 サーバは、いつでも着信メールを受信できるので、個々のユーザが自分の PC の電源を入れたままにしておく必要はありません。ユーザが POP3 サーバに接続し、メッセージをダウンロードするまで、POP3 サーバはメールを保存します。

配信ルールは、[To]、[From]、[Sender]、[Subject]、メッセージのヘッダ、またはメッセージの本文に基づき、直接受信メールに適用されます。配信ルールは、ドメイン、個々のユーザ、またはリスト サーバのメーリング リストに適用できます。

コンピュータが情報交換を行う際の方法を定義している一連のルール。

PTR

PTR レコードは、ホスト名を IP アドレスに対応させたり、逆引き参照に使用されます。

IMail Server 以外のコンピュータから別のホストに配信されるメッセージは、IMail Server を経由する必要があります。IMail Server (または任意の SMTP サーバ) は、別のホスト宛てのメールを受け入れ、そのメールを別ホストに再配信することができます。

Request for Comments (RFC)

インターネットの標準仕様を定義している一連の文書。RFC は、新しい標準または既存の標準の拡張を提案するためにも使用されています。

クライアント プログラムが、特定の IP アドレスのホスト名を要求したときに、DNS サーバが逆引き参照を行います。逆引き参照は、通常の DNS 参照手順の逆で、IP アドレスから特定のホスト名を検索します。逆引き参照には、IP アドレスをドメイン名に対応させる特別なドメイン「**in-addr.arpa**」が使用されます。

ネットワーク接続されたコンピュータ上で実行されるプログラム。通常、他のネットワーク接続されたコンピュータ上で実行されているクライアント プログラムから送られてくるサービス要求を処理します。クライアン

トとサーバは、プロトコルを使用して通信します。例えば、FTP クライアントは、FTP プロトコルを使用して FTP サーバと通信します。

レジストリ データベースにインストールされている実行可能オブジェクトを表す、正式な Windows NT/2000 用語。このレジストリ データベースは、NT のサービス コントロール マネージャによって保守されます。サービスは、システムがブートされたとき、自動的に起動されるプログラムで、システムがシャットダウン (停止) するまで動作し続けます。また、システムに誰もログオンしていないときでも、動作し続けます。

SSL

Secure Sockets Layer (SSL) は、ブラウザとサーバ間の通信に使用されます。SSL 暗号化メール通信では、本来の受信者だけがその内容を読むことができます。SSL は、“ 証明書 ” を使用してクライアントとサーバを認証し、パブリック / プライベート キーの “ ペア ” を使用して通信の暗号化と復号化を行います。主要なブラウザでは、SSL が使用可能です。

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)

SMTP は、インターネットも含め、複数の TCP/IP ネットワーク上で効率的に、かつ確実にメールを配送できるよう設計されています。SMTP は、メール システム間のやりとりを定義して、メール システムが異なる種類のコンピュータ上にある場合や、異なるオペレーティング システムを実行している場合でも、電子メールの転送を簡単に行えるようにします。SMTP は、インターネット上でメールを送受信するために必要なプロトコルです。

他の人々に必要のないメールを送信することを “ スパミング ” といいます。スパム メーラは他人のシステムを使用して、自分のメッセージを他のインターネット メール ユーザに中継するので、貴重なシステム リソースが占有されます。IMail Server では、アンチ スパミング機能が提供されています。

TCP (Transmission Control Protocol :)

パケットでのデータ組立ておよび分解方法を制御するプロトコル。(「**IP**」を合わせて参照してください。)

TTL (The Time to Live)

TTL により二次ネーム サーバが DNS データベース ファイルを使用できる時間 (通常は秒単位) を指定します。これらのファイルは、二次サーバが一次サーバからコピーし、データをリフレッシュするまで使用されます。

UDP (User Datagram Protocol)

TCP が行うような制御とエラー チェックを必要としないユーザが使用する、伝送プロトコルです。

Whois

インターネットの標準プロトコルの 1 つで、これを使用してリモート ユーザは、ユーザのメール アドレスを調べることができます。

Winsock (Windows Sockets)

Microsoft Windows 用の TCP/IP ネットワーク ソフトウェアの開発者が、ガイドラインとして使用する仕様。ネットワーク ソフトウェアに対する標準的な API(アプリケーション プログラミング インターフェース) について記述されています。

索引

記号

A

accept.txt：146
addalias.exe：236
adduser.exe：238
A レコード：37, 42, 298

B

baud rate：194

C

cfg ディレクトリ：26

D

Data Source Name 「DSN」を参照
Default Host：22
dial string：191
DNS：11, 13, 35, 49, 297
  参照：298
  説明：297
  複数ホストの DNS：42
  メール サーバ：297
  参照 (Windows 2000)：14, 36
  参照 (Windows NT)：14
DSN：15, 50
System DSN：15, 16, 50

E

ETRN：50
Eudora：57, 259

F

Finger サーバ：8, 178
  セキュリティ：177
  設定：178
  はじめに：177
  レジストリ値：255
Finger のサポート：10, 65
forward.ima：70

G

Gate Host：22

H

HTML
  Web テンプレート内での使用：270
  ウェルカム メッセージ内での使用：268
  オンライン広告での使用：116
  トレイラ メッセージでの HTML の使用：116
  ニュース メッセージ内での使用：268
  Web テンプレートでの使用：286
  オンライン広告の使用：131
  トレイラ メッセージの使用：131
  ニュース メッセージでの使用：285

I

imail1.exe：242
IMAILSECDB：16
IMail クライアント：12
IMail サーバ
  定義：1
IMail サーバのピアリング
  例：49
IMAIL タグ 「Web Messaging テンプレート」を参照
Imail データベース：14
IMAP サーバ：4, 159, 162
  公開されているメールボックス：161
  サービス メッセージ：262
  セキュリティ：161
  設定：162
  説明：159
  ポート：25
  メールボックスの管理：160
  レジストリ値：255
immsgexp.exe：243
IP アドレス：101, 121
  仮想 IP アドレス：39
  仮想ホストの IP アドレス：38
  使用しなくなったときの削除：263
  中継：145

J

JavaScript 「テンプレート」を参照

K

KILL ファイル：149

SMTP KILL ファイル：149
SMTP の KILL ファイル：141
kill ファイル：218

L

LDAP
LDAP 情報：68
LDAP 属性：68
LDAP プロトコル：68
属性：58
LDAP サーバ：7, 169
実装：165
セキュリティ：168
設定：169
説明：165
ポート：25
レジストリ値：256
Lists ディレクトリ：25
Log server：251

M

mailall.exe：244
main.inf：70
modem initialization string：194
MX：305
MX レコード：37, 39, 42, 298, 305, 303

N

NULL 送信者：142, 148
NuPop：57

O

ODBC：16, 52

P

plan.ima：65, 70
POP3
サービス メッセージ：262
POP3 サーバ：4, 153
アクセス権：156
セキュリティ：153
設定：154
説明：153
ポート：25
レジストリ値：256
説明：229
POP3 プロトコル：11
postmaster エイリアス：18, 250
PTR レコード：37, 42, 299

Q

Queue Timer：50

R

RFC：133
root ユーザ ID：18, 250
rules.ima：70

S

SMTP
KILL ファイル：149
サービス メッセージ：262
smtp32.exe：246
smtp32 と imail1 の処理ルール：247
SMTP サーバ：4, 133, 257
KILL ファイル：141
アクセス権：149
セキュリティ：134, 142
設定：135
ポート：25
レジストリ値：257
ログオン：134
SMTP 配信プログラム：246
SMTP プロセス：137
数：262
SMTP プロトコル：4
AUTH コマンド：141
VRFY コマンド：148
サポートされる RFC：133
セキュリティ：139
SMTP メール ゲートウェイ「メール ゲートウェイ」を参照
Spool ディレクトリ：25, 249
Web Messaging から Spool ディレクトリを表示：114
表示：114
SSL キー：27

T

TCP/IP：36
TCP ポート：25

U

Users ディレクトリ：26

V

vacation.ima：67, 70
vacation.snt：67
VRFY：148
VRFY コマンド：142

W

Web Messaging
  IP アドレス：101
  Web Messaging インターフェース：116
  Web Messaging の脚注メッセージ：116
  Web ページ：270, 272
  アクセス：111
  アップグレード：99
  ウェルカム メッセージ：268
  カスタマイズ：116
  グラフィック：266
  広告：115
  サーバの設定：105
  スレッド プール：109
  セキュリティ：100
  接続のタイムアウト：97
  セットアップ：101
  説明：95
  ディレクトリ構造：267
  電子メール ページ：272, 273
  テンプレート：272–278
    IMAIL タグ：278, 292
  ファイル：265
  複数ホストのディレクトリ：267
  ページのカスタマイズ：272–278
  ポート：25
  ポート番号：101
  リスト管理：115
  リモート管理ページ：274
  ログオン：97
Web Messaging 内のボタン 「Web Messaging」を参照
Web Messaging の脚注メッセージ：116
Web Messaging のグラフィック：266
Web Messaging のテンプレート：266
Web Messaging
  Web ページ：288
  アクセス：128
  ディレクトリ構造：285
  複数ホストのディレクトリ：284
  ヘルプ ページ：277
Web アドレス：101, 121
Web カレンダー
  IP アドレス：121
  Web ページ：286
  アクセスの設定：128
  インターフェース：132
  カスタマイズ：132
  グラフィック：295
  広告：130
  サーバ構成：125
  スレッド プール：128
  セキュリティ：120
  説明：117
  ディレクトリ構造：283
  電子メール ページ：288
  テンプレート：283, 288–293
  テンプレートのカスタマイズ：288
  ページのカスタマイズ：293
  ヘルプ ページ：291
  ポート：121
  ログオン：120
Web ページ 「Web Messaging」を参照
Web リモート管理ユーティリティ：58
Whois サーバ：8
  セキュリティ：173
  設定：174
  説明：173
  レジストリ値：257
Windows NT
  ユーザのインポート：59
Windows NT データベース：58
Windows NT ユーザのインポート：59
Windows NT レジストリ：32
Windows NT レジストリ値：255
Windows NT データベース：14

あ

アップグレード：26
アンインストール：32
アンチスパミング「スパム メール」を参照
アンパサンド
  ユーザ ID に含まれるアンパサンド：59
  ユーザ名内のアンパサンド：259

い

一次ホスト：13, 36
一次メール ホスト 「一次ホスト」を参照
インストール
  IMail サーバ：13

インポート
ユーザのドメインへのインポート：234

う
ウェルカム メッセージ (Web Messaging)：268

え
エイリアス
nobody エイリアス：76
postmaster エイリアス：72
Web ブラウザからのエイリアス管理：113
説明：72
ピア サーバ用のエイリアス：48
ホスト：38
ホストのエイリアス：41
未登録ユーザを処理するエイリアス：76

お
オンライン広告：115, 130

か
外部データベース：15, 50
外部プログラム
外部プログラムにメールを送る：72
トーン通知：192
仮想 IP アドレス：39
仮想ホスト：10, 38, 101, 121
IP アドレス：38
設定：40
監視サーバ：8
Web Administration：198, 200
Web Administration ポート：25
設定：185
定義：185
ログオン：187
監視サーバの Web Administration：198, 200
監視サーバを使用した Web 管理：8
管理者「ホスト管理者」、「リスト管理者」、「システム管理者」を参照

き
技術サポート：xii
機能
標準機能：8
逆引き参照：299
キュー：23
キュー タイマ：136
キュー ファイル：249

く
グループ エイリアス：72, 75, 147
グループ「グループ エイリアス」を参照
グローバル設定
新規ユーザ用のグローバル設定：61
レジストリ値：255

こ
広告：115, 130
コマンド行アプリケーション：235
コマンド行ユーティリティ：235
孤立メール アカウント：60

さ
サーバ (サービス)、SMTP サーバ、POP3 サーバ、IMAP4 サーバ、LDAP サーバ、ログ サーバ、Finger サーバ、Whois サーバ、および監視サーバを参照
サーバのテスト：21
サービス
ウェルカム メッセージの変更：262
サイズ
メールボックスのサイズ：41
メッセージの最大サイズ：215
削除
古いメッセージ：243
ユーザ：14
サブネット マスク：145, 149
参照、DNS：298

し
システム管理者：111, 112
システム要件：2, 98, 120
ジャンク メール「スパム メール」を参照
受信メール：77
DNS：298
検証：141, 148
受信メールの検証：141, 148
情報マネージャ：89
自動応答の作成：89, 91
処理シーケンス：77
処理順序：77
新機能：2

す
スパム メール：11, 139, 141, 143
スプーフィング「スパム メール」を参照
スプーラ
　バックアップ スプーラ：45

せ
セキュリティ：100, 120
　NULL 送信者に関するセキュリティ：148
　SMTP KILL ファイル：149
　SMTP サーバのセキュリティ：142
　SMTP サーバへのアクセス：199
　SMTP サーバへのアクセス権：149
　アンチスパミング機能：143
　受信メールのセキュリティ：148
　送信者の拒否：149
　送信者のチェック：148
　メール リストのセキュリティ：147
　ユーザ アクセスの設定：111, 128
　リモート管理のセキュリティ：95

そ
存在しないユーザ：76

た
タイトル
　編集：268
タイムアウト：98
タグ、Web Messaging テンプレート：278

ち
中継：139
　グループの中継：147
　中継オプション：140, 143
　ローカル ホストの中継：146
　ローカル ユーザの中継：146
チルダ記号
　ファイル名内のチルダ記号：250

つ
追加
　エイリアス：72
　エイリアスの一括追加：236
　ユーザ：14
　ユーザ グループ：238
通知：8, 187, 189
　定義：190
　データ通信：193
　電子メール：195
　トーン：191
　有効化：197

て
ディレクトリ構造：25
　Web Messaging：284
　Web カレンダー：283
　Web Messaging：265, 267
データ通信通知：193
データベース
　IMail (専用)：14
　Windows NT：14
　外部データベース：50
テーブル名 (外部データベース用)：53
デフォルト設定
　新規ユーザ用のデフォルト設定：61
デフォルトの NT レジストリ値：255
電子メール通知：195
添付ファイル
　Spool ディレクトリ内の添付ファイル：251
テンプレート：272–278, 288–293
　Web カレンダー：283

と
トーン通知：191
　外部プログラムの使用方法：192
トップ ディレクトリ：25
ドメイン ネーム サーバ「DNS」を参照
ドメイン ネーム システム「DNS」を参照

は
配信ルール
　検索文字列：82
　構文：83
　作成：80
　処理：79
　制限事項：88
　説明：78
　テキスト ファイルへの保存：86
　テスト：83
　文字パターン：85
　例：79
バケーション処理：9, 66
　すべての電子メールに返信する：67

送信側アドレスのクリア：67
送信側アドレスの表示：67
パスワード サーバ：181
セキュリティ：183
設定：181
はじめに：181
ポート：25
レジストリ値：256
ハッキング：142, 148
バックアップ
IMail サーバのシステム ファイル：234
IMail サーバの設定：233
ユーザ メール：234
バックアップ ファイルからの IMail データの復元：233
バックアップ メール サーバ：45
バックアップ メール スプーラ：45
バルク メール「スパム メール」を参照

ひ

ピア サーバ
仕組み：47
セットアップ：47
標準エイリアス：72

ふ

ファイル拡張子
Spool ディレクトリ：250
ファイル名
Spool ディレクトリ：249
Web Messaging テンプレート：265, 283
キュー ファイル：249
ファイル ロック：231
不明ユーザ：76
プログラム エイリアス：72, 76
分散リスト「グループ エイリアス」を参照

ほ

ポート番号：101, 121
IMail サービスのポート番号：25
Web Messaging：101
Web カレンダー：121
ホスト
Web ディレクトリ：267, 284
一次メール ホスト：36
エイリアス：38, 41
仮想ホスト：38
複数ホスト：10
ホスト上の全ユーザへのメール送信：244
ホスト管理者：58, 111, 112, 129
本日のニュース
編集：268, 285

み

未登録ユーザ：76

め

メーリング リスト
1 メッセージあたりの受信者数：216
kill ファイル：218
登録者数：216
トレイラ：215
ヘッダ：215
メーリング リスト (リスト サーバ)「リスト」を参照
メーリング リスト (グループ) グループ エイリアスを参照
メーリング リストのトレイラ：215
メーリング リストのヘッダ：215
メール アカウント：56, 113
削除：60
追加：113
メール ゲートウェイ：11, 22, 136, 143
IMail のメール ゲートウェイとしての使用：44
セットアップ：44
メールの送信：22, 136, 304
リモート メール ゲートウェイ：136
メール ゲートウェイ「中継」も参照
メール転送：69
メール ドメイン
DNS とメール ドメイン：298
仮想ホスト：38
複数メール ドメイン：10
メールのコピー：150
メールの転送：9
メールの取込み：50
メールの中継「中継」を参照
メールのブロック「スパム メール」を参照
メールのポケベルへの転送：11
メール ホスト
一次メール ホスト：13, 36
メールボックス：62
サイズ：41
メールボックスとサブエリア：64

メッセージ
サイズ：42
最大数：42

ゆ

ユーザ
Windows NT からインポート：59
最大：1
ユーザ ID 「メール アカウント」を参照
ユーザの登録：13, 14
ユーザの認証：13, 14
ユーザ メール
バックアップ：234
ユーティリティ：235

り

リスト：9
Web Messaging からのリスト管理：115
アクセス：147
監視サーバの Web Administration 機能を利用した管理：200
リスト エイリアス グループ エイリアスを参照
リスト管理者：58, 111, 112
リスト サーバ：7, 205
コマンド：209
セットアップ：206
リモート管理：112

れ

レコード：303
レジストリ
Windows NT：255

ろ

ローカル ホスト
中継：146
ログオン画面
ウェルカム メッセージ：268
脚注メッセージ：116, 268
タイトル：268
トレイラ メッセージ：131
ログ サーバ：251
ログ ファイル：251
Web Messaging からログ ファイルを表示：114
表示：114
ロック ファイル：231